

新宇土市史基礎資料 第六集

# 町在 (五)

— 万延元、明治四年 —

宇土市教育委員会

(町在五) 目次

万延元年

三二六	北野市郎助	1
三二七	菊池三左衛門	1
三二八	森内甚兵衛	2
三二九	又三郎	3
三三〇	小山直助	4
三三一	河野九郎次	5
三三二	亀井幸右衛門	7
三三三	栄助	8
三三四	高濱玄迪	9
三三五	中山他来次	10
三三六	神尾三伯	11
三三七	高橋受敬	13
三三八	高尾源太郎	14
三三九	久保桂助 他	15
三四〇	久保桂助	19
三四一	郡浦彦左衛門	19
三四二	中山庄兵衛 他	20
三四三	浦上勝益	20
三四四	中尾仙八	21
三四五	野村新助	22
三四六	平原太郎助	24

三四七	那須儀平	26
三四八	新次	28
三四九	積 新左衛門	28
三五〇	津沢次兵衛	29
三五二	嘉右衛門	31
三五三	虎口太郎兵衛	31
三五四	岩村繁喜	33
三五五	緒方 長	34
三五六	釜賀廣次	35
三五七	庄村政右衛門	36
三五八	孫作	37
三五九	渡並喜助 他	38
三六〇	芥川政左衛門 <small>(右九)</small>	41
三六一	水口栄喜	43
三六二	芥川彦太	44
三六三	竹下次郎作	45
三六四	江上養節、玄俊	46
三六五	錢塘手水海辺三而築立被仰付候新地御用懸之面々	47
三六六	小田貞之允 他	57
三六七	吉田多喜次	60
三六八	佐田次郎	62
三六九	山本庫兵衛	62

文久元年

文久三年

三七〇 佐久間藤助 ..... 63  
 三七一 橘 龍吉 ..... 64  
 三七二 近藤末太郎 ..... 65  
 三七三 平居助次郎 ..... 66  
 三七四 岩村久兵衛 ..... 67  
 三七五 陳内末次 ..... 68  
 三七六 竹馬文三郎 ..... 70  
 三七七 嘉兵衛 ..... 71  
 三七八 太田黒岩太 ..... 71  
 三七九 山隈市平 ..... 72  
 三八〇 佐藤常三郎 他 ..... 76  
 三八一 稲原覺左衛門 ..... 77  
 三八二 小田貞之允 他 ..... 78

元治元年

三八三 喜右衛門 他 ..... 80  
 三八四 奈須武右衛門 ..... 80  
 三八五 松岡道成、庄野仁壽 ..... 82  
 三八六 清九郎 ..... 83  
 三八七 大田黒彦左衛門 他 ..... 84  
 三八八 小郷四郎助 ..... 84  
 三八九 辛川喜一郎 ..... 85  
 三九〇 岡村庄太郎 ..... 87  
 三九一 松川庄三郎 他 ..... 87  
 三九二 久保桂助 ..... 88  
 三九三 沢田嘉左衛門、吉田彦太 ..... 96

三九四 虎左衛門 ..... 97  
 三九五 芥川政右衛門 ..... 98  
 三九六 井上八十八 ..... 98  
 三九七 齊藤弥五兵衛 ..... 99  
 三九八 小郷彦右衛門 ..... 101  
 三九九 澤田忠右衛門 ..... 102  
 四〇〇 辰右衛門 ..... 103

慶応元年

四〇一 大田黒丈左衛門、齊藤長兵衛 ..... 104  
 四〇二 野村新助 ..... 104  
 四〇三 嘉平 ..... 108  
 四〇四 小田嘉兵衛 ..... 109  
 四〇五 嘉平 ..... 109  
 四〇六 除野恒次郎、小山七郎太 他 ..... 109  
 四〇七 金田悌藏 ..... 110  
 四〇八 吉田彦太 他 ..... 112  
 四〇九 大田黒彦左衛門 ..... 115  
 四一〇 釜賀長藏 ..... 115  
 四一一 藤八 他 ..... 116  
 四一二 濱田吟右衛門 ..... 117  
 四一三 野口惣次郎 ..... 117  
 四一四 愛甲謙益 ..... 118  
 四一五 拓植玄迪 ..... 119  
 四一六 次兵衛 ..... 120  
 四一七 齊藤七左衛門 ..... 121

四一八 中園英之助 他 ..... 122  
 四一九 藤本作兵衛 ..... 125  
 四二〇 小山直助 ..... 125

慶応二年

四二一 亀井喜三郎 ..... 126  
 四二二 野田七右衛門 ..... 127  
 四二三 渡並七郎兵衛 ..... 129  
 四二四 野村勝之助 ..... 130  
 四二五 渡 玄春 ..... 131  
 四二六 北野茂次郎 ..... 131

慶応三年

四二七 岩村久兵衛 他 ..... 133  
 四二八 野村新助、野村七兵衛 ..... 135  
 四二九 岡崎壽一郎 他 ..... 135  
 四三〇 岡村弥一左衛門、井上八十八 ..... 136  
 四三一 郷 百右衛門 ..... 137  
 四三二 佐久間藤助 他 ..... 137  
 四三三 河野栄太郎 ..... 139  
 四三四 野田亀十郎、齊藤七左衛門 ..... 140  
 四三五 河野九郎次 他 ..... 141  
 四三六 朝田源蔵 他 ..... 145  
 四三七 河野傳之允 他 ..... 147  
 四三八 積 九一郎 ..... 149  
 四三九 七郎兵衛 ..... 150  
 四四〇 白石保右衛門 他 ..... 150

四四一 藤兵衛 他 ..... 152  
 四四二 辛川喜一郎 他 ..... 153

明治元年

四四三 小郷四郎助 ..... 155  
 四四四 河野佐兵衛 ..... 156  
 四四五 稻原伊左衛門 ..... 157  
 四四六 林田貞吉 他 ..... 158  
 四四七 高濱惟貞 ..... 158  
 四四八 松村徳之助 他 ..... 160  
 四四九 谷村亀太郎 ..... 160  
 四五〇 恵吉 他 ..... 161  
 四五一 小郷四郎助、本田健助 ..... 162  
 四五二 吉田彦太 ..... 162  
 四五三 竹馬庄三郎 他 ..... 163  
 四五四 齊藤弥五兵衛 ..... 164  
 四五六 平原太郎助 ..... 165  
 四五六 田代格之允 他 ..... 166  
 四五七 岩尾十兵衛 他 ..... 167  
 四五八 赤木藤助、虎左衛門 ..... 167  
 四五九 九平次、六右衛門 ..... 168  
 四六〇 稻原覚左衛門 ..... 168  
 四六一 有働新右衛門 他 ..... 168  
 四六二 惣次郎 他 ..... 169  
 四六三 神尾三圭 ..... 170  
 四六四 益田紋次郎、八木嘉平 ..... 171

四六五 伊三次、幸兵衛 .....

明治三年

四六六 岩間清次、岩間金太郎 .....

四六七 岡村弥八郎 .....

明治四年

四六八 富田小一、富田登代喜 .....

四六九 安富平内、安富傳次 .....

四七〇 船瀬栗太、船瀬宗喜 .....

四七一 吉川源七、吉川清太郎 .....

四七二 小山丈三郎 .....

登録番号対照表

178 177 177 176 176 175 173 172 172

## 例言

一、本書は、宇土市史編纂の基礎資料を集成したもので、その第六集として財団法人永青文庫所蔵の細川家史料「町在」の宇土市関係分を抄録したものである。掲載の許可をいただいた財団法人永青文庫（細川護貞理事長）に感謝する。

一、底本は、熊本県立図書館架蔵の複製本によったが、複製本に齟齬があるものについては、熊本大学附属図書館寄託の原本と対照させ、それによって修正した。閲覧にあたってご便宜いただいた熊本県立図書館・熊本大学附属図書館に感謝する。

一、史料は、今回検索を行なった宇土市関係史料の中から任意に番号を付したものであり、便宜的に人名を表題とし、目次と対照させた。本書をもって町在（一〜五）は完結する。

一、表題となった人名の下に、原本の分類目録番号を付した。この番号は、細川藩政史研究会刊行の「永青文庫、細川家旧記・古文書分類目録 正編」に収められた整理番号である。熊本県立図書館の架蔵番号とは異なるため、巻末に登録番号対照表を付した。

一、釈文は、下記に従って活字化したものである。

一、それぞれの史料には適宜、句読点「、」「。」および並立点「・」をつけた。

一、文書の年月日、差出、当所等の位置や高さは、底本に係わらず統一した。

一、用字については、次のとおり配慮した。

旧漢字・異体字は固有名詞をのぞき原則として、現行の漢字に改めた。

変体仮名「ゑ」「ゐ」「へ」「え」は、原則として、現行の

仮名にあらためたが、助詞の者・茂・江・而・并・二は、そのまま用い、活字を小さくした。

オドリ字の、漢字は「々」、平仮名・片仮名はそのまま「、」「、」「く」を使用した。

二字、又は三字繋の仮名（ㇿ、メ等）は、二字または三字の仮名になおした。

一、地名・人名等の固有名詞については底本に拠った。ただし補記の必要なものについては傍註を付した。

一、底本の不明部分は□とした。疑わしい文字については、ママを付した。

一、敬称のための欠字・平出・台頭等を行わなかった。

一、史料収録にあたっては差別や人権について十分配慮したが、できるだけ原本に忠実な釈文を行なったために、現在の価値観では律しきれないような内容の文も含まれている可能性がある。歴史資料としての存在意義をそこなわないための止むを得ない判断であることをご了解いただきたい。

一、史料の検索・釈文・校訂は堤克彦（北稜高校教諭）、菊池古文書研究会会員が行い、校正・編集は右記のほか根本ナツメ（市史編さん調査員）、市史編さん室において実施した。

(万延元年)

三二六 北野市郎助

(二〇一七)

覚

松山手永馬瀬村居住諸役人段ニ而病死仕候北野安右衛門悴ニ而、緑川筋刳墓見拟并北浦御新地養水井手筋右同ニ而御制度見拟

北野市郎助

右者親跡相統別紙之趣ニ付、見聞仕候処、役方心懸能出精相勤、武芸茂相嗜居行状ニ付、異候唱相聞不申、且父子勤年数七十八ケ年精勤之次第、委細者本紙書面之通相聞申候。以上

申三月

河野子次右衛門

御内意之覚

松山手永馬瀬村居住諸役人段ニ而病死仕候北野安右衛門悴

野安右衛門

北野市郎助

当末四十三歳

右市郎助祖父北野平兵衛儀、安永二年正月松山会所小頭申付候後、

手代を茂申付置候処、数方数年手全ニ相勤候旨ニ而、御惣庄屋直触被仰付、其後役方兼々手全ニ相勤、役人とも江茂申談能抜群出精

仕、手代給米等請取不申、自勤ニ而相勤候ニ付旁被賞、苗字刀御免・御郡代直触被仰付、文化七年病死仕候。父北野安右衛門儀、

文化四年十一月松山手永御家人少之所柄ニ而、別席地士被召出、同五年湯村在六ヶ村烏乱者見拟役申付、同年馬瀬村庄屋後見申付、

同六年御制度格別見拟申付、文化七年寺社堂宇間数改方受込兼勤

申付、天保二年宇土人馬所横目并宇土町見拟兼勤申付、同三年在勤中老領一正格被仰付、弘化四年十月本席被仰付、安政三年十一月諸役人段被仰付、文化四年より当未年迄五十三年、役ニ無懈怠

相勤居候処、当十月病死仕候。在勤中数度御賞美を茂被仰付、市郎助儀生得篤実ニ有之、天保六年二月緑川大回塘刳墓見拟申付、

同十二年住吉新地御築立ニ付精仕候旨ニ而、嘉永元年九月銀五兩被下置候。弘化四年六月住吉新地養水緑川水取入井手見拟申付、

安政四年松山手永御制度見拟申付、役々相勤居申候。武芸茂心掛、御郡並御用ニ相立候人柄ニ御座候。もはや役方茂廿五ケ年相勤、

亡父安右衛門儀も、役々無懈怠五十三年出精仕、父子ニ而七十

八ケ年之勤向ニ御座候間、市郎助儀父以来之勤旁ニ被对、父跡相応被召出被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、

宜被成御参談可被下候。以上

安政六年十二月

岩崎物部

御郡方

御奉行衆中

僉議

市郎助儀、達之通ニ付、諸役人段之跡目御郡代直触可被召出究ニ

有之候処、父五十年余之勤旁被对、追々之見合せを以、地士可被召出哉。

(朱書)

〔僉議之通 申聞三月朔日達〕

三二七 菊池三左衛門

(二〇一七)

覚

廻江手永廻江村居住御郡代直触ニ而病死仕候

菊池丹次養子

菊池三左衛門

右者、親跡相続別紙之趣ニ付見聞仕候処、人物宜筆算相応ニ仕、行状ニ付異候唱相聞不申、且父子勤年数相替候儀者本紙ニ付紙用置候通ニ而、其外委細者本紙書面之通相聞申候。以上

申三月

河野子次右衛門

御内意之覚

廻江手永廻江村居住御郡代直触ニ而病死仕候

菊池丹次養子

菊池三左衛門

当未四十一歳

右三左衛門養父菊池丹治儀、寛政四年十二月廻江会所見習ニ罷出、享和二年三月小頭申付、同年十二月井樋方小頭、文化三年十月右役差免小頭申付、同十一月中野村庄屋申付候後、所々村替申付、嘉永四年六月三十町村庄屋後見申付置、安政三年三月依願右後見差免、当十一月迄御郡並之御奉公相勤病死仕候。寛政四年より当年迄六十八年ニ相成申候。右之内文政五年四月役方数年出精仕候ニ付、礼服御免、天保二年九月役方数十年出精仕候ニ付、無苗御惣庄屋直触、同十四年九月見習以來数十年出精仕候ニ付、苗字御免、嘉永四年十月役方六十年出精仕候ニ付、御郡代直触被仰付候。右在勤中数度御賞美を茂被仰付候。右養子三左衛門儀、弘化二年四月常而親江能事候ニ付、鳥目五百文被下置、同四年七月父病中

故障之節々代役申付、養父庄屋在勤中十ヶ年代役相勤、父子ニ而都合七十八ヶ年ニ相成、同人儀人柄宜敷、孝心御賞美を茂被仰付候程ニ而、諸事慎方能御用ニ相立候者ニ御座候間、父勤功旁ニ被对、父跡相応ニ被召出被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

安政六年十二月  
御郡方  
御奉行衆中

岩崎物部

御郡方

御奉行衆中

僉議

三左衛門儀、達之通ニ而養父菊池丹次儀役付五十五年之勤ニ付、追々之見合せを以苗字御免五惣庄屋直触可被仰付哉。

(朱書)

〔僉議之通、申閏三月初日達〕

三二八 森内甚兵衛

(二〇一丁)

覚

郡浦手永亀尾村居住地士ニ而同村庄屋

森内甚兵衛

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、数々之役方七十年心懸能出精相勤、老年ニ罷成候得共、未夕達者有之、根氣茂強、勤農筋相倡、世話方茂能行届候由、承申候。以上

申閏三月

吉武英右衛門

御内意之覚

郡浦手永地士ニ而亀尾村庄屋



森内甚兵衛

当申八十四歳

御郡方

御奉行衆中

僉議

右甚兵衛儀、生得手全成者ニ而、寛政三年郡浦会所小頭申付、文  
化三年網田村庄屋申付、文政元年宇土所惣代申付、天保四年猶  
伊津野村庄屋申付、其後新開村・浦上村・亀尾村ニ追々転村申付  
候内、文化八年苗字御免惣代直触被仰付、天保十一年役方五  
十年致出精候付御郡代直触被仰付、弘化四年役方五十年余精勤い  
たし候付、作紋麻上下一具被下置、安政三年役方六十年余精勤仕  
候付地士被仰付候。惣体役方兼々心懸厚、老年ニ至候而茂不相替  
精勤仕、第一庄屋役之儀者数ヶ村ニ亘り、いつ方茂零落所迄ニ御座  
候処、勸農成立之仕法筋等種々見込を付、養水并水氣拔・井手立  
其外新堤掘方を茂深ク心を用、数十年格別精勤仕候付、第一地味  
次第ニ変化仕、一毛作之畝方茂跡作地と相成、漸々農力相増候ニ  
付而者、村方人氣茂振立御難題筋薄相成、惣年数七十年之勤中、  
会所小頭十五年・駅所惣代十五年・庄屋役四十年いつれ之役方茂  
格別出精仕候付、屹下御用相立候ものニ御座候間、前賞より年淺  
ニ御座候得共、八十歳以上之老人格別之御僉議被為候。何卒被賞、  
一領一疋進席被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。甚兵衛儀、  
極老ニ者御座候得共、精神聊衰不申、誠稀成壯健、郡浦会所より  
亀尾村迄者四里余之道程ニ御座候処、於会所庄屋中打寄候節々每  
無欠席罷出、既当二月私儀、下益城・宇土江転郡被仰付、会所ニ而  
改对面仕候節茂罷出、比類無之程之壯健ニ而御座候。因而被對極老、  
急ニ願之通被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御  
參談可被下候。以上

甚兵衛達之通ニ而、小頭以来七十年之内、小頭十五年・駅所惣代  
十五年・庄屋役四十年、心懸能出精相勤、地士進席被仰付候後五  
年ニ相成、此年数些淺御座候得共、惣年数七十年殊ニ八十四歳之  
極老旁ニ被對、一領疋疋可被仰付哉。

(朱書)  
右僉議之通 四月十日達

三三九 又三郎

(二〇一七)

覚

宇土町居住苗字御免惣代直触ニ而病死仕  
候佐野庄兵衛伴同町五丁目丁頭

又三郎

右者親跡相統別紙之趣ニ付見聞仕候処、安政元年丁頭申付ニ相成  
候処、出精相勤、一体温順成人物ニ而、行状ニ付異候唱相聞不申、  
町内茂帰服いたし居候由、亡父勤年数本紙之通承申候。以上

申五月

渡邊平兵衛

御内意之覚

宇土町居住御惣代直触ニ而病死仕候佐野庄  
兵衛伴同町五丁目丁頭

又三郎

安政七年二月

野々口金左衛門

当申五十一歳

右又三郎父佐野庄兵衛儀、文化八年宇土町丁頭申付、文政九年町会所帳書兼勤申付、安政元年同町別当役申付、同四年別当者差免、別当後見并宇土町受駅所建馬根杖、且宿割受込申付置候処、当一月病死仕候。在勤中被賞候稜左之通。

一、天保八年凶作ニ付而、御救宥之取計筋、昼夜厚致出精候付、同十年宇土町御殖錢之内より鳥目老貫五百文被下置候。

一、嘉永六年丁頭數十年心懸能致出精、町内取締宜候付、苗字御免御惣庄屋直触被仰付候。

右之通ニ而、宇土町之儀御館下宿駅所ニ而、別而諸御用向繁多ニ有之候処、庄兵衛儀役方一遍ニ差入、丁頭以来役々五十年手全精勤仕、零落成立之仕法組いたし候付而者、各別心配茂強御座候間、年勞旁被賞、御郡代直触被仰付被下候様、既御内意仕候筈ニ而取調居候内、病死仕候。俾右又三郎儀、惣体為人質直手全成者ニ而、当時丁頭申付置候処、役方世話筋能行届、丁内氣受茂宜御座候間、父庄兵衛五十年之勤勞ニ被対、父跡相応ニ被召出被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

安政七年閏三月

野々口金左衛門

御郡方

御奉行衆中

僉議

又三郎儀、達之通ニ而、父佐野庄兵衛役方五十年之勤ニ而相果、見合茂御座候間、苗字御免・御惣庄屋直触之跡一段落、無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。

(朱書)  
八月三日達

三三〇 小山直助

(二〇一一)

覚

錢塘手永南走瀉村庄屋楹椽見抄

小山直助

歳六十六

右同八町村・五町村庄屋

白石恒右衛門

歳七十一

右同江中嶋村庄屋

田上桂次

歳六十六

右同南中無田村・今村庄屋

永井甚次郎

歳六十

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、何れ茂役方數十年心懸厚出精いたし、村方成立勸農倡方等諸事之世話筋行届候由ニ而、勤之年數等本紙書面之通承申候。以上

閏三月

河野子次右衛門

河口源右衛門

御内意之覚

錢塘手永走瀉村居住、御郡代直触・楹椽見抄

同村庄屋

小山直助

右者、文化十三年四月御郡筒三召抱、同十四年四月南走湯村庄屋  
当分申付、文政十二年八月本役申付、同年十二月榎梶見抄申付、  
在勤中御郡代直触被仰付、嘉永二年十月役方数十年致出精候旨三  
而、御郡代直触本席被仰付、当年迄庄屋役四十四年相成、右之内  
榎梶見抄兼三十二ヶ年相勤、兼々心配筋行届、榎梶之儀者手入を  
以植継等之手入仕、出精相勤候三付、作紋麻上下一具被為拝領被  
下候様。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

安政七年二月

上妻半右衛門

御郡方

御奉行衆中

(中略)

僉議

直助儀、達之通三而、庄屋四十四年之内榎梶見抄二十二年、御郡  
代直触本席被仰付候以来十二年三相成、見合茂御座候間、作紋麻  
上下一具可被下置哉。

(恒右衛門・桂次は略す)

(朱書)

右僉議之通、十一月十四日達

三三一 河野九郎次

(二〇一七二)

覚

松山手永大見村居住地士三而同村庄屋

河野九郎次

右者、別紙之趣三付見聞仕候処、見習以来数々之役方五十年余、  
心懸能出精相勤所々転村仕候処、何れ之村方ニおいて茂世話筋行  
届候由三而、功業之次第勤年数本紙書面之通承申候。以上

申閏三月

吉武英右衛門

御内意之覚

松山手永大見村居住地士三而同村庄屋

河野九郎次

右九郎次儀、文化三年松山会所見習三呼出、同七年会所小頭申付、  
同十四年根抄并宇土町人馬所受込兼帯申付、天保三年根抄持懸三  
而大見村庄屋兼帯申付、同九年依願根抄者差免、弘化元年水夫小  
頭兼帯申付、在勤中御郡代直触被仰付、嘉永三年松合村庄屋三所  
替申付、安政二年大口村庄屋三所替申付、同三年依願水夫小頭者  
差免、同六年大見村三猶所替申付、会所見習以来惣年数五十五年  
之内、会所見習四年・会所役廿二年・庄屋廿九年、内七ヶ年水夫  
小頭兼帯申付、役方兼々心懸能精勤仕候内、御賞美左之通、  
一文化四年、龍ノ口御屋敷御類焼三付、寸志差出候処、傘被成御免  
候。

一同十二年、大口村新地築立三付、数十日昼夜出精仕、塘手鞘石垣  
及破損手戻之儀も有之候処、出精相勤候付、鳥目七百文被下置候。  
一同十四年、去秋非常之凶作、御取立且去春以来両手永打込之御普  
請・新堤・新井手堀方・新井樋居方等出精仕、且御囲初蔵建方、  
洪水虫入等三付而茂出精仕候付、鳥目五百文被下置候。  
一文政十年、七百町新地御築立三付而出精仕候付、礼服被成御免候。

一同十二年、役方多年出精仕、立岡堤堀添之節諸積方、其外出夫ニ

懸候儀、一切根ニ成厚心配いたし、且杉嶋新川堀替ニ付而茂、大勢

出夫申談行届致出精候旨ニ而、無苗御惣庄屋直触被仰付候。

一天保五年、大見村ニ而櫛方新地再興被仰付候砌、始末御普請小屋ニ

詰切、主ニ成格別心配仕候旨ニ而、鳥目式貫文錢七拾目被下置候。

一同六年、去々卯秋非常之洪水以後、自他手永余計之夫仕等厚心配

いたし候付、鳥目五百文被下置候。

一同十二年、下益城宇土於海辺新地御用、余計之石・竹木取出方自

勘ニ而相勤、且潮留之節夫仕、船を茂差出別段出精仕候旨ニ而、鳥

目三貫文被下置候。

一弘化元年、会所見習以來役方数十年、各別出精仕候旨ニ而、苗字

御免御惣庄屋直触被仰付候。

一同年、水夫小頭被仰付、在勤中御郡代直触被仰付候。

一同三年、使節船渡來之節、骨を折候旨ニ而、鳥目志貫文被下置候。

一嘉永元年、北浦新地御築立之節、出精仕候旨ニ而、鳥目式貫五百

文被下置候。

一同三年、郡浦ニ而沢方より製法砂糖糖御買上ニ付而、村方示方行

届候旨ニ而、鳥目五百文被下置候。

一同六年、廻江手永守富在成立寸志差出候ニ付、同年十月地土ニ被

仰付候。

一大見村庄屋在勤中、作畝増御山仕立等仕候處、左之通、

一畝數七反余

一同三町四反六畝廿一步

一山畝貳拾八町七反余

一杉松三万本余

畝物開并櫛方御山開御免ニ相成候分

櫛方御新地分

空地御山仕立分

植松御山之内ニ仕立分

一同七万本余

所々御山内江植付候分

右之通ニ而会所根根在勤中ニ者、七百町新地御築立、且水理御普請

向始末出役仕、去ル子年大風之節海辺新地潮塘破損ニ付而も格別

心配仕、三隅丈八松山手永御惣庄屋在勤中、村々新古井手・堤・

堀浚ニ付而も出精仕、其外松合村數度之火災跡家建方・救浦新地

築立・村直等厚心配仕、宇土町火災之節茂材木取出、彼是諸夫仕

等主ニ成取計、且庄屋役前ニ而者大見村高三百五拾石余、惣人數六

百人余之作地不足仕、前々より零落ニ而、手永内下段之村方ニ御

座候處、九郎次庄屋申付候後、櫛方御開再興を初、畝物開・空野

開・御山仕立、彼是種々村方成立之仕法仕、當時ニ而者中段之村

立ニ變化仕、畢竟九郎次世話行届候處より之儀と相聞、嘉永三年

松合村庄屋申付候處、同村之儀者漁農相混大場零落之村ニ而、別

段骨折強、加之水夫小頭兼帶申付置候ニ付而者、御上下御用を初、

御手当筋彼是諸事無御支様心配行届、且又大口村庄屋之節者、田

方少之所柄ニ付、畑方甘薯作等相倡、御年貢諸上納一・二番之内

年々皆落仕、村方成立之驗相見、當時受持之村方茂厚世話仕居候。

依之会所見習以來役方五十年余各別精勤仕、稜々功績茂御座候事

ニ付、何卒被賞、一領一疋進席被仰付被下候様有御座度、於私奉

願候。此段御内意仕候條、宜被成御參談可被下候。以上

安政七年三月

野々口金左衛門

御郡方

御奉行衆中

僉議

九郎次儀達之通ニ而、見習以來五十五年之内、会所小頭根抄役等

二十二年、庄屋役二十九年、寸志ニ因而地土進席被仰付候以來八

年ニ相成、村方成立筋等種々心を用兼勤之役方共格別致出精、稜々功業茂相見、委細者御横目見聞達共書面之通ニ付、五十年余之勤勞旁を以、一領一疋可被仰付哉。

〔朱書〕  
〔右僉談之通、十一月十四日達〕

三三二 亀井幸右衛門

(一〇一丁)

覚

松山手永岩熊村居住御郡代直触ニ而布古閑・岩熊両村庄屋

亀井幸右衛門

右者別紙之趣ニ付承繕申候処、庄屋代役以来役方五十年余心懸能出精相勤、御年貢・諸出銀等、速ニ相納、同人家筋者、御入國以來庄屋役連綿被仰付置候ニ付、所々転村仕候得共、於何方茂、小前中戴宜申添等深取用候由。勤年数等本紙書面之通相聞申候。以上

申聞三月

吉武英右衛門

御内意之覚

御郡代直触ニて松山手永布古閑村・岩熊村庄屋

亀井幸右衛門

右幸右衛門儀、文化三年庄屋代役申付、同八年親跡岩熊村・布古閑村庄屋并御山口兼勤申付、同十五年依願布古閑村庄屋者差免、文政十年御山口者差免、岩熊村庄屋持懸ニ而、井樋方小頭兼勤申

付、弘化三年古保里村庄屋ニ所替申付、嘉永四年猶岩熊村ニ所替申付、同六年井樋方小頭者差免、曾畑村庄屋兼勤申付、安政四年曾畑村庄屋者差免、布古閑村兼勤申付置候。庄屋代役以来役方五十五年之内、本役五十年・御山口兼勤十七年・井樋方小頭兼勤廿六年出精相勤候内、御賞美等左之通、  
一 文政八年七百町御新地潮留并水理御普請等之節々出精仕候旨ニ付、鳥目七百文被下置候。

一 同十二年役方数年致出精、且立岡堤堀添之節、村夫召連罷出、杉嶋新川堀替ニ付而茂出精仕候旨ニて、合羽・傘・菅笠被成御免候。  
一 天保五年役方多年心懸能出精仕候旨ニ而、無苗御惣庄屋直触ニ被仰付候。

一 同十二年下益城宇土於海辺新地御築立ニ付而、井樋御普請塘手受込、潮留井手堀ニ付而も出夫仕等、始末出精仕候旨ニ而、鳥目貳貫文被下置候。

一 弘化元年役方数十年出精いたし、岩熊村零落ニ付而者、兼々心配多候処、世話筋行届、御年貢・諸上納速ニ相納、且井樋方ニ付而茂彼是心配いたし候旨ニて、苗字被成御免候。

一 弘化五年北浦新地御築立之節、塘手請持并井樋方之儀者、主ニ成御普請向、厚心を用、出夫・明俵等之取計をも心配いたし、且卯秋大風破損御普請ニ付而茂致出精候付、鳥目貳貫文被下置候。

一 嘉永六年守富在成立寸志錢差出候処、右寸志之訳ニ被対、御郡代直触ニ被仰付候。

一 右之通ニ而、幸右衛門儀庄屋申付候村々、いづれも極々零落所迄ニ而、別而心配多、其上水早之両害を受候難渋所ニ御座候処、水氣拔養水懸等、数年種々心魂を尽し、井樋方小頭兼勤ニ付而者、大

小之井樋百八捨艘作事向深心配仕、板材木入目錢等之受払圭角ニ  
いたし、彼は無抜目出精仕候間、役方五十年余之勤勞ニ被对被賞、  
地士ニ進席被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕  
候条、宜被成御參談可被下候。以上

安政七年三月

野々口金左衛門

御郡方御奉行衆中

僉議

幸右衛門儀、達之通ニ而庄屋代役を省キ、本役五十年心掛能出精  
相勤、寸志ニ因而、御郡代直触被仰付候以來八年ニ相成、此年數  
淺並通之見合ニ有之候得者、地士進席者難被仰付相見申候得共、  
一役五十年勤続、殊ニ兼勤之役方當年相勤候儀ニ付、彼是別段  
を以、地士可被仰付哉。

〔朱書〕

〔右僉議之通十一月十四日達〕

三三三 栄助

(二〇一七)

覚

松山手永々々横目ニ而礼服御免

栄助

右者、別紙之趣ニ付承繕申候處、会所小頭当分以來、役方數十年  
手全出精相勤候由、勤年數等本紙書面之通相聞申候。以上

吉武英右衛門

申閏三月

御内意之覚

松山手永横目

栄助

右栄助儀、文政四年松山会所小頭当分申付、七百町新地御築立本  
小屋賄方受込申付、同九年小頭本役申付、天保六年根抄助役ニ操  
上、同十一年右役者差免、松山村庄屋申付、同十二年布古閑村庄  
屋兼帯申付、弘化三年築籠村庄屋ニ所替申付、松山村者差免、嘉  
永三年築籠村庄屋者差免、会所小頭ニ而立岡堤受込并櫛方受込助勤  
申付、同七年小頭者差免、境目村庄屋申付、安政三年庄屋者差免、  
手永横目申付、當年迄役方四十ヶ年各別精勤仕候内、御賞美左之  
通、

一文政八年七百町新地御築立之節致出精候付、鳥目七百文被下置候。  
一同十二年立岡堤掘浚ニ付致出精候付、鳥目七百文被下置候。

一天保十二年宇土下益城於海辺、新地御築立塘手受持、始末出精い  
たし候付、鳥目貳貫文被下置候。

一嘉永元年北浦新地御築立ニ付、請持稜々致出精候付、鳥目壹貫文  
被下置候。

一同六年役方數十年出精仕候付、礼服被成御免候。

右之通ニ而、七百町新地御築立以來、所々出役仕、庄屋在勤中布  
古閑村之儀者、片穂所ニ而、従来之零落所ニ御座候處、村直シ奉願、  
古屋敷床開・明畑作増之儀、不一形心配仕、且沖田水氣拔・新井  
手堀方等願出、諸作増之仕法筋、彼是厚世話仕、築籠村之儀茂、  
潟村在ニ而、無類之零落所ニ而、別段心配仕、立岡堤受込ニ付而者、  
數百間深堀之井手筋且數ヶ所之橋寛等之手入、無抜目様取計、十  
一ヶ村之養水懸水配り無甲乙心配仕、當時手永横目申付置候而者、  
手永内不断打廻見聞筋、正路ニ申達候處より、村々屹下取締申候。  
依之役方四十ヶ年之勤勞ニ被对、何卒無苗御惣庄屋直触被仰付被

下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參  
談可被下候。以上

安政七年三月

野々口金左衛門

御郡方

御奉行衆中

僉議

栄助儀、達之通ニ而会所小頭当分以來四十年ニ相成、見合せ茂御座  
候間、無苗御惣庄屋直触可被仰付候哉。

(朱書)  
〔右僉議之通十一月十四日達〕

三三四 高濱玄迪

(一〇一七)

覚

廻江手、永志々水村居住御郡代直触医師

高濱玄迪

右者、別紙之趣ニ付見聞仕候処、家業数年、心懸能内外之療治方出  
精いたし、近御郡ニ懸手広被行病家廻診等、貧福之無差別打廻、  
居住所之儀者守富在と唱、零落之村々多、其上近年不作打続候付  
而者、貧民等謝礼届兼候分度不少由ニ候処、聊無頓着、猶更心を用  
手厚有之候付、病家氣受宜次第ニ療治方相増候由、且又重立候御  
普請・手永寄夫等之節々罷出、彼是所柄為合ニ相成候由、去一ヶ  
年分之病人數等、委細本紙書面之通相聞申候。以上

申五月

平井恒右衛門④

御内意之覚

廻江手永志々水村居住御郡代直触医師

(朱書)  
〔本道〕  
三法破的〕

高濱玄迪

右玄迪儀、天保六年正月親跡苗字御免御惣庄屋直触被仰付、嘉永  
二年十一月家業心懸能療治方出精仕候旨ニ而、御郡代直触被仰付、  
惣躰医学之儀栗崎道説門弟ニ而、再春館講説必多度出精いたし候  
付銀三両、金瘡稽古篤志ニ有之、且外療心懸能出精いたし候付、  
銀式両追々被下置、同七年餘・沼山津御普請出夫之節罷出、出精  
仕候付、銀五両被下置、當時療治懸村々左之通、

廻江手永

志々水村 清藤村

廻江村 新村

平原村 北田尻村 三十丁村 南田尻村

西田尻村 木原村 中野村 古閑村

本札村 榎津村

松山手永

馬瀬村 岩熊村 築籠村 松原村

宇土町 同御家中

杉島手永

国町村 菰江村 莎崎村 碓江村

錢塘手永

小岩瀬村

竈數三百五拾軒余

内 百五拾軒余去未年施薬仕候

右之外、臨時家法等之療治者川尻町・熊本町・横手内ニ茂罷出、  
内外療治仕、去未年配剂前病人數合千百七拾人程

右之通ニ御座候。玄迪先祖土井小太郎と申者、天文年中御国江罷出、宇土故城主本郷伯耆守江仕、高濱武藏守と改、宇土落城之砌より浪人仕、志々水村江居住仕、玄迪高祖父高濱東郁と申者、図書殿家来分ニ而居申候処、御家中被官家来等在中居住御改之節、図書殿方相改医業仕居候内、宝曆三年七月御郡代直触医師被召出、其子高濱玄珠儀、天明三年十二月父同様御郡代直触被仰付、其後療治方手広出精いたし、貧民江者施薬同前ニ相心得、近御郡之為合ニ相成候付、御郡医師並被仰付、倅高濱惠迪儀文化六年八月父同様御郡医師並被仰付、根元浪人より被召出、代々御郡代直触以上ニ被仰付候処、当玄迪ニ至親跡御惣庄屋直触被仰付、其後医業出精仕候付、御郡代直触被仰付置候。玄迪儀生得淳朴ニ有之、懇ニ療治仕候間次第ニ手広相成、手永内者勿論他御郡ニ懸數百軒之病家夜白寒暑之無厭打廻、所謂守富在零落之村々其外共、近年之凶作続ニ而者一統謝礼薄ク余斗之奮數全施薬ニ相成、又者施薬同前之者多ク、業種高価之砌、別而出入之幅合兼暮方難渋仕候へとも、右等之境ニ者聊無頓着配剂仕、内外之家業厚心懸候処より病家茂信服仕益手広相成、自他御郡御普請寄夫等之節々、通達次第速ニ罷出療治仕、彼是所柄逸稜之為合ニ相成、於在中者無比類程之出精仕候。最早前賞より十二年、且家筋之儀代々御郡代直触以上ニ被召出来候儀、旁被賞別段を以御郡医師並ニ被仰付被下候様、有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

安政七年三月

御郡方

御奉行衆中

野々口金左衛門

僉議

玄迪儀達之通ニ而医業吟味役へ問合申候処、治療習熟学業篤志之段達有之、再春館御目附見聞之趣茂同様之由達有之、科目内科ニ相当申候。御郡御目附付御横目見聞も、内外之療治手広致出精、廻診等貧富之無差別手厚有之、御普請寄夫等之節茂追々罷出所柄為合ニ相成候趣等、別紙之通ニ而、前賞より十二年ニ相成、右科目ニ而者見合せ茂御座候間、御郡医師並可被仰付哉。

三三五 中山他来次

(二〇一丁)

覚

松山手永下松山村居住地士ニ而病死仕候中山  
直右衛門名跡相統之二男

中山他来次

右者、親跡相統別紙之趣ニ付見聞仕候処、素直成生立ニ而、当時会所見習罷出、習書・読書等専執行いたし居、相替候唱茂相聞不申、且亡父勤年数等、委細者本紙之通ニ而、御赦免開等者、所持仕居不申由承申候。以上

申十一月

宗村弥久馬

御内意之覚

松山手永下松山村居住地士ニ而病死仕候中山  
直右衛門名跡相統之二男

中山他来次

当申十五歳

右他来次曾祖父中山茂左衛門儀、宝曆五年下松山村庄屋申付置候



處、寛政六年役方数十年出精いたし候付、御郡代直触被仰付候、祖父中山武助儀、文化三年父茂左衛門五十年余之勤功ニ被对、苗字御免御惣庄屋直触被仰付、同四年龍ノ口御屋舖御類焼ニ付、寸志銭壹貫目差上候處、御郡代直触被仰付、文政十年役方五十年余之勤勞ニ被对、地土被仰付候。父中山直右衛門儀、文政三年松山会所見習ニ罷出、同九年小頭申付、同十一年下松山村庄屋申付、同十二年父中山武助五十余年之勤功ニ被对、御郡代直触ニ被召出、嘉永五年廻江手永守富在成立寸志銭壹貫目差出候處、地土被仰付、安政三年三月柏原村庄屋ニ所替申付、会所見習以來四十一ヶ年手全ニ相勤居候處、当三月病死仕候。追々御賞美被仰付候稜々、左之通。

一立岡堤堀添之節、厚心配いたし候付、文政十二年十二月鳥目老貫文被下置候。

一松合村度々火災跡家建方之節、厚心配いたし、且救浦并下り松新地築立ニ付而度出精仕候付、天保五年五月鳥目老貫文被下置候。

一下益城宇土於海辺、新地御築立潮留、其後破損之節度々出夫仕り方、土俵運送等無間抜心配仕候付、天保十二年十二月鳥目老貫文被下置候。

一会所見習以來、多年心懸能出精いたし、旱損之所柄ニ付而者、種々成立之儀、厚心配致し候旨ニ而、弘化元年十月鳥目老貫五百文被下置候。

一北浦新地御築立ニ付、潮留并破損等ニ付而も、出夫仕方等心配いたし候旨ニ而、嘉永五年三月鳥目七百文被下置候。

一安政六年十月役方多年出精相勤候旨ニ而、作紋麻上下一具被下置候。

右之通ニ御座候。一男右他来次儀、安政六年八月名跡相統奉願候處、願之通被仰付、当時松山会所見習ニ罷出居、筆算等心懸能出

精仕、一鉢氣衝も有之、往々御用ニ可相立人柄ニ御座候間、父代寸志之訳且四十年余之勤勞旁ニ被对、親跡相応ニ被召出被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候條、宜被成御參談可被下候。以上

万延元年十月

野々口金左衛門

御郡方

御奉行衆中

僉議

他来次儀、達之通ニ付、地土之跡究之通無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。

(朱書)  
右僉議之通、十一月廿九日達

三三六 神尾三伯

(二〇一七)

覚

松山手永宇土町居住御郡医師

神尾三伯

(朱書)  
本遺破的 三法

右者、別紙之趣ニ付承繕申候處、家業心懸能数年出精いたし、療治方相応被行廻診等、貧福之無差別尻輕有之、且身代相応ニ有之候處より歎、藥品念入候由ニ而、取附之薬店茂、兼而三伯薬を選置候位ニ而、診察の中いたし候ハ、速ニ快復仕候由。惣躰心得方宜敷代御郡医師連綿被仰付候家筋ニ付、貧民施薬者御奉公と相心得、相統以來十五ヶ年之間施薬療治仕候貼数、太略三万貼程ニ茂

およひ候由三而、一稜所柄為合三相成候由。且本紙ニ七万貼余之施薬と有之候者、前文三万貼外ニ謝礼届兼候分を取加候得者、七万貼余ニ相成候由。其外病人人数等本紙書面之通承申候。以上

申閏三月

吉武英右衛門<sup>㊦</sup>

御内意之覚

宇土町居住御郡医師

神尾三伯

右三伯家筋之儀、同人高祖父神尾三伯儀、寛保四年御郡医師並ニ被召出、宝曆十三年依寸志三人扶持被下置、明和二年御郡医師本席被仰付、曾祖父神尾良安儀、天明元年家業心懸能、療治方出精仕、且父代追々寸志之訊ニ被对、御郡医師被召出、三人扶持被下置、祖父神尾三伯儀、文化七年家業心懸能、療治方出精仕、且寸志之訊被对、御郡医師被召出、三人扶持被下置、父神尾三鼎儀、家業心懸能、療治方出精仕、且祖父代以来寸志之訊被对、二人扶持被下置候処、弘化三年病死仕候、当右三伯儀、同年十二月家業心懸能、療治方出精仕候旨ニ而、御郡医師被召出、当年迄十五ヶ年手広療治出精仕候内、宇土駅自他通行之療治を初、松山会所在牢人且質屋留置之者共等、一切引請、施薬之療治仕、其外遠近市在療治懸之竈数七百軒余ニて、病人数千五百人余ニ及ひ、其内至貧之もの共ハ、都而施薬ニ相成候分三百人余有之、年々再春館へ相届、惣躰貧福之無差別尻軽打廻、各別出精仕候。当時療治懸之村町等、左之通

宇土御家中 宇土町 江部 松原 馬瀬 佐野  
三日 曾畑 上古閑 布古閑 岩熊 立岡 善道寺  
境目 古保里 松山 下松山 柏原 御領 高良

僉議

御奉行衆中

安政七年三月

野々口金左衛門

塚原 小曾部 伊無田 城神山 馬場 笹原 網津  
笠岩 永尾 松合 大見 大口  
右松山手水分 (莊)

長崎 浦上 神山 神原 栗崎 石橋 官庄  
椿原 恵里 伊津野 城塚 新開 網引 長濱  
郡浦 波多 三角 網田

右郡浦手水分

松橋 小川 宮原 鏡 八代町 隈庄 御船  
甲佐 川尻 小島 高橋

右他御郡分

右之通所々手広療治仕、宇土町零落ニ付而者極貧百軒余、毎歳施薬仕、其外瀉村在を初、難渋村勝ニて施薬同前茂不少、三伯相統以来十五年之間、施薬数七万貼ニ及ひ、年々余計之事ニて、奇特之儀ニ御座候、同人始祖寸志之訊表御座候得共、御郡医師被召出候以来、五代相統被仰付、御郡医師之役名ニ寄、余計之施薬をも仕、自他逸稜之為合ニ相成、殊数年之勤勞旁進席を茂可奉願答ニ御座候処、是迄代々当席ニ而被閣候家筋ニ付、何卒別段を以被賞、父同様二人扶持被下置候様有御座度、於私奉願候、左候ハ、此上弥以療治方出精仕、自他之為合ニ茂相成可申と奉存候。自然願之通難被為叶候ハ、御目見医師進席被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可下候。以上

御郡方

三伯儀、達之通<sup>二</sup>付、医業吟味役江問合申候処、治療習熟学業篤志之段違有之、再春館御目附見聞茂同様之由違有之、科目丙料<sup>二</sup>相当申候。御郡御目附御横目見聞之趣茂、家業心懸能、療治方手広出精いたし、病家廻診等懇<sup>三</sup>行届、所柄一稜為合<sup>三</sup>相成候由、夫々別紙之通<sup>二</sup>御座候。然処右家筋者数代之医業<sup>三</sup>而、父<sup>三</sup>鼎迄者御扶持方被下置候儀<sup>二</sup>付、右同様御扶持方被下置度、其儀難被叶儀候ハ、御目見醫師被仰付候様、申立之通<sup>二</sup>御座候処、御扶持方者、根元寸志<sup>二</sup>因而被下置候儀<sup>二</sup>付、世減を以、右<sup>三</sup>鼎迄者被下置、当<sup>三</sup>三伯儀者<sup>二</sup>三代目<sup>二</sup>付、究之通無録<sup>三</sup>而被召出候儀<sup>二</sup>付、家業出精等之訳を以、御扶持方被下置候而者、類推<sup>二</sup>茂相成可申候間、難及僉議、尤御郡醫師被召出候以来十五年<sup>二</sup>相成、右科目<sup>二</sup>而者見合せ茂御座候間、御目見醫師被仰付候ハ者、如何可有御座哉。

(朱書)  
〔右僉議之通、十二月十四日奉覽、同十九日申渡〕

### 三三七 高橋受敬

(一〇一七)

覚

河江手永松橋町居住御郡醫師並<sup>三</sup>而病死仕候  
高橋元受養子

高橋受敬

(朱書)  
〔本造  
一法失備  
二法破破〕

右者、親跡相統別紙之趣<sup>二</sup>付、見聞仕候処、家業心懸能、再春館出席を茂出精いたし候付、度々御賞賜茂被仰付、一昨年来養子<sup>二</sup>罷越候。以前より病家向引請療治仕候処、相応<sup>二</sup>被行、自他難涉

者等施薬之体<sup>二</sup>相成候者<sup>三</sup>茂多有之候得共、少茂無頓着昼夜廻診等深切<sup>二</sup>有之、一稜為合<sup>三</sup>相成候由<sup>二</sup>而、一昨年来療治仕候病人数、本紙之通相聞申候。以上

申七月

渡辺平兵衛印

御内意之覚

河江手永松橋町居住御郡醫師並<sup>三</sup>而致病死候  
高橋元受養子

高橋受敬

当申三十二歳

右受敬、先祖者播州之者<sup>二</sup>而高橋道伯弟高橋長左衛門と申者、兄弟御国江罷下、道伯儀者池田手永小嶋村江居住仕、長左衛門儀者松橋町江居住仕、同人伴玄林儀医業仕居候処、天明四年四月病死仕候。伴高橋文郁儀、文化十年親跡御惣庄屋直触被召出、天保二年六月御郡代直触被仰付、同四年六月病死仕候。伴高橋元受儀、同十三年正月家業心懸能、療治方出精仕候付、親跡御郡代直触被仰付、嘉永六年十一月家業心懸厚療治方致出精候付、御郡醫師並<sup>二</sup>被仰付、安政二年十二月去ル卯秋、松橋御新地築副御普請之節、御用懸被仰付療治方施薬を茂いたし候付、金子式百疋被下置候。然処、元受儀当五月病死仕候、養子受敬儀、天保十一年黄元朴江入門仕、同十三年再春館江出席仕、同十四年以来講説并句読無怠情出精いたし候<sup>二</sup>付而、毎度御銀を茂被下置不相替出精仕居候内、養父元受儀、一昨年来病氣差起、存分之歩行出来兼候<sup>二</sup>付而者、代診として罷越、療治仕候村々左之通、

河江手永

松橋町 大野村 豊崎村 御船村

松山手永

松崎村 御領村

高良村

小曾部村

柏原村 松山村

郡浦手永

長崎村 龜尾村

右村數十ヶ村、病人数千式百六拾人余有之、住所之儀者松橋町

二而、宿町同様之所柄、船場茂有之候付、自他往返茂多ク、不慮之

病人茂有之候節々、深切ニ療治いたし、昼夜時刻茂厭不申懇ニ療治

仕候処、右躰之類者総而施薬相成、且砂川尻御新地出百姓とも、

何れ茂難波者迄ニ而、薬札等至而手軽ク施薬同様之由ニ候得共、左

様之儀者聊頓着無之、療治方専心懸諸事手厚有之候付、一統氣受

宜、漸々療治向茂手広相成、所柄者勿論他所之者ニ至迄信用仕、

彼是逸稜之為合ニ相成申候。惣体受敬儀、学業心懸厚出精いたし

候ニ付而者、追々御家老衆賞音且御銀等度々被下置、其上養家数

代医業出精仕候家筋旁ニ被对、親跡相応被召出被下候様、於私奉

願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談、可被下候。以上

万延元年六月

野々口金左衛門

御郡方

御奉行衆中

僉議

受敬儀、達之通ニ付、医業吟味役江問合せ申候処、治療習熟学業

篤志之段、達有之。再春館御目附見聞之趣茂同様之由、達有之。

科目丙科ニ相当申候。御郡御目附付御横目見聞茂、家業心掛能、療

治方相応ニ被行、廻診等深切ニ有之、所柄為合ニ相成候由、別紙

之通ニ付、右科目ニ而者見合せ茂御座候間、御郡代直触可被仰付哉。

(朱書)

〔右僉議之通、十二月廿一日達〕

三三八 高尾源太郎

(二〇一七)

覚

郡浦手永下網田村居住地士ニ而病死仕候高尾

源左衛門倅

高尾源太郎

右者、親跡相統別紙之趣ニ付、見聞仕候処、人物宜武芸茂心懸能

出精いたし、炮術・柔術者目録相伝相濟居、行状ニ付異候唱相聞

不申、亡父勤年数本紙之通ニ而、御赦免開等者所持仕不申、尤寸

志錢之儀、此節調達分式貫目者、未夕上納相添不申由承申候。以

上

申十二月

渡邊平兵衛

御内意之覚

郡浦手永下網津村居住地士ニ而病死仕候高尾

源左衛門倅

高尾源太郎

当申四十九歳

右源太郎祖父源左衛門儀、寛政四年津波之節、村々難波為取救、

鳥目差出候付、同五年御郡代直触被仰付、其後関東筋川々御普請

御用并御才覚寸志差出候付、文化元年地士被仰付置候処、同十三

年病死仕候。父源左衛門儀、文政二年宇土郡御家人少々有之、且

親代寸志之訛被対、父同様地士被召出、弘化三年御郡並之御用請持被仰付、一列無役之口ニ被附置、相統以来御奉公四十二年相勤居候処、当七月病死仕候。存生中差上候寸志、左之通、一錢五百目

但文政十年為民力強寸志、本行之通差出、五歩一上納引残、波多村ニおいて、手永開新地築立入目錢之内ニ被渡下、追而繼目之切ニ被立下段、御達ニ相成候分。

一同式貫目

但源左衛門兼而貯置候本行之錢辻、為民力強差上申度、源太郎より奉願候処、願之通被召上、繼目之切ニ被立下段、当十一月御達相成候分。

合式貫五百目

右之通ニ而、源太郎儀、生質手全ニ有之、武芸を茂心懸、炮術渡辺作之丞門弟ニ而、天保四年二月目録相伝仕、劍術新居七左衛門門弟ニ而、稽古仕、柔術宇土御家中武藤勘四郎門弟ニ而、嘉永二年八月目録相伝仕候。平素心得方宜敷、右寸志之訛旁ニ被対、父跡御郡代直触被召出被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

万延元年十一月

野々口金左衛門

御郡方

御奉行衆中

僉議

源太郎儀、達之通ニ而、寸志高地士より一段落、究之規矩ニ相当申候間、御郡代直触可被仰付哉。

(朱書)

〔右僉議之通、十一月廿七日達〕

三三九 久保桂助 他

覚

諸御郡御年貢納御取締ニ付而、御惣庄屋出精之厚薄見聞仕、御達可申上旨ニ付承繕候処、本紙書面之通、御取締初年より於千葉城追々会谈いたし、御家人・会所役人等村請持を立、米仕立方・俵拵等稜々申談之ケ条、現事ニ臨出精之厚薄、左之通御座候。

諸役人段松山手永御惣庄屋

久保桂助

(朱書)  
〔作枚拾一ツ  
金子貳百足宛〕

右同郡浦手永右同

郡浦彦左衛門

(朱書)  
〔作枚拾一宛〕

右同錢唐手永右同

齊藤嘉兵衛

右同高田手永右同

遠山弥二兵衛

歩御使番列坂下手永右同

関忠之允

(朱書)  
〔核御紋附御拾一〕

諸役人段種山手永右同

小田貞之允

右同小田手永右同

村上平右衛門

(朱書)  
〔作枚拾一宛〕

右同南関手永右同

木下初太郎

(二〇一七)

右八人いづれ茂御取締筋格別荷厚、村請持之役之指揮を始、其身廻村、且庄屋以下示方精粗見分等手厚行届、既ニ宇土両手永之儀者八代御蔵納并宇土御知行所を省、新開御蔵納懸り村々都合三拾五ヶ村之儀、余計之儀数、去秋惣返をいたし候由、嘉兵衛・忠之允并弥二兵衛儀、高田手永所替後いづれ茂御蔵根手永之儀ニ候得者、必多度御蔵方江茂罷出、他手永納り分共手厚世話仕候由、貞之允・平右衛門・初太郎儀茂実地ニ心懸候ニ付、請持手永々々年々御蔵納速ニ相済候由ニ而、いづれ茂別段出精仕候由。

諸役人段鯨手永右同

三村傳之助

歩御小姓列河江手永右同

内田壽太郎

独礼沼山津手永右同

光永四兵衛

右同野津手永右同

下山群次

諸役人段内田手永右同

小森田武八郎

右同横手々永右同

衛藤三郎左衛門

独礼木倉手永右同

光永平藏

杉嶋手永右同当分

井上甚之助

諸役人段山鹿手永御惣庄屋

右同廻江手永右同

山鹿安左衛門

右同中富手永右同

福嶋龜之允

右同中山手永右同

河野太郎助

右同砥用手永右同

藤井五郎助

右同佐敷手永右同

梅田源作

右同田浦手永右同

近藤平四郎

右同水俣・久木野右同

田浦助兵衛

右同湯浦手永右同

水俣純之助

独礼矢部手永右同

柴田純太郎

諸役人段五町手永右同

布田保之助

歩御小姓列本庄手永右同

佐藤久助

諸役人段田迎手永右同

古閑才藏

近野門左衛門

〔朱書〕  
〔作紋軍羽織一完〕

〔朱書〕  
〔作御紋附御軍羽織一完〕

〔朱書〕  
〔作紋軍羽織一完〕

〔朱書〕  
〔作御紋附御軍羽織一完〕

〔朱書〕  
〔作御紋附御軍羽織一完〕

〔朱書〕  
〔作紋軍羽織一完〕

〔朱書〕  
〔櫻御紋附御單羽織一〕

独礼池田手永右同

諸役人段大津手永右同

右同甲佐手永右同

右同深川手永右同

独礼布田手永右同

諸役人段高田手永右同

右同関手永右同

右同内牧手永右同

歩御小姓列高森手永右同

諸役人段北里手永右同

右同久住手永右同

独礼野津原手永右同

河瀬安兵衛

山隈新左衛門

小山三右衛門

服部典助

矢野甚兵衛

岡松俊助

岡松作右衛門

犬塚三郎右衛門

山口藤一

北里伝兵衛

佐藤常之助

吉村富次

役々差出、其身々々茂不断打廻手入之精粗見分を初、入実斗り立等三至迄、委敷人別論方いたし、御蔵方江茂罷出候由ニ而、いつれ茂心懸能出精仕候由。

独礼正院手永右同

竹迫手永右同当分

津奈木手永右同

中村手永右同

河原手永右同

久我為右衛門

諸役人段坂梨手永御惣庄屋

渡辺子八郎

右者、御取締後、廻村小前示方等前段同様手厚為有之由ニ者相聞候得共、去秋御年貢青米段下願ニ付而者不手詰之儀有之、以来屹と入念候様御達ニ為相成由ニ而、身分奉伺候処、被受置候由ニ而、別而奉恐入居候由。

歩御小姓列荒尾手永右同

池部清之丞

〔朱書〕  
〔櫻御紋附御單羽織一〕

〔作紋單羽織一完〕

〔朱書〕  
〔櫻御紋附御單羽織一〕

〔朱書〕  
〔作紋單羽織一完〕

〔朱書〕  
〔櫻御紋附御單羽織一〕

右三拾三人いつれ茂御取締筋相専、初秋初干立之節より村請持之

右者、御取締筋相応ニ行届、高瀬御蔵方江茂時々罷出、子八郎同様

手厚為有之由二者相聞候得共、去秋晒御米山床御年貢納ニ付而者、出席等届兼候由ニ而、以来心を用候様御達ニ為相成由ニ而、身分奉伺候処、被受置候付而者、別而奉恐入居候由。

独礼菅尾手永右同

〔朱書〕  
〔拝領ニ不及〕

山村市兵衛

諸役人段野尻手永右同

田代武十郎

右兩人請持手永之儀、現米納者無御座、都而代錢上納仕候由。右稜々之外、内輪碎候而者年柄・所柄或土地之模様ニ寄心配之厚薄者有之候由ニ候得共、取分申上候程之儀茂無之、惣鉢津端納之ケ所々々者別段心配多有之候由、いつれ茂差入出精之段等、右之通相聞申候得共、御取締後未夕年浅之儀ニ御座候得者、先此節迄之儀者一統等數御賞賜被仰付候様御座候而者、何程ニ可有御座哉。左候ハ、いつれ茂難有奉感荷勸合候ハ、此末猶更取締可申奉存候。此段見込之趣共御達申上候。以上

申閏三月

御郡御目附付

御横目

別紙達之通ニ而、出精之厚薄段等、御横目見聞之趣本文之通御座候間、朱書用置候通可被下置哉。

但、独礼以上者桜御紋附被下置見合ニ付、其しらべ仕候。且又、士席以上ハ御羽御時服と申順ニ而御座候得共、独礼以下ハ時服羽織と申次第三而御座候。

〔朱書〕

〔右しらへ之通、四月十八日申渡且達、木下事十一月五日申渡、福嶋事同九日達、福嶋事、申十二月九日達、當時種山ニ付諸郡也。木下事、卯十二月五日申渡〕

御内意之覺

諸御郡御藏私之儀、近年米拵等不宜旨ニ而、一昨秋御取締被仰付、私共江茂御藏江茂罷出候様被仰付候付、一昨年者らと時候茂引下り候得共、御惣庄屋共於千葉城会谈申付、私共茂罷出米拵之儀者勿論、入実且繩波等之貫目御法之通仕立候様、御主意之趣委敷申付候付、御惣庄屋共も差入相働私中ニ茂、私共以下御藏江茂罷出、御藏方江茂心付候儀ハ不聞申談茂仕、不埒之小前者答筋を茂申付候付、一昨年も乍延引了也ニ者取締申候付、一昨年現事取行候付、心付之稜々も有之候付、猶昨正月会谈申付候間、御惣庄屋手元ニ而重畳申談差はまり、銘々村々打廻米拵等見分仕、其上ニ茂会所役人・御家人抔米拵見分等之村請持をも相立碎候而者、種々様々ニ心配仕申候。当秋共者諸御郡無難之ケ所ハ少く、多虫害等ニ而米性至而悪敷御座候処、厚心配仕候付、私共御藏江茂罷出見分仕候処、手入等者行届一体取締候儀ニ御座候。津端御藏之儀者大坂ニ而御売米ニ茂係申候間、猶更心配仕申候。然ル処当年ニ而三ヶ年ニ相成申候間、早目ニ茂可被思召候得共、御惣庄屋中ニ作紋御小袖一完御賞美被仰付被下候様、(下に付札有り)左候ハ、私共より猶取締申付ニ茂不怪都合宜、御惣庄屋共茂難有奉感荷申候ハ、弥以取締心懸御為合ニ茂相成可申敷と奉存候。此段不聞御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

十二月

横田善左衛門

上妻半右衛門

岩崎物部

御郡方

御奉行衆中



〔付札〕

本行之通ニ御座候処、独礼御惣庄屋江者桜御紋附御小袖被下置候様奉願候。別紙名附相添御達仕候事。

三四〇 久保桂助

(二〇一丁)

御内意之覚

松山手永御惣庄屋

久保桂助

右者、去ル巳年以來、御年貢米私各別御取締被仰付候ニ付而者、庄屋以下小前々々迄御達之趣委敷申聞、即年より別段取締、手附役人者村割請持申付置、御達之通 内皮之儀者古藁を以夏秋農隙之砌より編立させ、糊干立より米拵・俵拵迄之処差入重畳手入を尽させ、大村之儀者千俵私等茂相倡候処、御達即年より通方宜相成、小前々々相進、既去年迄三ヶ年惣通之村方茂有之、弥以御達之御主意、下方迄貫通仕候内、去秋一統田方水害虫付等ニ而、米拵ニ至板糝・腹白等之悪米多、仕立方至而仕悪御座候得共、村々軒別程ニ打廻、米仕立方見分仕、御蔵方江茂罷出御門内ニおいて米之善悪再見分を度仕、私立候処ニ付、十月廿二日より十二月二日迄日数四十日ニ、米高壹万式千七百俵程手永惣通皆済仕候。右之次第者、畢竟桂助儀懇切ニ示方行届、重畳差入厚心配仕候処より、余計之俵数手永惣通ニ相成、殊更去年之儀者時候後之年柄ニ御座候得共、御蔵私速ニ相済候処ニ而ハ、村々菜麦根付茂手後レ仕不申、彼是上下一篇之御弁利ニ相成、且一統御蔵私御倡之一端ニ茂相成可申哉と奉存候間、何卒別段之御賞美被仰付被下候様有御座度、

於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

安政七年二月

御郡方

御奉行衆中

三四一 郡浦彦左衛門

(二〇一丁)

御内意之覚

郡浦手永御惣庄屋

郡浦彦左衛門

右者、去ル巳年以來、御年貢米御蔵私各別御取締被仰付候而者、庄屋以下小前々々迄御達之趣委敷申聞、別段取締手附役人共者村割請持申付、内皮之儀者古藁を以夏秋農隙之砌より編立させ、糊干立より米拵・俵拵ニ至迄、重畳手入を尽させ候付、即年より屹ト心配之功驗相顕レ、去秋之儀村方一統御蔵私惣通仕候儀ニ而、畢竟彦左衛門儀、度々村方打廻り御蔵方江茂罷出、御取締筋懇ニ諭方仕候付、右之通惣通ニも相成、上下之御弁利者不及申、一統之手本ニ茂相成可申哉と奉存候。依之彦左衛門儀、何卒別段之御賞美被仰付被下候様有御座度於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

安政七年二月

野々口金左衛門

御郡方

御奉行衆中

(文久元年)

三四二 中山庄兵衛 他

(二〇一一)

御内意之覚

郡浦手永御郡筒

一 錢貳貫五百目

中山庄兵衛

同手永地士 吉田彦太育

一同三貫五百目

吉田卓蔵

但地士被仰付被下候様。

同手永御郡筒

一同老貫五百目完

河野惣太郎

高濱喜左衛門

同手永御郡筒

一 錢老貫五百目完

高濱又右衛門

高岡安之允

矢沢嘉久平

寺本戸平

吉田庄三郎

河嶋惣作

但御郡代直触、被仰付被下候様。

右者今度相州御備場御用ニ付而、寸志差上申度段奉願候処、願之通被召上旨ニ付、夫々上納相濟申候間、但書之通被仰付被下候様奉願候。此段宜被成御參談可被下候。以上

万延元年十二月

御郡代

御郡方

御奉行衆中

三四三 浦上勝益

(二〇一二)

覚

松山手永佐野村居住御郡代直触ニ而病死仕候  
浦上勝甫悴

(朱書) 本遺病案 三法被的

浦上勝益

右者、親跡相統別紙之趣ニ付見聞仕候処、家業心懸厚、療治方手広被行、儒医之学業篤志ニ有之、文学之儀者松山手永ニ而一二を争候程ニ有之、若年ニ者療治方茂功者ニ而、父存生中より廻診尻輕、病家尋向深切ニ有之、所柄一稜為合ニ相成、いつれ茂深信用仕居候由。施薬と有之分者、貧民謝礼届兼候分ニ而、病人救之儀者、去一ヶ年父子ニ而療治仕候分之由。其外家筋等委細者、本紙書面之通相聞申候。以上

申十月

吉武英右衛門 ㊦

松本源次郎 ㊦

御内意之覚

松山手永佐野村居住御郡代直触ニ而病死仕候  
浦上勝甫悴

浦上勝益

当申廿六歳

右勝益先祖浦上友真と申者、慶長十四年九月於豊前小倉、嫡子浦

上瀬兵衛と父子一同被召出、御知行百石宛被下置、友真病死後、御知行百石者、直ニ嫡子瀬兵衛ニ被増下、其後猶百石御加増、都合三百石被下置候。瀬兵衛ニ男浦上八左衛門儀、一端御雇にて、若狹守様江被召仕候処、病氣差発、御奉公御断申上候而、瀬兵衛御赦免地松山手永三日村江在宅仕居候。右八左衛門より四代目、浦上勘助弟浦上真廣儀、医業仕ニ付、御郡並之御奉公仕度奉願候処、天明六年十二月御郡代直触ニ被召出、文化七年八月病死仕候伴浦上真壽儀、同八年二月親跡御郡代直触被召出、嘉永六年三月病死仕候伴浦上勝甫儀、同七年親跡一端苗字御免御惣庄屋直触被召出候処、翌安政二年八月家筋之訳ニ被对、御郡代直触被召直置罷出、療治方出精仕候ニ付、銀五両被下置、天保五年松合村疫病流行ニ付而茂罷出、療治出精仕候付、銀貳両被下置候。伴右勝益儀、惣体人物宜、医業、江村萬春門弟ニ而、心懸能療治方各別出精仕、当時療治懸村々左之通、

松山手永

佐野村

三日村

曾畑村

上古閑村

布古閑村

立岡村

松山村

古保里村

善道寺村

境目村

河江手永

古保山村

廻江手永

平原村

都合十二ヶ村竈數三百五拾軒・病人數千百人余、内施藥仕候人數百三十拾人余御座候。

右之通手広療治懇ニ出精仕候処、家筋之儀者、委細前文之通ニ而、

曾祖父浦上真廣以来者、代々御郡代直触被仰付置候、殊ニ勝益儀者、父存生中療治方手広有之候付、勝益儀茂代診等、日々打廻、療治方至而深切ニて、いつれ之村々茂、都而帰服仕居、全体手厚人柄ニ而、療才功驗茂御座候間、所柄屹ト為合ニ相成申候間、家筋旁被对、父同様御郡代直触被召出被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

万延元年九月

野々口金左衛門

御郡方

御奉行衆中

僉議

勝益儀、達之通ニ付、医業吟味役江問合申候処、治療習熟・学業篤志之段達有之、再春館御目附見聞之趣茂同様ニ而、科目丙科ニ相当申候。御郡御目附付御横目見聞之趣茂別紙之通に付、夫々相添置候通御座候。右者苗字帯刀之家筋ニ付、数代御郡代直触被仰付置候付、父同様御郡代直触可被仰付哉。

(朱書)

〔右西正月廿八日達〕

三四四 中尾仙八

(二〇一七)

覚

郡浦手永下網田村居住一領一疋ニ而病死仕候  
中尾藤三郎倅

中尾仙八

右者、親跡相続別紙之趣ニ付見聞仕候処、手全成人物之由。武芸

数々稽古いたし、行状ニ付異候唱相聞不申、委細者本紙書面之通ニ  
而、御赦免開等者所持いたし不申由承申候。以上

西四月

宗村弥久馬<sup>㊦</sup>

御内意之覚

郡浦手永一領一疋ニ而致病死候中尾藤三郎悴

中尾仙八

当酉二十八歳

右者、兼々手全成人物ニ而、御家人持前之心得方宜敷、炮術渡邊  
作之丞門弟ニ而稽古仕、曾祖父中尾作平儀、寸志之記ニ被对、天  
明七年地士ニ被召出、寛政元年病死仕、祖父中尾要助儀、同年親  
跡地士相続被仰付、同五年寸志之記ニ被对、一領一疋ニ被仰付、  
文化十三年病死仕候。父中尾藤三郎儀、文政二年親跡一領一疋相  
続被仰付候以来、四十二ヶ年御郡並之御奉公無懈怠相勤、去年八  
月病死仕候間、仙八儀相心ニ被召出被下候様有御座度、於私茂奉  
願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

万延二年三月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

仙八儀、達之通ニ付、一領一疋之跡、究之通御郡代直触末席可被  
仰付哉。

(采世)  
[右僉議之通、西五月十八日達]

三四五 野村新助

(二〇一一一)

覚

松山手永網津村居住一領老疋ニ而、井樋方  
助役并会所見扱・北浦新地惣受込・宇土駅  
所惣見扱兼帯

野村新助

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、数々役儀六十六ヶ年手全相勤、  
老体ニ者未夕壮健ニ而、会所初宇土駅所江茂類々罷出、諸事申談、  
北浦新地者罷村懸ニ而別而世話筋行届候由ニ而、其外功碩之稜々等、  
委細本紙之通承申候。以上

西四月

河口源右衛門<sup>㊦</sup>

御内意之覚

松山手永網津村居住一領一疋ニ而、同手永  
井樋方助役并会所見扱・北浦新地惣請込・  
宇土駅所惣見扱兼帯

野村新助

当酉七十八歳

右新助儀、寛政八年郡浦手永栗崎村出会所見習ニ呼出、同十年松  
山会所見習ニ引直、享和三年小頭本役申付、文化八年会所詰ニ引  
直、同十一年根扱役ニ而、会所詰兼帯申付、文政四年下代役ニ引  
直、同九年松合村庄屋当分助勤兼帯申付、同十年役方多年手全ニ  
致出精、請弘精密ニ有之、御年貢取立方行届、余錢備茂無違乱取  
扱、且養水方之儀、種々致心配、水田之ヶ所跡作仕付候分茂、  
段々致心配、上下一簾為合ニ相成候旨ニ而、無苗御惣庄屋直触ニ被  
仰付、同十一年手代役ニ引直、同十二年立岡堤掘添ニ付而、塘方

御買上代地取組候間、其外御普請ニ懸候筋、一切根ニ成差入拔郡致出精、且又杉嶋新川掘替ニ付而茂罷出、出精仕候旨ニ而、苗字御免被仰付、天保二年手永見以兼帶、在勤中御郡代直触ニ被仰付、同年勸農倡方兼勤申付、天保九年会所見習以來役方数十年心懸厚、松合村数度之火災跡家取建を初、所々御普請臨時御用請込等万端無抜目致出精、稜々功蹟茂有之、所柄一廉之為合ニ相成候旨ニ而、御郡代直触本席被仰付、同十四年手代役持懸ニ而、北浦新地惣請込申付、弘化二年松山手永井樋方助役申付、在勤中一領一疋ニ被仰付、松山会所見以兼帶申付、同三年役方五十年余心懸厚、諸御普請茂、種々心を用、会所内一和二申談、万端心得方宜有之候旨ニ而、本席地士ニ被仰付、同四年宇土駅惣見以兼帶人馬立方、其外米錢請込を初、一切請込申付、安政二年役方六十年心掛能出精仕、宇土駅所取締筋等各別心を用、其外数々功蹟茂有之候旨ニ而、一領一疋本席ニ被仰付、当年迄六十六年相勤申候内、文化十二年大口村前入江新地御築立之節、百六十日余之内昼夜各別出精仕候旨ニ而、鳥目式貫五百文被為拜領、文政二年本山御殿御作事ニ付而、網引御山より杉千本・寸志夫を以、御取出被仰付候節出精仕候段、御間御聞届ニ相成、同四年去夏笠岩村御開所、石井樋破損所御普請之節数十日罷出、申談能御入目錢茂相減、出精仕候段、御間御聞届ニ相成、同八年七百町新地御築立ニ付、潮留并各別御普請ニ茂罷出、会所役人出役跡地場之御用等引請出精仕候旨ニ而、鳥目式貫五百文被為拜領、天保二年大勢之家内熟和ニ有之、兼々父母江能事、且農業出精一体心得方宜敷有之候旨ニ而、一家内江鳥目式貫五百文被為拜領、同五年大見村海辺新地再興ニ付出精仕候旨ニ而、櫛方より銀三両被下置、同六年去ル卯年非常洪水後、自他手永

追々御普請ニ付而罷出、出精仕候旨ニ而、鳥目五百文被下置、同十年去夏御巡見衆御用・諸事根ニ成出精仕候段、御間御聞ニ相成、同十二年下益城・宇土於海辺新地御用ニ付而、潮留且破損等之節茂罷出出精いたし、際目立地割等夫々請込、別而心配仕候旨ニ而、鳥目式貫文被為拜領、嘉永元年北浦新地出来之見込を以、多年之間檢留之仕法筋、種々取計、此節新地築立ニ付而者、御出方減を初、御普請向之儀、諸事申談、潮留之節、別而相働、地割・開明作方倡ニ至迄、始末各別致出精、且去ル卯年大風ニ而、海辺塘手破損所御普請ニ付而茂心配仕候旨ニ而、作紋御上下一具被為拜領、安政二年餘・沼山津水理一件ニ付而、所々御普請之節、丁場積より始末罷出、石取出方之儀茂致心配候旨ニ而、金子式百疋被為拜領、右之外宇土御知行所、稜々御普請等之節、各別出精いたし候旨ニ而、追々宇土方より拜領物茂有之、且手永内ニおひて、右同断之節茂、追々手限賞美取計候儀茂御座候。惣鉢右新助儀、為人廉直壯健ニ有之、会所見習以來当年迄六十六ヶ年役儀品々無懈怠精勤仕、御奉公大切ニ相心得会所元江茂、類々罷出、一鉢者見以仕、諸御用筋無間拔様、手代以下江茂申談行届、井樋方之儀、万端心を用、毎年仕替来申候。潮受井樋之戸前等茂、別段入念切組せ、焼方等怠り不申候ニ付、一ヶ年半位之追操々相成、其外板樋を石樋ニ仕替、種々様々仕法組仕候間、入目錢等相減、在勤十七年之内ニ而、錢辻拾四貫目余之余錢備茂出来仕、夫三心シ村々夫立茂相減、逸稜之儀ニ御座候。且又北浦新地之儀、発端之願茂、新助主ニ成候由ニ付、御築立前後別而世話仕候内、惣請込被仰付候処ニ而ハ、尚更厚心配仕、御普請之節々、始末罷出、御入目錢減少之取計仕、新地養水之儀者、七曲堤築立を初、水道貫穴塘等茂主ニ成、道橋

手入等ニ至迄、村々庄屋共以下相倡申候ニ付、年々田作り茂相進、御所勢高相増候儀者出在御役人見聞之通ニ御座候。將亦宇土駅所之儀、小御郡ニ而取賄、従前者出錢難渋仕候ニ付而ハ、先役以來追々改格を茂いたし候得共、人馬立次第ニ相増、天保度御取締被仰付候御と、当時之処ニ而ハ、倍込程之出錢高ニおよび、小前共甚以困窮仕居申候処、新助宇土駅所惣見以兼帯申候後、諸請扨向愈以圭角ニ取締、為補助宇土町居住、櫻嶋長次郎手元寸志相倡、増入目錢分者、右備より出方いたし候様相成居候間、漸々小前々々困窮甘キ申候。右者畢竟新助重畳差入、心配行届候処より之儀ニ而、右之通稜々功蹟茂有之、最早七十八歳之老体殊ニ前賞より七ヶ年ニ相成申候間、諸役人段進席被仰付被下候様、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

万延二年三月

入江次郎太郎

(朱書)  
〔金議之通 西五月廿三日申渡〕

御郡方

御奉行衆中

僉議

新助儀、達之通ニ而、役方六十六年之内一疋本席被仰付候以來七年ニ相成、数々之役方出精いたし、世話筋行届、稜々功蹟茂有之、極老旁見合茂御座候間、諸役人段可被仰付哉。

三四六 平原太郎助

(一〇一三)

覚

松山手、永網津村居住御郡代直触平原平次郎養子  
于当時紙楮見以在勤中御郡代直触ニ而松山会所手代并宇土町成立受込同所御本陣見以

平原太郎助

右者、別紙之趣ニ付承継申候処、役方多年心懸能、根以役之節者、養水増之仕法を初、土橋を石橋ニ懸直し、其外松合村庄屋後見・宇土町成立受込等付而者、世話筋行届、兼勤之御用錢を茂圭角取計、各別出精いたし候次第者、委細書面之通ニ而、右之外新開御米山床ニ御藏建方ニ付而者、根ニ成心配いたし候由ニ而、当時御役人茂、御米納之節迄之詰方ニ而相濟、三四ヶ年内ニ者、御手入料備茂出来いたし候ニ付、俵懸米茂全取立ニ不及由ニ而、上下逸稜之御弁利筋之由。勤年数本紙之通承申候。以上

西四月

河口源右衛門印

御内意之覚

松山手永網津居住御郡代直触平原平次郎養子  
当時紙楮見以在勤中御郡代直触ニ而松山会所手代并宇土町成立請込同所御本陣見以

平原太郎助

当西四十三歳

右者、天保三年松山会所見習ニ呼出、同八年六月小頭当分申付、同十一年十一月小頭本役ニ引直、弘化三年三月会所詰ニ而根以役申付、嘉永六年十一月当用方兼勤根以役兩人を菅人役ニ申付、井樋塘方・井手道・所々官宅作事ニ到迄、都而御普請根以役申付、同七年十一月根以役者差免、当用方持懸ニ而下代役申付、安政三年十二月紙楮見以、在勤中御郡代直触ニ被仰付、同四年十一月下

代役并当用方請持ハ差免、手代役ニ御用錢方請込申付、松合村庄屋後見兼帶申付、同六年右後見ハ差免、宇土町成立筋請込申付、会所見習以來当年迄三十ヶ年手全ニ出精相勤候内、御賞筋并稜立候功蹟、左之通ニ御座候。

一天保十年御巡見衆御通行ニ付役出精相勤候段、御間御聞届ニ相成申候。

一同十一年八月下益城宇土於海辺、新地御築立御用懸被仰付、出精相勤候旨ニ而、為御心付御間領七百目被為拜領候。

一同十二年十二月右同断ニ付而、塘方請前之稜々、始末致出精、別而心配仕候旨ニ而、鳥目貳貫文被為拜領候。

一弘化元年十一月北浦新地出来ニ付、積方初發より引受、御普請向厚心を用、追々之潮留并地割開明ニ到迄、始末各別出精いたし、且卯秋大風諸新地破損御普請ニ付而茂心配仕候旨ニ而、鳥目三貫五百文被為拜領候。

一安政元年十一月餘・沼山津水理一件ニ付而、走濁新川數ヶ所之御普請、主ニ成始末致出精候旨ニ而、鳥目老貫五百文被下置候。右之外宇土御給知内之御普請等之儀ニ付、彼是深心配いたし候旨ニ而、追々宇土方より被賞拜領物等有之、於御同方ハ一稜之御為合ニ相成申候。

右之通ニ御座候処、松山手水之儀、水旱之両害を受、従前々零落難渋之所柄ニ御座候処、太郎助儀根扱役在勤中、嘉永元年下益城宇土七手水出夫を以、立岡大堤水増御普請之節、始末根ニ成、出精仕、水懸畝三百貳拾町余之田方、十日程之養水増ニ相成、北浦新地養水七曲堤築立ニ付而ハ、家居貳拾軒程之村直を初、堤築立方成就迄、始末主ニ成出精いたし、新地内九拾町程之田方養水全

備仕、上納米并漸々相増申候。且又水氣拔養水全備仕、上納米茂漸々相増申候。且又水氣拔養水兼用之井手立、其外石碩且人馬通路難渋之ヶ所々々、石橋懸方共ニ、都合七拾ヶ所ニおよび、大造之儀、始末引請心配仕端々迄茂養分充分ニ行届、右外手水内所々、土橋ニ而保方悪敷、毎歳梅雨洪水ニ者崩落、人馬通路差塞り、諸人及迷惑候儀茂御座候処、右等之ヶ所々々都合三拾四ヶ所石橋ニ掛直、所柄出錢難渋不仕様、陰徳寸志・民力強寸志等相倡、且土橋ニ夕代分之竹木御山渡奉願、売立代錢より償之仕法等ニ而、永代不朽之御普請成就候ニ付而ハ、於所柄者出夫之患を免、人馬通路自由ニ相成候処ニ而ハ、諸人一廉為合ニ相成申候。且又御本方西目・東目在并宇土御知行所共ニ、都合十四ヶ村之儀、別而水旱之両害強御座候処、安政二年樋発塘堀割・花園堤築立ニ付而ハ、下代役ニ而、始末出役仕、上下益城・宇土拾貳手水出夫ニ付而、諸事根方ニ而心配多、養水道・井手立・碩所・井樋所等數ヶ所之御普請、一時ニ成就仕候様、厚世話いたし、右十四ヶ村ニ而、三百三拾町余之畝方、充分之養水相備、加之樋発塘堀割ニ付而ハ、水引茂宜敷相成、以前者御國中ニ茂、無比類旱田所之由ニ御座候処、右立岡堤潤色を初、花園堤築立且北浦新地養水・七曲堤築立其外數多之小堤ニ到迄、根扱役在勤中浚方等茂行届、当時ニ而者田方旱損之患相除り、近年成立際ニ趣、勸農専ラ力を入候儀ニ御座候。安政三年松合村屋敷新地築立ニ付而茂、塘手請持始末出役仕、御入目錢減ニ相成候様、心を用出精仕、同四年北浦新地破損所廻塘外ニ相成居候分、自身主ニ成、網津村七左衛門列之者共申談、年季請直築奉願、入目錢三拾貫目余、自勤を以築立、廻塘三百間程之所、以往御手入ニおよび不申、年季後者相並相当之上納米茂被召上、

御為筋ニ茂相成候儀ニ御座候。且又村々零落ニ付而者、御年貢米当季御取立茂成兼、御算用御日限迄ニ仕上候儀出来兼年々日延奉願候程之所柄ニ御座候処、同人儀下代役申付候後、村々一和二申談、種々之仕法立を以、御年貢方ニ付而、町家借立等茂弘切せ、当季々々之御取立一辺ニ相成候様、心配仕候ニ付而者、村々等敷得競、速ニ皆済仕候儀、畢竟同人手厚世話仕候処より、御取立筋屹と御改革之基本相立、御代官方余錢備茂出来仕、請弘向圭角ニ取行、当時手代役ニ而、御用議方請込を茂兼勤仕居候処、松山手永之儀、往還筋ニ而、宿駅并南北海辺漁士御牧山をも受居、兼而御用繁多之所柄ニ御座候処、会所内熟和二申談、御用筋無間抜勤上、官錢向従前々引継居候様々、先役代停滞調を茂申付候末ニ而、取立向數百稜ニ亘り、不一形骨折心配仕、御用錢御備増ニ相成候様、諸事手を詰、請弘向聊無違乱取扱、松合村嘉永夏兩度之火災ニ付而ハ、急飢御取救を初、跡家造渡等、始末引受、心配仕、同村庄屋後見相勤居候内、村役宅を茂取建、宇土町成立請込ニ付而者、種々心配仕、無産業之者共江者、元手錢為借渡等之仕法を付、産業取付せ、町会所を茂建方仕申候。宇土町・松合兩所之儀者、手永内無比類大場ニ而、御用筋繁ク、出在御役人休泊有之、以前者、廻り宿ニ而勤上来候処、御用宅建方後可成役宅ニ而、宿相勤、所柄至極弁利ニ相成、且紙楮請込ニ付而ハ、川塘・井手塘空地等之内、作障ニ相成不申ケ所々々江、苗木植付専ラ相倡、植増繁茂之世話仕申候。惣鉢太郎助儀、為人諄良ニ而、壯健ニ有之、第一御用筋ニ身を委ね、昼夜之無差別、精勤仕、米錢請弘圭角ニ有之、会所役人引立ニ相成候人柄ニ御座候処、見習以來当年迄三十年出精相勤候内ニ者、度々御賞美茂有之、根抄役以後余計之功蹟茂有之候得共、一々難

尽書上、先者抜群出精之者ニ御座候間被賞、作紋御上下一具被為拝領被下候様、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御参談可被下候。以上

万延二年三月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

太郎助儀、達之通ニ而、見習年数を省、小頭以來二十五年之内、紙楮見抄ニ而、在勤中御郡代直触被仰付候而、六年ニ相成、当時手代役ニ而、庄屋後見申付ニ相成居候処、役方心懸能、松山手永之儀者、水旱之両害を受、零落之所柄、養水増且水引之仕法、其外宇土町・松合村成立筋、土橋懸直等之儀者、種々心を用、格別致出精、御取立向茂速ニ皆済仕候様相成、改革之基本相立候由。委細者本文申立并御郡御目附付御横目聞方、別紙之通ニ付、別段を以、作紋麻上下一具可被下置哉。

(朱書)

〔西十一月十一日達〕

三四七 那須儀平

(二〇一三)

覚

松山手永上古閑村居住苗字御免御惣庄屋直触  
ニ而同村庄屋

那須儀平

右者、別紙申立之趣ニ付見聞仕候処、老年ニ者達者ニ而、惣鉢律儀



有之、役方四十五年心懸厚、手全相勤、一村勤続ニ而、勸農筋手厚相倡、村内一和仕、兼々示方宜、世話筋茂能行届、小前々々茂帰服いたし居、風儀茂宜、年々御年貢并諸上納等、速ニ相納候付而者、追々御賞美茂被仰付候由。委細者本紙書面之通相聞申候。以上

酉四月

平井恒右衛門<sup>㊦</sup>

宗村弥久馬<sup>㊦</sup>

御内意之覚

松山手永上古閑村居住御惣庄屋直触ニ而同村

庄屋

那須儀平

当西七十七歳

右儀平儀、文化四年父武右衛門庄屋在勤中代役申付、同十四年父跡上古閑村庄屋申付、当年迄都合五十五ヶ年、手全ニ出精相勤申候内、文政八年七百町新地御築立ニ付、潮留并水理御普請之節々、夫方召連罷出、出精仕候旨ニ而、鳥目老貫文被為拝領、同十二年役方数年致出精、立岡大堤堀浚并杉嶋川掘替ニ付而致致出精候旨ニ而、合羽・傘・菅笠御免被仰付、天保五年松合村度々出火跡家建方、同村救ノ浦并高良・下り松新地築立に付而、出精仕候旨ニ而、鳥目老貫文被下置、同六年代役以来多年出精仕、村方江示方能取計筋、厳密ニ有之、孰茂帰服いたし、御年貢・諸出銀速ニ相納養水方等各別出精仕候ニ付、支配錢之内より鳥目老貫五百文、賞美取計置申候。同九年役方多年心掛能、出精仕候旨ニ而、礼服御免被仰付候。同十二年下益城・宇土海辺ニおひて、新地御築立ニ付、出夫等心配仕候旨ニ而、鳥目老貫文被為拝領、弘化元年役方多年

出精いたし、勸農相倡、風儀宜敷、御年貢諸出銀等、速ニ相納世話筋行届候旨ニ而、無苗御惣庄屋直触ニ被仰付、嘉永元年北浦新地御築立ニ付、夫仕等出精いたし候旨ニ而、鳥目七百文被為拝領、安政元年十一月役方数年致出精候旨ニ而、苗字御免御惣庄屋直触ニ被仰付候。右儀平儀、為人篤実ニ有之、村方諭方等行届勸農筋懇ニ相倡、手厚世話仕候ニ付而ハ、村内一和仕、手永中手本ニ茂可相成、村方ニ相成候ニ付而ハ、追々御賞美茂被仰付、弥以村方茂風儀能、農業出精仕、御年貢之儀茂速ニ皆済仕、諸公役・諸出銀其外諸払物等無滞、人氣善事ニ相逐候様ニ相成候儀、畢竟儀平兼々諭方行届候故ニ而、最早七十七歳之老体ニ而、五十五年相勤、前賞より八ヶ年ニ相成申候間、数十年之勤勞旁ニ被対、御郡代直触ニ進席被仰付被下候様、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

万延二年二月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

儀平儀、達之通ニ而惣年数五十五年ニ相成候得共、父代役者年功ニ難被立下見合に付相省、庄屋四十五年・苗字御免以後八年ニ相成、勸農筋手厚相倡、示方宜世話筋茂行届候由。御郡御目附付御横目見聞之趣茂、別紙之通ニ而、初より庄屋相勤候者ハ、四十五年ニ而進席被仰付候見合茂有之、極老之者旁ニ付、御郡代直触可被仰付哉。

(朱書)

〔西十一月十一日達〕

覚

宇土新二丁目三丁目四丁目丁頭

新次

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、役方多年心懸能、出精いたし、受持町方之儀者、別而難渋所ニ而、世話筋行届候由之処、最早老年に而、追々役儀断出候得共、同人ニ差統候程之者無之由ニ而、申立之通被仰付候ハ、難有、得競弥以差入出精可仕由、勤年数等書面之通承申候。以上

西四月

河口源右衛門印

御内意之覚

宇土新二丁目三丁目四丁目丁頭

新次

当四六十七歳

右宇土町之儀、前々より無類之零落所ニ而、町頭相勤候者茂無御座候処、天保六年同所町頭新次江申付候処、兼々律儀成者ニ而、重畳差入出精相勤、成立筋之儀、種々仕法を付、商元手銭として、四拾貫目余之講組立ニ付而ハ、主ニ成心配いたし、右之外天保九年宇土町難渋之者共へ、米拾三俵代銭ニして、八百六匁相对取救ともいたし、彼是心切ニ心配いたし候ニ付、小前々々氣力を引立、漸々成立之萌相見、近年ニ到候而ハ、諸取立等茂速ニ相濟候様相成候儀ハ、畢竟新助世話筋行届候処より之儀ニ而、逸稜之功功蹟役付以来、当年迄式拾七ヶ年格別相勤候ニ付、年旁旁ニ被対、苗字

御免御窓庄屋直触ニ被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段不閣御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

万延二年三月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

新次儀、宇土町丁頭申付ニ相成候以来二十七年、役方心掛能、町方世話筋手厚行届候間、苗字被成御免被下候様、本文之通ニ御座候。宇土者准町之儀ニ付、丁頭茂四十年以上之勤無之候而者、苗字難被成御免、川尻高瀬丁頭にして茂三十年以上相勤不申候而者、難被叶見合せ付、新次儀普通之例ニ候得者、暫ク者苗字被成御免候儀者、難相成御座候得共、委細者書面之通ニ而、零落之町方成立筋に付而者、講組立或者相对取救、彼是共種々致心配、倡方深切ニ行届、成立之萌茂相見江候由、御郡御目附付御横目聞方茂、別紙之通ニ付、年限被引揚、別段を以、苗字被成御免候而者、如何程ニ可被有御座哉。

(朱書)

〔西十一月十一日達〕

三四九 積新左衛門

(二〇一七三)

覚

郡浦手永御山見拟在勤中地士ニ而御牧見拟兼帯

積新左衛門

右者、別紙之趣ニ付承續申候処、役方多年心懸能、御山御牧馬仕立等出精いたし候由、勤年数等本紙之通承申候。以上

西四月

河口源右衛門印

御内意之覚

郡浦手永御山見拟在勤中地士三而御牧見拟兼

積新左衛門

当酉六十二歳

右者、文政十三年郡浦手永御山見拟并御山仕立方被仰付、在勤中地士三被仰付、天保二年宇土御牧見拟兼勤被仰付、同十三年松山手永北浦・住吉新地御築立之節、竹木并大小石取出、運送等各別出精いたし候旨三而、銀七兩被為拜領、嘉永二年役方多年心掛厚精勤仕候ニ付、本席御郡代直触被仰付候。右新左衛門儀、惣林正直成人物三而、手広之御山内平日打廻り、見拟方行届、御牧方之儀茂、厚心を用、御牧馬蕃息之仕法筋等、諸事主三成精勤仕、役付以来惣年数三十二ヶ年内、二十一ヶ年御牧見拟を茂兼相勤、御郡代直触被仰付候而、当年迄十三ヶ年格別出精相勤候ニ付、年旁旁三被对、地士本席被仰付被下候様、於私茂奉願候、此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

万延二年三月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

新左衛門儀、達之通三而、御山見拟以来三十二年之内、本席御郡代直触被仰付候而十二年ニ相成、本席地士被仰付候ニ者年数淺、難及僉議、尤先賞より十二年ニ相成、兼帯之役方共数年出精相勤候

由に付、無味ニ者難被閣相見申候間、銀五兩程茂可被下置哉。

(朱書)

〔西十一月十一日送〕

三五〇 津沢次兵衛

(二〇一三)

覚

郡浦手永御郡筒三而新開村庄屋

津沢次兵衛

右者、別紙之趣ニ付承續申候処、頭百姓以来数十年心懸能、出精いたし、村方之世話筋行届候由三而、勤之年数等、書面之通承申候。以上

西四月

河口源右衛門印

御内意之覚

郡浦手永御郡筒三而新開村庄屋

津沢次兵衛

当酉六十五歳

右者、兼々手全成者三而、文政四年頭百姓申付、天保四年頭百姓者差免、庄屋役申付、安政五年御郡筒ニ被召抱、矢張庄屋役者相勤居申候。右之通三而、頭百姓十二ヶ年・庄屋役二十九ヶ年、惣年数四十一ヶ年出精相勤候内ニ者、村方成立筋等厚心を用、出精仕候間、年旁旁三被对、相当之御賞美被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候、此段不閣御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

万延二年三月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

次兵衛儀、達之通ニ而、頭百姓以來四十一年之内、庄屋役二十九年・御郡筒被召抱候而四年ニ相成、右年数ニ而者見合せ御座候間、鳥目老貫五百文程茂可被下置哉。

(朱書)  
〔西十一月十一日達〕

三五一 太左衛門、茂三次

(一〇一七三)

覺

寸志ニ而小脇差御免手場村御山口

太左衛門

寸志ニ而傘御免網引村御山口

茂三次

右者、別紙之趣ニ付見聞仕候処、何れ茂役方数十年心懸能手全相勤、諸木植繼等出精いたし、太左衛門儀者老年ニ者壯健有之、御山取抄茂能行届居候由ニ而、勤年数等本紙書面之通相聞申候。以上

酉四月

宗村弥久馬

御内意之覺

寸志ニ而小脇差御免ニ相成居候郡浦手永手場

村御山ノ口

太左衛門

当西七十五歳

右者、文政四年蔵頭役申付、同八年蔵頭役者差免、頭百姓申付、天保十三年頭百姓者差免、御山ノ口申付候処、都合年数四十一ヶ年出精相勤申候。

寸志ニ而傘御免、郡浦手永網引村御山ノ口

茂三次

当西六十四歳

右者、文政三年頭百姓申付、天保十四年頭百姓者差免、御山ノ口申付候処、都合年数四十二ヶ年出精相勤申候。

右者、孰茂兼々手全成者ニ而、数十年格別出精相勤候ニ付、無苗御惣庄屋直触被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

万延二年三月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

太左衛門儀、頭百姓以來四十一年之内、山ノ口二十年ニ相成、茂三次儀、頭百姓以來四十二年之内、山ノ口十九年ニ相成、見合茂御座候間、無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。

(朱書)  
〔西十一月十一日達〕

(文久二年)

三五二 嘉右衛門

(二〇一―一四)

覚

郡浦手永下網田村頭百姓

嘉右衛門

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、手全成人物之由、歳ニ者未夕壯健ニ有之、世話筋能行届候由、勤年数等本紙書面之通相聞申候。以上

戊五月

田久保一之允

御内意之覚

郡浦手永下網田村頭百姓

嘉右衛門

当戊八十八歳

右者、文政九年頭百姓申付候処、役前心懸厚村方成立仕法立、勸農倡方等厚世話筋行届、当年迄一役三十七ヶ年、格別出精相勤候ニ付、最早余命茂無之者ニ御座候間、別段を以鳥目壹貫五百文被為拝領被下候様、於私茂奉願候。左候得者格別出精相勤候際相立度と、村役人共勵合之目当共相成可申候ニ付、此段御内意仕候条、可然被成御参談可被下候。以上

文久二年三月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

嘉右衛門儀、達之通ニ而、頭百姓四十七年ニ相成申候処、右者四十年以上ニ而被賞候見合ニ付、三年浅有之候得共、八十八歳ニ相成余命茂無之候付、見合茂御座候間、鳥目壹貫五百文可被下置哉。

(朱書)

〔右僉議之通、戊五月廿九日達〕

三五三 虎口太郎兵衛

(二〇一―一四)

覚

郡浦手永井樋方助役在勤中一領老正ニ而会所

見拟并手代之場兼

虎口太郎兵衛

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、役前心懸能致出精、算学之儀者各別篤志ニ而、逐年練達いたし、在中ニ而者同門誘方手厚有之候由ニ而、芸術進歩之面々茂有之、手代之場兼勤付而者会所向之取拟ニ茂相成候由、然処会所役三十年と有之候得共、会所役以来当年迄全勤十六年之由、尤追々新地御用懸茂申付相成、算術誘握等ニ付而者、別而一統之為合相成候由、委細者本紙之通承申候。以上

酉十二月

河口源右衛門

御内意之覚

郡浦手永井樋方助役在勤中一領一正ニ而会所

見拟并手代之場兼

虎口太郎兵衛

當西四十一歲

右者、天保三年会所小頭申付、同九年迄七ヶ年会所相勤申候。同年文政度御郡簡ニ被召抱、天保九年栃原五郎助方へ入塾仕、同十一年時習館出席願相濟、追々出席仕候。同十年宇土・下益城海辺筋ニ而、新地御築立御用懸申付精仕、同十二年住吉新地御築立之節右同断。同年十二月宇土・下益城於海辺、新地御築立ニ付、御銀方江被差加出精いたし候旨ニ而、鳥目壹貫五百文被下置、同十四年龜崎新地破損ニ付、御普請中御用懸申付、弘化二年十一月於講堂算術格別出精相進、演段術免許相濟、且曆術・測量術茂相進候旨ニ而被賞、金子貳百疋被下置、同三年十月宇土兩手永算術謂方申付、當年迄十六ヶ年、宇土兩手永共外余手永ニ茂懸、相門百文余相謂申候。嘉永元年十一月北浦新地御築立節、受込之稜々致出精、且卯秋大風破損に付心配いたし候旨ニ而、鳥目壹貫文被下置候。同二年三月算學拔群出精いたし秘法等相伝相濟、同門謂方手厚有之候段被賞、御郡代直触被仰付、當年迄十三ヶ年ニ相成申候。同三年九月より翌年八月迄菟米格別見抄申付、同五年十月砂川尻新地養水道側量申付、河江・松山・杉嶋・廻江ニ懸、同六年二月迄必多度出精仕候。同年四月郡浦手永塘方助役申付、在勤中一領壹疋被仰付候。嘉永六年算學倡方厚世話筋行届、且所々御普請向測量等出精いたし候間、宇土兩手永会所官錢之内より毎歳金子貳百疋完心付として差遣申候。安政三年四月塘方助役持懸ニ而、会所見抄并手代之場兼勤申付候。同四年九月御給知在請込兼勤申付候。同五年七月より翌年三月迄津方別段見抄申付、同年十一月塘方助役差免、井樋方助役申付候。同六年十一月於講堂、算

學・曆道・測量術多年不相替格別出精免許相濟、天文茂出精相進、於在中者同門誘立候段被賞、桜御紋附御上下一具被為拝領候。右、太郎兵衛惣躰篤実成者ニ而、算學等別段相逐候ニ付而者、委細者師範甲斐多喜次より、別紙之通御賞美願出ニ相成候ニ付、相伝年月等之儀、学校御目附江及問合候処、相違之儀無御座候間、右兩通相添置申候。然処、会所役之儀茂當年迄三十ヶ年出精相勤候内、追々御築立之新地御用懸申付、御普請中屹と御用ニ相立居候上、當時井樋方助役ニ而、会所見抄并手代之場兼勤申置候ニ付而ハ、本行役前勤向者不及申上、会所向諸御用筋ニ亘り、一切根ニ成申談精勤仕候に付、会所向茂一鉢取締、孰茂出精相勤申候儀ニ御座候。右之通、繁勤之内ニ算學倡方厚世話仕、宇土兩手永ハ勿論、他手永ニ懸大勢引受教導仕候に付、いつれ之手永々々茂競立稽古仕、会所々々若人之内ニハ芸術相進候者茂出来仕、御普請筋・測量等至極弁利ニ相成、畢竟同人心掛厚、倡立候処より之儀ニ而、屹と御為合ニ相成候ニ付、別段之被為以御僉議、本席一領一疋ニ被仰付被下候様、於私茂重疊奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

文久元年九月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

太郎兵衛儀、達之通ニ而算學・曆學・測量術、數年心懸厚出精仕、芸術相進、同門倡方等行届候ニ付、御郡代直触被仰付候以來、當年ニ至り十四年之内ニ者、於講堂茂御上下等被下置、弥以研精仕、

芸術拔群相進候由ニ而、秘法等悉皆相伝相濟、役前繁勤之内大勢之相門倡方厚行届、所柄一稜為合ニ相成候趣等、御郡御目附付御横目聞方茂別紙之通ニ付、見合せ茂御座候間、別段を以本席一領迄正可被仰付哉。

岩村繁喜

当戊三十五歳

但、太郎兵衛儀、勤功迄之儀ニ有之候得者、未夕年数浅、暫ク者難及僉議相見申候処、算術拔群習熟ニ付而者、先年木庭徳右衛門儀、御郡代直触より直ニ一領迄正格被仰付候見合御座候間、右例ニ拠、本文之通相しらへ申候。尤、徳右衛門儀者無役ニ付、一領迄正格と被仰付置候得共、此節太郎兵衛儀者并樋方助役ニ而、在勤中一領迄正も被仰付置候儀ニ付、本席之しらへ仕候。

(朱世)  
〔右僉議之通、戊五月七日達〕

### 三五四 岩村繁喜

(一〇一丁四)

覚

松山手永笠岩村居住地士ニ而病死仕候岩村久兵衛養子

岩村繁喜

右者、養父跡相統別紙之趣ニ付見聞仕候処、壮健成人物ニ而、武芸数々心懸能、出榭等江茂無怠罷出、出精いたし候由。目錄相伝且寸志錢調達之次第、本紙之通ニ而、行状ニ付候異候唱相聞不申、御赦免開等者所持仕居不申由承申候。以上

戊閏八月

渡邊平兵衛印

御内意之覚

松山手永笠岩村居住地士ニ而病死いたし岩村久兵衛養子

右繁喜養父岩村久兵衛儀、安政二年十月寸志之訳ニ被对、御郡簡ニ被召抱、同五年十二月相州御備場御用ニ付而、寸志錢差上候ニ付、地士ニ被召出置候処、当六月病死仕候。右久兵衛儀、御赦免開建山等所持不仕候。且又同人存生中寸志錢差上置候。稜々、左之通ニ御座候。

一 錢老貫目

但松山手永花園堤御普請入目不足分之内、本行之通寸志差上申候処、繼目之功ニ被立下旨、安政五年十二月御達ニ相成申候。

一同四貫目

但同手永笠岩村西谷古堤御普請入目寸志差上申候処、繼目之功ニ被立下候旨、当五月御達ニ相成申候。

一 右繁喜儀、武芸稽古仕候。稜々、左之通ニ御座候。

一 劍術渡邊牛右衛門門弟ニ而稽古仕、文久元年九月目錄相伝仕候。

一 居合惠良左十郎門弟ニ稽古仕、安政六年四月目錄相伝仕候。

一 槍術松原傳右衛門門弟ニ而稽古仕、安政五年十一月大格之伝相伝仕候。

一 炮術永嶺仁兵衛門弟ニ而稽古仕、安政四年三月初目錄相伝仕候。

右之通ニ御座候処、右繁喜儀手全成人物ニ而、筆算等茂相伝ニ有之、武芸稽古之儀、各別出精仕、数々相伝茂相濟居、往々御用ニ可相立人柄ニ御座候。其上養父存生中繼目寸志を茂差上置候間、此節親跡地士ニ被召出、右一同武芸出精之段ハ、相伝ニ御賞美被仰付

被下候様、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

文久二年七月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

繁喜儀、達之通繼目寸志高究之規矩ニ相当申候間、父同様地土可被召出哉。

但武芸出精いたし、目錄四事相伝いたし候付、相応ニ御賞美被仰付候様、達之通ニ御座候得共、目錄之内ニ芸ハ初目錄等ニ而、一統之目錄段ニ至兼申候間、難及僉議見合置申候。

(朱書)

〔戊辰八月廿七日達〕

三五五 緒方 長

(二〇一―一四)

覚

錢塘手永方丈村居住御郡医師並

緒方 長

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、内外共療治方心懸厚、風雨昼夜之無差別、病家廻診等尻軽、其上貧民等施薬之躰ニ成行候得共、聊無頓着、諸事心を用深切ニ有之候ニ付、病家之氣受茂宜、且瘡毒之療治功者に而、遠方より茂慕參候ニ付、彼是手広被行候由ニ而、病人數并薬礼無之帖數等、委細本紙之通承申候。以上

戊四月

御内意之覚

錢塘手永方丈村居住御郡医師並

緒方 長

右者、嘉永五年十月家業心懸能、療治方出精仕候ニ付、父跡御郡医並被召出、当年迄十一ヶ年ニ罷成申候。療治懸之儀者、錢塘手永村々、郡浦手永上下新開村・網引・猪臥・白鹿・松山手永網津・割井川、杉島手永上下莎崎、廻江手永古閑村、鯉手永大淵、本庄手永高江村、御府中之儀御家中・町方・河尻町・御船手・宇土御家中ニ及、竈敷五百七拾軒余、其外地旅之船々共、去年中三千人程ニ療治仕候。為人篤実ニ有之、平常手元之暮方者質素第一ニ而、薬種者現銀ニ而買入不申候而者、上品手ニ入兼候とて、重立候品々者歩入なといたし、都而限銀ニ而買入、夫丈者病家療治向茂しり効多、殊ニ廻診茂手厚、病家々々之信仰厚、別而当手、水走瀉在・河口在之儀者押潮懸之田方ニ而、穂枯之患有之候而零落之所柄ニ御座候。長儀、居住所ニ御座候得者無謝礼ニ而、十人ニ老入謝礼いたし候而も、誠ニ印斗ニ而、実ニ渡世出来兼候程ニ有之候得共、聊無頓着、病家療治向者弥以手厚、惣躰走瀉在・河江在之儀者手永第一之難渋所ニ而、平常とても施薬多、去年中之施薬も近辺迄ニ而二百人余有之、煎制丸散迄ニ者太略七千七百貼、膏薬壹万五百附、目薬千包位之施薬ニ而、年々同前之儀ニ御座候得者、医生之施薬ハ有前之事ニ而、御奉公と相心得居候間、たとへ謝礼届兼候而も、於此儀ハ少しも無斟酌療治を請候様、兼々申諭、至貧之者江ハ、病症次第粮米をも相施候ニ付、難渋之者共感服いたし、諸方療治向茂次第手広相成申候。右之次第於心得方、先ハ拔群稀成

河口源右衛門印



儀ニ御座候間、未年数浅も可有之候得とも、拔群之者ニ御座候間、別段之御参談を以、御目見医師進席被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談。

文久二年三月

岩崎物部

御郡方

御奉行衆中

僉議

長儀、達之通ニ付、医業吟味役江問合申候処、治療習熟、学業篤志有之候由、達有之。再春館御目附江茂同様之由達有之。科目丙科ニ相当申候。父跡御郡医師並被召出候而十一年ニ相成、此□□年浅ニ御座候へとも、内外とも療治の心懸厚、昼夜無差別手広ニ行届、御郡御目附付御横目見聞之訳とも罷成候通ニ而、見合茂御座候ハ、御目見医師被仰付候哉。

(朱書)

〔成八月廿一日竊、九月廿一日申渡〕

(朱書)

〔本道病案三條ニ法被的〕

三五六 釜賀廣次

(二〇一丁四)

覚

郡浦手永地士ニ而長濱村庄屋

釜賀廣次

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、手全成人物之由。役前心懸能、出精相勤、世話筋能行届候由。且御牧別当之儀茂心懸厚、御馬蕃息之仕法立等、主ニ成世話いたし候由、委細本紙書面之通相聞申

候。以上

戊五月

田久保一之允圖

御内意之覚

郡浦手永地士ニ而長濱村庄屋

釜賀廣次

当戊六十二歳

右者、文政六年郡浦会所小頭申付、同八年長濱村庄屋役申付、同九年宇土御牧別当兼勤申付、嘉永二年御郡筒ニ被召抱、同六年寸志之訳ニ被对、地士ニ進席被仰付候。右廣次儀、惣鉢手全成者ニ而役前心得方宜敷、村方勸農を倡、成立筋仕法立等種々心を用精勤仕候ニ付、零落之小前々々茂漸々立直シ、御年貢・諸上納等取立向すら付候様相成、弘化三年より去年迄十六ヶ年無懈怠速ニ皆済仕、御牧別当之儀茂心掛厚、御馬蕃息之仕法立等、主ニ成申談筋行届、勤年数四十ヶ年之内、会所小頭二ヶ年、庄屋役三十八ヶ年、御牧別当三十七ヶ年出精相勤申候間、年功旁ニ被对作紋御上下巻具被為拜領被下候様、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御参談可被下候。以上

文久二年三月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

廣次儀、達之通ニ而会所小頭二年、庄屋三十八年ニ相成、成立筋仕法立等種々心を用、御牧別当三十七年出精いたし候由、見合茂御座候間、作紋麻上下一具可被下置哉。

覚

郡浦手永龜尾村居住御郡筒ニ而同村庄屋当分  
塩屋浦新地并塩浜方受込兼帯

庄村政右衛門

右者、別紙之趣ニ付見聞仕候処、外廻小頭以来役方数年心懸能、  
出精相勤居村之儀、新地御築立後、所々より入百姓ニ而、難渋之  
もの勝ニ有之候処、勸農相倡、御年貢諸上納等速ニ相納、諸事世  
話筋茂能行届、且塩浜方受込御用懸申付ニ相成居候付而者、同所江  
日勤仕、繁雜之時分者数日詰切、米錢・諸品出入受払等圭角取扱、  
惣躰氣立宜精勤仕、於御同所者、各別御用ニ相立可申由。勤年数  
等本紙之通相聞申候。以上

戊七月

平井恒右衛門

御内意之覚

郡浦手永御郡筒ニ而龜尾村庄屋当分塩屋浦新  
地并塩浜方受込兼

庄村政右衛門

当戊三十九歳

右者、天保十四年九月外廻小頭申付、同十五年二月松橋・龜崎・  
塩屋浦三新地、宇土両手永懸受込小頭申付、嘉永元年三月龜崎・  
塩浜御仕入御取発ニ付御役人手足不申旨ニ而、御用懸申付、浜頭  
兼勤申付、同二年十二月塩浜方御用専相勤、一稜御便利ニ相成候  
趣ニ而、松山手永新地受込差免候様、同所詰御役人より内意之趣  
有之、郡浦手永新地受込迄申付置、同六年八月塩屋浦新地惣受込

ニ而、御取立方兼勤申付、万延元年六月松崎・龜崎両新地受込小  
頭差免、龜尾村庄屋当分申付、当年迄役方都合二十ヶ年出精相勤  
申候。

一嘉永元年十月、去ル卯秋大風破損所御普請之節、龜崎・塩屋浦ニ  
相勤出精いたし候ニ付、鳥目七百文被為拜領候。

一同七年十一月、郡浦手永海岸防禦御郡筒ニ被召抱候。

一安政二年十一月、砂川尻新地御築立ニ付、御米請払等彼是出精仕  
候ニ付、銀五兩被下置候。

一同三年、龜崎新地之内、五十町余之畝方宇土様江被進候ニ付、御  
分地且諸見之節彼是出精仕候ニ付、鳥目壹貫文被為拜領候。

一万延元年十二月、役方数年出精いたし、塩浜受込ニ付而ハ格別精  
勤仕候旨ニ而、鳥目壹貫五百文被為拜領候。

右之通役方二十ヶ年手全ニ出精相勤、龜尾村之儀、新入百姓ニ而  
極々零落所ニ御座候得共、平日教示筋行届、御年貢諸上納等速ニ

皆済仕、加之塩浜方御用懸被仰付候以来、当年迄都合十五ヶ年無  
懈怠精勤仕、米錢并諸品出入請払等嚴重ニ取扱、於御役間茂一稜

御用ニ相立候儀ハ、彼方詰御役人委ク見届度可有之、本行役前勤  
年数また浅ク御座候へ共、塩浜方格別出精之訳旁ニ被対、御郡代

直触被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、  
可然被御參談可被下候。以上

文久二年五月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

政右衛門儀、達之通ニ而、小頭以来二十年、御郡筒被召抱候而より九年、塩浜受込十五年、庄屋者三年ニ相成、年功ニ而者未進席之儀者難及僉議御座候処、櫛方より茂別紙達之通ニ而、塩浜之儀者昼夜心配いたし、米錢受払諸品之出入等、余計之手数多有之、詰切程ニ而格別精勤いたし、逸稜御用便ニ相成候由、委細書面之通ニ而、御郡御目附付御横目見聞之趣茂別紙之通ニ而、追々催促茂有之、各別精勤且功業等ニよつて者、年数被縮候見合茂御座候間、別段を以御郡代直触被仰付候而者、如何程ニ可有御座哉。

御内意之覚

郡浦手永御郡筒ニ而亀崎塩浜御用懸

庄村政右衛門

右者、天保十四年卯九月郡浦手永外廻小頭当分、亀崎新地櫛方引除方御普請御用懸被仰付、同十五年辰十二月、松橋・亀崎・塩屋浦三新地、松山・郡浦両手永請込小頭被仰付、嘉永元年申三月亀崎塩浜之儀、櫛方引除方直御仕入御取起ニ付、右御用懸被仰付、浜頭兼帯被仰付、同二年酉十二月松山新地請込被差免、塩浜御用専ラニ相勤候様被仰付、同六年丑三月亀尾村庄屋代聞被仰付、同年五月右代聞被差免、塩屋浦新地惣請込御取立方兼勤被仰付、同七年寅十一月寸志之訳被对、御郡筒被召抱、万延元年申六月松橋亀崎両新地受込小頭被差免、亀尾村庄屋当分被仰付、同年十二月役方数年出精いたし、塩浜請込ニ付而者、格別精勤いたし候而、烏目を茂被下置、塩浜之儀者、昼夜ニ懸ケ心配有之候処、御用筋存込能、筆算達者ニ仕、塩請払を初、浜子給錢・給米等類々之取扱、人別ニ亘り候而者、余計之手数ニ有之、浜道具御仕継・修覆、其外諸品出入等、日々多端之手数ニ候処、寛急を量り、無間拔様取計、

賄方之儀茂失墜無之様心配いたし、詰合御役人者、追々交代茂有之候得共、政右衛門儀者、必多詰ニ而、先者主ニ成候程ニ而、諸請払等之透々には、濱々打廻り、日々仕入之駈引等、主ニ成厚心配いたし、浜子共を茂相倡、示方行届、且浜内御普請向ニ付而茂、専ラ御出方減等心を用、諸事内外ニ懸ケ、世話筋行届、惣躰手全成人物ニ而、郡浦手永外廻小頭以来二十ヶ年、塩浜請込被仰付候後、当年迄十五ヶ年格別出精相勤、逸稜御用ニ相立候者ニ付、御別段之御参談を以、此節御郡代直触被仰付被下候様、於私共重畳奉願候。右之趣者御惣庄屋より茂、筋々願出候由ニ付、此段宜被成御達可被下候。以上

〔朱書〕  
御吟味後添書扣略

五月

沼川敬内

山野井典次

三五八 孫作

(一〇一丁四)

覚

郡浦手永長濱村頭百姓御牧廻兼勤

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、手全成人物之由。小前々々成立仕立立等厚ク心配いたし、御牧廻之儀茂心懸能打廻、世話筋行届候由。委細本紙書面之通相聞申候。以上

戊五月

田久保一之允圍

御内意之覚

郡浦手永長濱村頭百姓御牧廻兼勤

孫作

当戊六十一歳

右者兼々手全成者ニ而御座候間、文政六年郡浦手永長濱村頭百姓

申付、御牧廻兼勤申付置候処、小前々々成立仕法立等深心を用、御年貢・諸上納御取立向、厚ク心配いたし候ニ付、弘化三年より

去年迄十六ヶ年、御藏納三番迄之内ニ每茂皆済いたし、且又御牧山住御馬改方心掛能、平日打廻、病馬其外春向胤取、懷馬出生等之節、無抜目見繕、精勤仕、於御牧方、一稜為合ニ相成、当年迄両役共四十ヶ年手全ニ出精相勤候ニ付被賞、無苗御惣庄屋直触ニ被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

文久二年三月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

孫作儀、達之通ニ而、頭百姓御牧廻兼勤四十年相成申候処、御牧廻ニ而被賞候。見合相見不申、頭百姓之儀者、五十年以上ニ而、無苗御惣庄屋直触被仰付、見合ニ付未難及僉議御座候処、成立筋深心を用、御取立向厚致心配、十六年御藏納三番迄之内皆済いたし、御牧廻之儀、心懸能、世話筋行届候由。頭百姓一役に而者、年浅ニ御座候得共、両役兼勤各別出精いたし候付、別段を以無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。

三五九 渡並喜助 他

(一〇一丁四)

覚

松山手永渡並喜助列四人、別紙之趣ニ付見聞仕候処、左之通御座候。

苗字御免御惣庄屋直触ニ而馬ノ瀬村庄屋

渡並喜助

右者、役方数十年心懸能出精相勤、極老ニ者未達者有之、馬ノ瀬村之儀零落所ニ而、種々心配茂強候処、一村勤続ニ而勸農相倡、漸々成立之萌相見、近年者御年貢并諸上納等、当季々々無滞相納、諸事世話筋行届、小前々々茂帰服いたし居候由。

御郡代直触ニ而立岡村庄屋

田河内茂左衛門

右者、小頭以来役方多年心懸能出精相勤、受持村方零落所ニ而成立筋等心配いたし、世話筋茂行届候由。

宇土町津横目并町横目兼帯

多三郎

右者、丁頭以来役方多年心懸能出精相勤、町内申談熟和有之、津方取締筋等町内打廻、諸事心を用見聞行届候由。

礼服御免ニ而笠岩村庄屋

傳兵衛

右者、役方多年心懸能出精相勤、笠岩村之儀、零落所ニ候処、同村懸新地御築立ニ相成候後、村方得競候付而者、菜麦根付者別段引上ケ申談、手永一番程ニ而元付宜、夫丈ケ取実相増候由ニ而、漸々勸農ニ基、年々御年貢并諸上納等、速相納、傳兵衛儀、律儀有之、一村勤続ニ而成立筋厚心配いたし、世話筋茂能行届候由。

右之通ニ而、何れ茂勤年数等、委細本紙書面之通相聞申候。以上

戊三月

平井恒右衛門

御内意之覚

松山手永馬ノ瀬村居住御惣庄屋直触ニ而同村  
庄屋

渡並喜助

当戊八十一歳

右喜助儀、文化元年御才覚寸志差出候ニ付、礼服・小脇差・傘御免被仰付、文政五年馬ノ瀬村庄屋当分申付、同七年本役申付、弘化元年役方多年出精いたし、馬ノ瀬村之儀零落ニ付而ハ心配強候処、世話筋行届候旨ニ而、無苗御惣庄屋直触ニ被仰付、安政三年役方多年致出精候旨ニ而、苗字被成御免、当年迄都合四十一年精勤仕候内、文政十二年立岡大堤堀添之筋、村夫召連罷出、其外請込之稜々出精いたし、且又杉嶋新川堀方ニ付而茂致出精候旨ニ而、鳥目老貫文被為拜領候。天保五年松合村度々出火跡家建方之節、厚致心配、救ノ浦并下り松新地築立ニ付而茂、致出精旨ニ而、鳥目老貫文被下置候。同十二年下益城宇土於海辺新地御築立ニ付而、潮留等之節、出夫仕方・土俵運送等無間抜出精仕候旨ニ而、鳥目老貫文被為拜領候。嘉永元年北浦新地御築立之節、明儀類運送船致心配、潮留之節々、夫仕等出精仕候旨ニ而、鳥目老貫文被為拜領候。右喜助儀、為人律儀ニ有之、馬ノ瀬村之儀、高千石程之村方緑川并宇土川潤川尻引包居、強雨洪水之節ハ数日水浸仕、他ト異り余計之井樋数茂有之、右仕替手入等無絶間、其上田一式之片穂所ニ而、粮物等所持仕不申者勝之零落難渋所ニ而、種々心配多御座候処、喜助儀庄屋役申付候後、世話筋行届候ニ付、小前々々孰茂帰服、勸農ニ基、近年ニ至候而ハ、成立之規模相見申候。然処同人儀、先賞より最早七ヶ年ニ相成、殊ニ八十歳余之極老ニ者御座候

得共、一体壮健ニ有之、四十一年之内庄屋当分二ヶ年、本役三十九ヶ年手全ニ出精相勤申候ニ付、年勞旁ニ被對、御郡代直触ニ進席被仰付被下候様。

松山手永曾畑村居住御郡代直触ニ而立岡村庄  
屋

田河内茂左衛門

当戊五十歳

右茂左衛門儀、文政九年松山会所見習ニ呼出、天保四年会所小頭申付、同十一年根拟助役申付、弘化三年根拟本役申付、嘉永六年根拟役者差免、善道寺村并江部村庄屋申付、安政二年二月庄屋役者差免、宇土駒惣代申付、文久元年二月惣代役ハ差免、立岡村庄屋申付、会所見習以来当年迄都合三十七年精勤仕候内、天保五年松合村数度之火災、且救ノ浦并下り松新地御築立ニ付罷出、出精仕候旨ニ而、鳥目四百文被下置候。同九年貧民取救として、鳥目差遣候段、御間届届ニ相成、同十年御巡見様御用出精仕候段、御間御間届ニ相成申候。同十一年松橋并龜崎新地御築立ニ付始末致出精、世話筋行届候旨ニ而、御間預七百目為御心配被下置候。同十二年下益城宇土於海辺新地出来ニ付、塘方請所之稜々始末各別致出精候旨ニ而、鳥目貳貫文被為拜領候。嘉永元年北浦新地御築立ニ付、稜々受持致出精、且卯秋大風跡御普請ニ付而茂、始末出精仕候旨ニ而、鳥目三貫文被為拜領候。同七年鯨・沼山津水理一件ニ付而、走瀆新川等数ヶ所之御普請、主ニ成出精いたし候旨ニ而、鳥目老貫五百文被為拜領候。右茂左衛門儀、為人律儀ニ有之、会所根拟役、在勤中立岡大堤潤色御普請を初、養水道橋等之手入、手永一統ニ亘、手厚致心配、松橋・龜崎新地并北浦新地田作り養水

御仕法立御普請ニ付而茂骨折強ク、其上善道寺村・江部村庄屋役在勤中ニ者、両村共無類零落難澁所ニ而、既ニ可及亡所模様ニ御座候処、同人所付即下難澁之病根探付、種々仕法を立、専勤農方相倡申候ニ付、小前共競立、漸々成立申候間、宇土駅惣代役申付候処、同所之儀茂、近年人馬立多、別而心配強有之候内、立岡村庄屋ニ伝役申付、同村之儀茂、零落所ニ而、成立筋等手厚世話仕居、彼是当年迄都合三十七年之内、会所見習七ケ年、同小頭より根扨迄二十七ケ年、庄屋役四ケ年、宇土駅惣代五年出精相勤候ニ付、年勞旁ニ被对、作紋御上下一具被為拜領被下候様。

松山手永宇土町津横目并町横目兼帯

多三郎

当戊六十八歳

右多三郎儀、文政十二年宇土町丁頭申付、天保九年津横目兼勤申付、弘化四年丁頭者差免、町横目兼勤申付、当年迄都合三十四ケ年精勤仕居申候。同人儀為人堅固ニ有之、丁頭申付候以来、町内諸事申談筋等熟仕、無産業之者等無之様ニ、世話筋能行届、津横目之処ニ而ハ、津方取締別段宜敷、町横目之処ニ而ハ、町内不絶打廻り、見聞筋相届、諸事心を用取締候ニ付、町内茂無事ニ相治り申候儀ニ御座候処、同人儀准五ケ町之者ニ而、下地礼服着用仕候処、亡父茂町役数十年手全ニ相勤居申候間、別段被賞苗字御免被仰付被下候様。

松山手永笠岩村庄屋

傳兵衛

当戊五十一歳

右傳兵衛儀、数代庄屋役勤続候家筋之者ニ御座候処、天保二年亡

父伊藤新藏、笠岩村庄屋役在勤中庄屋代役申付、同三年親跡同村庄屋当分申付、同十一年庄屋本役申付候以来、当年迄三十二ケ年精勤仕居候内、同五年五月松合村度々出火跡家建方之節、厚心配いたし、救ノ浦・下り松新地御築立ニ付而茂、出精いたし候旨ニ而、鳥目七百文被下置候。同十二年十二月下益城宇土於海辺新地潮溜、其後破損等之節々出夫・土俵運送等無間抜心配仕候旨ニ而、鳥目壹貫文被為拜領、弘化元年十月北浦新地出来ニ付、初発より稜々心配仕候旨ニ而、鳥目壹貫文被為拜領、嘉永六年十月役方多年出精相勤候旨ニ而、礼服被成御免、同七年十一月鯨・沼山津水理一件ニ付、所々御普請稜々出精仕候旨ニ而、鳥目七百文被下置候。文久元年九月芦北御買上薪、笠岩村海辺ニ而、致難船候節罷出、薪取上心配仕候旨ニ而、鳥目貳百文被下置候。同年六月去ル巴年以来御藏納各別御取締ニ付而ハ、厚心配いたし、去々未年ニ至候而ハ、惣通いたし候ニ付、支配銭之内より鳥目壹貫五百文賞美取計置申候。傳兵衛儀、惣躰律儀ニ有之、笠岩村之儀、無高同前之者共多ク、従前々極零落所ニ御座候処、同人庄屋申付後、空地開又者潮溜干出畝等、種々作畝増之仕法いたし、水気拔、養水掛・新古井手塘浚等仕せ、成立筋心配仕候内、北浦新地御築立之上畝数三拾壹町余受持申付、作畝相増候ニ付而ハ、愈以勸農相倡、藁麦等者手永一番ニ作り付、村方いつれ茂、添競出精仕候ニ付、漸々零落立直可也之村立ニ成、年々御年貢米千七百俵余、御藏納仕来申候儀、畢竟傳兵衛世話筋行届候故之儀ニ而、勤年数三十二ケ年之内、庄屋代役一ケ年、同当分役七ケ年、本役二十四ケ年手全ニ出精相勤、先賞以来最早十ケ年ニ相成、益精勤仕候間、勤勞旁ニ被对、無苗惣庄屋直触ニ被仰付被下候様。

右之通ニ御座候間、孰茂夫々御賞美被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被成候。以上

文久二年三月

入江次郎太郎

〔朱世〕  
〔喜助事、極老ニ付成六月廿五日達〕

御郡方

御奉行衆中

僉議

喜助儀、達之通ニ而、庄屋一役四十一年之内、苗字御免御惣庄屋直触被仰付候以来七年ニ相成、庄屋役之儀者、惣年数五十年ニおよび不申候而者、御郡代直触ニ者難被仰付見合せニ御座候得共、右之通庄屋一役勤続候者者、五年縮ニ而進席被仰付候例、追々有之、喜助儀者、右之例ニ抛候而茂四年浅御座候得共、最早八十一歳之極老、旁別段を以、御郡代直触被仰付候而者、如何程ニ可有御座哉。茂右衛門儀、見習年数を省キ、小頭以来三十年之内、根扨役十三年、庄屋役前後ニ而四年、馱所惣代六年、寸志ニ因而御郡代直触被仰付候後、五年ニ相成、零落之村方成立筋等、世話方能行届候趣等、委細書面之通ニ付、功業旁を以、鳥目式貫五百文程茂可被下置哉。  
多三郎儀、丁頭以来三十四年之勤ニ付、苗字御免御惣庄屋直触被仰付被下度由、達之通御座候得共、津横目町横目共、下等之役ニ付、右年数ニ而八難及僉議、当年迄をしらべ見合置申候。傳兵衛儀、庄屋一役三十一年相勤候由、書面之通ニ付、見合せ茂御座候間、無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。

三六〇 芥川政<sup>(右カ)</sup>左衛門

(二〇一丁四)

覚

松山手永笠岩村居住御郡代直触芥川茂十郎養子ニ而同会所詰根扨

芥川政<sup>(右カ)</sup>左衛門

右者、別紙之趣ニ付見聞仕候処、小頭当分以来役方数年心懸能相勤、村々新古堤掘浚、其外水氣拔新井手立、道橋等数ヶ所之御普請ニ付而者、初発積方を初、成就ニ至迄、始末罷出、諸事心を用出精いたし、何れ之ヶ所茂能出来仕、上下為合ニ相成候由。勤年数等委細本紙書面之通相聞申候。以上

戊三月

平井恒右衛門

御内意之覚

松山手永笠岩村居住御郡代直触

芥川茂十郎

養子ニ而松山会所詰根扨

芥川政<sup>(右カ)</sup>左衛門

当戊四十四歳

右政<sup>(右カ)</sup>左衛門儀、天保四年十一月松山会所見習ニ呼出、同十一年十一月小頭当分申付、弘化三年三月会所詰助役申付、嘉永三年新開御藏請込兼勤申付、同四年四月会所詰本役申付、同六年会所詰并御藏受込差免、宇土馱所惣代申付、安政二年二月惣代役者差免、松山会所詰根扨助勤申付、同四年十一月根扨本役ニ引直、井樋方上見扨申付、当年迄都合三十ヶ年精勤仕居申候。尤右之内被賞且功蹟之稜々左之通、

一天保九年三月去々申秋非常之凶荒ニ付、同暮より翌夏迄、下地御用繁之折柄各別出精、世話筋行届候ニ付、支配銭之内より御間預式拾目賞美取計置申候。

一同十年御巡見様御通行ニ付出役仕、始末出精相勤候段、御間御間届ニ相成申候。

一同十二年十二月下益城宇土於海辺新地御築立ニ付、諸御用筋無間抜相勤候旨ニ而、鳥目五百文被為拝領候。

一弘化元年十月北浦新地出来ニ付、積方より地割迄始末御普請向、厚心を用、追々之潮留且卯秋大風諸新地破損ニ付而茂、致心配候旨ニ而、鳥目貳貫文被為拝領候。

一安政元年十一月餘・沼山津水理一件ニ付而、走瀉新川数ヶ所之御普請始末致出精候旨ニ而、鳥目七百文被下置候。

一花園新堤壱ヶ所

立岡村

佐野村

掛

此水溜七町三反余

此入目銭八十七貫八百目余

此夫拾五万五千四百人程

但本行御普請之節、根拟助役ニ而、始末罷出、主ニ成心配仕候。

一居屋敷新地壱ヶ所

此畝数五町九反余

此入目銭貳百貳拾貳貫目余

但本行御普請ニ付右同断。

一首入坂道筋百貳拾間

笹原村

此入目銭貳貫百目

網津村

但烈敷峻坂ニ而、従前々人馬通路難涉之ヶ所ニ御座候処、坂道切下ヶ、入目銭八隱徳寸志申談、御普請向引受出来仕候。

一貫穴四拾八間余

笹原村

但此入目銭八貫三百目余

但北浦新地養水七曲堤水道、首入山貫掘通候節、始末罷出、出精仕候。

一目鑑橋二口

宇土町五町目掛

此入目銭拾貳貫貳百目余

一石橋八ヶ所

但笠岩村・笹原村・御領村・高良村掛り

一磧所四ヶ所

但本町両新開村・江部村懸り

一石垣五拾三間余

此入目銭三貫三百目余

但宇土町石之瀬目鑑橋・上手川筋石垣・入目銭之儀、民力強寸志を以、御普請奉願、始末罷出々精仕候。

一新井手間数三千九十間余 上ハ口巷間半より三間迄

但三日村・曾畑村・古保里村・善道寺村・境目村・江部村・

松原村・本町・新町・笹原村・下網津村・笠岩村都合十二ヶ

村ニ而、本行之通水氣抜、新井手立いたし候節、罷出心配仕

候。

右之通御座候処、政左衛門儀、兼々手全ニ諸御用筋出精相勤、根拟役申付候処ニ而ハ、新古堤掘浚水氣抜之井手立を初、道橋磧



所等之便利を付、諸新地御築立ニ付而茂、追々罷出、請持之稜々、御入目錢相減候様、厚心を用、精勤仕、将又宇土駅所惣代役申付置候内ニハ、人馬立等別段世話仕、賃錢受払等、圭角ニ仕、稜々功蹟右之通ニ而、上下為合ニ相成、勤年数三十ヶ年之内、会所見習七ヶ年、同小頭六ヶ年、宇土駅所惣代役三ヶ年、会所根拟役十四ヶ年出精相勤候ニ而、年功旁ニ被对、相应之御賞美被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

文久元年三月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

政右衛門儀、達之通ニ而、見習年数を省キ、小頭以来二十三年之内、会所詰申付ニ相成候後、十七年ニ相成、稜々功業茂有之候由、御郡御目附付御横目聞方茂、別紙之通ニ付、見合せ茂御座候間、鳥目式貫文程茂可被下置哉。

三六一 水口榮喜

(二〇一―四)

覚

郡浦手永下網田村居住地士ニ而病死仕候水口泉九郎養子

水口榮喜

右者、親跡相統別紙之趣ニ付見聞仕候处、乙名敷生立ニ而相交候唱茂相聞不申、手跡武芸等茂致稽古、寸志錢調達之次第等書面之通ニ

而、御赦免開等者所持いたし居不申由承申候。以上

戊戌九月

河口源右衛門四郎

御内意之覚

郡浦手永下地士ニ而致病死水口泉九郎養子

水口榮喜

当戊十五歳

右者、祖父恵助儀、郡浦手永下網田村人数ニ而御座候处、寛政四年津浪之節海辺村々、難渋為取救寸志差出候ニ付、小脇差御免被仰付、同八年洪水ニ而及破損候新開村、潮塘筋御普請御用等ニ、追々寸志差出、享和三年御郡代直触被仰付候。

一文化元年関東筋川々御普請御用并御才覚寸志差上、地士ニ被仰付候。

一同三年龍ノ口御類焼ニ付、寸志錢壹貫目差出候处、追而継目之功ニ可被立下段、御達ニ相成居申候。

一父泉九郎儀、嘉永五年父代寸志之訳ニ被对、地士相統被仰付、前条龍ノ口御類焼ニ付、壹貫目寸志差出置候分ハ、猶追而継目之功ニ被立下候段、御達ニ相成居申候。

一錢壹貫五百目

但當三月民力強寸志差上度、依願被召上、追而継目之功ニ被立下候段、御達ニ相成居申候。尤五歩一上納引残分者、里浦村懸り谷川筋目鑑橋掛方入目等之内ニ被渡下、所柄一廉之為合ニ相成居申候。

一右榮喜儀、劍術山東新十郎・炮術瀬川一郎助・柔術宇土御家中武藤勘四郎門弟ニ而、稽古仕居申候。

右者惣躰手全成者ニ御座候間、寸志之訳ニ被对、御郡代直触ニ被仰

付被下候様、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談  
可被下候。以上

文久二年閏八月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

榮喜儀、達之通ニ而、寸志高地士より一段落之規矩ニ相当申候間、  
御郡代直触可被仰付哉。

〔朱書〕  
〔戊十月廿八日達〕

三六二 芥川彦太

(二〇一丁四)

覚

錢塘手永東走瀉村庄屋并榎梓仕立方見拟役兼  
帶本席地士ニ而病死仕候芥川源之允倅東走瀉  
村居住

芥川彦太

右者、親跡相統、別紙之趣ニ付承繕申候處、淳朴成人物ニ而、年齢  
ニ者功者ニ有之、榎梓仕立方之儀者、本紙之通総而居村之近傍ニ植  
付有之候ニ付、見拟方等者、彦太江直ニ被仰付置候ハ、出精相勤、  
不拟之儀有之間敷由、且行跡ニ付相替唱茂相聞不申、御赦免開等  
者所持いたし居不申由承申候。以上

戊十月

田久保一之允圓

松田小平次◎

御内意之覚

錢塘手永東走瀉村庄屋并榎梓仕立方見拟役兼  
帶本地士ニ而病死仕候芥川源之允倅東走瀉村  
居住

芥川彦太

当戊十五歲

右彦太郎祖父芥川倉之助儀、文政七年十二月東走瀉村庄屋申付、  
同十年九月榎梓仕立方見拟、在勤中御郡代直触被仰付、天保九年  
三月寸志差上候ニ付、御郡代直触本席被仰付、弘化四年十月役方  
数十年心懸能、榎梓仕立方格別出精仕候ニ付、近年御用分茂相整  
候旨被賞、作紋麻上下一具被下置、嘉永二年三月病死仕候父芥川  
源之允儀、同四月東走瀉村庄屋申付、同六月父代寸志之訊被為對、  
父同様御郡代直触被仰付、榎梓仕立方見拟申付、同七年九月寸志  
之訊被為對、地士被召直、兩役十四年出精相勤候處、当八月病死  
仕候。右彦太儀、為人淳朴ニ有之、追而者御用ニ茂可相立人柄ニ相  
見、榎梓之儀者、居屋敷近辺重モニ仕立方仕、初而祖父倉之助江  
見拟役申付候以來、倡方行届、御用分相整、御賞美被仰付候段ニ  
相成、彦太祖父以來請持仕立置候儀ニ御座候得者、外ニ見拟役等  
申付候而茂、繁茂何程ニ可有之哉、依之祖父倉之助以來榎梓仕立  
方出精仕候功績、且又庄屋役勤勞旁ニ付、父跡相応ニ被召出、猶  
父祖同様榎梓仕立方見拟申付度御座候間、在勤中御郡代直触被仰  
付被下候様有御座度、於私奉願候。願之通被仰付被下候ハ、此  
砌一入榎梓仕立方倡出精仕、御為合ニ茂可相成奉存候。此段御内  
意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

文久二年九月

岩崎物部

御郡方

御奉行衆中

僉議

彦太儀、達之通ニ付、寸志地土之跡目、究之通無苗ニ而御惣庄屋直触被仰付、榎樟見抄被申付度由ニ付、在勤中御郡代直触可被仰付哉。

(朱書)  
〔戊十月十三日運〕

三六三 竹下次郎作

(二〇一―四)

覚

松山手永城神山村居住一領一疋ニ而病死仕候  
竹下惠吉一男

竹下次郎作

右者親跡相統、別紙之趣ニ付承繕申候処、壮健成人物之由、武芸数々稽古いたし、当時馬場村庄屋役相勤、世話筋能行届候由。亡父惠吉勤年数等、本紙之通ニ而、御赦免開等者所持いたし居不申由。次郎作行跡等相替唱茂相聞不申候。以上

戊十月

田久保一之允圖

松田小平次㊦

御内意之覚

松山手永城神山村居住一領一疋ニ而致病死候  
竹下惠吉一男

竹下次郎作

当戊五十一歳

右次郎作亡父竹下惠吉儀、寛政元年松山会所見習ニ罷出、同六年小頭役申付、文化九年馬場村庄屋兼帯申付、文政二年下代役申付、馬場村庄屋者差免、同四年下代役者差免、新町庄屋役申付、其後追々所替申付、会所見習以來都合六十八ヶ年出精相勤申候内、文化六年役方多年手全ニ出精相勤候旨ニ而、礼服・小脇差御免被仰付候。文政十二年役方数年致出精、立岡堤堀添之節、御役人ニ馬替等、各別心配仕候旨ニ而、無苗御惣庄屋直触ニ被仰付候。天保五年役方数十年心掛能出精仕候旨ニ而、苗字御免被仰付候。天保十一年七月会所見習以來、役方五十年余心掛能出精候旨ニ而、御郡代直触ニ被仰付候。弘化四年十月会所見習以來五十年余心懸能、手全ニ相勤、諸事世話筋行届、一体心得方宜敷有之候旨ニ而、地土ニ被仰付候。安政三年十一月会所見習以來六十年余出精仕候旨ニ而、一領一疋ニ被仰付候。右之外所々御普請向等出精いたし候ニ付、追々鳥目等被為拜領候処、惠吉儀当七月病死仕候。同人儀御赦免開并建山等所持不仕候。悴竹下惠一郎儀、病身ニ罷成候間、二男竹下次郎作江苗跡相統奉願候処、文久元年九月御免達被仰付候。同人儀剣術宇土御家中高月五兵衛・槍術磯野貞二郎門弟ニ而稽古仕、兼々手全成人物ニ而、筆算等茂相応ニ有之、萬延元年馬場村庄屋申付、当年迄三ヶ年精勤仕、村方一鉢之世話筋行届、請取立向茂圭角ニ受払仕候間、於小前茂婦腹仕居申候。然処父竹下惠吉儀、会所見習以來六十八ヶ年精勤仕候ニ付、一領一疋ニ被仰付、父子勤年数七十一ヶ年ニ及、殊ニ次郎作儀、往々御用ニ相立可申人柄ニ御座候間、親跡一領一疋ニ被召出被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

文久二年九月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

次郎作儀、達之通ニ而父竹下惠吉儀、会所見習以來七十四年、一領一疋より七年之勤ニ而相果申候。見合茂御座候間、父同様一領一疋可被召出哉。

(朱書)  
[戊十月十三日達]

例

坂下手永

上原九郎兵衛

安政三年八月

右者祖父上原太兵衛、七十二年一領一疋より三年之勤ニ而相果、跡目祖父同様一領一疋被召出候事。

三六四 江上養節、玄俊

(二〇一―一四)

覚

郡浦手永戸口浦村居住御郡医師並

江上養節

同手永戸口浦村居住無苗御惣庄屋直触医師

玄俊

右者、別紙之趣ニ付承繕申候處、何れ茂家業心懸能、出精いたし、貧福之無差別、手厚療治方いたし候由ニ付、所柄逸稜之為合ニ相

成候由、委細本紙書面之通相聞申候。以上

戊五月

田久保一之允印

御内意之覚

郡浦手永戸口浦居住御郡医師並

江上養節

当戊四十九歳

右者、天保七年御郡代直触被仰付、嘉永四年家業心掛能致出精候旨ニ而、御郡医師並ニ被仰付、当年迄十二ヶ年ニ相成候處、家業益心掛厚、所柄月々府法会無懈怠出席仕、療治懸之村々、都合五ヶ村・竈数四百軒余、其外臨時ニ療治方等手広ク、海辺山路險阻之ケ所々々尻軽打廻り、難渋之小前々々ハ、薬札等茂夫々届兼、施薬同前之療治向多ク御座候得共、惣躰手厚人柄ニ而、貧福之無差別懇ニ療治仕、一廉之為合ニ相成申候間被賞、御目見医師ニ被仰付被下候様。

同手永戸口浦村居住無苗御惣庄屋直触医師

玄俊

当戊六十一歳

右者、文政四年宇土御家中中山桂俊門弟ニ罷成、稽古仕、同十一年変業奉願鍼療習熟仕候ニ付、弘化元年無苗御惣庄屋直触ニ被仰付、当年迄十九ヶ年ニ相成申候處、当時宇土町江滞留仕居、同御家中其外町在ニ懸、貧福之無差別、手広療治方心掛厚出精仕候ニ付、所柄逸廉為合ニ相成申候間被賞、御郡代直触ニ進席被仰付被下候様。

右之通ニ御座候間、孰茂夫々御賞美被仰付被下候様有御座度、於私共奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

文久二年三月

入江次郎太郎

覚

御郡方

御奉行衆中

僉議

養節儀、達之通ニ付医業吟味役江問合申候処、治療習熟、学業篤志之段達有之、再春館御目附見聞之趣茂同様之由達有之、科目丙科ニ相当申候。御郡御目附付御横目見聞之趣茂、家業心懸能致出精、貧福之無差別、療治方手厚いたし候由ニ而、所柄之為ニ相成候由。夫々別紙之通ニ而、御郡医師並被仰付候以来十二年ニ相成見合茂御座候間、御目見醫師可被仰付哉。

僉議

玄俊儀、達之通ニ付医業吟味役江問合申候処、治療習熟、学業篤志之段達有之、再春館御目附見聞之趣茂同様ニ有之、科目丙科ニ相当申候。御郡御目附付御横目見聞之趣茂、貧福之無差別、手厚療治いたし、所柄為ニ相成候由。夫々別紙之通ニ而、無苗御惣庄屋直触被仰付候以来十九年ニ相成、見合茂御座候間、苗字御免御惣庄屋直触可被仰付哉。

(朱書)  
 [玄俊事、戊十一月廿五日達  
 録科病案三案、一法破的、一法可、一法大可]

(文久三年)

三六五 錢塘手永海辺ニ而築立被仰付候新地御用懸之面々

(一〇一—一五)

錢塘手永海辺ニ而築立被仰付候新地御用懸之面々、木倉手永御惣庄屋光永平蔵列百四人、御賞美申立別紙之趣ニ付、承繕申候処、左之通、

一桜御紋御小袖 錢塘手永御惣庄屋独礼 齊藤嘉兵衛

一作紋麻上下一具完 田迎手永御惣庄屋 近野門左衛門

本庄手永右同 横手々永御惣庄屋ニ而當時無役 古閑忠右衛門

一金子五百疋 衛藤三郎左衛門

正御郡代手付横目当分兼帯 錢塘手永地士ニ而井樋方助役、在勤中一領卷

一金壹兩完 洪谷甚之助

池田手永御惣庄屋独礼 河瀬安兵衛

郡浦手永右同 郡浦彦左衛門

五町手永右同 佐藤久助

錢塘手永地士ニ而唐物拔荷改方御横目、在勤

中諸役人段、御郡代手付横目兼帯 小山郡兵衛

右同 甲斐源八

右同手永塘方助役在勤中一領卷疋 中村儀三右衛門

右同地士小山元右衛門悴ニ而根扨、此節新地

出来後見扨兼帯

一金子三百疋完 木倉手永独礼御惣庄屋 小山壽八郎

光永平蔵

沼山津手永右同

光永四兵衛

中山手永右同

藤井五郎助

独礼ニ而矢部手永御惣庄屋相勤當時無役

布田保之助

田迎手永諸役人段ニ而唐物拔荷改方御横目、

御郡代手付横目兼帯

除野金三郎

右同御郡代直触ニ而右同

竹田小左衛門

本庄手永塘方助役在勤中一領壹疋

石原茂右衛門

横手々永地土ニ而右同

嶋田権左衛門

錢塘手永紙楮見拟在勤中御郡代直触ニ而同所

下代

荒木九左衛門

河江手永御惣庄屋歩御小姓列

内田壽太郎

甲佐手永御惣庄屋

井上甚之助

松山手永右同

小田貞之允

鯨手永右同

三村傳之助

砥用手永右同

梅田源作

杉嶋手永右同

小山三右衛門

廻江手永右同

石坂禎之助

横手々永右同

衛藤権蔵

錢塘手永地土永井甚次郎悴ニ而杉嶋手永唐物

拔荷改方御横目在勤中諸役人段下益城御郡代

手付横目兼帯

永井八左衛門

田迎手永歩御使番列ニ而塘方助役

山田七左衛門

横手々永御郡代直触ニ而同会所下代

内藤次郎右衛門

右同櫓楮見拟在勤中御郡代直触ニ而同所根拟

吉津和右衛門

本庄手永安巳橋見拟在勤中御郡代直触ニ而同

所根拟

本田忠次郎

田迎手永御出御用御案内受持在勤中地土ニ而

同所根拟

三原彦兵衛

錢塘手永右同增人ニ而同会所託

馬場俊助

右同御郡代直触ニ而右同 林田耕之助

右同一領壹疋去々春迄横手々永御惣庄屋当分

勤當時無役

久我為右衛門

本庄手永御郡代直触ニ而同所根拟

甲斐仁左衛門

郡浦手永唐物拔荷改方御横目在勤中諸役人段

宇土御郡代手付横目兼帯

積三左衛門

右三左衛門弟ニ而御牧見拟在勤中地土

積新左衛門

錢塘手永御郡医師並中沖村居住

庄野仁壽

一金子貳百疋完

一金子百疋完

錢塘手永御郡代直触醫師錢塘村居住

土井玄達

飽田・託摩御郡代付物書

内藤栄八

御普請中右同當時御郡代付御横目

西弥一郎

錢塘手永地士三而河口出村庄屋

中村祐之允

郡浦手永地士釜賀廣次養子長濱村庄屋代役

釜賀長藏

五町手永地士三而同会所詰境甚之助

池田手永御郡筒三而俵物方受込在勤中御郡代

直触梅洞村庄屋

上野善兵衛

横手々永御郡代直触三而同会所詰

藤本伊左衛門

本庄手永御出御用御案内受持在勤中地士三而

同会所詰

今村安左衛門

田迎手永江津御建川見拟在勤中御郡代直触同

会所詰当分

下山九左衛門

錢塘手永御郡代直触三而病死仕候中村金右衛

門養子同会所詰小頭

中村鉄之助

右同御出御用御案内受持在勤中地士河都正作  
養子

河部統次

右同御郡代直触

白石保右衛門

右同

右同醫師土井玄達育

小山太郎右衛門

右同御出御用御案内受持在勤中地士同会所手

土井淳伯

代

右同地士三而水理見拟在勤中一領卷疋

白石平四郎

郡浦手永御郡筒三而赤瀬村庄屋

荒木繁兵衛

右同御郡代直触三而大田尾村右同

河部三郎次

五町手永右同三而近沢村右同

松川順左衛門

右同三而同所根拟

御山支配役内田權之助弟三而五町根拟

永井半九郎

池田手永御郡筒三而小頭

右同三而水夫小頭在勤中御郡代直触下松尾村

庄屋

出田為助

白木万次郎

小山元右衛門

一鳥目三貫五百文

錢塘手永御郡筒ニ而同所根拟

右同諸役人段甲斐源八養子惟重ニ丁村右同

保田直左衛門

甲斐貞次

一同式貫五百文完

右同ニ而小頭

久我喜左衛門

右同地士ニ而北沖下懸右同 渋谷多三郎

右同

小山政右衛門

右同御郡代直触植村庄作ニ男同所小頭

右同手永小頭

直吉

植村龜次郎

一鳥目式貫文完

錢塘手永御郡筒

龍野清次郎

右同地士ニ而同会所詰

荒木又兵衛

田迎手永根拟

半八

右同諸役人段甲斐源八孫ニ而同所小頭

五町手永塩屋村庄屋

丈八

甲斐龜喜

一同老貫五百文完

本庄手永小頭

八左衛門

右同小山郡兵衛倅ニ而右同 小山雄次

錢塘手永右同

卯助

錢塘手永御郡代直触ニ而同所小頭

横手々永仮小頭

貞八

永井榮右衛門

錢塘手永新地仮小頭

藤助

右同御郡筒ニ而右同

白石平右衛門

一同老貫文完

右同御郡筒

小山伝左衛門

右同御惣庄屋直触ニ而右同 内田甚右衛門

横手々永小頭

恒助

右同一領老疋芥川伸次郎倅ニ而右同

錢塘手永小頭

恒次郎

右同田上順助三男ニ而右同 田上準太

右同并樋方小頭

仙左衛門

右同田上順助三男ニ而右同 田上準太

錢塘手永榎楮見拟在勤中御郡代直触ニテ錢塘

荒木半次郎

本庄手永地士守田久兵衛弟ニ而御出御用御案

一同七百文完

内田庄次

内受持在勤中地士

右同一領老疋大賀純右衛門倅ニ而同所小頭

守田格助

村庄屋

内田庄次

右同手永小頭

柳右衛門

一鳥目五百文完

右同御郡筒ニ而上中沖村右同

大賀多喜藏

右同地士ニ而北沖上懸右同

一酒式斗千肴一折完

右同手永小頭

田迎手永右同

右同地士ニ而北沖上懸右同

十左衛門

右同手永小頭

十左衛門

右同地士ニ而北沖上懸右同

十左衛門

右同手永小頭

十左衛門

右同地士ニ而北沖上懸右同

十左衛門

右同手永小頭

十左衛門

右同地士ニ而北沖上懸右同

十左衛門

右同手永小頭

十左衛門

右同地士ニ而北沖上懸右同

十左衛門

右同手永小頭

十左衛門

右同地士ニ而北沖上懸右同

十左衛門

右同手永小頭

十左衛門

右同地士ニ而北沖上懸右同

十左衛門

右同手永小頭

十左衛門

右同地士ニ而北沖上懸右同

十左衛門

右同手永小頭

十左衛門

右同地士ニ而北沖上懸右同

十左衛門

右同手永小頭

十左衛門



錢塘・横手・本庄・田迎 庄屋共

四拾貫七百九拾三匁五分四厘 錢塘会所夫錢より御出方

畝數合式拾八町三反六步

御入目錢三百七拾貫九百拾七匁七分六厘

夫五千百六拾八人

錢塘手永より召仕候分

右之通ニ而一昨冬築立被仰付候処、諸方之新地込合候折柄、去春潮留相濟、直ニ田根付いたし候ニ付、米六拾俵余茂出来いたし候由ニ而、即年收納ニ至太略一ヶ年程ニ而卒業ニ及候儀者、先易容易ニ見合茂有之間敷、連なる成功ニ而、畢竟役々之申談一致いたし、世話筋能行届候処より之儀と相聞、別而齊藤嘉兵衛儀者根手永之上、他所催合付而者不謂心配茂多為有之由ニ而、役之受前之厚薄ニよつて御賞美之段等、稜々之通に而相当可任由、委細者申立之通承申候。以上

戊五月

者催合築立奉願、一昨冬より築立取懸、去秋迄ニ卒業ニ相成申候。畝數・御入目錢等右之通ニ御座候。右ニ付御用懸被召仕候面々、左之通、

河口源右衛門

一金子三百疋完

木倉独礼御惣庄屋病死

光永平蔵

御内意之覚

横手・本庄・田迎

沼山津右同

光永四兵衛

一田畑九畝七反六畝三歩

鯨油代償備新地

中山右同

藤井五郎助

此御入目錢百貳拾七貫九百貳拾四匁八分貳厘

独礼ニ而矢部御惣庄屋相勤當時無役

嶋一葦と改

但右三手永会所官錢より御出方

一金子貳百疋完

河江歩御小姓列御惣庄屋

内田壽太郎

錢塘

甲佐右同

井上甚之助

一同拾八町五反四畝三歩

緑川水理御普請費地打替新地

松山御惣庄屋

小田貞之允

此御入目錢貳百四拾貳貫九百九拾貳匁九分四厘

鯨右同

三村傳之助

七拾貫貳百貳拾九匁七分

横手・錢塘・本庄・田迎

砥用右同

梅田源作

四手永より寸志夫錢差出

杉嶋右同

小山三右衛門

候分

(廻江右同カ)

石坂楨之助

百三拾壹貫九百六拾九匁七分

水理懸十八手永之内右四

右者、水理費地打替之新地築立御入目錢之内、去春、下方困窮之

手永引残十四手永分、右

折柄、余計之寸志夫錢差出心配仕候ニ付、いつれ茂被賞、右之通

同断

被下置候様。

一金巻両完

池田独礼御惣庄屋

河瀬安兵衛

郡浦御惣庄屋

郡浦彦左衛門

五町右同

佐藤久助

右同断ニ付、余計之寸志夫錢差出、且五町・池田・郡浦海辺より

大小石取出ニ相成候ニ付而者、折節郡浦手永網田ニ者内膳殿、五町

手永白濱ニ者佐渡殿、玉名横島ニ者將監殿、新地築立中ニ而三ヶ所

とも三石場近、錢塘海辺之儀者南北とも三三五里を隔、風波且遠

方旁兎角ニ、石船乏敷、己ニ一旦者取止ニ可相成程之儀ニ御座候処、

右安兵衛列之面々、舟代且石代前錢渡等種々倡立、格別心配仕候

処、右三ヶ所之新地より茂返而早目ニ卒業ニ相成、是よりして、去

七月・八月之大風ニも新地無程ニ相凌候儀ニ御座候間被賞、右之

通被下置候様。

一桜御紋御小袖

齊藤嘉兵衛

右同断ニ付而者主ニ相成、嘉永二年より上益城水理取興ニ付而者、

錢塘手永内大慈寺前畝物畑、且走瀉本地新川立等之費地ニ相成、

多分之地方失候者共、打替丈之新地床見立、初より心配仕、去々

冬より築立取懸、去秋迄ニ卒業迄之間、始末詰切諸品請取、賃錢

渡・地割・井手立一切引請、格別出精相勤申候。其砌南北ニ新地

出来ニ付而者、石船乏敷一応者不得止取置ニ而も可仕程ニ御座候処、

種々心配仕、同役并御用懸之役人ニいたり候まで申談等、彼是行

届候処より、いさ、か之手戻も無之、速ニ出来仕、即年より田作

試もいたし候儀者、是迄見合も無之程ニ而、追々風波も無申分丈

夫ニ相凌候ニ付、格別被賞、右之通被下置候様。

一作紋麻上下一具完

横手御惣庄屋

衛藤三郎左衛門

田迎右同

近野門左衛門

本庄右同

古閑忠右衛門

右同断ニ付、三手永之儀者鯨油新地之訳茂有之、別段寸志夫錢も

多分ニ割取、余計之潮留明俵繩・猫伏持出・土俵詰之夫方をも数

日之間差出、御普請中代ル〱御普請小屋ニ相詰、別而潮留前後者

必多詰仕、御用懸之役人共申談、相根ニ成無手抜心配いたし候ニ

付被賞、右之通被下置候様。

地士ニ而唐物拔荷改方御横目在勤中諸役人段

御郡代手附横目兼帯

一金巻両完

小山郡兵衛

右同

甲斐源八

諸役人段ニ而唐物拔荷改方御横目御郡代手附

横目兼帯

一金子三百疋完

除野金三郎

御郡代直触ニ而唐物拔荷改方御横目在勤中諸

役人段御郡代手附横目兼帯

竹田小左衛門

右者、新地築立中御錢請弘立会、請負小屋取扱筋を茂役々示し合

候処より、御普請中無類之者、足を留不申不慮之災難を請候者も

無之、詰方之役人等遊惰之風ニ染候候者茂無之、嚴重之取扱ニも

相成候故之儀ニ而、別而郡兵衛・源八者新地築端之積方より始末差

入り出精仕候間、一列之内一等級被進、右之通被下置候様。

地士ニ而井樋方助役在勤中一領一疋御郡代手

附横目当分兼帯

一金子五百疋

渋谷甚之助

右同塘方助役在勤中一領一疋

一同卷両

中村儀三右衛門

右者、新地積立より卒業迄御普請中、詰切大小石之請取方、諸品請払丁場々々出来之見積次第、賃錢渡方等一切根ニ成心配仕、別而南北石場之儀、新地築立も取興ニ相成居、石船乏敷有之候ニ付、向々船代拝借、敷錢拝借之儀も願出、且參申候儀、茂商人手元ニ而研究いたし、斟酌を以取極頻々石場々々江茂渡海いたし、御損失ニ不相成様心配仕、別而甚之助儀者井樋居方手配筋も行届、聊手戻之儀も無之始末仕、手方之場を兼出来目録仕方ニ付而も根ニ成、出精仕候間、一等被進、右之通被下置候様。

地士永井甚次郎伴ニ而杉嶋手永唐物拔荷改方御横目在勤中諸役人段下益城御郡代手附横目兼帯

一金子貳百疋

永井八左衛門

右者、渋谷甚之助一列ニ而、別而積方之初段より出精仕居候処、去正月転役被仰付候ニ付、右之通被下置候様。

去々春迄横手御惣庄屋当分相勤当時御役御免錢塘一領一疋

一金子百疋

久我為右衛門

右者、築立取懸候初際目立より、諸事申談筋迄者根ニ成心配仕候ニ付、右之通被下置候様。

本庄塘方助役在勤中一領一疋

一金子三百疋完

石原茂右衛門

地士ニ而横手右同

嶋田権左衛門

歩御使番同列ニ而田迎塘方助役

一金子貳百疋

山田七左衛門

右者、新地塘筋三丁場之分、右之者共請持丁場々々出来之仮積より、賃錢過渡ニ相成不申様心配仕、聊御損失等之稜目茂無之、去春粮物高値之時分、日雇共取統兼候ニ付而者不謂心配茂為有之由ニ候間被賞、右之通被下置候様。尤、山田七左衛門儀者、去四月以後之御用懸りニ付、右之通被下置候様。

(朱書)  
二島目三五百文完

御郡代直触ニ而横手下代

一金子貳百疋完

内藤次郎右衛門

樋楮見抄在勤中御郡代直触ニ而同所根抄

吉津和右衛門

安已橋見抄在勤中御郡代直触ニ而本庄根抄

本田忠次郎

御出御用案内請持増人在勤中地士ニ而田

迎根抄

(朱書)  
二銀子八匁

一金子百疋

御郡代直触ニ而本庄根抄 甲斐仁左衛門

三原彦兵衛

一鳥目貳貫文

田迎根抄

半八

一同貳貫五百文完

錢塘小頭御郡簡

久我喜左衛門

同所右同

小山政右衛門

同所小頭

直吉

一同卷貫五百文

本庄右同

八左衛門

右同断ニ而、石原茂右衛門列手ニ而、いづれも茂右衛門列同様出精いたし、且内藤次郎右衛門以下半八迄六人者、明俵繩持出土俵詰ニ、付而も格別心配いたし、久我喜左衛門より直吉迄三人者、始末詰切根ニ成相勤、甲斐仁左衛門・八左衛門者前後引代り相勤申候間、右之通被下置候様。

郡浦手永唐物拔荷改方御横目在勤中諸役人段  
宇土御郡代手附横目兼帶

一金子百疋完

積 三左衛門

右三左衛門弟ニ而御牧見拟在勤中地士

積 新左衛門

右者、御郡石場大小石取出心配仕候ニ付、右之通被下置候様。

錢塘手永御郡医師並中沖村居住

一金子百疋完

庄野仁壽

同所御郡代直触医師錢塘村居住

土井玄達

一銀三両

右玄達育

土井淳泊

右者、御普請始中終之内、潮留前後繁雜之砌者、日之出方仕数百人ニ及療治仕、其余ハ代リ合出方仕出精仕候間、右之通被下置候様。

横手御惣庄屋衛藤三郎左衛門代役御免之養子

一金子貳百疋

衛藤權藏

右者、御普請中類々罷出、潮留前者明俵類受取方、且土俵詰迄引  
請心配仕候間、右之通被下置候様。

一金子百疋完

飽田・託摩附物書

内藤栄八

(朱書)  
一鳥目壹貫七百疋

御普請中右同當時御郡代付御横目

西弥一郎

右者、追々出在仕、諸願筋等逸稔新地方之御弁利ニ相成候ニ付、  
右之通被下置候様。

(朱書)  
一鳥目七貫文

地士小山元右衛門倅ニ而錢塘根拟此節新地出

一金壹両

来後見拟役兼帶

小山壽八郎

一鳥目三貫五百文

御郡簡ニ而錢塘根拟

保田直左衛門

右者、御普請筋一切根方ニ而、渋谷甚之助列同様諸事根ニ成相勤、  
別而潮留後引続田作、井手立見込筋研究いたし、田根付・養水懸  
之試茂相濟、纔なから去年新米収納いたし候段ニ相成、道橋井手  
堀方共農隙中ニ相調、石井樋・板井樋居方ニ付而も、別段心配仕  
候間、右之通被下置候様。

(朱書)  
一鳥目五貫文

錢塘下代ニ而紙楮見拟在勤中御郡代直触

一金子三百疋

荒木九左衛門

(朱書)  
一銀三八両

同所会所詰ニ而御出御用御案内請持増人在勤

一銀三両

中地士

一同貳百疋

馬場俊助

一鳥目七百疋

錢塘小頭

恒次郎

一同壹貫五百文完

右同

卯助

横手仮小頭

貞八

右者、諸品請払并御普請小屋根方ニ而、日々臨時之請払・賄方之世  
話筋ともニ一切引請、別而荒木九左衛門儀者新地ニ割遣も引請、根  
ニ成出精仕候間、右之通被下置候様。

(朱書)  
一鳥目三貫五百文

御郡代直触ニ而錢塘会所詰

一金子貳百疋

林田耕之助

一銀五兩完

右同横手会所詰

(朱書)  
一鳥目貳貫文

藤本伊左衛門

御出御用御案内請持在勤中地士、本庄会所詰

(朱書)  
一銀子五兩

今村安右衛門

江津御建川見拟在勤中御郡代直触田迎会所詰  
当分

〔朱書〕  
〔一鳥目式貫文完〕

下山九左衛門

御郡代直触ニ而病死仕候中村金右衛門養子銭  
塘会所詰小頭

中村鉄之助

御郡代直触ニ而御出御用御案内請持在勤中地  
士河部正作養子

河部續次

右者、御銀請払圭角ニ取扱、算用向無滞、別而林田耕之助儀者、石  
場々々前銭・般代前銭渡置、石代より引立之儀厚心配いたし、根  
ニ成勤申候間、右之通被下置候様。

一銀五兩完

〔朱書〕  
〔一鳥目式貫文完〕

錢塘御郡代直触

白石保右衛門

右同

小山太郎右衛門

一鳥目式貫文完

同所御郡筒

龍野清次郎

右者、南北石場ニ相詰、船代前銭渡置候者とも、手元拔石物方等  
種々心配仕候間、右通被下置候様。

御郡代直触ニ而御出御用御案内請持在勤中地

士錢塘手代

一銀三兩完

〔朱書〕  
〔一鳥目式貫文完〕

右同

河野三郎次

〔朱書〕  
〔一鳥目式貫文完〕

御郡代直触

荒木繁兵衛

地士ニ而水理見拟在勤中一領一疋

〔朱書〕  
〔一金子百疋〕

小山忠之允

右、平四郎・三郎次・繁兵衛儀者、御入目銭集方ニ付心配いたし、

一鳥目式貫文

五町塩屋村庄屋

丈八

忠之允儀者潮留明儀請取方根ニ成出精仕候間、右之通被下置候様。  
〔朱書〕  
〔一銀子五兩〕  
地士ニ而河口出村庄屋

一金子百疋

中村啓之允

右者、当新地相境之庄屋ニ而、臨時之御用始末出精御弁利ニ相成候  
間、右之通被下置候様。

〔朱書〕  
〔一銀子五兩完〕

郡浦地士釜賀廣次養子長濱村庄代

一金子百疋完

釜賀長藏

〔朱書〕  
〔一鳥目式貫文七十五拾文〕

地士ニ而五町会所詰 境 甚之助

池田御郡筒ニ而俵物方詰込在勤中、御郡代直  
触梅洞村庄屋

上野善兵衛

郡浦御郡筒ニ而赤瀬村庄屋

一銀三兩

松川順左衛門

〔朱書〕  
〔一鳥目式貫文完〕

同所御郡代直触ニ而太田尾村庄右同

〔朱書〕  
〔一鳥目式貫文完〕

御郡代直触ニ而近津村庄右同 杉浦平右衛門

右同五町根拟

上村為助

御山支配役内田権之助弟ニ而五町根拟

永井半九郎

池田御郡筒ニ而小頭 出田為助

同所御郡筒ニ而水夫小頭在勤中御郡代直触下

松尾村庄屋

内田桂右衛門

白木万次郎

白木万次郎

丈八

五町塩屋村庄屋

丈八

右者、石場々々大小石取出之世話筋、前錢且船代錢前渡等之儀、  
厚心配仕候間、右之通被下置候様。

一鳥目老貫文完

錢塘御郡筒

小山伝左衛門

小山幸次郎

馬場甚左衛門

小山平左衛門

右者、潮留前後日雇共大勢相集候節、請負小屋為見被差出、昼  
夜兩人完小屋々々打廻、及乱酒候歎深更迄寝鎮り不申、小屋々々  
者及吟味無頼之者、且々払出出精仕候間、右之通被下置候様。

一鳥目七百元

錢塘井樋方小頭

仙左衛門

右者、井樋・底樋居方之節、追々罷出心配仕候間、右之通被下置  
候様。

一同五百文完

御郡筒ニ而上中沖村右同

内田庄次

地士ニ而北沖上懸右同

小山元右衛門

諸役人段甲斐源八養子惟重村・二丁村右同

甲斐貞次

地士ニ而北沖下懸庄屋

渋谷多三郎

御郡代直触植村庄作二男錢塘小頭

植村龜太郎

地士ニ而同所会所詰

荒木又兵衛

〔朱書〕  
一鳥目五百文完

諸役人段甲斐源八孫ニ而同所小頭

甲斐龜喜

右同小山郡兵衛倅ニ而右同

小山雄次

御郡代直触ニ而右同

永井榮右衛門

御郡筒ニ而右同

白石平右衛門

御惣庄屋直触ニ而右同

内田甚右衛門

一領一疋芥川伸次郎倅右同

芥川茂熊

右同田上順助三男右同

田上隼太

本庄地士ニ而守田久兵衛弟御出御用御案内請

持在勤中地士

守田格助

一領一疋大賀純右衛門倅同所小頭

大賀多喜藏

本庄小頭

柳右衛門

田迎右同

十左衛門

右者、追々臨時之御用ニ罷出、小頭恒助儀者格別出精相勤申候間、

右之通被下置候様。

一鳥目老貫五百文

新地板小頭

藤助

右者、新地御普請中惣丁場ニわたり、心配仕、請負ニ付而者彼是御為合ニ相成候間、右之通被下置候様。

一酒式斗 干倉一折完

錢塘・横手・本庄・田迎 庄屋共

右者、潮留入用之明俵類持出、且土俵詰、潮留当日之土俵築方ニ付心配仕候間、右之通被下置候様。

右之通出精之厚薄見計、御賞美奉願候間、両新地出来之功業、御取詰被賞被下候様奉願候。右御普請之儀、諸事順路ニ成就いたし、一事之跡戻も無之候得者、別段御出方ニ至不申、畢竟、役々一致ニ申談出精仕候処より之儀ニ御座候。此談者格別御賞美被仰付、前段之通被為拝領被下候様。併、手永開纒三拾町ニ不足仕候。新

地立御賞美願ニ者不当ニも可有之候得共、水理費地打ち替分之儀者、徳米納ニ至会所備被仰付候ニ而茂無之、水理ニ付、走湯新川堀通御普請等ニ上納仕候筈ニ而、追而者百石余之徳米者相納可申、右丈者年々御出方被仰付来候内、減方ニ可相成、左候得者外々手永開トハ意味合茂相異、御間より御築立被仰付候新地も同前と奉存候間、右ニ付御難題も不奉願築立候、旁御別段を以、右之通御賞美被仰付被下候様奉願候。水理御普請ニ付地方を失居候者共五竈者、此

節右新地ニ引出再御百姓ニ成立可申、是以外々手永新地同様之訳トハ相替可申哉。彼是宜被仰付可被下候。且又水理懸十八手永ニおいてハ、去春困窮之折柄別段之心配を以、寸志夫賃錢茂無恙差出、築立候時節柄ニ者、速ニ成就仕、畢竟、御惣庄屋共一致ニ申談候処より、手永々々之自力ニ而者、大業之新地一時ニ相調、御出方筋之一助ニ茂相成候段者、格別之儀と奉存候間、水理懸御惣庄屋共御賞美筋共前条之通、夫々宜被仰付被下候様有御座度、於私奉

願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

文久二年三月

岩崎物部

御郡方

御奉行衆中

僉議

諸手永御惣庄屋以下、錢塘手永海辺ニ而新地築立被仰付候御用懸之面々、被賞之儀達之通ニ而、拝領方之員数等申立之趣、追々之見合ニ格別不当之儀ニ茂相見不申候。尤一領一疋以上者金子、地土者銀子、御郡代直触以下者鳥目被下置候究ニ付、右之取分朱書之通ニ付、夫々達之通可被下置哉。

(朱書)

〔右僉議之通 文久三年表  
正月十九日申渡旨達〕

三六六 小田貞之允 他

(二〇一―一五)

覚

松山手永御惣庄屋并御代官兼帯

小田貞之允

右者、別紙申立之趣ニ付承繕申候処、数々之御役四十年余、各別心懸厚、出精いたし候由。惣牀温順成人物ニ而、手際立等いたし候氣向一切無之、当御役付而者、会所取扱、官錢取扱等圭角ニ取計、庄屋役人等江之示方行届候由ニ而、於種山者類稀成、御賞美を茂被仰付、松山ニ而者、内田寿太郎以来、官錢改革手残等筋合相立候様取計、近年大御普請打続、古方之堤・川井手浚・道橋手入届兼居候ヶ所々々、御普請いたし、御年貢米手入ニ付而、村々入込、軒別打廻入念せ候ニ付、御藏納通方宜、既ニ去戌年者五朱四厘余

之刻儀ニ而、速ニ相濟候由。且又御取立之儀、前々より之因循ニ而、  
村限会所役人差取出置來候由之処、去秋より改革いたし、庄屋中  
差寄当暮より会所役人者差出不申候間、諸拝借返納等ニ至迄、一  
切十二月廿日限皆済いたし候様。若届兼候者者差除、見込付兼候  
者者御断申出候様申付候付一統差入出精いたし、右日限より二三  
日茂越候村方、漸二三ヶ村有之候由ニ而、暮より松山会所役人中  
大晦日之晚ニ相成不申候而者、引払茂出來兼候由之処、去暮前文之  
通に而、一鉢早仕舞いたし廿八日ニ惣引払仕候由ニ而、畢竟貞之允  
申付筋行届、庄屋会所役人一和仕候処より之儀と相聞、一統載方  
宜有之候由之処、此節辭職奉願候ニ付而者、別而残念ニ存候由ニ而、  
本紙之通承申候。以上

亥正月

河口源右衛門

御内意之覚

松山手永御惣庄屋并御代官兼帯

小田貞之允

右者、諸役人段ニ而、先年病死仕候小田小左衛門一男ニ而、文政元  
年高田会所見習ニ呼出、同三年八代御郡代詰所物書当分助役申付、  
同五年寸志之訳ニ被封、御郡代直触被仰付、同八年六月種山会所  
見扨申付、同十一年六月濱町御側御用御仕立櫛見扨申付、天保二  
年二月寸志之訳ニ被封、一領一正ニ被仰付、同四年五月依願右役  
儀差免、高田御制度格別見扨申付、同六年六月御郡代手附横目申  
付、同八年八月唐物拔荷改方御横目被仰付、在勤中諸役人段被仰  
付、同十一年正月高田井樋方助役兼帯申付候処、弘化元年六月依  
願井樋方助役者差免、同二年十一月種山手永御惣庄屋并御代官兼  
帯当分被仰付、嘉永三年三月本役被仰付、御知行高式拾石被下置、

安政二年十一月御知行高拾石被増下、萬延元年十月松山手永江所  
替被仰付、右之通物書以來四十四ヶ年手附横目以來二十九ヶ年、  
当御役十九ヶ年手全ニ出精相勤候ニ付而ハ、稜々功蹟有之、追々  
御賞美被仰付候内ニハ、種山御惣庄屋在勤中同会所取締之仕法を  
付、圭角ニ取計、質素を守、庄屋会所役人等江示方行届候旨ニ而被  
賞、金子貳百疋被為拝領、右一同々手永村庄屋会所役人無殘、都  
合五十五人孰茂心得方宜敷、御惣庄屋申付を能相守、勸農倡方等  
心掛能、小前々々江茂質素儉約を相示、米錢請払等嚴重ニ取計候  
趣ニ而、御酒肴被為拝領、先ハ無比類御賞美ニ而畢竟貞之允儀、  
兼々篤実ニ、諸事身を以手厚相倡候功験ニ而、右外松山於会所茂官  
錢請払茂、愈以圭角ニ諸上納筋茂速ニ皆済仕候様相成居候処、病氣  
ニ罷成、御奉公御断願出候ニ付、数年之勤勞を被賞、作紋御小袖  
壹ツ被為拝領、御役御免被仰付、右跡御惣庄屋之儀者、先達而御  
内意仕置候通、東矢九郎助・小山又次郎・久保桂助右三人之内、  
孰ニ被仰付被下候様、於私茂奉願候。此断御内意仕候条、可然  
被成御参談可被下候。以上

文久三年正月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

御内意之覚

松山手永御惣庄屋并御代官兼帯

小田貞之允

右者、病氣ニ罷成、御奉公御断願出ニ付、願之通御免被仰付被下  
候様。

廻江手永唐物拔荷改方御横目在勤中諸役人段



御郡代手付横目

東矢九郎助

矢部手永右同断

小山又次郎

田浦手永右同断

久保桂助

右九郎助・又次郎儀、筆算達者ニ才氣茂有之、諸事物馴御用筋吞込よろしく、桂助儀、以前松山手永御惣庄屋相勤、功熟成者ニ御座候間、貞之允儀、願之通御免被仰付候ハ、右跡御惣庄屋御代官兼帯、右三人之内何れニ被仰付被下候様、於私共奉願候。右之趣同役及衆議候処、存寄之筋無之御座候間、可然被成御參談可被下候。以上

十二月

友成貞之助

中路新兵衛

藤本常記

入江次郎太郎

覚

松山手永御惣庄屋小田貞之允列四人、別紙之通ニ付、私共見聞仕居候趣、左之通御座候。

松山手永御惣庄屋并御代官兼帯

小田貞之允

右者病氣差起、御奉公難相勤、御断願出之趣、無余儀様子ニ相聞申候。

廻江手永唐物拔荷改方御横目在勤中諸役人段

御郡代手付横目

矢部手永右同断

東矢九郎助

小山又次郎

田浦手永右同断

久保桂助

右九郎助・又次郎兩人之段等に付而者、追々御達茂申上置候通ニ而、又次郎儀者、筆算達者ニ仕、才力茂有之、御免方者元來諸事物馴居候由。九郎助儀者、又次郎ニ差統居候人物ニ有之候得共、同人より者一ニ等段落仕居候由。桂助儀ニ付而者、一昨年委細御達仕置候通役覚功熟ニ有之候得共、廻江手永江所替被仰付候処、同所零落不吞也ニ而、病氣ニ記、辭職仕候儀者、自由成事ニ而、近来に至候而者、些々之異論有之候由。右之通ニ而、桂助儀者役覚功熟ニ有之候得共、器量人望を以被召仕候ハ、又次郎ニ被仰付、一統異論も有之間敷由、唱承申候。比段御達申上候。以上

戌十二月

御附

御横目共

松山手永御惣庄屋御代官兼帯

小田貞之允

右者病氣罷成、当御役難相勤段、別紙之趣ニ付、御横目及見聞候処、相違無之候付、当御役可被成御免哉。尤年功等、別紙之趣者、於選舉方可被及御僉議奉存候。

佐敷手永御惣庄屋当分御代官兼帯

小山七郎太

右者、親代松山手永御惣庄屋被仰付置候旧所ニ茂有之ニ付、相応可仕候間、御知行高式拾石分之御心付米持懸候旨、小田貞之允跡松

山手永御惣庄屋当分ニ所替被仰付、御代官可被仰付哉。

田浦手永唐物拔荷改方御横目在勤中諸役人段  
御郡代手附横目

久保桂助

廻江手永右同

東矢九郎助

矢部手永右同

小山又次郎

右三人一躰之様子、御横目見聞之趣、別紙之通ニ而者、桂助儀者功  
熟之人物ニ有之候得共、廻江手永江所替被仰付候節、詫病ニ而及御  
断候由ニ而、右ニ付而者異論も有之候趣ニ候処、其節之儀者、実詫  
病ニ而者無之、桂助儀松山手永御惣庄屋之節、追々大病相煩、一  
旦者危容体ニ候処、漸々快相成候得共、病後振立不申砌、廻江手  
永江所替被仰付、新夕之ヶ所実以不吞也ニ而及御断候ニ相違無之、  
其儀者当前尤之儀ニ候処、右ニ付而之異論者、時情貫キ兼子<sup>(五)</sup>候而者、  
唱と相聞、小山又次郎儀者、器量人望茂有之候趣ニ候得共、未夕  
年浅ニ而、一統ニ亘リ候而者、才覚有之候人物茂段々有之、又次郎  
儀、何ぞ拔出之聞茂無之候付、追而成功も顕然いたし候上、何方ニ  
そ被召仕候方ニ茂可有御座哉。九郎助儀者、未夕其段氣ニ至兼、桂  
助儀者委細前条之通ニ而、御惣庄之勤前者熟知いたし、野津・水  
侯・松山手永ニ者、功積<sup>(旗カ)</sup>茂有之、差寄御惣庄屋躰任之人物ニ付、先  
者御順選と相見候付、右桂助儀、御知行高式拾石被下置、小山七  
郎太跡佐敷手永御惣庄屋被仰付、御代官兼帯可被仰付哉。  
右之通被御存寄無御座候ハ、此候選挙方江差見可申哉。

御郡方

僉議

本紙御郡方僉議并御郡代達之通ニ付、左之通

松山手永御惣庄屋御代官兼帯

小田貞之允

右者、病氣ニ付、当役可被成御免哉。八代御郡代詰所物書当分以  
来四十四年・当役十九年ニ相成、在勤中稜々功積<sup>(功)</sup>も有之由、御郡  
代達之通ニ付、作紋小袖一被下置、四十年以上之勤ニ付、段格持  
懸ニ而、直々御郡代支配ニ而可被差置哉。

佐敷手永御惣庄屋当分御代官兼帯

小山七郎太

右者、御知行高式拾石ならし御心附米持懸ニ而、右貞之允跡松山  
手永御惣庄屋当分所替被仰付、御代官兼帯可被仰付哉。

田浦手永唐物拔荷改方御横目在勤中諸役人段

御郡代手附横目

久保桂助

右者、御郡方しらべ之通ニ付、御知行高式拾石被下置、右七郎太  
跡佐敷手永御惣庄屋被仰付、御代官兼帯可被仰付哉。

<sup>(朱書)</sup>  
〔右僉議之通、文久三年亥正月廿五日御郡代江書附渡〕

三六七 吉田多喜次

(二〇一―一五)

覚

松山手永宇土町居住御留守居御中小姓列ニ而  
病死仕候吉田清蔵養子

吉田多喜次

右者、養父跡相統別紙之趣ニ付見聞仕候處、乙名敷生立ニ而相替候儀茂相聞不申、文武茂稽古いたし候由ニ而、家筋且祖父代以來寸志錢調達之次第等、委細書面之通承申候。以上

亥正月

河口源右衛門 匱

御内意之覺

松山手、永宇土町居住御留守居御中小姓列ニ而致病死候吉田清藏養子

吉田多喜次

当戌十三歳

右、多喜次養祖父吉田清四郎儀、養兄吉田清右衛門寸志之詛ニ被对、文政五年七月士席浪人格ニ被仰付、同十年白金蠟抄所江寸志錢百貫目差上申候處、同年八月於御花畑御次式拾人扶持被下置、十代相統被仰付旨被仰付候。天保十年御巡見様御宿自勤作事相勤申候處、桜御紋麻上下一具被下置、同八年窮民御取救為御手当寸志錢三貫目差上申候處、同十五年七月御紋附麻上下一具被下置、同十三年十一月御備鉄砲代錢貳拾三貫目寸志差上申候處、同年十二月御留守居御中小姓列ニ被仰付、尚、右之席俸迄相統被仰付旨、御達ニ相成申候。

一 錢貳百目

但、天保四年卯秋宇土町難渋之者共、粮物為取救寸志差上候處、御間御聞届ニ相成候段、御達ニ相成候。

一同式百四拾目

但、二ノ御丸御手伝御用ニ付、宇土町軒懸寸志上納之内、難渋取救として差出申候處、天保十五年七月寸志之功ニ被立下候段、御達ニ相成申候。

右之通、稜々寸志差上置、吉田清四郎儀安政四年二月病死仕候。

一 養父吉田清藏儀、安政四年七月父代寸志之詛ニ被对、御留守居御中小姓列ニ被召出、宇土御郡代支配ニ被召加旨被仰付置候處、当八月病死仕候。

一 錢六貫五百目

但、養父吉田清藏存生中貯置候錢比本行之通、為民力強寸志差上申度奉願候處、被召上、歩御使番列以下繼目之功ニ被立下旨、当十一月御達ニ相成申候。尤、右錢辻者松山手永花園堤御普請入目ニ金被渡下候ニ付、松山会所江請取置申候。

右、吉田多喜次儀、為人温良ニ有之、劍術和田金右衛門、炮術中村次右衛門、居合江良左十郎、捕手庄村角兵衛門弟ニ而稽古仕往々御用ニ相立可申者ニ御座候間、追々寸志之詛ニ被对、御扶持方無相違被下置、士席浪人格ニ被仰付被下候様、於私茂奉願候。

此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

文久二年十二月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

(宋書)  
一 僉議之通、亥二月廿七日申渡且達

多喜次儀、達之通ニ而御留守居御中小姓列之跡目、民力強寸志高六貫五百目ニ而、士席浪人格被仰付候見合ニ付、多喜次儀士士席浪人格被仰付、余而式百四拾目者、猶追而繼目之内ニ可被立下段、及達可申哉。

但、御扶持方無相違被下置候様、達之通ニ御座候処、選舉方機密  
間江茂根方相見不申、最初茂於御次被下置候事ニ付、彼ノ方江願出  
ニ相成候様、及達可申と奉存候。

三六八 佐田次郎

(二〇一―一五)

覚

郡浦手永中村居住一領壹正ニ而病死仕候佐田  
善左衛門養子

佐田次郎

右者、養父跡相統別紙之趣ニ付、見聞仕候処、手全成人物之由、  
筆算可也仕、武芸茂稽古いたし、炮術目録相伝相濟居、行状ニ付  
異候唱茂相聞不申、数代一領壹正相統被仰付候家筋等之儀、本紙  
書面之通ニ而、御赦免開等所持仕居候由承申候。以上。

亥三月

平井恒右衛門<sup>㊦</sup>

御内意之覚

郡浦手永一領一疋ニ而致病死候佐田善左衛門

養子

佐田次郎

当亥二十八歳

右先祖者佐田勘左衛門と申、四国之領主長曾我部家江相勤、其後  
浪人いたし、御国江罷越、忠廣公江被召抱、知行式百石被下置、  
相勤居候処、忠廣公御改易ニ付、又々浪人仕居候処、御入国後無  
程被召抱、宇土郡中村之内、石打谷と申所一円被為拜領、一領一  
疋ニ被召出、寛永十年九月同所御赦免地江居住仕居候処、同十四

年嶋原御陣之節、右勘左衛門父子共ニ御供被仰付、五反帆之御船  
壹艘被渡下候ニ付、上下八人ニ而御出船之御供仕候処、右於御陣  
場ニ、有吉頼母殿組之御番頭志賀左門組ニ被召加城乗之節相働キ、  
肩先ニ手疵を負候得共、薄手ニ而、無間平癒いたし、御供ニ而帰陣  
仕候。尤次郎養父善左衛門迄、九代一領一疋相統被仰付、善左衛  
門儀、天保十四年親勘左衛門跡一領一疋ニ被仰付、去年迄二十ヶ  
年御郡並之御奉公相勤、同九月病死仕候。尤同人儀、御赦免立山  
三反、下網田村之内ニ所持仕居申候。

一次郎儀、劍術山尾甚助門弟ニ而、文久元年五月五法相伝仕、炮術  
瀬川一郎助門弟ニ而、去年十二月目録相伝仕、居合矢野彦左衛  
門・槍術水足平九郎門弟ニ而稽古仕申候処、惣躰次郎儀、手全成  
人物ニ而、御家人持前心得方宜敷、武芸之儀茂心掛厚、出精仕、  
代々相統被仰付来候家筋ニ御座候間、養父跡一領一疋相統被仰付  
被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成  
御參談可被下候。以上

文久三年正月

入江次郎太郎

<sup>(朱書)</sup>  
<sup>〔左之僉議之通、亥四月六日達〕</sup>

御郡方

御奉行衆中

僉議

次郎儀、達之通ニ而、数代一領一疋相統被仰付候家筋ニ付、父跡  
一領一疋可被召出哉。

三六九 山本庫兵衛

(二〇一―一五)

覚

松山手永上古閑村居住地土ニ而病死仕候山本  
幾右衛門養子

山本庫兵衛

右者、養父跡相續、別紙之趣ニ付見聞仕候処、普通之人物ニ而、筆算相応仕、武芸茂入門いたし居、行状ニ付異候唱茂相聞不申、且庫兵衛儀、会所見習以來勤年数等、本紙書面之通ニ而、御赦免開等者、所持仕居不申由承申候。以上

亥三月

平井恒右衛門<sup>㊦</sup>

御内意之覚

松山手永上古閑村居住地土ニ而致病死候山本  
幾右衛門養子

山本庫兵衛

当亥四十歳

右庫兵衛養父山本幾右衛門儀、天保七年五月二ノ丸御手伝御用ニ付、寸志錢貳貫五百目差上申候処、苗字御免御惣庄屋直触ニ被仰付、同八年十二月窮民御取救御手当寸志錢壹貫五百目差上申候処、御郡代直触ニ進席被仰付、嘉永六年十月廻江手永守富在成立寸志錢壹貫目差上候間、地土進席被仰付置候処、去年九月病死仕候。尤同人儀御赦免開建山等所持不仕候。

一右庫兵衛儀、天保八年松山会所見習申付、同十一年小頭当分申付、弘化三年会所詰助勤申付、嘉永六年迄十七ヶ年相勤、病氣差免、依願役儀差免、安政四年会所詰ニ而、根拟助役申付、同六年立岡村庄屋ニ転役申付、文久元年迄五ヶ年相勤、見習以來都合二十二ヶ年精勤仕候。同人儀、天保十二年下益城宇土於海辺新地御築立

之節、出役引除跡、且潮留破損等之節罷出、出精仕候旨ニ而、鳥目五百文被下置候。槍術磯野貞之允・炮術中村次左衛門・劍術和田金右衛門・側量算術池部啓太門弟稽古仕、惣牒庫兵衛儀、兼々手全ニ筆算等達者ニ而、会所見習以來去々酉年迄二十二ヶ年精勤仕、病氣ニ付、役儀差免置候得共、最早病氣快腹仕、往々御用ニ相立可申人物ニ御座候間、養父跡相応ニ被召出被下候様、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御参談可被下候。以上

文久三年二月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

竝議

庫兵衛儀、達之通ニ付、地土之跡究之通無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。

(朱書)  
右倉儀之通、亥四月六日達

三七〇 佐久間藤助

(二〇一―一五)

覚

郡浦手永御郡筒ニ而同会所下代

佐久間藤助

右者、別紙之趣ニ付、見聞仕候処、手金成生質之由、筆算相応仕、役方精勤仕居候由ニ付、申立之通被仰付候而可然人物ト承申候。以上

亥三月

平井恒右衛門<sup>㊦</sup>

御内意之覚

郡浦手永御郡筒ニ而同会所下代

佐久間藤助

当亥四十四歳

跡ニ付異候唱茂無之由、承申候。以上

戌九月

田久保一之允

松田小平次

右者、兼々手全ニ屹と御用ニ相立候者ニ御座候間、会所役持懸ニ而、

辛川良右衛門跡手永見抄申付度奉存候ニ付、在勤中御郡代直触ニ

被仰付被下候様、有御座度於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可

然被成御參談可被下候。以上

文久三年二月

入江次郎太郎

当三十一歳

〔朱書〕  
〔左之僉議之通、亥四月六日達〕

御郡方

御奉行衆中

僉議

藤助儀、手永見抄申付有之度由、達之通ニ付、在勤中御郡代直触

可被仰付哉。

三七一 橘 龍吉

(二〇一―一五)

覚

松山手永下網津村居住御郡代直触ニ而病死仕

候橘庄助養子

橘 龍吉

右者、親跡相統、別紙之趣ニ付承繕申候処、手全成人物之由、武

芸数々稽古いたし、氣働茂有之、当時会所下代助勤相勤、專御用

相立居候由。祖父以来寸志錢調達之次第、本紙書面之通ニ而、行

御内意之覚

松山手永下網津村居住御郡代直触ニ而致病死

候橘庄助養子

橘 龍吉

右龍吉養祖父橘新平儀、文化三年江戸御屋敷御類焼ニ付而、寸志  
差上申候ニ付、同五年御郡代直触ニ被仰付置候処、天保九年四月  
病死仕、養父橘庄助儀、同六年二ノ丸御手伝御用ニ付而寸志錢貳  
貫目、親新平より差上置候ニ付、右寸志之訳ニ被对、御郡代直触ニ  
被仰付置候処、当六月病死仕候。尤右兩人存生中寸志差上置候分、  
左之通ニ御座候。

一錢五百四拾八匁六分七厘

但網津村田方養水井手筋、石橋・石樋御普請入目錢壹貫九拾七  
匁三分九厘、橘新平・橘文平兩人より民力強寸志差上度奉願候  
処被召上、寸志之功ニ被立下候段、文政七年七月御達ニ相達居  
候半ニ而、本行之通、橘新平分。

一同貳貫目

但花園堤御普請増入目之内、水掛村々より出錢仕等之処、難涉  
仕候ニ付、為民力強橘庄助より寸志差出候分被召上、追而繼目  
之功ニ被立下候段、安政六年五月御達ニ相成居申候。

一同六百貳拾九匁八步壹厘

但網津村養水石積出来入目文政九年橘新平より寸志差出候ニ付、

繼目之功ニ被立下候様奉願置、其後御侍を請不申、御普請相濟先役共届兼候儀ニ御座候得共、全寸志を以、石積致出来、便利ニ相成候儀、相違無御座候。願之通繼目之功ニ被立下候様奉願置候処、去年十月願之通、寸志ニ被立下候段、御達ニ相成申候。

一錢九百目

但同村懸田方水気拔井手石樋居方入目錢之内、為民力強寸志差出申度、去年十二月橘庄助より奉願候処、願之通被召上、追而繼目之功ニ被立下候段、当八月御達ニ相成申候。

錢合四貫七拾八匁四分八厘

右橘新平橘庄助より寸志差出置候分、此節繼目之功ニ被立下候様奉願候。

一錢壹貫目

但相別御備場御用ニ付而、寸志差上度、橘庄助より奉願置候処、文久元年二月御免達ニ相成、御米銀方江上納相濟申候。依之本行寸志之功ニ被対、此節地士ニ進席被仰付被下候様奉願候。

一橘庄助養子橘角助儀、病身ニ罷成候間、孫橘龍吉江苗跡相統奉願候処、安政六年十二月御免達被仰付候。

一橘龍吉儀、劍術渡辺牛之助門弟ニ而稽古仕、中段相伝仕候。居合惠良左十郎・槍術磯野貞之允・炮術中村次左衛門・柔術矢野彦左衛門門弟ニ而稽古出精仕候処、右龍吉儀、為人篤実堅固ニ有之、筆算等心掛能、若年之砌より、松山会所見習ニ呼出、当時会所ニ而下代助勤申付置、出精仕居、往々屹と御用ニ相立候人柄ニ御座候間、祖父以来民力強寸志錢四貫七拾目余差上置、猶相州御備場御用ニ付而茂、寸志錢壹貫目差上置候ニ付、兩条御取束被仰付、龍吉儀、地士ニ被召出被下候様、於私茂奉願候、此段御内意候条、可

然被成御參談可被下候。以上

文久二年九月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

龍吉儀、達之通ニ而、御郡代直触之跡繼目錢四貫目ニ而、親同様被仰付等之処、猶相州御備場御用ニ付而、寸志錢壹貫目差出置候付、見合茂御座候間、地士可被召出哉。

(朱書)  
「右僉議之通、文久三年五月廿三日達濟」

三七二 近藤末太郎

(二〇一―一五)

覚

松山手永笠岩村住吉宮社司近藤大和叔父在勤中地士ニ而病死仕候近藤衛守悱

近藤末太郎

右者、別紙之趣ニ付見聞仕候処、人物宜武芸茂数々入門いたし居、行状ニ付異候唱相聞不申、且亡父衛守儀、住吉山燈籠堂燈方請持被仰付置、在勤中病中故障等之節々、末太郎儀、燈方ニ罷越、手馴居候由ニ付、本紙申立之通、親跡燈方請持被仰付候而、可然由承申候。以上

亥六月

平井恒右衛門

工藤覚兵衛

御内意之覚

松山手永笠岩村住吉宮社司近藤大和叔父ニ而

致病死候在勤中地土近藤衛守悻

近藤末太郎

当亥十九歳

亥八月

宗村弥久馬<sup>㊦</sup>

右者、親跡相統、別紙之趣ニ付承継申候処、壮健成人物之由、行状ニ付異候唱相聞不申、且寸志太米并銭等調達之次第、委細者本紙書面之通ニ而、御赦免開等者、所持仕居不申由承申候。以上

右末太郎父近藤衛守儀、文政十二年十二月住吉山燈籠堂灯方請持被仰付、在勤中地土ニ被召出、相勤居候処、当二月病死仕候。然

御内意之覚

処同人悻末太郎儀、為人温良ニ有之、劍術渡辺牛之助門弟・居合

松山手永松原村居住地土ニ而病死仕候平居武

惠良左十郎門弟・炮術永嶺仁兵衛門弟・柔術矢野彦左衛門門弟・

平悻

槍術松原傳右衛門門弟・算術甲斐多喜次門弟ニ而稽古仕、往々屹

平居助次郎

と御用ニ相立候人柄ニ御座候間、父衛守跡住吉燈籠堂灯方請持被

当亥五十二歳

仰付、在勤中地土ニ被召出被下候様、於私茂奉願候。此段御内意

仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

文久三年四月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

末太郎儀、達之通ニ而父衛守跡住吉燈籠灯方請持被仰付、在勤中

代銭ニして五百目

地土可被仰付哉。  
〔朱書〕  
〔右、僉議之通、亥七月十九日達〕

但文化十四年三月松原村難渋之者共、為取救配当仕候分、三

三七三 平居助次郎

(一〇一―一五)

一太米六石壹斗七升五合

代銭ニして五百目

覚

松山手永松原村居住地土ニ而病死仕候平居武

錢合卷貫目

平悻

平居助次郎

右為取救村方江配当仕、其段御達仕置候処、其後武平儀、寸志ニよつて地土ニ被召出候ニ付、追而繼目之功ニ被立下候様奉



願置候處、去年閏八月繼目之功ニ被立下候段、御達ニ相成申候。

一錢七百目

右平居武平、存生中貯置候分、民力強寸志差上度、同人悴平居助次郎より奉願候處、願之通被召上、直ニ松山手永花園堤御普請入目之内ニ被渡下、繼目之功ニ被立下候段、当五月御達ニ相成申候。

合卷貫七百目

右平居助次郎儀、文政七年松山会所見習呼出、同十三年松原村庄屋役申付、天保十三年迄十ヶ年相勤候處、病氣差發候ニ付、依願庄屋役差免申候。見習共都合十六ヶ年出精相勤申候内、追々御賞美をも被仰付、尤同人父武平存生中村方為助救口立之通、小前々々江配当仕、庄屋在勤中心掛厚、養水方等種々仕法を付候ニ付、湿地之ヶ所々々就地ニ相成、跡作等茂生立候様相成、其末助次郎在勤之節茂、不相替養水方潤色仕、勤農筋專相倡候ニ付、漸々成立之際相見、父子勤年数五十一ヶ年ニおよび、且又繼目為寸志都合卷貫七百目差出候ニ付、彼是ニ被対、苗子御免御惣庄屋直触被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

文久三年六月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

助次郎儀、達之通ニ而、寸志高宛之規矩ニ相当申候間、苗字御免御惣庄屋直触可被仰付候哉。

〔朱書〕  
僉議之通 亥八月廿一日達

三七四 岩村久兵衛

(二〇一―一五)

覚

松山手永笠岩村居住地土

岩村久兵衛

右者、別紙之趣ニ付承繕申候處、武芸心懸厚出精いたし、劍術・居合・槍術三芸者目錄、柔術者中極意、炮術者初目錄相伝相濟居、同門を茂相倡、所柄為合ニ相成候由ニ付、申立之通被仰付候ハ、一統之励ニ茂相成可申由承申候。以上

亥八月

宗村弥久馬

御内意之覚

松山手永笠岩村居住地土

岩村久兵衛

当亥三十六歳

右者、父代寸志之訳ニ被対、地土相統被仰付置、惣兼々手全成人物ニ而、武芸心掛厚、劍術渡辺牛之助門弟ニ而、文久元年九月目錄相伝仕、居合惠良左十郎門弟、安政六年四月目錄相伝仕、槍術松原伝右衛門門弟ニ而、文久三年四月目錄相伝仕、柔術矢野彦左衛門門弟ニ而、同年四月中極意相伝仕、炮術永嶺仁兵衛門弟ニ而、安政四年三月初目錄相伝仕候。右之通ニ而、数々相伝相濟、格別心掛厚出精仕、同門を茂相倡、所柄之弁利ニ茂相成、往々屹と御用ニ相立可申人柄ニ御座候間、一領一疋ニ進席被仰付、御郡並之御用受持被仰付、一列無役之口ニ被付置被下候様有御座度、於私

茂奉願候。尤右相伝年月等、学校御目附江問合候処、相達之儀無之候ニ付、右問合書相添御内意仕候条、可然被成御参談可被下候。以上

文久三年六月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

久兵衛儀、達之通ニ而、武芸心懸能、三芸者目録相伝相濟、見合茂

御座候間、一領一疋被仰付御手当、一番手并御郡並之御用受持被

仰付、一列無役之口ニ可被附置哉。

(朱書)  
右僉議之通、亥八月廿一日達

### 三七五 陳内末次

(二〇一―一五)

郡浦手永一領一疋ニ而病死仕候陳内末次儀、相統申立之書付、御達仕置候処、右末次者、信次悻ニ而者無之、養子文右衛門と申者之後妻ニ出生仕候五男之由ニ相聞、右之通ニ而、末次之孫ニ相当候ニ付、其処ニ而之相統ニ候得者、信次存生中相統願之手数いたし不申而難叶候処、右等之儀茂無之、悻と申処ニ而申立候儀者、如何様之儀ニ候哉。右之始末書付を以、御達可仕旨、御達之趣承知仕候。右末次儀、此節御達之通ニ候得者、信次孫ニ而御座候処、如何成子細ニ為有之哉。是迄人別ニ茂一男と相達来居申候処、去年十月右末次名跡相統仕せ度段、願出候間、願之通差免置候処、当正月右末次儀、御惣庄屋より相統申立之節、信次悻と認相達候ニ付、無何氣其通相認、御達仕候儀ニ而、右者於私茂届兼候次第ニ御座候。

然処信次儀、孫と人別達被置、二男と相達来候儀者、重疊届兼候得共、末次儀者全孫ニ相違無御座、殊ニ御入国以来代々一領一疋相統被仰付候家筋之儀ニ付、先書申立候通、信次跡末次江無相違、相統被仰付被下候様奉願候。以上

七月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

○本紙文右衛門儀者、根元村人数之者ニ候処、文化三年陳内信次

親類之訳ニ而、養子取組、願之通被差免達候事。

八月

御郡方

覚

郡浦手永下網田村之内古畑田村居住一領壹疋ニ而病死仕候陳内信次跡目申立ニ相成居候。

陳内末次

右者、跡目相統別紙申立之趣ニ付、承繕申候処、篤実成人物之由、武芸茂稽古いたし、行状ニ付異候唱茂相聞不申、数代一領壹疋相統被仰付候家筋之儀、本紙書面之通ニ而、御赦免開等者所持仕居不申由、承申候。以上

亥六月

平井恒右衛門

御内意之覚

郡浦手永一領一疋ニ而致病死候陳内信次悻

陳内末次

当亥三十八歳

右先祖陳内喜兵衛と申候而、加藤忠廣公江相勤居候処、御改易後浪人仕、宇土郡下網田村之内、古畑田と申処江居住仕候処、寛永

十四年有馬御陳之節、妙解院様御供奉願、彼地江罷越、御帰陳迄相詰、御供ニ罷帰候処、其後一領一疋ニ被召出、御赦免開卷町三反余被為拜領、元之古畑田江居住仕、末次父信次迄六代一領一疋相統被仰付、信次儀去年十月病死仕候。

一右末次儀、兼々手全成者ニ而、劍術山尾甚助・炮術内尾直兵衛門弟ニ而稽古仕、当時専ニ出精仕、代々相統被仰付来候家筋ニ茂御座候而、父跡一領一疋相統被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段不閣御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

文久三年二月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

末次儀達之通ニ而、是迄六代一領一疋相統被仰付来候家筋ニ付、祖父同様一領一疋可被召出哉。

但御郡御目附付御横目別紙見聞書之通ニ而、信次養子者網田村人数伊三郎悴文右衛門と申者ニ候処、親類之訳ニ而、於御郡方被濟下末次儀者、文右衛門後妻之子ニ而、五男ニ相当り候を、御郡代限り相統願差免ニ相成、人別帳ニ者一男と相達、此節申立ニ者悴と有之儀者、無氣付重畳届兼候段、別紙入江次郎太郎達之通ニ而相統願相濟候上者、子細茂無之儀ニ付、本文之通相しらべ申候。

(朱書)  
右僉議之通、亥八月廿一日達

演舌

郡浦手永下網田村之内古畑田村居住一領一疋

ニ而病死仕候陳内信次悴と有之候

陳内末次

右者、跡目相統申立之儀ニ付而者、別紙御達申上候通ニ御座候。然処右末次儀、信次悴と有之候得共、末次素性之儀、根元信次男子無之候付、網田村人数伊三次悴文右衛門を養子仕度との儀、文化三年三月依願御免被仰付候由ニ而、即年より人別達ニ書加、相達居候由之処、文政十年七月病死いたし、右文右衛門儀、先妻ニ男子兩人出生いたし、当時人別達ニ書載有之候。源七令助ニ而、其後妻病死仕候付、後妻ニ下網田村人数太七と為申もの、妹を呼入出生仕候男子三人有之候由之処、兩人者幼年ニ而病死仕、末次儀者、五男に而父文右衛門死後者、信次方江母子罷越、其比末次者、七ツ・八ツ位ニ而同居仕、天保五年末次を信次二男と人別達ニ書載、且万太郎者、源七悴を孫と認加候由。將又信次先妻者、中村居住一領一疋佐田勘右衛門育、佐田勇ハ妹ニ而、悴人出生仕、則陳内森八ニ而、母者其後病死いたし、同人惣躰不人物ニ而、先年家出いたし、追而帰参いたし候得共、別宅仕妻帶いたし、出生仕候悴陳内繁と申、当年二十歳位ニ罷成、人別ニ茂相加居候由之処、父森八儀、四十歳内外ニ而、七ヶ年前病死仕候付、其後妻者、古郷方江罷帰候節、繁儀者、追而母里江慕参、当時茂母里江居候由。右之通、子孫迄茂信次育ニ仕置、是迄人別達ニ加来、此節跡目申立ニ者、末次を悴と有之、人別達ニ者、一男と書載、区之書達ニ而、初発人別達之節、不手詰之儀に而、末次儀者、文右衛門五男ニ者相達茂無之由、勿論男系之統ニ而者無之候得共、文右衛門儀、一旦信次養子願茂相濟居候得者、金孫ニ者相当候由唱承申候。此段入御聞申候。以上

亥六月

平井恒右衛門

陳内信次

○一家内六人

内

老人

老人

老人

老人

老人

倅 陳内森八

孫 陳内源七

同 陳内令助

同 陳内万太郎

二男 陳内末次

天保五年九歳之由

右天保五年達前

三七六 竹馬文三郎

(二〇一―一五)

覚

松山手永小曾部村庄居住地土三而病死仕候竹馬

円次養子当時下松山村庄屋并境目村庄屋後見

兼帯

竹馬文三郎

右者、親跡相続別紙之趣ニ付承継申候処、手金成人物之由、筆算

相応仕、武芸茂稽古いたし、役方数年心懸能出精いたし、行跡ニ

付、相替候唱相聞不申、且、亡父より寸志錢差出置候次第并家筋

等本紙書面之通ニ而、御赦免開等者所持いたし居不申由、承申候。

以上

亥八月

吉武英右衛門

御内意之覚

松山手永小曾部村庄居住地土三而致病死候竹馬  
円次養子

竹馬文三郎

当亥三十七歳

右文三郎家筋之儀、寛永年中より庄屋役連綿仕、亡父円次儀文政三年松山会所小頭申付、其後追々転役庄屋役をも申付、且寸志之訳ニ被对、地土三被仰付、手代上席ニ而会所御免方并当用方受持申付、惣年数四十四ヶ年出精相勤居候処、当五月病死仕候。尤圓次存生中寸志錢差出候分、左之通。

一 錢貳貫目

但、安政六年花園堤御普請入目之内、民力強として寸志差出候分、追而繼目之功ニ被立下候段、御達ニ相成居申候。

一 同五百目

但、当五月右同断、寸志差出候分。

合式貫五百目

一 右文三郎儀、嘉永元年八月小曾部村庄屋代役申付、安政元年十一月同村庄屋役申付、同三年三月三日村庄屋役所替申付、同四年十一月曾畑村庄屋所替申付、同六年七月佐野村庄屋後見申付、同七年三月曾畑村庄屋者差免、下松山村庄屋所替申付、当年迄都合十六ヶ年精勤仕居申候。文久元年六月去ル巳年以來御藏納御取締被仰付候ニ付而ハ厚致心配、去々未年より去申年ニ到候而ハ、惣通いたし候ニ付、支配錢之内より鳥目壹貫貳百文賞美取計置申候。武芸之儀、劍術塚本壽八郎、炮術中村次左衛門門弟ニ而稽古仕、庄屋役之勤向差入出精仕候ニ付、いつれの村々茂零落立直シ、御年貢諸上納速ニ皆納仕、上下為合ニ相成申候処、文三郎儀者下地御

郡筒相統被仰付候家筋之上、養父代寸志之訳被对、御郡代直触ニ被仰付被下候様、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

文久三年七月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

文三郎儀、達之通ニて地土之諸寸志高式貫五百目ニ而、一〇有之規矩ニ相当申候処、同人儀ハ下代御郡筒相統之家筋ニ而、右之家筋より式貫目ニ而御郡代直触被仰下究ニ付、其通可被仰付哉。尤、〔朱書〕残り五百目之儀ハ追而代賃として土銭之内ニ可被置下哉。

〔右、亥九月七日達〕

三七七 嘉兵衛

(一〇一―一五)

覚

宇土町五丁目丁頭

嘉兵衛

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、篤実成人物之由、数代手習師匠仕、同人儀者、別而行儀茂正敷、所柄之者、尊敬いたし候由ニ付、申立之通被仰付候ハ、一統弥以帰服いたし、風儀茂宜罷成、逸稜町方之為合ニ相成可申由承申候。以上

亥十月

田久保一之允圓

御内意之覚

宇土町五丁目丁頭

嘉兵衛

当亥三十六歳

右者、文久元年三月宇土町三頭役申付、出精相勤居申候。然処同人家筋之儀、先祖小田甚七郎と申たる者、菊池家浪人之由ニ而、承応年中宇土町五丁目三飯居住仕、三代目茂平次と申者より、町人数ニ罷成、嘉兵衛迄八代ニ相成、先祖より、所柄習書師仕、嘉兵衛迄八代連綿仕居、市中ニ居住仕居候得共、先祖之家風相崩不申、行儀正敷、教導手厚有之候故、宇土御家中より茂入門仕、町人教之者ニハ稀成人物ニ御座候間、同所町別当役当分申付等ニ御座候。然処宇土町之儀ハ、五ヶ町准ニ被仰付置候ニ付而ハ、五ヶ町別当江取遣等、都而等輩ニ而御座候処、無苗ニ而者釣合悪敷御座候間、従前々之御見合を以、在勤中苗字御免被仰付被下候様、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

文久三年九月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

嘉兵衛儀、達之通ニ而、宇土町之別当役、申付ニ相成候由ニ付、見合茂御座候間、在勤中苗字可被成御免哉。

〔朱書〕  
〔右僉議之通、亥十一月三日達〕

三七八 太田黒岩太

(一〇一―一五)

覚

松山手永笹原村居住御郡代直触ニ而病死仕候  
太田黒藤兵衛相統之二男

太田黒岩太

御奉行衆中

〔朱書〕  
〔發議之通、亥十一月十日達〕

僉議

右者、親跡相統、別紙之趣ニ付承繕申候処、壯健成人物之由、行跡ニ付、相替唱茂相聞不申、曾祖父以來勤之年数等、本紙書面之通、承申候。以上

岩太儀、達之通ニ而、御郡代直触候諸究之通、無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。

亥十月

田久保一之允印

三七九 山隈市平

(二〇一丁五)

御内意之覚

松山手永笹原村居住御郡代直触ニ而病死仕候

覚

太田黒藤兵衛相統之二男

太田黒岩太

大津手永湯船村居住諸役人段末席ニ而病死仕候山隈新左衛門倅

当亥十五歳

山隈市平

右岩太曾祖父太田黒圓右衛門と為申者、安永元年笹原村頭百姓申付、其後庄屋役等都合七十年出精相勤候ニ付、地土ニ進席被仰付、父藤兵衛儀、天保十二年閏正月笹原村庄屋当分申付、同年十一月祖父数十年勤勞ニ被对、御郡代直触被仰付、弘化三年八月庄屋当分ハ差免、同村御山口申付置候処、病氣差発、役儀難相勤御断願出候ニ付、文久元年九月役儀差免置候処、当四月病死仕候。右岩太儀、幼年ニハ御座候得共、生得温良ニ有之、往々御用ニ相立候人柄ニ御座候処、曾祖父圓右衛門、勤年数七十年、父藤兵衛同二十一年、都合九十一ヶ年之年功茂御座候間、岩太儀、苗字御免御惣庄屋直触ニ被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

右者、親跡相統別紙之趣ニ付承繕申候処、乙名敷生立之由ニ而、武芸茂入門仕居候由、相替候唱茂相聞不申、且祖父代以來之功業等、本紙書面之通承申候。以上

亥十一月

工藤覚兵衛印

御内意之覚

大津手永湯船村居住諸役人段末席ニ而致病死候山隈新左衛門倅

山隈市平

当亥十四歳

右市平祖父山隈権兵衛并親山隈新左衛門儀、役付年月・勤功御賞美等之儀ハ別紙之通ニ御座候処、新左衛門儀、大津御惣庄屋代役以來在勤中去ル弘化三年以後、白川筋洪水打続、中崎・玉岡・津久礼三ヶ村大磧を初、数筋之井手々々磧所、且、矢護川・合志川

文久三年十月

入江次郎太郎

御郡方

入江次郎太郎

及大破、瀬田上下井手塘筋所々、追々破損いたし候内ニハ、森村内井手塘養水専ラ之折柄、高岸拾間余、長式拾三間余崩落懸越等之配水も行レ兼、傍ニ井手立奉願、長三十間余岩手を掘抜、俄之御普請昼夜無差別、空ニ成就仕候ニ付、格別之干田ニもいたり不申候。右之通、所々毎年様ニ水害有之候ニ付、程々之工夫を以、水抜砂蓋之仕法も出来仕、瀬田上ハ井手水門、寛政・文政両度之洪水ニ破損跡、文政度積口より百間余下も年々水門取建候処、砂蓋上洪水毎ニ土沙居込井手底高ク相成水氣無、養水第一之時分數百町及干田、年々余計之出夫を以浚方仕、農事最中尤困窮仕候ニ付、根元之場所江水門取建旧復被仰付、大造之御普請成就仕水重立口ケ所々々出夫、凡拾三万五千貳百人余、入目錢百六拾壹貫三百目余ニ而、地場之外臨時御用定例養水御普請等有之中差混候得共、精力を尽成就ニいたり、井手口土沙居込にて、水吐出来ニ付而者破損之愁も少ク、年々用水行届、下津久礼村内桜木下名ニ而遂一地起、御普請之儀も漸々起畝ニ相成、且、湯船大堤出来ニ付而も、代役以来年々之手入心配いたし、稜々上下一稜之御為合ニ相成、松山手永ニ而代役以来十八年、当子役以来八年、都合二十六手手全ニ出精相勤申候間、免に御賞美筋奉願候筈処、当八月病死仕残念ニ奉存候。右市平儀、武芸入門稽古仕、人柄宜敷住々御用ニ相立可申見込之者ニ御座候間、祖父勤勞、且親新左衛門功業旁ニ被对、御別段を以市平儀、地士ニ相統被仰付被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

文久三年十月

永尾猪兵衛

御郡方

御奉行衆中

僉議

市平儀、祖父山隈權兵衛、父小隈新左衛門功業を以、地士被召出被下候様、委細達之通ニ御座候処、祖父之功業者此節難被立下、父新左衛門儀、親代役之年數者二十六年ニ相成候得共、親跡御惣庄屋八年相勤年淺ニ付、諸役人段末席之跡御郡代直触可被仰付哉。

(朱批)

〔右、僉議之通亥十二月廿九日達〕

覺

私、亡祖父山隈權兵衛以来父山隈新左衛門迄、勤功御賞美筋等可申上旨被仰付趣奉得其意候。左ニ一ツ書を以申上候。

一亡祖父山隈權兵衛儀、享和四年子三月布田会所詰被仰付、文化四年二月同所下代役被仰付、同八年未九月手代役ニ操上被仰付候。

一同人儀文政元年寅三月役方數年万端心掛厚、諸札方等茂格別出精いたし、且、去ル亥年阿蘇山霜降統之節、村方及難渋候付而茂、昼夜札方等出精いたし候旨ニ而被賞、鳥目壹貫五百文被下置候。

一同人儀、同二年卯五月布田手永養蚕方被仰付、在勤中苗字被成御免、御惣庄屋直触ニ被仰付候。

一同四巳二月、在勤中御郡代衆御直触ニ被仰付候。

一同四巳八月、數年樹桑養蚕仕立方心を用、倡方いたし、近年莫太之桑苗等生育、養蚕茂勸立候由、相聞出精いたし候旨ニ而、為御心付鳥目貳貫五百文被下置候。

一同年同月、布田会所手代役被成御免、同所養蚕方持掛ニ而阿蘇南郷御郡代衆御手付横目役当方被仰付、高森町歩入所上見拟兼勤被仰付候。

一文政五年午九月、唐物拔荷改方御横目被仰付、在勤中諸役人段被

仰付候。

一同九年戌五月、布田手永会所手代在勤中、新堤塘方、且杉桧并雜木仕立方、其外零落所成立任法心配いたし候旨ニ而、為御賞美銀五兩被下置候。

一同十年亥二月、布田手永御惣庄屋并御代官兼帯被仰付、御知行高貳拾石被下置旨、被仰付候。

一同十三寅三月、御知行持掛ニ而松山手永ニ所替被仰付候。

一天保三辰九月、去ル子年非常之風災引続、關東筋川々御普請御手伝御用ニ付而、手永々々より上米、且寸志米錢差出候一件、初發委敷申談致出精候旨ニ而被為賞、作御紋單羽織一ツ被為拝領候。

一同年四月、宇土川浚方ニ付、厚心配いたし候旨ニ而、宇土様より一葉桐麻上下一具并金子百疋被為拝領候。

一同四年巳八月、布田手永御惣庄屋在勤中以來、兼々心掛能勸農方之儀、深切ニ相倡、新道立・新堤出來等委敷心を用、松山手永之儀者別而零落之所柄、追々之拝借高莫太ニ有之候処、返納之仕法成立之儀、種々工夫を凝シ取計、且松合村数度之火災并疫病流行ニ付而者、窮民御取救等之儀格別心配行届候段、彼是役前之要務ニ厚心を用候儀尤之趣ニ付、自分苗字被成御免、作御紋帷子一ツ被為拝領候。

一天保五年十二月、松山手永大見村海辺、櫛方古新地、当春以來再興被仰付候ニ付而者、御普請所江必多度罷出、失費無之様精敷申談、諸事厚心配いたし候ニ付、塘手丈夫ニ出來いたし候旨ニ而、被為賞金子三百疋被為拝領候。

一天保六未三月、去ル卯年非常之洪水以後、加勢川筋追々太造之御普請出夫之節々、始末罷出諸事厚出精いたし候旨ニ而、作御紋麻

上下一具被為拝領候。

一同年九月、近年凶作打続候末、一御丸惣御修覆御建替御普請御手伝御用ニ付而、手永々々上米、且寸志錢差出候ニ付而、初發委敷申談出精いたし候旨ニ而被為賞、作御紋單羽織一ツ被下置候。

一天保八酉五月、御知行高持掛ニ而高森手永御惣庄屋所替被仰付、御代官兼帯ニ而同所在勤中御心附として、毎年御知行拾石分之御米被下置旨被仰付候。

一同年四月、阿蕪南郷之儀者近年不作打続、其内ニ而蠶害霜痛等外々ニ異候種々之災害有之。民力次第ニ相衰、加之去秋非常之凶荒ニ付、弥以零落ニ陥り候ニ付而者、別段御僉議之趣有之、今度所替被仰付、自手永者不及申、阿蕪南郷之儀者諸事格別心を用、存寄筋等者不闕、日役共江申談、根ニ成差はまり相勤候被様仰付候。

一同十一月、兼々役方心掛厚、松山手永在勤之節勸農筋格別心を用候ニ付、零落之村々成立之功験相見、会所御用钱茂相備、且新開御米山取起一件并緑川筋塘手御普請ニ付而茂厚心配いたし、彼是出精相勤候ニ付、高森手永在勤中御心付として被下置候御米を、御知行高拾石ニ被直下候。

一天保九戌三月、諸御郡地撫再地引合之儀、一手永一人宛受込被仰付、村々倡立手早糺方いたし候上請見を受候様、且地權受込御郡御吟味役等より、手永毎ニ掛合者不弁利ニ有之、其上諸手永糺之模様異同有之候而者難成、旁阿蕪南郷之儀者一切受込被仰付、地權御用懸より掛合等有之節者根ニ成引受及返答、惣成就之取計いたし候様仰付候。

一天保九戌閏四月、御知行高三拾石持掛ニ而布田手永御惣庄屋所替被仰付、御代官兼帯被仰付候。



一天保九戌閏四月、御年貢米御藏取取三付而、小前々々申誘、數年之間厚心配いたし候旨三而、金子貳百疋被為拜領候。

一同年七月、宇土様御屋形御普請三付、御郡より出夫取計等厚心配いたし候旨三而、金子貳百疋被為拜領候。

一同十年亥七月、去ル申年非常之凶作三付而考、高森手永在勤中無類之零落所、凶作跡諸上納筋種々才覚之仕法を付、昼夜出精いたし、且利境御算用之儀茂速三仕上、彼是格別出精いたし候者三付、金子三百疋被為拜領候。

一同年十二月、高森手永在勤中、去夏御巡見様御用出精相勤、御宿拵・町内諸手入等無間抜取計、且道造之儀三付而茂格別心配いたし候旨三而、金子三百疋被拜領候。

一同十一年子八月、西御丸御普請三付御上納金御用三付上米、且寸志誘等格別出精いたし候旨三而、作御紋單羽織一ツ被為拜領候。

一同十三年寅十二月、阿菰南郷之儀、季候不順三而累年凶作之所柄三而有之候處、成熟之仕法等厚心を用諸事根三成、勸農筋專倡立、且水氣拔・新井手立・飯米料寸志倡方・諸拝借滞分返納之取計差はまり出精いたし、往々成立之萌シ茂相見候者三而、作御紋小袖一ツ金一兩被為拜領候。

一弘化二年巳二月、御知行高三拾石持掛三而大津手永御惣庄屋所替被仰付、御代官兼帶被仰付候。

一同三年九月、役方多年心掛能格別出精いたし、稜々功業茂有之、就中地方取扱功者三而、勸農筋誘方手厚有之候三付、旁被為對別段を以独礼被仰付候。

一嘉永二年閏四月、今度大坂御城御修覆御用被為蒙仰候三付而、御郡中より差上候上米一件委敷申談、弘化二年御用金御手伝被仰付

候後間茂無之候三付而考、別段心配いたし候旨三而、作御紋單羽織一ツ被下置候。

一同六丑十二月、及老衰難相勤由、願之通当役被成御免、多年心懸厚手全出精相勤候旨三而、桜御紋付御綿入羽織一ツ被為拜領候。畢而湯舟新堤御用掛之儀是迄之通、上見被仰付置候處、安政二年九月病死候。

一亡父山隈新左衛門儀、亡祖父山隈權兵衛松山手永御惣庄屋在勤中、天保六未四月父病中故障等之節、代役当方被成御免候。

一同人儀、天保九戌七月、宇土様御屋形御普請三付而御郡より出夫被取計心配いたし候旨三而三ツ蘭御紋付麻上下一具被為拜領候。

一同人儀、同十亥年新地出役被仰付候處、御用繁多三而御断申上候處、願之通被差免候。

一同人儀、同十三年寅正月、御巡見御用竹木切出、道橋手入等出精いたし候段、御間三被為承届候段、撰挙方御奉行衆より御達相成申候。

一同年十二月、布田手永谷在村々耕作早メ之儀三付而、同所江詰切庄屋共申談厚心配いたし、田畑根付等之節者不断村々打廻り、且水氣拔新井手立等、諸事差はまり出精いたし候旨三而、作御紋麻上下一具、金子貳百疋被為拜領候。

一嘉永六丑十二月、大津手永御惣庄屋当方被仰付、御代官兼帶被仰付候。

一安政二年卯二月、御連技様去ル七日より弥護山狩為御覽被成御出候節、致出精候旨三而、銀五兩御扇子二対御内々被下置候。

一同五年午三月、大津手永御惣庄屋御代官兼帶本役被仰付、御知行高三拾石被下置候。

一同六未七月、御連枝様小国・黒川御出之節、御往来大津御茶屋御立寄ニ付而者心配いたし候旨ニ而、銀三両御扇子一对御内々被下置候。

一萬延元年申四月、御年貢納御取締ニ付而者種々心を用、村々庄屋以下江之示方等行届キ、納中追々御藏方江茂罷出格別心配いたし、納方宜敷候旨ニ而、作御紋單羽織一ツ被為拜領候。

一同人儀、万延元申十二月、退役被仰付諸役人段末席被仰付置候處、当八月病死仕候。

一私儀、当亥十四歳ニ罷成申候。

一劍術之儀、渡辺牛之助殿門弟ニ而稽古仕居申候。

一炮術、財津勝之助門弟ニ而右同断。

一居合・柔術、矢野彦左衛門殿右同断。

右者、亡祖父以来、父山隈新左衛門迄、勤功御賞美筋等、前条之通御座候。此段書付を以申上候。以上

文久三年亥十月

山隈市平

高木仁十郎殿

三八〇 佐藤常三郎 他

(一〇一丁五)

覚

郡浦手永佐藤常三郎列三人、別紙之趣ニ付見聞仕候處、左之通御座候。

戸馳村居住一領老正佐藤保養子

佐藤常三郎

右者、武芸数々心懸能、数年出精いたし、居合・劍術・長刀・炮術四芸者目録、柔術者中極意相伝相濟居候由。居合・劍術・柔術三芸者引廻、長刀者倡方師範々々衆より頼談ニ相成居候由。

長濱村居住地士釜賀廣次養子

釜賀長藏

右者、武芸数々心懸能、数年出精いたし、居合・槍術二芸者目録、劍術者中極意、柔術者中段、炮術初目録相伝相濟居候由。

前越村居住地士本田英左衛門粹

本田仁市

右者、武芸数々心懸能、数年出精いたし、長刀・炮術二芸者目録、劍術者中極意、居合者中段相伝相濟居候由。

右之通ニ而、常三郎儀者、諸芸引廻、倡方を茂師範、師範衆より頼談相成居候付而者、所柄同門倡方等行届、長藏・仁市儀者、同門引立、手厚有之、孰茂所柄ニ定日を立、且御府中師家江罷出、滞留を茂いたし、出謝内稽古仕、当時各別出精いたし候由ニ而、兩人中勳合ニ茂相成可申由承申候。以上

亥六月

平井恒右衛門

工藤覚兵衛

御内意之覚

郡浦手永一領一正佐藤保養子

佐藤常三郎

当亥二十七歳

右者、劍術中嶋源之允門弟ニ而稽古仕、万延元年十二月目録相伝仕、炮術渡邊作之丞門弟ニ而、安政六年二月目録相伝仕、長刀入江太郎八門弟ニ而、文久元年十月双貫相伝仕、柔術矢野彦左衛門

門弟三而、文久元年三月中極意相伝仕、居合右同人門弟三而、安政六年三月中段相伝仕候。

郡浦手永地土釜賀廣次養子

釜賀長藏

当亥二十三歳

右者、居合惠良左十郎門弟三而、文久二年閏八月目録相伝仕、槍術松原伝右衛門門弟三而、文久二年十一月目録相伝仕、劍術渡辺牛之助門弟三而、安政六年四月中極意相伝仕、柔術矢野彦左衛門門弟三而、万延元年二月中段相伝仕、炮術永嶺仁兵衛門弟三而、文久二年四月初目録相伝仕、長刀入江太郎八門弟三而稽古仕候。

郡浦手永地土本田美左衛門梓

本田仁市

当亥二十九歳

右者、炮術渡辺作之丞門弟三而、安政六年二月目録相伝仕、長刀入江太郎八門弟三而、文久元年十月双貫相伝仕、劍術中嶋源之丞門弟三而、文久元年十月中極意相伝仕、居合矢野彦左衛門門弟三而、安政二年中段相伝仕候。右之面々就茂壯健手全成者共三而、武芸之儀置々志厚ク、遠方相倡出付等、心掛能格別出精仕、稜々相伝茂相濟、且相門中誘引方之儀、手厚行届申候間、手永中就茂勸合、武芸心掛出精仕候ニ付被賞、常三郎儀者御銀三両、長藏・仁市儀者同式両完被為拝領被下候様有御座度、於私茂奉願候。左候ハ、其身々々ハ不及申上ニ、御家人中一統勸合之目当ニも相成、御時節柄弥以武道進立可申上奉存候間、学校御目附江間合候。別紙書付相添、御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

文久三年五月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

常三郎儀、達之通三而、武芸数々心懸数年出精いたし、居合・劍術・長刀・炮術目録相伝相濟、柔術ハ中極意相伝相濟、居合・柔術・劍術ハ引廻、長刀ハ倡方猶々為成候、所柄為合ニ為成候ニ付、銀三両可被下置哉。

長藏・仁市儀、武芸数々心懸、長藏儀、居合・槍術二芸ハ目録、劍術ハ中極意、柔術ハ中段、炮術ハ初目録相伝相濟、仁市儀、長刀・炮術二芸ハ目録、劍術ハ中極意、為居合ハ中段相伝相濟、兩人共同門引立手厚、孰茂所柄ニ定日を立、且御府中師家へも罷越滞留を茂いたし、出樹内稽古をも仕各別出精いたし候由、御時節柄此儀候誘にも相成可申、申立之通銀式両完可申至哉。

三八一 稻原覺左衛門

(二〇一丁五)

覺

郡浦手永栗崎村居住地士三而同会所副手代

稻原覺左衛門

右者、別紙之趣ニ付見聞仕候處、会所見習以來五十年、心懸能出精相勤、根抄役在勤中村々ニ而水旱之患有之候畝方百四拾町余ニ而、早田所江者新堤築立、古堤欠広沼地等之ケ所々々ニ者新井手立、御普請ニ付而者漸々乾地ニ相成、跡作茂出来いたし、水旱之患を免レ、村々一稜為合相成候由、當時会所根方ニ而諸御用筋申談、無間拔

取計候由ニ而、本紙書面之通相聞申候。以上

亥三月

平井恒右衛門<sup>㊦</sup>

御内意之覚

御浦手、永地主ニ而会所副手代

稻原覚左衛門

当亥六十五歳

三八二 小田貞之允 他

(二〇一―一五)

右者、兼々手全成者ニ而、文化十一年会所見習申付、文政四年会所小頭申付、天保三年養父跡御郡簡ニ被召抱、同年窮民御救恤御手当志錢差出、御郡代直触被仰付、同九年会所根拟役申付、嘉永六年廻江手永守富在成立寸志差上地主被仰付、安政三年会所見習以來数十年致出精候旨ニ而、作紋麻上下一具被為拝領、萬延元年副手代申付、当年迄惣年数五十年之内、七ヶ年見習、拾七ヶ年会所詰小頭、二十二年根拟役、四年副手代、右之通数十年出精相勤候内ニハ稜々功績茂有之取分ヶ根拟役勤中諸御普請筋筋研究仕、自他ニ掛ヶ地調より夫仕ニ迄迄、厚ク心を用出精相勤候ニ付、手永中水旱之患茂薄ク相成、一稜之御為合ニ相成、当時会所根方ニ居候得者、諸御用筋一切引受、手数向等無間拔様取計出精相勤居申候間、年功旁ニ被对相応ニ御賞美被仰付被下候様、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可燃被成御参談可被下候。以上

文久三年二月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

覚左衛門儀、達之通御座候処、先賞作紋上下被下置候以來八年ニ相成、此歩ミ間近ニ御座候得共、惣年数五十年ニ付無味ニ茂難被聞

拝領方可被仰付哉。然処一領一疋以上ニ而候得者、相応之御品可被下置哉ニ候処、地主之儀ニ付麻上下より外之品者難被下置究ニ付、金銀之内被下置候へハ、先賞より茂輕ク相成候ニ付、同品重リ申候得共、此節茂作紋上下一具可被下置哉。

覚

高田手永小田貞之允列四人、別紙之趣ニ付見聞仕候処、左之通御座候。

高田手永日置村居住諸役人段

小田貞之允

<sup>〔朱書〕</sup>  
<sup>〔金字三百文〕</sup>

右者、松山手永御惣庄屋在勤中、去々冬二ノ丸御館并宮内御屋敷御作事御用之御材木、至急之御取出被仰付候付而、郡浦手永網引村懸御山内四ヶ所より杉元木四千八百九拾本余御取出に付而者、御郡横目并杣方御役人出在ニ相成、別段火急之事ニ付、手永内ニ而者無之候得共、右手永迄に而者寒中之時分旁出夫等及混雜候儀を汲取、御山床江必多度相詰角取等相濟候分者、且々住吉社下海辺ニ持出せ余計之御材木運送向等ニ至迄、諸事出在御役人等江申談、且手永割紙前之竹類并繩古猫伏諸品相払被是持出夫等ニ者、凡老万六千七百九拾人余召仕、御間拔相成不申様、速取計各別心配いたし候由。

郡浦会所手代ニ而同手永俵物方受込在勤中御

郡代直触

<sup>〔朱書〕</sup>  
<sup>〔式貫五百文〕</sup>

高濱喜右衛門

右者、右同断ニ付、郡浦手永、網引・網田・下網田三ヶ村懸御山内数ヶ所より、杉元木六千四百貳拾本余御取出被仰付候付而者、其御惣惣庄屋郡浦彦左衛門儀、病中且忌中ニ而引入居候由ニ而、喜右衛門儀、御用受答申付ニ相成居候付而者、御山床双方ニ懸必多度罷出、余計之御材木角取等相濟候分者、且々其懸海辺ニ持出せ、運送向等ニ至迄出在御役人等江諸事申談、且手永割賦前之竹類并繩藁古猫伏諸品、速相払、御材木持出夫等ニ者、凡壹万四千百人余召仕御間拔相成不申様取計、貞之允同様彼是各別心配いたし候由。

松山・郡浦両手永御山支配役諸役人段

野田七右衛門

郡浦手永右同在勤中諸役人段

中園英之助

右兩人、右同断ニ付御郡横目并杣方御役人出在ニ相成即下より、七右衛門儀者郡浦手永網引村懸請持、御山内数ヶ所より杉元木四千八百九拾本余御取出ニ付而者、元木引渡を初角取等相濟候分者、且々住吉社下海辺迄持出せ、英之助儀者網田・下網田両村懸請持、御山内二ヶ所より杉元木千五百三拾本余ニ而、丸太取被仰付候付、其村之懸海辺ニ持出せ、兩人共初發より御山床江必多詰程ニ而立会、運送向等ニ至迄始末、出在御役人等江諸事申談、諸御用御間拔相成不申様取計、格別心配いたし候由。

右之通ニ而、孰茂臨時急速之御作事御取懸に付而者、余計之御材木御取出ニ付、差入出精いたし候由、承申候。以上

亥四月

平井恒右衛門

御内意之覺

松山手永御惣惣庄屋

小田貞之允

郡浦手代

高濱喜右衛門

右者、一昨冬ニ一丸御館并宮内御屋敷御作事ニ付、網引・網田御山より御材木御取出ニ付、御郡横目并杣方御役人出在ニ相成別段火急之御用筋、重キ御事柄ニ付各別出精仕、尤、其御郡浦御惣惣庄屋郡浦彦左衛門儀ハ、病中且忌中ニ而引入居候ニ付、貞之允儀、同郡御山之内より余計之御材木、臨時非常急速ニ御取出之儀を、重疊奉汲取育来雨天続之折柄、頻々御山方ニ茂罷出、各別心配いたし、喜右衛門儀ハ彦左衛門忌中ニ付、御用請答申付置候ニ付、御山床ニ茂追々罷出、貞之助同様重疊心配いたし、両手永ニ而御材木取出等之夫数三万人余至急ニ差出、御用御間拔ニ相成不申様取計申候。

郡浦手永御山支配役

中園英之助

松山・郡浦両手永御山支配役

野田七右衛門

右者、前文同断ニ而、請持之御山より余計之御材木、急速ニ御取出被仰付候ニ付而ハ、日々程御山床江茂罷出、杣方御役人立会運送向等諸事申談、御用御間拔ニ相成不申様取計申候。

右之通、孰茂差入格別出精相勤候ニ付、相当之御賞美被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御参談、可被下候。以上

文久二年正月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

(元治元年)

三八三 喜右衛門 他

(二〇一—一六)

御内意之覺

錢塘手永

今村

西錢塘村

北奥古閑村

喜右衛門

長平

清兵衛

惣次郎

利右衛門

右者、相州御備場御受持三付而寸志錢差上申度奉願候處、願之通被召上、去冬七百目完上納相濟申候三付、家内共三傘御免被仰付被下候様。

今村

萬平

益右衛門

惣右衛門

貞八

文左衛門

亭助

恒右衛門

卯平次

西錢塘村

中錢塘村

南走湯村

小岩瀬村

多八

右同断三付三百目完上納相濟申候三付、其身迄傘御免被仰付被下候様。

八町村

弥三次

右者、文政十三年正月池田・横手・錢塘於海辺、白金御側御用蠟拟所新地御築立三付而、明儀代寸志差上、其身迄傘御免被仰付置候處、右同断三付、此節猶四百目上納相濟申候三付、家内共三傘御免被仰付被下候様。

右之通御内意仕候間、宜敷被成御參談可被下候。以上

文久四年正月

鮑田

御郡代

御郡代

御奉行衆中

僉議

喜右衛門列十五人、寸志高究之規矩三相当申候者、夫々達之通可被仰付哉。

(朱世)  
〔右僉議之通于二月廿八日達〕

三八四 奈須武右衛門

(二〇一—一六)

覺

松山手永上古閑村居住御郡代直触同村庄屋三而病死仕候奈須儀平悴

奈須武右衛門

右者親跡相統、別紙之趣三付承繕申候處、質朴成人物三而、筆算相

応ニ仕、以前者武芸茂稽古いたし候由。亡父庄屋代役以来者、引請程ニ而精勤仕、村方之世話筋能行届、申談筋等深切ニ有之、勸農方身を以、先立候ニ付、村方茂精農基、風儀立直、小前々々能帰服いたし居、諸上納茂速ニ有之候由ニ而、父子勤年数本紙之通ニ而、行状ニ付異候唱相聞不申候。以上

子三月

渡邊平兵衛印

御内意之覚

松山手永上古閑村居住御郡代直触ニ而致病死

奈須儀平悴

奈須武右衛門

当子四十七歳

右武右衛門父奈須儀平儀、文化四年祖父武右衛門庄屋在勤中代役申付、同十四年上古閑村庄屋役申付候後者、各別出精相勤候ニ付、被賞候稜々、左之通ニ御座候。

一文政八年七百町御新地御築立ニ付、潮留并水理御普請之節、夫方召連罷出々精仕候旨ニ而、鳥目老貫文被下置候。

一同十二年役方数年出精いたし、立岡大堤掘浚并杉嶋新川堀替ニ付而茂、出精仕候旨ニ而、合羽・傘・菅笠御免被仰付候。

一天保五年松合村度々出火跡家建方、同村救浦新地并高良下り松新地御築立ニ付而、出精仕候旨ニ而、鳥目老貫文被下置候。

一同六年代役以来多年出精仕、村方示方能取計筋、厳密ニ有之、孰茂帰服仕、御年貢諸出銀速ニ相納、養水方等各別出精仕候ニ付、支配銭之内より鳥目老貫五百文、賞美取計置申候。

一同九年役方多年心掛能、出精仕候旨ニ而、礼服御免被仰付候。

一同十二年下益城宇土於海辺、新地御築立ニ付、出夫等心配仕候旨

ニ而、鳥目老貫文被下置候。

一弘化元年役方多年出精いたし、勸農相倡、風儀宜敷、御年貢・諸出銀等速ニ相納、世話筋行届候旨ニ而、無苗御惣庄屋直触ニ被仰付候。

一嘉永元年北浦新地御築立ニ付、夫仕等出精仕候旨ニ而、鳥目七百文被下置候。

一安政元年十一月役方数十年出精いたし候旨ニ而、苗字御免御惣庄屋直触ニ被仰付候。

一文久元年十一月役方数十年致出精、勸農筋手厚相倡、世話筋行届候ニ而、御郡代直触ニ被仰付候。

右之通、稜々被賞、文化四年より去亥年迄都合五十七ヶ年精勤仕居候処、去年十一月病死仕候。悴武右衛門儀、為人温良ニ有之、筆算等茂相応ニ仕、劍術和田金右衛門・炮術中村次左衛門・捕手庄林覚兵衛・居合惠良左十郎門弟ニ而稽古仕、往々御用ニ相立可申者ニ御座候間、天保十一年四月庄屋代役申付候処、村方勸農筋者不及申、一鉢之申談深切ニ仕御年貢・諸上納等者、身を以先立、速ニ相納候ニ付、一村自然と其風ニ移、年々皆済目録番之内ニ仕上、前文之通、亡父儀平儀、追々御賞美被仰付候儀茂、父子差入重疊精勤仕候処より、村方風儀茂立直申候。武右衛門儀者、代役年数二十四ヶ年、父子之年功合而八十年余ニおよび、先ハ稀成勤功ニ而御座候間、別段之御僉議を以、御郡代直触末席ニ被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

文久四年二月

入江次郎太郎

御郡方

僉議

御奉行衆中

武右衛門儀、達之通ニ而、父儀平庄屋代役之年数を省キ、四十八年ニ而相果、其身茂庄屋代役ニ付、年数ニ難被立下、御郡代直触之跡目究之通、無苗ニ而御惣庄屋直触可被仰付哉。

〔朱書〕  
〔右僉議之由、三月十八日達〕

三八五 松岡道成、庄野仁壽

(一〇一七六)

覚

錢塘手永北走潟村居住御郡医師並

松岡道成

同手永中沖村居住右同

庄野仁壽

右兩人別紙之趣ニ付承繕申候処、家業心懸厚、格別出精いたし居、手永を初、近郷ニ懸療治方手広被行候処、廻診等昼夜之無差別、手厚行届候由、貧民等施薬且施薬同前之者茂年々不少候得共、聊無頓着配劑いたし、手重キ病人江者附添薬用仕せ候由ニ付、病家茂信用仕、仁壽儀者薬品別段相撰、買入高茂年々余計之事ニ而、貧民施薬と見究候者江茂、高価之品無惜気相用候由ニ付、治験茂著ク、且産婦之難症并癩痢病之儀者、家方有之、追々療験相顕候ニ付、遠方より茂頼来候由ニ而、先者抜群之唱ニ而、道成儀茂是ニ引統候人物之様子ニ而、兩人共ニ所柄を初、病家一稜之為合ニ相成候由。其  
余委細者本紙書面之通承申候。以上

子三月

渡邊平兵衛印

御内意之覚

錢塘手永北走潟村居住御郡医師並

松岡道成

右道成儀、嘉永七年十二月父跡家業心懸能、療治方致出精候ニ付、御郡医師並被召出、当年迄十一ヶ年ニ相成申候。弥以家業心懸厚、錢塘手永者一円ニ亘り、療治仕候内、走潟在と申候者、同所新川より以南六ヶ村有之、惣人数千三百三十人余有之候処、此分者道成一人之療治ニ而、其外他手永ニ而者、横手・本庄・杉嶋・松山・宇土町并御家中川尻町御府中ニおよび、去年中病人数千七十六人、此内ニ而八百六十一人者施薬いたし、粮物相施候茂十九軒有之、外ニ緑川筋廻船之病人者、居住所并利ニよつて、式百十一人療治いたし候。然ル処右之通走潟在者、居住所ニ付、軒別療治請持居候処、同所之儀者、療地ニ而、太唐作一毛程ニ相限り、頻年穂枯之患有之、無謝礼同前之手柄多御座候処、遠国之船々療治、且遠方療治之内ニ者、存外手厚謝礼いたし候者も不少、是等を以、手元之暮方者取賄候間、いさ、かも無頓着、病發微頼之内ニ、無遠慮治を請候様、兼々所柄被申論、相異候病人有之筋者、附添薬を煎し、服薬致せ候よし、依之病家茂道成療治ニ而死ニ至候とも、遺念無之と申程ニ信服いたし、是よりして、治験之内ニ者、存外之奇功を取候事不少、当時療治向々繁昌、日進之様子ニ相聞申候。惣弱年之時分者、学文篤志有之、鶴崎毛利到家塾ニ数年相滞、其後医学・経学不怠、人品茂不鄙、遠国之船々別而信仰いたし、療治之絶間も無之候間、御別段を以、御目見医師進席被仰付被下候様。

同手永中沖村居住御郡医師並

庄野仁壽



右仁壽儀、嘉永二年八月父跡御郡代直触被仰付、安政三年十一月家業心懸能、貧富之無差別、手広療治方いたし、所柄之為ニ相成候ニ付、御郡医師並被召直、当年迄九ヶ年相成申候。同人儀、其後弥以家業出精いたし、錢塘手永者勿論、近郷御府中等ニおよび、平常請持候而療治仕候病家、去年中病人式千八百三人、右之内施藥且施藥同前百八十八人、病後疲勞等之見込ニより、式十九軒者、糧米を茂相施申候。為人朴質ニ而、一鉢ニ相異候処有之、貴人富家之療治向類々診察申談候而茂、其身之見込夫程ニ無之候得者、委敷容鉢申聞候迄も無之、何となく參診も不仕して、難治者之病ニ而も、於其身不安意ニ存候処有之候得者、相滞居候而、年々懸薬用仕せ、見込次第糧米を茂相施し、療治仕候も有之、先平常之所行、右之通ニ而、全施薬と見極候病人ニ茂、高価之薬品無惜氣相用、以前難治之時分より、如何も手当いたし、薬品者十分取入、上品を而巳相撰候ニ付、薬等商仕候者、兼而其心得ニ而、世話いたし候よし、薬品之買入、太略八貫目余ニおよび候段者及承居、右丈之薬種を仕候医生、在中ニ而者容易ニ有之間敷、右之通ニ而、療治向効驗も有之、所柄者勿論、近郷評判宜、先ツ者拔群之人物ニ御座候間、以前之賞より八ヶ年目ニ御賞美茂被仰付候通ニ付、此節茂御別段を以、御目見医師進席被仰付被下候様。

右之通兩人共、錢塘手永医生之内ニ者、拔群之稜目相見、中ニ茂庄野仁壽者格別ニ而、松岡道成も是ニ繼、療治方出精仕候間、いづれ茂御目見医師被召直被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕条、宜被成御參談可被下候。以上

文久四年二月

御郡方

岩崎物部

僉議

御奉行衆中

道成・仁壽儀、達之通ニ付、医業吟味役江問合申候処、治療習熟・学業篤志之段達有之、再春館御目附見聞之趣茂同様之由。夫々別紙之通ニ而、科目丙科ニ相当申候。御郡御目附御横目見聞之趣茂、兩人共療治方手広被行、年々施薬茂不少、手重キ病人江者附添薬用致せ、仁壽儀者、薬品別段相撰、高価之品相用候付、治験茂有之、家方之療治方、先者拔群之唱茂有之候由。別冊之通ニ而道成儀、御郡医師並被仰付候而十一年、仁壽儀九年ニ相成、年浅ニ候得共、先賞茂八年目ニ被仰付置、前条之通拔群之唱茂有之候付、別段を以兩人共、御目見医師可被仰付哉。

〔朱書〕  
兩家共本科  
病案三条  
兩人共三法  
被的

〔朱書〕

一石僉議之通兩人共、子五月十一日歿、同十八日申渡

三八六 清九郎

二〇一七六

御内意之覺

松山手永宇土町居住丁頭列

清九郎

一錢五貫五百目

一具足八領

代錢拾貳貫目

錢合拾七貫五百目

右者、今度炮箸御製造ニ付、右之通寸志差上度奉願候処、願之通被召上、夫々上納相濟申候間、清九郎儀士席浪人格進席被仰付被

下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上  
元治元年七月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

清九郎儀、達之通ニ而寸志高究之規矩ニ相当申候間、士席浪人格

可被仰付哉。

〔朱書〕  
〔右子七月廿八日申達〕

三八七 大田黒彦左衛門 他

(二〇一丁六)

御内意之覺

松山手永笹原村居住御郡代直触

大田黒彦左衛門

一錢巻貫目

但、此節地士進席被仰付被下候様

同手永御領村居住御郡簡

吉村儀三郎

一錢巻貫五百目

松山手永御領村居住御郡簡

山田徳十郎

一錢巻貫五百目完

同手永柏原村居住苗字御免御惣庄屋直触

郷嘉一郎

同手永上古閑村居住無苗御惣庄屋直触

武右衛門

一同式貫五百目

但、此節御郡代直触進席被仰付被下候様

同手永宇土町居住無苗御惣庄屋直触

辰次郎

同手永高良村居住右同

弁蔵

同手永御領村居住右同

平四郎

但、此節苗字御免御惣庄屋直触被仰付被下候様

右者、此度炮箸御製造ニ付、口立之通寸志差上度奉願候処、願之  
通被召上、夫々上納相濟申候間、孰茂但書之通進席被仰付被下候  
様奉願候。此段、御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

元治元年七月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

〔右、左之〕  
彦右衛門以下八人、達之通ニ而寸志高究之規矩ニ相当申候間、但  
書之通進席可被仰付哉。

〔朱書〕  
〔右子七月廿三日達〕

三八八 小郷四郎助

(二〇一丁六)

覺

松山手永下松山村居住御郡代直触小郷藤兵衛

養子

小郷四郎助

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、壮健成人物ニ而、武芸数々心懸厚、劍術・居合・捕手者目録、炮術者極意相伝相濟居、武芸引廻茂申付ニ相成居候ニ付而者、同門之面々手厚倡立候由ニ而、行状ニ付異候唱相聞不申、松山手永之儀御郡並之御用請持被仰付置候。地士并御郡代直触より地士之勤稜仕候者老人茂居不申、諸御用差支候由承申候。以上

子六月

渡邊平兵衛團

御内意之覚

松山手永下松山村居住御郡代直触小郷藤兵衛

養子

小郷四郎助

当子三十六歳

右者、人柄宜敷壮健成者ニ而、武芸稽古兼々心掛厚出精仕、相伝相濟候稜々、左之通ニ御座候。

一 炮術中村次左衛門門弟ニ而稽古仕、文久三年十一月極意拘伝心并軍場密伝にて相伝仕候。

一 劍術和田金右衛門門弟ニ而稽古仕、文久二年九月目錄相伝仕候。

一 居合恵良左十郎門弟ニ而稽古仕、文久二年四月目錄相伝仕候。

一 捕手庄村角兵衛門弟ニ而稽古仕、文久二年九月目錄相伝仕候。

一 安政五年中村次左衛門大筒手ニ而相尋御陣屋詰被仰付、同六年三月跡詰着之上、同所被差立候処、同年九月相尋御備場詰中劍術・捕手・居合并學問大小炮・歩操等稽古心掛能出精仕、平日慎方茂宜敷有之候旨ニ而、金子彦兩被為拜領候。

一文久元年十一月松山手永御家人中、武芸稽古引廻申付置候。

右之通、兼々武芸心掛厚、出精、数々相伝茂相濟居、其上松山手

永御家人中子弟武芸引廻申付置候ニ付而ハ、同門之面々手厚相倡、往々御用ニ相立候者ニ御座候処、同手永之儀至而、御家人少ニ茂御座候間、御郡代直触ニ被召出、御郡並之御用受持、地士之勤稜等被仰付、一列無役之口ニ被付置被下候様有御座度、於私茂奉願候。尤右相伝年月学校御目附江問合候処、相違之儀無御座候間、別別紙間合書相添、御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

元治元年四月

入江次郎太郎

(朱書)  
[左之覚録之通、子七月廿日達]

御郡方

御奉行衆中

僉議

四郎助儀、達之通ニ而、武芸数々心懸能、炮術極意拘伝心并軍場密伝にて相伝相濟、劍術・居合・捕手目録相伝相濟、御家人中引廻茂申付ニ相成居候付、松山手永之儀、御家人少之所柄ニ茂有之由ニ付、御郡代直触被仰付、地士之勤稜被仰付、御郡並之御用受持被仰付、一列無役之口ニ可被付哉。

三八九 辛川喜一郎

三八九 辛川喜一郎

(二〇一丁六)

覚

郡浦手永下長崎村居住一領一疋ニ而病死仕候

辛川良右衛門伴

辛川喜一郎

右者、親跡相統別紙之趣ニ付承繕申候処、手堅人物ニ而筆算達者ニ  
仕、武芸茂心懸能出精いたし、炮術者目録、劍術・長刀者中段相  
伝相濟居、会所役茂数十年手全ニ相勤候由、行状ニ付異候唱相聞  
不申、父子勤年数本紙之通ニ而、御赦免開等者所持仕居不申由、  
承申候。以上

子六月

渡辺平兵衛印

御内意之覚

郡浦手永一領壹疋ニ而致病死候辛川良右衛

門悴

辛川喜一郎

当子五十三歳

右喜一郎父辛川良右衛門儀、寛政十年会所小頭申付候。

一網田村小前之者共難渋ニ付、貸付置候質地代錢捨方いたし候ニ付、

文化十一年十月親跡御郡代直触ニ被仰付候。

一窮民御取救御手当として寸志差出候に付、天保三年十二月地土ニ

被仰付候。

一文化十二年八月会所詰ニ申付、北浦在御給知受込申付、同十四年

十一月栗崎村庄屋後見兼勤申付候。

一文政七年四月、御給知在受込持懸ニ而会所手代役申付候。

一右御給知在六ヶ村之儀、無類之零落所に而御座候処、受込中成立

筋仕法立等種々尽を付養水方并水気拔等之新井手立、且新堤堀方

等別段心を用精勤仕候に付、地味変化仕、一毛作之畝方茂跡作出

来いたし候様相成、漸々農力相増申候。

一嘉永五年十二月、役方五十年余心掛能致出精、村方成立筋厚心を

用、水気拔新井手立并新堤堀方ニ付而茂格別精勤仕候旨ニ而、一領  
壹疋被仰付、郡浦会所見扱并北浦在見扱申付候。

一安政三年三月、会所見扱者差免手永見扱申付、御給知在受込之儀

者是迄之通申付置候。

一同四年九月、御給知在受込之儀者差免、手永見扱迄申付候。

一文久三年二月、老衰之上病氣差發難相勤、願ニよつて手永見扱之

儀差免申候。

一寛政十年年より去亥年迄、役方都合六十六ヶ年出精相勤、当二月

病死仕候。悴喜一郎儀、文政九年会所見習申付、天保三年会所小

頭ニ繰上ケ申候。

一天保九年、波多村ニ而手永開御築立ニ付、出精相勤候段、御間御

聞届ニ相成申候。

一同十年、松橋・亀崎両所ニ而下益城・宇土催合新地御築立ニ付、

御用懸被仰付、始末詰切程ニ而精勤仕候ニ付、天保十二年鳥目式

貫五百文被為拝領候。

一嘉永六年三月、会所詰申付、官錢方并御困粉方、且戸口浦村零落

成立受込兼勤申付候。

一文久三年、官錢方・御困粉方者差免、当用根方申付候。

一天保九年、御巡見様御通行御用相勤出精いたし候段、御間御聞届

ニ相成申候。

一嘉永元年、北浦新地御築立ニ付而出精相勤候ニ付被賞、鳥目壹貫

六百文被為拝領候。

一同七年、鯨・沼山津水理一件ニ付、所々御普請受込致出精候ニ付、

鳥目七百文被為拝領候。

勤年数都合三十九ヶ年

七ヶ年 会所見習

二十年 小頭役

十年 会所詰ニ而稜々受込兼勤

二年 会所当用根付

父子

勤年数都合百五ヶ年

右喜一郎儀、惣躰手全成者ニ而役方数十年、心掛厚出精相勤候内ニ而、稜々受込兼勤仕、其外所々新地御用懸をも被仰付、武芸之儀、炮術中村次左衛門門弟ニ而目錄相伝仕、劍術新居七左衛門、長刀入江太郎八門弟ニ而、両芸共中段相伝仕、居合矢野彦左衛門門弟ニ而七曜相伝仕、往々御用ニ相立候人柄ニ御座候ニ付、父六十六ヶ年、喜一郎三十九ヶ年、父子ニ而百五ヶ年之勤勞旁ニ被对、父同様一領一疋相続被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

元治元年五月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

喜一郎儀、達之通ニ付父良右衛門会所小頭以来六十六年、喜一郎儀会所見習以来三十九年相勤、一領一疋被仰付候而茂十三年に成候付、究之通父同様一領一疋可被仰付哉。

(朱書)  
「右子七月六日達」

三九〇 岡村庄太郎

(二〇一丁六)

御内意之覚

松山手永

宇土町居住諸役人段

一錢七貫目

岡村庄太郎

右者、今度炮器御製造ニ付口立之通、寸志差上度奉願候処、願之通被召上、夫々上納相濟申候間、庄太郎儀、何卒歩御使番列進席被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

元治元年七月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

庄太郎儀、達之通ニ而、寸志高究之規矩ニ相当申候間、歩御使番列可被仰付哉。

(朱書)  
「右子八月十日達、同十八日申渡」

三九一 松川庄三郎 他

(二〇一丁六)

御内意之覚

郡浦手永御郡代直触

一錢壹貫目完

松川庄三郎

河野伝之允

河野惣太郎

一 錢壹貫目 郡浦手永御郡代直触  
一同式貫五百目完 御郡簡

河嶋惣作  
鎌賀直平

直触可被仰付哉。  
(朱書)  
「右子八月廿六日達」

元松次郎右衛門  
松川順左衛門  
中川金助

三九二 久保桂助

(二〇一丁七)

但、此節孰茂地土進席被仰付被下候様  
一同壹貫五百目完 同手永御郡簡

木下藤右衛門  
嶋田孫三郎

木倉手永御惣庄屋并御代官兼帯

久保桂助

桑原五郎右衛門  
池田助左衛門  
堀内清右衛門  
村崎文左衛門

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、会所見習以来役々五十年余、心懸厚出精いたし諸木仕立方を初、新道並目鑑橋懸方水理除御普請、其外村之成立筋等功業相頭候由ニ而、勤年数等委細者本紙之通相聞申候。以上

一 錢壹貫五百目完 郡浦手永御郡簡

岡村安太郎  
高瀬清之允

子八月

宗村弥久馬

但、此節孰茂御郡代直触進席被仰付被下候様

御内意之覚

木倉手永御惣庄屋并御代官兼帯

久保桂助

右者、今度炮器御製造ニ付寸志差上度奉願候処、願之通被召上、夫々上納相済申候間、何卒孰茂但書之通、進席被仰付被下候様、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

当子六十五歳

元治元年八月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

庄三郎列、達之通ニ而、寸志高究之規矩ニ相当申候間、但書之通

右者、文化八年未七月野津会所見習申付、同十二年亥六月小頭当分申付、文政二年卯正月小頭本役申付、四百町新築立御用懸ニ而、井手立道立并地割受込被仰付候。

一文政三年辰八月七百町新地御用懸ニ而、際目立測量且御普請積方ニ被召仕、根割役申付、右持懸ニ而江道水門并同所兩塘受込御普請小屋根居ニ而、井手立道立地割受込申付居候由、上方流塩浜御仕立ニ付、中国筋より赤穂迄所々塩浜之模様見繕之為、同五年正月

より被差登、浜方功熟之者雇入、同三月帰国致和合塩浜仕立受込被仰付相詰申候。

一同六年未四月小頭持懸ニ而、和合塩浜庄屋并沖手塘手見拟兼帯申付候。

一同七年申正月和合入江御普請向受込申付、同十月迄ニ仕上相済申候。将又同年七百町・四百町新地明細調ヘニ付而、沖手塘筋并所々水門等明細調受込申付、翌年三月迄ニ仕上申候。

一同八年酉三月塩浜庄屋役被差免、上官原村庄屋ニ所替申付、尤沖手御普請中ハ罷出、和合水門受込申付候。

一同年十二月、立花左近将監様於御領地新田開発之砌、新地方ニ手馴もの一兩人彼方様より御申請之節、小田七郎右衛門被差越被付被差添、同九年正月出立、同七月致帰国候。

一天保三年辰十一月上官原村庄屋被差免、西野津村庄屋ニ所替申付、宮原町庄屋兼帯申付候。

一同六年未六月宮原町庄屋被差免、西野津村庄屋持懸ニ而、北野津村庄屋兼帯申付候。

一同十一年子正月鹿嶋尻新地築立ニ付而、水理井手并井樋橋礮出来受込申付候。

一同十三年寅八月西野津村・北野津村庄屋被差免、下宮原村并宮原町庄屋ニ所替申付候。

一同十四年卯六月庄屋持懸ニ而欠跡御郡筒ニ被召抱候。

一弘化元年辰四月庄屋役被差免、野津会所手代根役申付、御用米錢数十年継取拟折柄ニ付、御年貢御取立一卷并御用錢受払別而念を入レ根ニ成申談候様申付候。

一同月河原町・宮原町成立受込申付候。

一同年十月手代持懸ニ而手水見拟兼帯被仰付、在勤中御郡代直触ニ被仰付候。

一同二年巳十二月当時迄之役儀被成御免、唐物抜荷改方御横目在勤中諸役人段被仰付、御郡代手附横目兼帯并野津会所見拟申付、野津・種山并勤申付置候処、翌正月并勤ハ被成御免、種山受持迄申付候。

一同三年午五月野津会所見拟之儀ハ依願被成御免、横目役勤向野津・種山并勤申付候。

一同四年未三月四百町・七百町新地檢地御用懸申付候。

一同年十二月野津・種山并勤被成御免、高田江受持替申付候。

一嘉永二年酉三月当時迄之役儀被成御免、水俣手水御山支配役被仰付、同所会所見拟兼帯被仰付候。

一同五年子四月松山手水御惣庄屋当分御代官兼帯在勤中、諸役人段被仰付、同月砂川尻新地築立御用懸被仰付候。

一嘉永六年丑十月寸志之訳ニ被对、一領一疋被仰付候。

一安政四年巳四月御惣庄屋御代官兼帯本役被仰付、御知行高式拾石被下置候。

一万延元年申十月廻江手水ニ所替被仰付、病氣ニ付御断申上、一領一疋ニ被仰付、役方数年心懸厚出精相勤、水俣御山支配役在勤中

諸木仕立方并会所見拟筋、松山手水在勤中零落村成立筋・水理仕法替等、彼是格別心配いたし、追々功業も有之候由ニ而、作紋御小袖一ツ被下置候。

一文久元年酉十一月田浦手水唐物改方御横目在勤中、諸役人段御郡代手附横目兼帯被仰付候。

一同三年亥三月佐敷手水御惣庄屋御代官兼帯被仰付、御知行高式拾

石被下置候。

一 当子三月御知行高持懸ニ而木倉手永御惣庄屋ニ所替被仰付、御代官兼帯被仰候。

右之通、会所見習以来惣年数五十四年、出精相勤候中、御賞美稜々左之通、

一文政六年未十二月八代太牟田新地、且高嶋新地兩御普請場之始末罷出骨折いたし候旨ニ而、鳥目式貫文被下置候。

一同八年酉十二月七百町新地御築立、江道水門同所兩塘受込、沖手惣坑引受主ニ成取計、潮留之節大俵運送笠服御普請引受、天草表江も度々罷越候。一 地方割塩浜仕立等致出精、太無田并七百町新地御築立御入目調へ致出精候ニ付、礼服小脇差被成御免候。

一同月立花左近將監様御領知新地出来ニ付而ハ、彼方様より御送物白銀式拾枚、帷子地老疋杉浦仁一郎宅ニ而被下置候。

一天保七年申十二月陸入江堀割其外所々御普請太造之儀ニ候処、始末罷出致出精候旨ニ而、鳥目式貫文被下置候。

一同十年亥三月去秋年貢御取立、日限通皆納いたし、去年柄別段心配いたし、御改革之御主意行届致出精候段、御聞届之旨被仰渡候。

一同十三年寅正月鹿嶋尻新地出来ニ付而、追々之出夫并明俵類之手当に且受負丁場築立潮留之節、夫方共衆ニ無支様取計、出百姓倡方等種々致心配候旨ニ而、鳥目式貫文被下置候。

一 弘化二年巳十二月当秋御年貢納ニ付而ハ、初秋より村々打廻、庄屋以下申談彼是厚心配いたし、一手永余計之俵數聊無申分、速ニ皆納メをいたし候旨ニ而、鳥目式貫文被下置候。

一 嘉永四年亥十二月去年八月大風倒木御用元錢御払木一件、厚心配いたし候旨ニ而、為御心付金子貳百疋被下置候。

一 安政二年下益城八城海辺於砂川尻、新地出来御用懸被仰付、戸馳石取出、宇土海辺御山竹木取出、且御普請筋ニ相加り申談、格別出精いたし候旨ニ而、作紋麻御上下老具被下置候。

一万延元年申四月御年貢納御取締一件ニ付而ハ種々心を用、村庄屋以下示方行届、納中追々御蔵方江も罷出格別致心配、別而去秋ハ一統水害虫付等ニ而手全年柄ニ候処、手永惣廻いたし候ニ付、作紋御給一ツ、金子貳百疋被下置候。

右之通、文化八末年より会所見習四ケ年、小頭八ケ年、庄屋二十一年、会所手代一年、唐物拔荷改方御横目・御郡代手附横目兼帯前後六年、御山支配役三年、御惣庄屋前後十一年、都合見習以来五十四年之内役附五年。右之内、於野津会所詰庄屋手代手永見拟在勤中、地場勤之分、太無田在高嶋四百町・七百町、鹿嶋等新地受込御用、且山ニ而大道難渋之ケ所々々新道立、御郡代手附横目会所見拟在勤中一鉢之取抄筋、水俣御山支配役在勤中御山仕立方井通路難渋之所柄十ヶ所余、目鑑橋懸方、於松山当役在勤中会所官錢之改革、旱田所大堤築立、或ハ新地築立・水害除御普請・宿駅備、且又御年貢米納為便利、新開御蔵建設方并村々成立宇土町成立筋等、格別出精相勤候ニ付而ハ前文之通追々御賞美被仰付候ても、一領一疋席之儀ハ依寸志被仰付、右之通ニ而惣年数五十四年役付五十年ニ相成、數稜ニ亘り別段之功蹟ニ被対、今度御知行高拾石被増下候様、於私奉願候。左候ハ、急度相競ヒ添増御用向出精相勤可申候。見込候条則別紙御惣庄屋書付共相添、此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

元治元年六月

村上善九郎



御郡方

御奉行衆中

僉議

桂助儀、会所見習以來五十年余之内ニ者、唐物拔荷改方御横目六年、御山支配役三年、御惣庄屋前後十一年、諸事心懸能出精相働、当二月木倉手永へ所替被仰付、右勤中諸米仕立方・新道立・目鑑橋懸方・水理除御普請・村々成立筋等、稜々功業之次第者委細本紙申立并御横目見聞書之通ニ而、木倉手永御惣庄屋御知行究高三拾石之所柄、殊ニ五十年之勤勞茂有之候間、旁を以申立之通御知行高拾石可被増下哉

(朱書)  
[右十九日、同日、同廿三日申渡]

久保桂助在勤年數御賞美等之稜、別紙を以書上候通ニ御座候得共、勤勞稜立候分大略書上候覺

一天保・弘化之間宮原町庄屋・野津会所手代在勤中、下嶽村大道より宮原まで新道立御用懸惣受込被仰付候。右御普請筋、天保十四年七月より積方等取懸、弘化元年七月まで御普請向相濟申候。

一嘉永年中水俣御山支配役在勤中、同手永往還筋谷川渡難渉ニ付而、目鑑橋民力強寸志を以懸方被仰付候。御普請御用懸被仰付大小目鑑拾二口、嘉永二年五月より取懸、同三年四月迄仕上相濟申候事。  
一同手永薄原村懸桜野上揚野方田開御普請御用懸被仰付、嘉永三年四月より取懸、同四年四月仕上相濟申候。

一御山開拾町三反五畝

此德米五石壹斗七升五合

但、竿畝拾割延ニ而反五升完

但、水俣御山方備として、嘉永三年より同四年迄願開仕候

分

一御山藪仕立式百九拾八町壹反三畝

式百六拾四町

野方新仕立分

三拾四町壹反三畝

荒御山藪仕立

五反

矢筈竹仕立

三町三反三畝

真竹仕立

八反

櫻仕立

八拾町

櫻仕立

式百三町五反

松仕立

水俣手永之儀、広太之野方有之、御山仕立方手厚倡來ニ相成候得共、御山立ニ相成候而者所柄迷惑難渉之稜有之、故障申出通之仕立ニ相成候而茂、野火入等ニ而御山立兼候意味有之候ニ付、所柄作地懸ニ直、無能之御山立之所開明、德米御山方備ニ願立、御山方ニ付而出在御役人初在役々賄等之足、運用取行ニいたし野方ニ代山仕立御山繁茂之上者弥増、上下之御為ニ相成候。弁利仕法筋小前々々申諭相倡候處、御山開且新山仕立等速ニ右之通相整申候。

一指杉壹万六千七百七拾本 所々荒御山之内ニ仕立方仕候分

一錢三百八拾壹貫五百拾四匁四分七厘壹毛壹弗

右者、松山手永諸開德米一步半米諸拝借等、御間上納滞稜々并会所御用錢向等閑ニ成行居申候處、嘉永五子四月より志らへ分取懸ニ相成、御間向百貫目程之儀ハ、同年七月利境御算用一回上納相濟、会所御用錢向筋合相立兼候分、村町之停滞數百稜ニおよび、享和元年以來年數五十ヶ年余ニ亘り、其中ニ者村庄屋会所受込ミ者死亡転変ニ而、紀綱相弛ミ弥重り、内輪纏合候をしらへ詰ニ相成、右滞之内、百式拾五貫目余者向々より現納相濟、殘分者其

程々三心、地方御買上御出方、或者年賦上納等ニ被仰付、数十年  
来之因循御改革筋相立、其後村々諸上納向等、限々無滞相納、諸  
御根帳向等茂正敷相成申候。

一 錢七百四拾七貫七百目余

右者、松山手永ニ而諸御間拝借并諸方より之会所引受取組之借用尻  
遺亂いたし、向々返納不都合ニ成行居候分、寛年賦願、或者元入  
等之取扱ニ而御間拝借分、諸方借用分共、程々筋付片付ニ至申候。

花園下ケ名

一 堤一卜口

立岡村

懸

此帳畝四町壹反九畝拾五歩

佐野村

此竿畝五町四反八畝拾五歩

外ニ

空地三町貳反七畝拾八歩

合八町七反六畝三歩

内

壹町四反

但、塘床并野井手床ニ相成候分

残七町三反六畝三歩

水溜畝

此水坪七万八千八百九拾五坪

但、水溜深サ撫三間五合勺本行之通

此夫数拾五万五千四百拾九人

但、右堤・堀一切并樋發塘堀刻ニ懸

候限夫積前、上下益城・宇土十二手

永出夫被仰付候。依之十年廻宇土川

浚拾五・六万人之夫費相除申候。

入目錢八拾七貫八百七拾七匁三分八厘

三拾六貫四百目

但、初發積前之内宇土様御出方分

拾三貫六百目

但、右同断之内松山会所御用錢之内  
より拜借被仰付置候分

三拾八貫七拾七匁三分八厘

但、積前より増入目分松山手永御家

人中継目寸志倡方被仰付、民力強守

志相調候分

價米九拾五石八斗壹升五合五勺壹才

三拾貳石八斗六升六合七勺

但、宇土方より永久償可被下分

四拾壹石九斗六升五合八勺七才

但、去ル午年より十ヶ年之間一步半

米之内より御償被仰付候分

貳拾石九斗八升貳合九勺四才

但、堤懸御本末村々畝懸を以出来仕

候分

田畝貳百七町八反五畝貳拾七歩

堤養水懸分

五拾九町八反五畝貳拾七歩

御本方八ツ村分

百四拾八町

宇土御知行所六ヶ村分

一字土川間数貳千六百三拾七間五合

但、宇土舟場より三拾丁橋下吐合迄

内

六百拾三間五合

但、宇土川之内当時古川用ニ相成居  
候分

残貳千貳拾四間

此坪三万三百六拾坪

畝ニして拾町壹反貳畝

但、宇土川左右塘床共幅撫拾八間有之候を、中通三間井手立ニして、殘拾五間起畝可仕見込分、尤川埋相濟起畝ニ相成候上、徳米者堤床費地價米等之内ニ可被渡下段、御達被仰付置候

一新川間數三拾七間四合

但、樋発塘堀刻被仰付分入目錢井夫數等者前条一紙ニ相分居申候

右者、松山手永宇土御知行所瀉村在并郡浦手永北浦在田方養水之儀、緑川送水取入来候ニ付而ハ、虫害・穂枯・蟹荒等之災害多、其上數千間経廻候。宇土川一ト口より水差入強雨増水之節、引方悪ク一円數十日水浸ニ相成溢来之難渋ニ而、村町次第ニ衰落仕候ニ付、水旱之両害相除候様、先役共代々宇土役所よりも精々心配ニ相成来候得共、両全之仕法調兼十年廻ニ者、宇土・下益城而御郡より拾五・六万人之出夫を以、宇土川浚方被仰付来候程之難渋之川筋ニ付而、嘉永七寅年依願宇土舟場口より築籠村下名迄之処三百六拾七間、而御郡出夫を以新川立御普請被仰付、樋発塘堀刻之儀ハ養水塩気差之恐有之候ニ付、立岡村・佐野村懸ニ而新堤築立樋発、押水ニ合水仕せ養水之仕法被仰付、三拾丁橋下モ三俣築切樋発堀刻等之儀、江嶋伝左衛門殿・上妻半右衛門殿・而御郡御惣庄屋以下右ヶ所々々御免分被仰付、三俣築切樋発堀刻者、先三ヶ年御賦之御普請ニ而、花園堤築立可被仰付御參談相決、上下益

城・宇土都合十二手永出夫を以、翌卯春口立之通御普請被仰付、成就ニ相成申候。右ニ付而者、第一宇土川筋式千六百間余之古川樋発堀刻被仰付候処ニ而、九百九拾八間五合ニ相減、水行順流ニ相成候故、十年廻夫數拾五・六万人、下益城・宇土而御郡出夫を以浚方被仰付来候処、其夫費も相省候様ニ相成、水理之儀者潤川尻と宇土川別流ニ相成候処ニ而、廻江・杉嶋・守富在・松山手永御本方岩熊・布古閑・上古閑・曾畑・佐野・立岡・古保里・境目・善導寺・松山・下松山・伊無田・小曾部・笹原拾四ヶ村、宇土御知行所松原・馬瀬・江部・築籠・新町・本町六ヶ村、郡浦手永北浦在一順水害簿相成、送水取入之ヶ所も溜水無之、朝夕入替り押水差引宜敷相成候処ニ而者、潮時洄間之無差別養水取入、三ヶ年御賦中聊塩気之障も無之、一統安心ニ相成申候。就而者、松山・郡浦兩手永、宇土御知行所村々ニ而高七千八百四拾五石余之処ニ而、去ル天保六年より二十ヶ年ニ而御損引下反別御心附米共現米壹万四千六百四拾三石余、一ヶ年ニ撫七百三拾式石余ニ相当申候処、右御仕法ニ付而近年一統凶作統之中ニ茂、御損米過半相減、御本方三日・佐野・上古閑・曾畑・布古閑・古保里村之儀、潤川筋江村限土積仕養水仕来候分、都而頭より懸水ニ相成候間、土積築方ニおよひ不申、入用竹木明俵繩費無之、夫手間懸り不申、洪水吐之弁利共至極宜敷相成申候。将又、立岡大堤養水懸之儀、弁天堂下タニ居込ニ相成居候井樋、花園堤ニ築込候間、揚ヶ樋ニ相成、立岡村下夕井手塘より之漏水并四度橋笥より漏水を東目村々之養水ニ引落来候儀、新堤築立後右様之儀も無之候ニ付而、大堤養水相増候而、近年非常之照統茂御座候得共、早損之患無御座、先者、松山手永而海辺引残、西目東目瀉村ニ而式拾五ヶ村ニ亘り水旱之両

害を免レ、成立之際相立一稜之儀ニ御座候。

一新地一ヶ所

松合村

塘手間數八百四拾五間七合六勺

入目錢貳百貳拾貳貫貳百三拾六匁四分八厘

百五拾貫五拾六匁六分七厘

御郡方御出方

七拾貳貫百七拾九匁八分壹厘

村方出錢

荒畝數九町六反六畝拾八步

生畝五町貳反壹畝六步

費地畝四町四反五畝拾貳步

塘床入江床井手床道床分

定徳納米貳拾六石六升

反撫五斗完

右者、松合村之儀元屋敷畑六町壹反程之処ニ、寺社・御家人・御百姓・漁師共竈數六百軒程建並、惣人數三千人余有之。其内寺社・御家人・御百姓家百軒余引除候得者、漁師共屋敷者、纔三步内外之屋敷ニ相当、谷間羽重に家建之上、養水之便り者無之、出火之節者火消之人路茂無御座、既ニ文政九戌年より安政元寅年迄六度之火災ニ而、竈數千五拾三軒及焼亡、且流行病毎も片端より必多押ニ伝染仕、誠ニ難没至極之所柄ニ御座候処、年増人數著相増近年之所ニ而者家を建候昆地も無御座、九尺三間家をへり切多人數相住居、弥以火難之恐不少、いつれ茂寢食を易兼居候仕合ニ御座候ニ付、依願安政三年口ニ書上申候屋敷新地御築立被仰付、直ニ小前々々屋敷割渡ニ相成、即年より生畝反ニ米五斗完之定反上納被仰付候、口立之通無滯上納仕、銘々地形を持上追々ニ新家取建競立申候儀ニ御座候。其上三ヶ所之波戸ニ五百艘余之漁船囲來候処ニ而ハ、強雨風波之節ハ舟々同士當ニ而破損仕候儀も有之、加之網道具干場茂無御座難没仕候処、此節新地内ニ三ヶ所舟入江立方

被仰付候処ニ而ハ、入江塘両方ニ續を繋候故、御築立後追々強風

波茂有之候得共、同士當損等無御座、諸漁之網具入江塘筋ニ立、

至極弁利宜敷相成、古屋敷羽重子之家間引を以引出申候処ニ而ハ、

火災・伝染病等之憂も薄相成、從來之難没を除り候儀ニ御座候。

一錢四拾八貫目

右者、宇土町之儀近年零落難没ニ陥り居候ニ付、嘉永七年吉田平之助殿宇土郡御在勤中、町内富家之面々拾人、所柄成立御用懸被仰付置、其後安政二年岩崎物部殿宇土郡御所附之上、上中下至貧難没之厚薄段等しらへ方被仰付、病根を御糺ニ相成候而、宇土町富家之面々へ講組立御倡被仰付、口立之錢辻相整家門組精情之見計を以商売方元手錢として貸渡被仰付、朝起倡役を被立置、毎朝正六時起方之板を鳴し、無怠倡方被仰付候ニ付、いつれ茂商売方勵合、無産業之者無之様ニ相成、將又、町会所新規取建方被仰付、一鉢御改革被仰付候間、成立之際相見申候。

一新井手間數千五拾三間五合

幅三間

此夫壹万六拾三人

右者、松山手水御本方松山・境目・善導寺・古保里四ヶ村、宇土御知行所江部・松原二ヶ村、右御本末相境至而地低深沼所ニ而、牛馬乘入出來兼、鍬先拵ニ而一毛作之地方之上、旱ニ者旱損、雨年ニ者水損・虫害・穂枯・蟹荒等種々災害ニ而、毎歲々々御足米願出、就中、善導寺・境目沖者取分難没地ニ而、反別御心附米をも被下置候得共、地方受持主無之、毎歲刻付作ニ而地方漸ク相治り來申候所柄ニ御座候処、安政三辰年、依願本行之間敷新井手立被仰付候ニ付、右一畷願地ニ相成、右刻付作之地茂銘々請持相定、いつれ之村々茂競立勸農ニ基申候。

一 錢百五拾貫目

此德利米七拾五石 但、百目ニ付五升完ニ而、徳地御買上  
取極被仰付置候分

内

三拾七石五斗 但、榎嶋長次郎方江百目ニ付式升五合  
定ニして、本行之通徳米年々引渡ニ相  
成候分

残三拾七石五斗

但、会所備ニ而補助可被仰付分

右者、松山手永宇土駅之儀、近年人馬立次第ニ相増候処ニ而ハ内輪  
取行難渋ニ付而、為補助山海開、徳米五拾石ニ備り候丈開地も御  
免被仰付置候得共、可然場所茂無御座、補助筋相立兼居申候。將  
又、同手永之儀海辺者南北共三里余定隔居、通行海陸を受掛り之  
市在者宇土町・松合・高良・御領難業入乱仕、大場之ケ所々々い  
つれも零落程々申分無絶間、彼是格別会所向繁多之ケ所事柄者逐  
年相増、下地相定居候会所役人迄ニ而ハ難被行、漸々と人増ニ相  
成、給米之運無御座、出来増ニ而も不奉願而難成様相成、内輪甚  
夕難渋之儀御座候処、安政二年宇土町居住御奉行衆御触、御中小  
姓榎嶋長次郎へ本行之錢辻調達ニ相成候様參談儀、右錢辻差出口  
立之通、殖方願立ニ相成候処ニ而ハ、年々三拾七石五斗完駅所并会  
所役人給補助備出来仕居、後年逸稜之儀御座候。

一 水坪九千五百五坪

一 夫壹万三千六百五拾四人

此夫飯米百三拾六石五斗四升

右者、北浦御新地養水、嘉永五年下網津村七曲へ新堤一ト口御築  
立被仰付、水溜畝式町七反九畝、水坪壹万千六百三拾坪之養水御

仕法立被仰付置候処、養水及不足端々之坪々者養水行届不申塩吹、  
当毛荒畝年々余計ニ有之候処、安政五年年養水増為御仕法、右堤  
笠上服付御普請被仰付候処、口立之水坪相増養水充分ニ相成上納  
米相増、以往年々塩吹畝も相減上下之御為合筋ニ御座候。

一 貫穴間數六拾六間

右者、北浦御新地養水之儀、七曲堤御築立を以取賄被仰付置候処、  
笹原村懸別段之地高ニ而、是迄之井手筋ニ而者養水乘兼畑戻をも不  
奉願而、難成程之坪々も多有之候ニ付、去未年同村懸者入坂ニ口立  
之間數貫穴一ト口御出方を以御普請御願立相成、御普請向成就仕  
候処、水道勾配能須流仕候故、端々地高之田面迄も一円無残所行  
亘り、差寄之功驗相見申候。先者永代不朽之御仕法筋相整、一稜  
之為合ニ相成申候。

一新規御蔵壹軒

新開御蔵

此入目錢式拾三貫七百拾七匁五分七厘

内 拾四貫目

但、頭一刻利懸込十二ヶ年賦返納

ニして、御間より拝借被仰付候分

九貫七百拾七匁五分七厘

但、御蔵下村々より出錢仕候分

右者、宇土郡松山・郡浦両手永御年貢米并小麦、河尻御蔵扱仕来  
候分之儀數、凡壹万八千俵程ニ御座候処、緑川筋洲高相成候処ニ而、  
積登之船難渋仕候ニ付、去ル天保六年依願馬瀬村・新開村懸ニ御  
米山床被立置、同所ニ而御受取方被相成、山積被仰付置、廻船着  
次第御積出被仰付、村々逸稜御弁利来申候。然処、山積ニ而ハ苦  
買入又ハ御積切ニ相成候迄ハ、御役人衆滞被相成、右ニ付而余計  
之雜費も多ク、尙儀ニ付米四合完村々より差出候分ニ而取賄出来

兼候様ニ御座候間、小前々々難渋之稜も御座候間、口々書上申候

御蔵老軒郡浦申談之上ニ而願立、入目錢之内以前御米山床御取興

之見合を以、御間拝借被仰付被下候様、安政四巳年願ニ相成候処、

願之通御免被仰付候間、即年御蔵入之間ニ逢候様夫々成就仕申候。

然処御蔵弘向之儀、少々打曇候日和ニも弘方相濟、且又劔俵仕直

等者御蔵差卸之雨内ニ而受取支不申処ニ而ハ、雨天之時分も請取ニ

相成候儀有之、彼是弁利能相成候ニ付、以前六十日もかかり申候

御蔵弘、四十日程ニ而相濟、左候而皆納ニ相成候処ニ而者、御蔵者御

封印ニ而御役人引弘ニ相成、在御家人之内番衛迄被立置候間運用

過半相減、加之苦代もがり垣竹伐共ニ老貫目余年々相減、老俵ニ

付四合完出来致候分も、追而ハ纒ニ而相濟可申村々難渋除り、一

稜之事業筋ニ御座候。

一米老万式千六百四拾九俵

右者、去ル安政四巳年以來、御蔵弘格別御取締被仰付候ニ付而ハ、

別段御達之趣有之村々庄屋以下弘頭等、追々会所元へ呼出ニ相成、

骨折村々を茂打廻ニ相成候而、小前々々迄も御取締筋委敷相示、

俵造米拵等精々入念候様申付、新開御蔵方へハ不絶出張厚心配仕

候ニ付、同年以後数ヶ村惣通有之、安政六未年同所御蔵弘口立之

通、手永中等敷惣通仕、上下為合筋ニ而、万延元年四月左之通被

仰付候。

御年貢納御取締ニ付而ハ、種々心を用、庄屋以下之示方等行届納

り中、追々御蔵方へも罷出格別致心配、別而去秋者一統水害虫附

等ニ而、手入之年柄ニ候処、手永惣通をも致候ニ付、作御紋御給一、

金子式百疋被為拝領候段、御書付を以被仰渡候事。

一 砒塚川

新堀八拾五間

此費地式反程

古川七百五拾五間

此起畝八反程

右砒塚川之儀、木原山上古閑村懸以下谷々打出、岩熊村魚似と申

所ニ而潤川ニ落入、強雨之節者廻江懸南田尻村一繩手ニ辺り弘来候

処、先年廻江より境塘築立候故、松山懸岩熊・上古閑・布古閑・

曾畑・佐野五ヶ村之沖田、強雨毎数日水浸仕、赤水故地味相衰候

上、年々不毛之畝方多、随而者場荒等も増長いたし不絶御難題筋

を茂奉願、難儀之次第候処奉願、右砒塚川を花園山林床□ニ而潤

川ニ掘移被為成候処、一円溢来之水害相除、其後、いづれも能心を

得申候。猶野井手立ニ而野水を除、潤川ニ底樋を居込、一体之水

氣ハ宇土船場川之様ニ引抜之仕法、且潤川通船ニ而御蔵米積送、

まるめら測之附垢を積入候而、悪田変化之仕法等組立、一稜為合

相成申候事。

右之通ニ御座候。以上

元治元年五月

光永四兵衛

三村伝之助

三九三 沢田嘉左衛門、吉田彦太

(二〇一七)

御内意之覚

一 錢七貫目

郡浦手永一領老疋

沢田嘉左衛門

一同拾貫目

地土

吉田彦太

三九四 虎左衛門

(二〇一丁七)

右者、今度炮器御製造三付、寸志差上度奉願候処、願之通被召上、夫々上納相濟申候間、何卒孰茂独礼ニ進席被仰付被下候様、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御参談可被下候。以上

覚

元治元年八月

御惣庄屋直触ニ而松山会所詰

入江次郎太郎

虎左衛門

御郡方

御奉行衆中

僉議

嘉左衛門・彦太儀、達之通ニ而、寸志高究候規矩ニ相当申候間、独礼進席可被仰付哉。

(朱書)  
右子八月廿六日伺  
十一月五日申渡一

御内意之覚

子十月

工藤覚兵衛<sup>㊦</sup>  
倉岡運作<sup>㊦</sup>

御惣庄屋直触ニ而松山会所詰

虎左衛門

覚

当子三十八歳

郡浦手永波多村居住、一領意正沢田嘉左衛門并網田村居住地土吉田彦太儀、御用御座候旨ニ而、明後十五日四時分、御奉行所江罷出候様御達之趣奉得其意候。然処、嘉左衛門祖母今十三日病病仕、(死)伍列より別紙御届達申上候通ニ御座候。且又、彦太実母先月廿八日病死仕候ニ付、其節御届申上候通ニ御座候。兩人共ニ忘中ニ而居申候間、宜敷被仰付可被下候。此段覚書を以申上候。以上

元治元年九月

入江次郎太郎

郡浦彦左衛門<sup>㊦</sup>

御郡方

入江次郎太郎<sup>㊦</sup>

御奉行衆中

御郡方

御奉行衆中

僉議

虎左衛門儀、達之通ニ而、平原太郎助跡紙楮見拟申付有之度由ニ付、在勤中御郡代直触可被仰付哉。

〔朱書〕  
〔右子十一月十四日達〕

三九五 芥川政右衛門

(二〇一丁七)

覚

御郡代直触芥川茂十郎養子松山会所根抄

芥川政右衛門

右者、別紙之趣三付、承繕申候処、小頭以来役々数十年、心懸能  
出精いたし、諸御用筋吞込宜、諸弘向等圭角三有之候由三付、申  
立之通被仰付、可然人物之由承申候。以上

子十月

工藤覚兵衛

倉岡運作

御内意之覚

御郡代直触芥川茂十郎養子松山会所根抄

芥川政右衛門

当子四十六歳

右者、平日手全三気働茂有之、往々御用三相立可申者三御座候間、  
亀井九郎兵衛跡松山手永見抄被仰付、在勤中御郡代直触三被仰付  
被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成  
御参談可被下候。以上

元治元年九月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

政左衛門儀、達之通三而、亀井九郎兵衛跡手永見抄申付有之度由

三付、在勤中御郡代直触可被仰付哉。

〔朱書〕  
〔右子十一月十四日達〕

三九六 井上八十八

(二〇一丁七)

御内意之覚

宇土町居住町独礼

井上八十八

右者、曾祖父伊兵衛と申者、天明二年松山手永村々難渋、為取救  
錢貳貫目差出申候処、無苗三而御郡代直触被仰付、其後追々寸志  
差出置、御奉公御断申上候処、祖父源三郎儀、寛政二年父代寸志  
之訳三被对、苗字帯刀御免御郡代直触被仰付、其後追々寸志差上、  
御時服をも被為拝領候。享和二年格別寸志御倡之砌、錢壹貫五百  
目差出申候処、地土被召直、猶作御紋麻上下一具被為拝領候。其  
後松山会所御囲刈蔵取繕入目錢三貫五百目差出申候処、文化元年  
町独礼被仰付、猶御才覚錢寸志・御手伝寸志等都合拾五貫目余差  
上申候処、文化元年三人扶持被下置候。猶追而寸志錢八貫目差上  
申候処、同七年土席浪人格被仰付、同年病死仕候。養父藤次郎儀、  
同八年寸志之訳被对、親跡土席浪人格被仰付、式人扶持被下置候  
処、嘉永元年三月病死仕候。右八十八儀、嘉永三年九月先代寸志  
之訳被对、苗字刀持懸三而町独礼被仰付候。右之通家筋三付、八  
十八相統之節、諸役人段三茂可被仰付哉之処、宇土町之儀、准五  
ヶ町之訳を以、町独礼三被仰付候儀歟と相考申候。然処、同町二者、  
右八十八外町独礼席之者老人茂居不申、平常之御触事、其外諸手



数等振合替り、於会所元甚々迷惑仕、八十八儀諸事不便利之様子ニ御座候間、此節炮器御製造御用ニ付、寸志錢貳貫目差上申候ニ付、在中之御取扱ニ而、諸役人段之場ニ被引戻、直ニ歩御小姓列ニ進席被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

元治元年九月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

八十八儀、達之通ニ而、宇土町ニ而町独礼席之者老人茂存不申、諸事不便利之由ニ付、此節炮器寸志貳貫目差上申付、在中之御取扱ニ而諸役人段ニ被引戻、直ニ歩御小姓列ニ進席可被仰付哉。

(朱書)  
子十一月廿四日申渡

三九七 齊藤弥五兵衛

(一〇一七)

覚

松山手、永下網津村居住御郡代直触齊藤七左衛門養父ニ而同手永唐物拔荷改方御横目在勤中諸役人段御郡代手附横目ニ而河江併勤并新地見扱兼帯

齊藤弥五兵衛

右者、別紙之趣ニ付、承繕申候処、役々数十年心懸能、所々御新地御築立并御普請向等に付而者、別段出精仕候ニ付、追々御賞賜茂

被仰付、一躰根氣強、会所在勤中諸調方等茂綿密ニ有之、稜々功績茂有之、見聞筋能行届候由ニ而、勤年数本紙之通相聞申候。以上

子六月

渡辺平兵衛

御内意之覚

御郡代直触齊藤七右衛門養父ニ而在勤中諸役人段唐物拔荷改方御横目御郡代手附横目并新地見扱兼帯

齊藤彌五兵衛

当子五十三歳

右者、文政七年三月松山会所見習ニ罷出、天保元年四月小頭申付、同六年四月会所詰当分ニ操上、同八年六月会所詰本役申付、同十年五月網津村庄屋御牧別当後見兼帯申付、弘化二年四月手永見扱在勤中御郡代直触被仰付、同年十二月魚拔荷見扱兼帯申付、嘉永四年四月副手代申付、高良村成立請込庄屋後見兼帯申付、同六年十一月手代本役申付、同七年十月松合村成立請込庄屋後見申付、安政四年十一月手代上席ニ而宇土町成立請込、同町別当兼帯申付、同六年三月唐物拔荷改方御横目在勤中諸役人段被仰付、御郡代手付横目杉嶋手永請持ニ而、廻江手永相受持水理見扱兼帯申付、文久元年二月松山手永江所替申付、郡浦手永相請持ニ而北浦新地見扱役・井樋方見習を茂兼勤申付、見習以来当年迄四十一ヶ年之内、二十ヶ年在勤中御郡代直触より諸役人段迄六ヶ年、松山会所見習二十九ヶ年、松山会所小頭より手代并庄屋後見・宇土町別当兼勤共六ヶ年、唐物方御横目・御郡代手附横目・新地見扱共、右

之通数々之役儀各別出精相勤居、是迄追々御賞賜等左之通ニ御座候。

一文政十二年、立岡堤掘添御普請ニ付而、小頭之勤稜をも出精いたし候ニ付、支配銭之内より鳥目三百文賞美取計置申候。

一天保五年、松合村度々之火災、且救浦并下り松新地御築立ニ付而、毎々出役いたし骨を折候旨ニ而、鳥目老貫文被為拜領候。

一同十年、御巡見様御過行、宇土町御泊ニ付、御用相勤候段、御間江御聞届ニ相成候段、御達御座候。

一同十二年、松崎・龜崎御新地御築立ニ付、会所役人共引除候跡、諸御用引請、潮留且破損等之節茂罷出致出精候旨ニ而、鳥目五百文為拜領候。

一嘉永元年、北浦新地御築立ニ付、小屋詰仕賄方請持大勢之支度取賄、網津村出夫之申談、其外諸手配筋を始、大勢之石工をも支配いたし、石場ニ懸出精いたし、且卯秋大風破損御普請ニ付而茂、致心配候旨ニ而、鳥目三貫文被為拜領候。

一万延元年、御年貢納御取締ニ付而ハ、頻々致廻村見以等行届出精相勤候旨ニ而、金子百疋被為拜領候。

一字土様御用向等出精仕候ニ付而ハ、追々彼方より御時服金子等拜領仕候得共、書上不申候。

事業功跡等左之通ニ御座候

一文政度松山手永松合村之儀、再三大火ニ付、為火除大道立ニ相成候ニ付、差障候家数都合七十軒同所救浦新地内江引直候ニ付而者、地形上并竹木取出家建方等、大造之儀ニ御座候処、始末出役心配いたし候ニ付、速ニ引直等相濟、当時村方折合宜敷、其後出火等茂無之、一廉為合ニ相成候事。

一天保度笹原村懸首入坂通路極難涉所ニ而、諸人殊之外及難儀居候処、所柄出銭申談、間数五十間程割石敷込、道手入等受込始末罷出心配仕、当時難涉無之、一廉之為合ニ相成候事。

一天保六年、新開御米山床、御取興ニ相成、左之通ニ御座候。

一錢拾貳貫三百八拾目余 御入目分

但、御勘定所拜借并会所官錢拜借分等

一夫数老万七百七十人

一御米納高老万八千俵程

右者、地形開并御用宅建方等始末出役仕、諸事根ニ成心配仕、當時三至、郡浦・松山両手永村々一廉弁利ニ相成、御間拜借等返納相濟、上下之御為合ニ相成候事。

一安政二年、花園堤出来ニ付、左之通

一御入目錢八拾八貫七拾目余

一費地畝四町五反壹畝

一水坪七万貳千坪

一水懸畝貳百七町八反余

右之通ニ而出来仕、初菴堤床見立より出役仕、諸事申談、御普請

中御入目錢受払等、請込始末相詰心配仕候事。

一同三年、松合村屋敷新地御築立ニ付、左之通、

一御入目貳百貳拾貳貫三拾目余

内 七拾貳貫百八拾目余

百五拾貫五拾目余

一畝数五町九反老畝貳拾老步

右之通出来仕候処、村方出精倡方等諸事根ニ成心配仕、始末詰切

取計、当時村方一廉弁利ニ相成候事。

村方出銭

御間御銭

一松山手水村々会所官錢并諸間拜借向等滞分

一錢貳百拾六貫五百三拾九匁

但、江副驩之助・内田壽太郎出勤中調分

一同三百八拾壹貫五百拾四匁四分壹厘

但、久保桂助在勤中右同断

しめ五百九拾八貫五拾三匁四分壹厘

右停滞ニ付而者、御間上納并官錢向等、必到度差支難相濟時宜ニ御

座候儀、手代在勤中、右請込ニ而數年ニ亘リ調方仕、年久敷事ニ付

内輪種々様々之入組纏有之、誠ニ困窮之調方ニ御座候処、數年之

間精魂を尽シしらへ分筋合相立、即返納或ハ年賦等ニ而根方相堅

ク、當時何之纏茂無之、一廉之功業ニ御座候事也。

一弘化四年より嘉永六年迄水車仕入分左之通

一御仕入錢拾三貫五百七拾五匁

但、御用錢拝借分

内

拾六貫百六拾七匁六分五厘

但、水車出来村々へ相渡年賦返納、且即上納等ニ而、御用錢入ニ

相成候分

差引

貳貫五百九拾貳匁六分五厘 潤錢ニ相成候分

右者松山手永之儀、無類之干田所之訳を以、水車仕入請込ニ而

始末心配仕、一廉下方弁利ニ相成、其末潤錢茂出来仕候事。

一天保十二年北浦新地御築立左之通

一御入目錢貳千四百九拾九貫三百目余

一畝數百貳拾貳町八反七畝拾貳歩

正畝

右者北浦四ヶ村之錢、地方少之所柄ニ而、先年村方限垢留として

杭・棚・捨石等自勘ニいたし置候訳、旁を以御取懸ニ相成、前冬

より罷出、元小屋建方綱引御山材木取出を初、御築立中始末罷出

根方ニ相成、諸事心配仕、御賞美茂被仰付候通ニ而、所柄一廉為合

ニ相成、其後御新地茂能折合、年々余計之御所務ニ相成候事。

一安政五年、宇土町別当役在勤中、同町極難渋之者共商元手左之通、

一錢五拾貫目

右之錢仕富家之面々并兎哉角之者共より講出申談、商元手ニ借渡

候処、孰茂当前取続夫よりして身代向等、相応ニ成立候者茂有之、

一廉為合ニ相成候事。

右之通稜々功蹟有之。數々之役儀多年精勤仕、惣鉢弥五兵衛儀、

為人淳良ニ而、到而根氣強、諸事精実人和有之、一稜御用ニ相立候

人柄、殊ニ役前心掛厚出精相勤居候間、多年之勤勞、數々之功蹟

旁被対、本席地士ニ被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此

段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

文久四年三月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

弥五兵衛儀、達之通ニ而、惣年數四十一年之内、手永見抄二十年、

当役之年數ハ僅六年ニ御座候へとも、種々兼勤且功績茂有之候付、

本席地士可被仰付哉。

三九八 小郷彦右衛門

(二〇一七七)

覚

松山手永下松山村居住御郡代直触ニ而松山村庄屋

小郷彦右衛門

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、役方多年心懸能出精いたし、庄屋役之儀所々軒村申付ニ相成候処、於何方茂勸農方を初世話筋能行届、近年御蔵納各別御取扱ニ付而者、厚く心配いたし候由に而、勤年数本紙之通相聞申候。以上

子六月

渡辺平兵衛

御内意之覚

松山手永下松山村居住御郡代直触ニ而小曾部村庄屋

小郷彦右衛門

当子四十歳

右者性質手全成者ニ而、天保四年松山会所見習ニ呼出、同十一年外廻小頭当分申付、弘化三年会所詰小頭本役申付、嘉永六年小頭役者差免、東松崎村庄屋役申付、安政三年下松山村庄屋ニ所替申付、万延元年尚小曾部村庄屋ニ所替申付、天保九年親跡御郡箇ニ被召抱、嘉永五年寸志差上申候処、御郡代直触ニ被仰付候。

一天保十二年、下益城宇土海辺ニおひて、御新地御築立之節、出精仕候旨ニ而、鳥目五百文被下置候。

一文久元年、御蔵納格別御取締被仰付候ニ付而者、厚致心配、且安政六年より同七年迄二ヶ年惣通いたし候旨ニ而、鳥目壹貫貳百文

被下置候。

右之通ニ而彦右衛門儀、会所小頭以来役前心懸厚精勤仕、庄屋役申付候処ニ而ハ養水・井手筋・堤浚方を始、道橋等之手入筋厚心を用、勸農筋之儀深切ニ倡候故、小前々々茂至極帰服仕、御年貢諸上納ニ至迄速ニ相納候ニ付、年々手限ニ賞美取計置候処、別而近年御蔵納御取締ニ付而ハ、米仕立より俵拵ニ至迄、昼夜ニ懸心配いたし、諸事世話筋行届、其上会所見習以来当年迄都合三十二ヶ年之内、見習七ヶ年、小頭十四年、庄屋役十一ヶ年出精仕候に付被賞、鳥目貳貫五百文被為拝領被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御参談可被下候。以上

文久四年四月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

彦右衛門儀、達之通ニ而会所見習以来三十二年、庄屋役茂十一年、養水・井手筋・道橋等之手入厚心を用、勸農筋深切ニ倡候儀、書面之通ニ而、見合茂御座候間、鳥目壹貫五百文可被下候哉。

三九九 澤田忠右衛門

(二〇一七)

覚

松山手永宇土町津横目町横目兼帯

澤田忠右衛門

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、役々数十年心懸能、丁頭在勤中ニ

者小前々々渡世方手厚世話仕、津方出入改方茂行届候由ニ而、勤年数本紙之通相聞申候。以上

子六月

渡辺平兵衛四

御内意之覚

松山手永宇土町津横目町横目兼帯

沢田忠右衛門

当子五十五歳

右者、文政十三年三月父代寸志之訳ニ被対、父同様平町人ニ而苗字被成御免、其後、関東川々御普請御手伝御用ニ付而、寸志差上候ニ付、作御紋御上下巻具被為拜領候。然処同人儀、文政十二年宇土町丁頭役申付、弘化二年同所津横目申付、丁頭役者安政三年差免、文久二年同所町横目兼勤申付候。然処宇土町之儀、零落難渋ニ付而ハ成立之仕法筋をも申付置候通ニ而、丁頭役相勤候節者、小前々々渡世筋手厚世話仕、且又、津横目兼勤申付候処ニ而ハ、津方一鉢之出入嚴重ニ相改、聊不正之筋無之様ニ取締、町横目役ニ付而ハ昼夜打廻り見聞行届候ニ付、屹と取扱候間、町内茂自然と折合、漸々成立之際相見候儀、忠右衛門勤向精勤いたし候旨ニ而、最早惣年数三十六ヶ年之内、丁頭十六ヶ年、丁頭・津横目兼帯十二ヶ年、津横目六ヶ年、津横目并町横目兼帯三ヶ年出精相勤候ニ付被賞、御惣庄屋直触ニ被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御参談可被下候。以上

文久四年四月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

忠右衛門儀、達之通ニ而、宇土町丁頭役・津横目兼勤申付ニ相成候ニ付而ハ、双方□心配いたし候由ニ而、見合茂御座候者、無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。

四〇〇 辰右衛門

(二〇一七)

覚

郡浦手永戸口浦村蔵頭

辰右衛門

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、老年ニ者達者ニ有之、村方之儀惣而代銭納之所柄ニ候処、御取立方等手堅有之候ニ付、小前々々能帰服いたし居候由ニ而、勤年数本紙之通相聞申候。尤達者に者有之候得共、極老之者ニ付、被賞候者急ニ御僉議被仰付度由、承申候。以上

子六月

渡辺平兵衛四

御内意之覚

郡浦手永戸口浦村蔵頭

辰右衛門

当子八十一歳

右者、兼々嚴重成者ニ御座候間、文化十一年頭百姓申付、同十三年蔵頭申付候処、役前心懸厚出精相勤候ニ付、村方一統帰服いたし申談等行届、一稜上下之御便利ニ相成候ニ付、老年功旁ニ被対、無苗御惣庄屋直触ニ被仰付被下候様、於私茂奉願候。此段御内意

仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

文久四年三月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

辰右衛門儀、達之通ニ而、頭百姓以來五十一年、藏頭より四十九年相成、役前出精いたし候由、書面之通ニ付、見合茂御座候間、老年旁無苗御惣庄屋直触、可被仰付哉。

(慶応元年)

四〇一 大田黒丈左衛門、齊藤長兵衛

(二〇一七八)

御内意之覚

松山手永笹原村居住御貸人御郡簡

一 銭志貫五百目完

大田黒丈左衛門

郡浦手永城塚村居住海岸防禦御郡簡

齊藤長兵衛

右者、今度炮器御製造ニ付、右之通寸志差上度奉願候処、願之通被召上、夫々上納相済申候間、何卒何れ茂御郡代直触進席被仰付被下候様、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

元治元年十二月

入江次郎太郎

御郡方

(朱世)  
[丑一月朔日達]

御奉行衆中

僉議

丈右衛門・長兵衛儀、達之通ニ而、寸志高究之規矩ニ相当申候間、御郡代直触可被仰付哉。

四〇二 野村新助

(二〇一七八)

覚

松山手永網津村居住諸役人段ニ而井樋方助役并北浦新地惣受込見扱役兼勤・宇土駅所惣見扱、薪類御買上受込、津方見扱兼帯

野村新助

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、手全成人物之由。数々之役儀、各別心懸厚、出精いたし、老年ニ者いまた壯健ニ而、井樋方助役付而者、新古余計之井樋数年々之御作事、諸色高直等ニ而、種々之仕法いたし取行候ニ付、御郡引受高より余錢備茂出来いたし、宇土駅所惣見扱付而者、不断駅所江罷出、人馬立米錢受払等、圭角ニ申談、補助備等茂組立、旱田助水会所官錢改正しらべ、御米山床御取興等、稜々功績茂不少、其外新地見扱等、稜々之勤向能行届候由ニ而、見習以來全勤七十年、類稀成勤勞ニ付、申立之通被仰付可然由承申候。以上

丑二月

河口源右衛門團

御内意之覚

松山手永網津村居住諸役人段ニ而井樋方助役并

一勤年数七十年

北浦新地惣受込見抄役兼勤・宇土駅所惣見抄・薪類御買上受込・津方見抄兼帯

野村新助

当丑八十二歳

二十五年

会所見習根抄役迄

二十四年

同下代役より手代役迄

二十一年

井樋方助役并会所見抄北浦新地惣受込并見抄役宇土駅所惣見抄・薪類御買上受込・津方見抄

右者、寛政八年郡浦手永栗崎村ニ而、出会所見習ニ申付、同十年松山会所見習ニ引直、享和三年小頭本役申付、文化八年会所詰ニ引直、同十一年根抄役ニ而、会所詰兼帯申付、同十四年宇土御知行所村々御本方御引受御免方、其外諸御用請込申付、文政二年根抄役持懸ニ而、出銀方請込申付、同四年下代役ニ引直、同九年松合村庄屋当分助勤兼帯申付、同十年役方多年手全ニ出精いたし、請私精密ニ有之、御年貢取立方行届、余錢備茂無違乱取扱、且養水方之儀、稜々心配いたし、水田之ケ所跡作仕付分茂、段々出来いたし、上下一廉之為合ニ相成候旨ニ而、無苗御惣庄屋直触ニ被仰付、同十一年手代役ニ引直、同十二年立岡堤堀添ニ付而、地方御買上、地代取組等、其外御普請ニ懸候筋、一切根ニ成、抜群出精いたし、且又杉嶋手永川堀替ニ付而茂、出精仕候旨ニ而、苗字御免被仰付、天保二年手永見抄兼帯、在勤中御郡代直触ニ被仰付、同年勸農倡方兼勤申付、同三年松合村近々火災跡成立受込申付、天保九年会所見習以来役方数十年心懸厚、松合村数度之火災跡家取建を初、所々御普請、臨時御用請込等、万端無抜目出精いたし、稜々功跡

茂有之、所柄一廉之為合ニ相成候旨ニ而、御郡代直触本席ニ被仰付、同十四年手代役持懸ニ而、北浦新地惣請込申付、弘化二年松山手永井樋方助役、在勤中一領壹疋被仰付、松山会所見抄兼帯申付、同三年北浦新地養水見抄申付、同年役方五十年余心懸厚、諸御普請之節者根ニ成、格別出精いたし、村方成立之儀茂種々心を用、会所内一和ニ申談、万端心得方宜敷有之候旨ニ而、本席地土ニ被仰付、同四年宇土駅惣見抄兼帯人馬立方、其外米錢請私を初、一切受込申付、安政二年役方六十年心懸能出精仕、宇土駅所取締筋等、各別心を用、其外数々功跡茂有之候旨ニ而、一領壹疋本席被仰付、万延二年役方六十年余之内、数々之役方出精いたし、世話筋行届、稜々功跡茂有之候旨に而、諸役人段被仰付、文久三年松山手永網津村懸ニ而、薪類御買上受込并津方密拔見抄兼帯申付、元治元年九月松山会所見抄ハ差免、北浦新地見抄役兼勤申付、当年迄七十ヶ年相勤申候内、文化十二年大口村前入江新地築立之節、百六十日余昼夜出精相勤、且塘手并鞘石垣等及破損、手戻之儀茂有之候処、各別出精仕候旨ニ而、鳥目式貫五百文被為拜領、同十三年去夏以来宇土両手永打込、御普請主ニ成相勤、数ヶ所之新堤堀方并手筋浚方等、夫積其出数十日御普請所江相詰、格別出精相勤、且御囲初蔵御建方ニ付而ハ、地形開明より材木切出、彼は大造之御作事丈夫ニ出来いたし候旨ニ而、鳥目壹貫文被下置、同年西本願寺使僧宗意調一件ニ付、出精仕候旨ニ而、御酒肴料被下置候。文政二年本山御作事ニ付而、網引御山より杉木千本寸志、夫を以御取出被仰付候節、出精仕候段、御間御聞届ニ相成申候。同四年去夏笠岩村御開石井樋破損御普請之節、数十日罷出申談能御入目相減、出精仕候段、御間御聞届ニ相成申候。同八年七百町御新地御

所々御普請、臨時御用請込等、万端無抜目出精いたし、稜々功跡

築立ニ付而、潮留井水理御普請ニ茂罷出、会所役人出役跡地場之御用等引受、出精仕候旨ニ而、鳥目壹貫文被下置候。天保二年大勢之家内熟和ニ有之、兼々父母江能事、且農業精を出し、一体心得方宜敷有之候旨ニ而、一家内江鳥目三貫五百文被為拜領候。同五年大見村海辺新地再興に付、出精仕候旨ニ而、櫛方より銀三兩被為拜領候。同六年去ル卯年非常之洪水後、自他手永追々御普請ニ付而罷出、出精仕候旨ニ付、鳥目五百文賞美取計置申候。同十年御巡見様御用諸事根ニ成出精仕候段、御間御聞届ニ相成申候。同十二年下益城宇土於海辺御新地御用ニ付而、引除候跡引請、潮留且破損等之節茂罷出、出精いたし、際目立地割等、夫々請込、別而心配仕候旨ニ而、鳥目貳貫文被為拜領、嘉永元年北浦新地出来之見込を以、多年之間埃留之任法筋種々取計、此節新地築立ニ付而ハ、御出方減を初、御普請向之儀諸事申談、潮留之節、別而相働、地割開明作方倡ニ至迄、始末格別出精いたし、且去ル卯年大風ニ而、海辺塘手破損所御普請に付而茂、心配仕候旨ニ而、作御紋麻上下一具被為拜領、安政二年餘、沼山津水理一件ニ付而、御普請之節丁場積より始末罷出、石取出方之儀茂、心配いたし候旨ニ而、金子貳百疋被下置候。文久三年薪類御買上ニ付、為御心附銀五兩被下置候。同年当役在勤以來、井樋方御普請向受払精密ニ行届、余錢相備、格別心配仕候旨ニ而、金子貳兩被下置候。新助儀、廉直壯健ニ有之、会所見習以來当年迄七十年、役儀品々無懈怠精勤仕候内、前条之通、臨時之御用出精仕候旨ニ而、御褒詞三度、金銀錢拜領十度、父母江事方宜敷旨ニ而御賞美一度、御上下拜領一度、年功等に付而之御賞美八度、都合二十三度、且宇土御知行所ニ付、種々心配仕候ニ付、御同所より御品金錢等拜領八度、御本末取東

三十一度之御賞美被仰付置候ニ付而ハ、御奉公大切ニ相心得居、去ル弘化二年井樋方助役并会所見抄兼帶申付、当年迄二十一ヶ年ニ相成、尤会所見抄ハ、去年九月差免、北浦新地見抄役申付候処、右会所見抄在勤中ハ、必多度会所元ニ茂罷出、一鉢之見抄仕、諸御用筋無間拔様、手代以下ニ茂申談能行届、井樋方之儀者、御本方井樋方御作事御入目御出方分之米錢二十ヶ年平均高より貳割減を以、去ル午年より御郡引受、定規渡之御仕法ニ被仰付候ニ付而ハ、差寄現実御作事ニ至り、不足勝ニ付、御償之取計筋難涉多御座候間、御作事向万端手を詰、板樋を石樋ニ御仕替等奉願、彼是省略之任法筋研究仕、近事ニ至候而ハ、井樋方一鉢之受払ニ而、年々余錢茂出来仕、惣鉢松山手永之儀、御本方井樋者貳百餘艘ニ而御座候得共、近十年御築立之南北御新地井樋、手永開五六ヶ所、又々請免後出来候井樋茂余計ニ有之、加之水理方養水方ニ付而茂、次第ニ井樋數相増、當時ニ而ハ、都而大小井樋數五百餘艘ニ相成、夫ニ応し井樋方之手數茂、以前と比候得者、倍込に茂相成居候処、近年板材木を初、釘・鉄物代等、莫大ニ直段引上ケ、其外諸式又ハ御出方向茂一割減被仰付置、釘・鉄物代木賃ニ至迄、御記録之直段ニ而ハ、過半之不足相立候得共、御時節柄、御出方増茂不奉願、當時迄種々工風仕取行来申候次第ハ難揚尽、且板材木代者、御郡出銀物ニ而、以前者年々御用錢之内より貳貫五百目完、每幕定例程振出置、翌春御作事入用板材木買入来申候処、新助当役被仰付候以來者、余錢備茂出来仕候ニ付、右御用錢御振替ニ茂及不申候。

一松山手永之儀、早田所養水懸ニ而、諸御免後出来之大小井樋百餘艘有之、年々仕継等、村弁ニ而者難涉至極仕、自然向々届兼候而ハ、節角之御仕法筋等以前ニ立戻、上下之難涉ニ至り可申、又御本方



井樋御出方米錢二割減分、御償茂有之候ニ付而、新助儀、差入り、宇土町富家榎嶋長次郎江追々寸志相倡、既ニ一昨々年町方為御備錢百五拾貫目調達ニ而、或百ヶ年之間、御米被為拜領候内より、年々米七石五斗完式百ヶ年井樋方為備寸志差出申度との願筋、御免達茂被仰付置候通ニ而、或百ヶ年ニ而ハ、千五百石之米高ニ而、右者新助一稜之功業ニ而御座候。

一井樋方官宅切組、材木小屋共一切手水出銀ニ御座候処、天明年中松山会所内江建方ニ相成居申候。官宅病損申候ニ付、新助井樋方助役被仰付候而、早速惣建直、入目五貫目余、手水手水出銀ニ可相成候処、井樋方余錢を以建直シ相濟、且笠岩懸安行井樋小屋近年御新地催合建方入目之内、半高式貫五百目余茂、井樋方余錢より差出、都合七貫五百目余者、手水出銀減ニ相成、一稜上下之為合ニ御座候。

一右新助井樋方以来、余錢當時式拾三貫九百貳拾九匁八分之御備ニ相成居、一稜上下之御為合ニ相成候事ニ御座候。

一弘化四年宇土所惣見抄兼帶人馬立、其外米錢受払等一切受込申付、当年迄十九ヶ年ニ相成申候処、先年御改革之節、手代役ニ而調方受込申付、当役被仰付候ニ付而ハ、猶受差入り相勤、近十年次第二人馬立弥増候ニ付、小御郡ニ而、町在難渋至極仕候処、定詰夫等之任法者差止、日々賃錢定雇夫之仕法立ニ仕替、種々様々心配仕、前文榎嶋長次郎相倡、安政二年所補助備会所役人給等二百五拾貫目調達致せ、右等之運等一稜上下之御為合ニ相成居申候。

一松山手水之儀、六十年以前享和初比迄者、手水開迎茂無御座候処、同三年笹原村ニ而、二ヶ所之手水開出来仕、大口新地より根抄役相

勤、始末受込相勤、或者七百町御築立・上下益城水理一件、其後南目御新地築立に茂罷出、別而北浦新地之儀ハ、所柄ニ付、文化年中より埃溜之仕法筋を初、去ル天保十一年より御築懸ニ付而ハ、数度再遍之積方、又ハ御普請小屋建方・井樋居込ミ・惣塘取懸ニ付而ハ、御小屋根居ニ而、丁場受持茂申付置、追々破損度々之潮留成就ニ至候而ハ、地割内井手堀開明等之手数、惣鉢初発畑新地被見込之処、養水懸之仕法ニ付、緑川水取入、尚七回堤ニ御打替ニ付、村床替・貫井手等之御普請、御入目茂余計之儀ニ御座候処、色々御任法ニよつて、正敵百三拾町程之内、百町程者田作と相成、後年上下之御為合ハ不及申上、右ニ付而ハ初發より新地惣請込を茂申付置、最早二十五ヶ年之間、臨時御修覆等之立会、数ヶ所之大小井樋・積所、定例・不時御普請等、各別差入取計、今以不相替出精仕居申候儀ニ御座候。

一松山手水之儀者御國中第一之旱田所ニ而御座候処、先年新助会所見習ニ罷出候後八ヶ年目、享和三年受免初年より旱損虫害穂枯等之不作打続、所柄御備米丈ニ而取賄出来兼、御間御米拝借、会所御備錢有限御出方、或者諸手水御備米越拝借等いたし、秋式之手数不一形、村々難渋彼は何分松山手水ニおひてハ、請免永続之見込茂無御座、此儀全養水不足より之儀ニ而、其砌先役共、種々工風を凝シ、新堤・新井手堀等之御仕法奉願、猶天保八年立岡堤掘添、六郡二十一手水式拾万余之夫力を以、御普請被仰付、水下夕十一ヶ村五十日余之養水ニ相当り、掘添後、最早四十年來、旱損薄ク相成、受免即年より旱損等之下り米三千石程茂有之候処、悉ク返納相濟、堀添入目御間拝借錢百五拾貫目余茂皆納ニ相成、當時ニ至、御備米代余計之高ニおよび、右之始末新助儀根ニ成、精

勤仕候儀ニ御座候。

一松山諸官錢之儀、去ル文政十一年新助手代役ニ而請持居、天保八年迄十ヶ年之間諸根帳を初、現物之出入共、圭角ニ取計、御用錢備増之仕法ニ付而茂、富家中江寸志倡、産物方御錢百貫目拝借、取扱共外色々殖方等之御趣意引請相働、諸官錢改正しらべニ付、御郡御吟味役御目附ニ御横目等出在、御用錢之発且より宝曆以来御根帳向、夫々引合札方を受、其節諸根帳を初、付属の諸帳面等、都而改革いたし、追々御備増之仕法ニよつて、天保八年右御改正之節松山御備惣計八百貫目程ニ御座候。

右之通之大手数茂、一々新助相携、心配仕候儀ニ御座候。

一先年御米山床御取興之節、新助儀、手代役ニ而、初発より請込出役仕、場所柄御用宅建方等主ニ成、取計申候処、最早数十年御取行ニ相成、上下一稜之御弁利ニ相成申候。

右之通ニ而、新助儀最早当年八十二歳罷ニ成候得共、生得壯健ニ有之、諸御用筋聊無怠精勤仕、老年ニハ稀成人柄ニ御座候間、別段之御僉議を被為以、独礼進席被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

元治二年正月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

新助儀、達之通ニ而、会所見習以來惣年数七十年之内、塘方助役二十一年、諸役人段被仰付候而より五年ニ相成申候処、当役ニ而独礼被仰付候見合無御座、前賞より茂間近ニ有之、難及僉議可有御座哉之処、功業之次第茂、達之通ニ而七十年之勤と申儀者、容易ニ

無御座、極老旁別段を以、独礼被仰付候而者、如何程ニ可有御座哉。

(朱書)

右五月初七日發、同廿四日申渡

四〇三 嘉平

(二〇一八)

覚

松山手永宇土町居住町独礼ニ而病死仕候八木八左衛門養子

嘉平

右者、養父跡相統、別紙之趣ニ付承繕申候処、人物宜由ニ而、筆算相応ニ仕、行状ニ付異候唱相聞不申、八左衛門在生中、去ル天保八年三月宇土町所建馬為飼料大豆五石四斗差出候次第、本紙之通承申候。以上

丑二月

渡邊平兵衛

御内意之覚

松山手永宇土町居住、町独礼ニ而致病死八木

八左衛門養子

嘉平

当子五十三歳

右嘉平養父八木八左衛門儀、天保八年六月窮民御助救として、寸志錢拾五貫目差上申候ニ付、同年九月苗字御免町独礼ニ而、年頭門松御免被仰付候処、安政六年八月病死仕候。右ニ付而ハ、組合桑原作平次より其砌跡目相統之願仕候筈ニ御座候処、其儀届兼、数年押移、当九月ニ至り跡目相統之儀奉願候処、不埒之事ニ付、作平次儀差扣被仰付、先役并於私茂届兼申候。然処八木八左衛門

存生中天保八年三月同人事、吉左衛門と為申砌、宇土駅所建馬為  
飼料大豆五石四斗差出候。代錢壹貫目寸志差出置候間、嘉平儀  
此節無苗三而、宇土町別当列ニ被仰付、作御紋御上下一具被為拜  
領被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被  
成御參談可被下候。以上

元治元年十二月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

嘉平儀、達之通三而、町独礼之跡究之通別当列可被仰付哉。大豆  
代壹貫目ニ而作紋御上下一具被下候様、申立之通ニ而候へとも、式  
貫目以上ならてハ、御上下拝領者六ヶ敷究リニ御座候間、追而代  
替之節、繼目之内ニ被立下候段及達可申哉。

(朱書)

〔右僉議之通、丑五月四日申渡

父代寸志錢追高繼目之内ニ被立下旨、四日御達濟〕

#### 四〇四 小田嘉兵衛

(二〇一七八)

御内意之覚

松山手永宇土町別当在勤中苗字御免

小田嘉兵衛

(朱書)

〔僉議無

丑五月六日達

右者、兼々壯健ニ有之、御郡筒内望御座候間、松山手永海岸防禦  
御郡筒召拘申度奉存候間、何卒在勤中苗字御免之儀者被成御免可  
被下候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

元治二年四月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

#### 四〇五 嘉平

(二〇一七八)

御内意之覚

松山手永宇土町居住町別当列

一錢三貫目

嘉平

右者、今度炮器御製造三付、右之通寸志差上度奉願候処、願之通  
被召上、夫々上納相濟申候間、何卒苗字御免町別当列被仰付被下  
候様、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下  
候。以上

元治二年五月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

嘉平儀、達之通三而、寸志高究之規矩ニ相当申候間、苗字可被成  
御免哉

(朱書)

〔丑閏五月十日達

#### 四〇六 除野恒次郎、小山七郎太 他

(二〇一七八)

覚

鯨手永御惣庄屋当分御代官兼帯

松山手永右同

除野恒次郎

山鹿手永右同断

福田春蔵

正院手永右同

小山七郎太

中村手永右同断

金森太郎左衛門

山鹿手永右同

江上安太

大津手永右同断

高木仁十郎

中村手永右同

福田春蔵

金森太郎左衛門

大津手永右同

高木二十郎

丑四月

村上善九郎

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、六人共ニ御役前心懸能出精いたし、勸農方抑揚筋等茂能行届候由、孰茂勤年数本紙之通ニ而、石坂禎之助儀者別紙ニ委細御達申上候通相聞申候。以上

丑閏五月

御郡御目附付

御奉行衆中

御内意之覚

鯨手永御惣庄屋当分御代官兼帯

僉議

廻江手永右同断

除野恒次郎

石坂禎之助△

松山手永右同断

小山七郎太

正院手永右同断

江上安太

四〇七 金田悌蔵

恒次郎以下七人之内、禎之助ハ別紙ニ相しらへ申候。残六人当役当分以来六年ニ相成、見合茂御座候間、御惣庄屋・御代官兼帯本役被仰付、御知行高貳拾石完可被下置哉。

(朱世)  
右丑六月三日達

△本行石坂禎之助儀者、別紙ニ奉願候通被仰付被下候様奉願候事。

熊谷市郎左衛門  
入江次郎太郎

(二〇一七八)

覚

松山手永馬場村居住御目見医師ニ而病死仕候

金田龜齡養子

金田悌藏

右者、養父跡相統別紙之趣ニ付承繕申候処、医業心懸能、出精いたし、入塾中者、代診等ニ茂罷越居候由。養家江参候而者、養父者老躰ニ付、療治懸り之村々、昼夜共病家貧福之無差別廻診等、深切ニ有之候由ニ而、療治方相応ニ被行候由。去一ケ年之病人数等、本紙之通ニ而、施薬と有之候者、謝儀届兼候分之由承申候。以上

丑四月

河口源右衛門 工藤覚兵衛

御内意之覚

松山手永馬場村居住御目見医師ニ而致病死候

金田龜齡養子

金田悌藏

当丑三十四歳

右悌藏養父金田龜齡儀、文政二年十一月御惣庄屋直触被仰付、同十二年十二月家業心懸能、療治方手広、貧福之無差別厚心を用、出精仕候旨ニ而、御郡代直触ニ被仰付、天保十三年八月右同断致出精候旨ニ而、御郡医師並ニ被仰付、嘉永七年右同断出精いたし候旨ニ而、御目見医師ニ被仰付被召出、以来去子年迄四十六年、療治方各別出精仕候ニ付、去年御賞美奉願置候処、同十一月病死仕候。右之分家業出精ニ付而ハ、追々御応詞并金銀等茂被為拜領候。一金田悌藏儀、嘉永六年深水玄門々弟ニ罷成、万延二年迄都合九ケ年、塾詰医学修行仕、同年十二月龜齡養子ニ罷成、直ニ引越、代診等仕、心掛厚ク、療治方出精仕居申候。

一安政二年七月再春館入学仕、講釈之節々無懈怠出席仕候。

一養父龜齡療治懸之村々、左之通

一村数七ヶ村 松山手永

松崎 高良 御領 柏原 城神山 馬場 宇土町

一同十七ヶ村 郡浦手水

神原 神山 浦上 長崎 龜尾 栗崎 石橋 宮庄 両椿

原 両惠里 両新開 伊津野 雀見塚 飯塚

一同二ヶ村

松橋 久具

一字土御家中

合二十七ヶ所

此家数八百五拾軒余

一病人数式千式百人余

外ニ流行痘病五百三十人余

右之内三百人余施薬

右之通ニ而、悌藏儀数年医業心懸能、出精仕、塾詰中ニ者、師家代診等茂数年相勤、龜齡存生中手広療治方仕候ニ付而者、代診等昼夜病家打廻り、心切ニ療治方仕候ニ付而ハ、懸村々都而参服仕、龜齡療治懸不相替手広貧福之無差別療治方仕、家伝之保童圓・神壽丸散薬等、間々施薬仕候儀茂有之、惣躰為人篤実ニ有之、所柄屹と為合ニ相成候者ニ御座候而、龜齡多年療治方出精、殊ニ昨年御賞美を茂奉願置候事ニ付、旁ニ被対、父跡御郡医師並ニ被召出被下候様有御座度、於私茂奉願候、此段御内意仕候条、可然被成御参談可被下候。以上

元治二年二月

入江次郎太郎

御郡方

僉議

御奉行衆中

梯藏儀、達之通ニ付、医業吟味役江間合申候処、治療習熟学業厚志之段達有之、科目丙科ニ相当申候。御郡御目附付御横目聞方茂、家業心懸能、数年塾詰をもちたし、病家廻診等懇ニ行届、所柄一稜為合ニ相成候趣等、別紙之通ニ而、右科目ニ而者、追々見合せ御座候間、親跡御郡医師並可被召出哉。

(朱書)  
「本道病案三卷三法破的  
右丑六月十六日達」

四〇八 吉田彦太 他

(二〇一七八)

覚

郡浦手永網田村居住独礼ニ而御買上薪見拟

(付紙)

彦太事不用

吉田彦太

歳三十七程

同手永手場村居住一領卷疋ニ而右同断

河野十郎

歳五十二程

同手永前越村居住地士ニ而右同断

本田英左衛門

歳六十程

郡浦手永中村居住地士ニ而御買上薪見拟

積徳之助

歳四十八程

同手永手場村居住御郡代直触坂本太郎助俸ニ

而御買上薪受込

坂本善次郎

歳三十二程

松山手永網津村居住独礼ニ而井樋方助役・宇土駅所惣見拟役・北浦新地見拟惣受込兼勤、薪御買上受込・津方見拟兼帯野村新助俸

野村弁吉

歳三十七程

田浦手永日奈久村居住旧古地士ニ而塘方助役・井樋見拟在勤中一領卷疋御買上薪見拟

田浦作太

歳五十一程

同手永田浦村居住旧古地士ニ而御買上薪見拟

矢野伝之助

歳五十五程

同手永同村居住右同断

鬼塚晴助

歳五十程

田浦手永濱村町居住御郡代直触ニ而御買上薪見拟

平松谷平

歳七十四程

佐敷手永小田浦村居住一領卷疋ニ而右同断

浮池甚三郎

歳四十程

同手永才木村居住地士ニ而御買上炭見抄

山本四郎兵衛

歳三十五六

同手永牛瀨村居住地士ニ而御買上炭薪見抄

倉本覺次郎

歳四十七八

同手永大尼田村居住独礼浅野吟左衛門悻ニ而御買上炭見抄

浅野半次

歳四十二一

水俣手永陣内村居住一領壹疋ニ而御買上薪見抄

赤星彦一

歳四十三程

久木野手永久木野村居住一領壹疋当時水俣手永濱村居住、御買上薪見抄

中摩尉之助

歳四十三程

永濱村居住、御買上薪見抄

中摩尉之助

歳四十三程

右十六人別紙之趣ニ付承繕申候処、御買上炭薪見抄役之儀者聊之

勤料ニ而、密抜押方之儀杯者心痛之儀ニ茂有之、勤向等閑ニいたし

候儀者無之由ニ候得共、差入兼、追々御断申上候面々多有之、此

節申立之松本藤四郎儀茂、当三月頃御断申上候処、願之通御免ニ

相成候由、右之次第ニ付申立之通被仰付候ハ、何れ茂競立差入

相勤、御取締ニ茂相成可申由、野村弁吉儀者父病中故障等之節、

代役御免被仰付置候由ニ付、薪御買上者内輪者弁吉専ら相働候由ニ

而、人物宜行状ニ付異候唱茂相聞不申、見抄役被仰付可然由、其外、本紙之通承申候。以上

丑閏五月

下田右平國

別紙、芦北・郡浦両手永村々ニおいて、杣方御買上炭薪見抄役之儀、海辺見繕出役仕候節者、一日壹匁五分完飯料被渡下、外ニ御心附として一ケ年五拾目或者拾匁と、人躰ニ応シ被渡下候迄ニ而、何ケ年相病候而茂、是迄進席等被仰付候者茂無之、先ツ者目当無之役付ニ而一統相勤不申、無拠相勤居候位ニ而、時添料御断申出差入相勤候氣向無之処より、御取締茂相立兼居候間、此節御郡代書達之通、在勤席被仰付候ハ、競を得、精勤仕、屹と御用便ニ相成、向後外々目当ニ茂相成可申と奉存候。此段兼而見聞仕候趣、御達仕候。以上

元治二年五月

松田群助

炭薪請込御郡横目

(中略)

御内意之覚

郡浦手永居住独礼ニ而御買上薪見抄

吉田彦太

右者、御薪方見抄在勤中、歩御使番列ニ被仰付被下候様。

右同断ニ而一領壹疋

河野十郎

右者、御薪方見抄在勤中諸役人段ニ被仰付被下候様。

右同断ニ而地士

本田英左衛門

積徳之助

右者、御新方見扱在勤中一領老正ニ被仰付被下候様。

御郡代直触坂本太郎助悴ニ而御買上薪方受込

坂本喜次郎

右者、薪方受込在勤中御郡代直触ニ被仰付被下候様。

右者、郡浦手永村々より拙方御用薪之儀、近年悉皆御買上被仰付

候ニ付而ハ、波多村ニ御買上所茂建方被仰付、余計之斤高御取出ニ

付而ハ、場広之御山方并船手ニ亘り各別出精仕、密抜見扱方之儀、

暫時茂無油断打廻り不申候而ハ、兎角取締不申、然ニ密出シいた

し候者、多者所柄貧民ニ而、間々ハ熟懇之者茂有之、差押候得者、

一家及漬候様成事茂御座候得共、情態ニ流見逃候而相済可申様茂無

之、内輪心痛至極、諸人好候御役柄ニ而無之、併シ此節別段御取

締ニ付而者、愈以昼夜打廻り差咎不申候而ハ難相成事ニ御座候へハ、

御買上所之儀、下地繁勤之御習様、愈以御用筋相増候ニ付、孰茂

に右書之通、在勤中一階完進席被仰付被下候様有御座度、於私

茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

元治二年四月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

御内意之覚

松山手永網津村居住諸役人段并樋方助役・宇

土駅所惣見扱役・北浦新地見扱役惣受込兼勤

・薪類御買上受込・津方見扱兼帯野村新助悴

野村弁吉

右者、薪類近年至而扨底ニ相成、御家中一統極々難渋ニ付而ハ、御

買上所等被立置御取締ニ相成居候事ニ御座候処、右弁吉儀、惣躰

親新助病中故障等之節、代役をも御免被仰付置、一躰人物宜敷、

諸事物馴居、薪類御買上候付而ハ、弁吉引受心配仕、一廉御用ニ

相立可申者ニ御座候間、此節薪類密抜各別見扱役被仰付、在勤中

諸役人段被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。左候得ハ、場

広之御山并船手ニ亘り見扱方行届、屹と御用弁ニ相成、御買所茂愈

以繁昌可仕と奉存候ニ付、此段不聞御内意仕候条、可然被成御參

談可被下候。以上

元治二年四月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

御買上炭薪見扱役之面々、在勤席一席完被進被下候様、達之通ニ

而、御郡御目附付御横目見聞之趣茂、達之通被仰付候ハ、いつ

れも競立差入相勤、御取締ニ相成可申由、別紙之通ニ付、在勤中

之儀ニ茂有之ニ付、達之通可被仰付哉。左候ハ、左之通。

彦太儀、當時独礼ニ付、在勤中歩御使番列可被仰付哉。

十郎儀、一領一疋ニ付右同断、諸役人段可被仰付哉。

英左衛門・徳之助儀、地士ニ付右同断、一領一疋可被仰付哉。喜

次郎儀、御郡代直触之悴ニ付右同断、御郡代直触可被仰付哉。

弁吉儀、親代役数年相勤、諸事物馴居候由達之通ニ付、薪類密抜

格別見扱被仰付、独礼之悴ニ付、在勤中諸役人段可被仰付哉。

作太儀、地士ニ而塘方助役在勤中一領一疋被仰付置候付、猶

一席被進、在勤中諸役人段可被仰付哉。

伝之助・晴助・四郎兵衛・覚次郎儀、地士ニ付在勤中一領一

正可被仰付哉。

(書き込み)  
(朱書)  
下夕僉議  
之処、吉田



彦太を省キ、谷平儀、御郡代直触ニ付右同断、地土可被仰付哉。  
河野十郎以下中摩尉之助迄十五人、甚三郎・彦一・尉之助儀、一領一疋ニ付右同断、諸役人段可被仰付哉。  
丑八月廿三日達濟

半次儀、独礼之悴ニ付右同断、諸役人段可被仰付哉。

四〇九 大田黒彦左衛門

(二〇三二)

覚

松山手永笹原村居住地土

大田黒彦左衛門

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、壮健成人物之由、武芸心懸能、数々稽古いたし候内、居合・劍術・槍術・炮術四芸者目録、柔術者中極意相伝相濟居、武芸引廻申達ニ相成候付而者、倡方等能行届候由。行跡ニ付相替候唱相聞不申候。以上

丑五月

吉武英右衛門

御内意之覚

松山手永笹原村居住地土

大田黒彦左衛門

当丑四十二歳

右者、依寸志替席被仰付置、北浦御新地請込申付置候処、出精相勤、兼々壮健手全ニ有之、武芸心掛能、出精仕、御家人中子弟武芸引廻申付置候ニ付而ハ、兼而世話筋能行届、且武芸相伝相濟相稜々、左之通ニ御座候。

一居合恵良左十郎門弟ニ而、文久元年九月目録相伝仕、炮術永嶺雲七門弟ニ而、文久三年九月目録相伝仕、劍術渡邊牛之助門弟ニ而、

同年同月目録相伝仕、鎗術松原傳右衛門門弟ニ而、元治二年二月目録相伝仕、柔術矢野司馬太・長刀入江太郎八門弟ニ而、稽古出精仕居申候。右之通ニ而、四芸者目録相伝相濟、在御家人子弟引廻を茂申付置、一廉御用ニ相立居候ニ付、追々之御見合を以、一領一疋ニ進席被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。尤相伝年月等之儀、学校御目附江問合候処、相違之儀無御座候ニ付、右問合書相添、御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

元治二年四月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

彦右衛門儀、達之通ニ而、寸志ニ而地土被仰付置候処、武芸四芸相伝仕、子弟引廻を茂申付ニ相成居、芸数見合茂御座候間、一領一疋可被仰付哉。

(朱書) 右、丑九月廿九日達

四一〇 釜賀長蔵

(二〇三三)

覚

郡浦手永長濱村居住地土ニ而同村庄屋釜賀廣

次養子

釜賀長蔵

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、壮健成人物之由、武芸数々心懸能、劍術・居合・槍術・炮術四芸目録相伝相濟居、槍術者手永内相門中倡方茂師範より申談ニ相成居候由ニ付、諸生倡立、別而出精

仕候様子ニ而、行状ニ付異候唱相聞不申候。以上

丑八月

渡邊平兵衛 印

御内意之覚

郡浦手永長濱村居住地士ニ而同村庄屋釜賀廣

次養子

釜賀長蔵

当丑二十五歳

右者、兼々壮健手全ニ有之、武芸之儀、居合ハ惠良左十郎門弟ニ而、文久二年閏八月目錄相伝仕、劍術渡邊牛之助門弟ニ而、同三年九月目錄相伝仕、槍術松原傳右衛門門弟ニ而、文久二年十一月目錄相伝仕、炮術永嶺雲七門弟ニ而、当五月目錄相伝仕、柔術矢野彦左衛門門弟ニ而、万延元年十二月中段相伝仕、当五月より夕謝出席差免ニ相成申候。

右之通、数々相伝相濟、兼々心懸能、同門相倡、各別出精仕候ニ付被賞、地士ニ被召出、御郡並之御用請持被仰付、一列無役之口々被付置被下候様奉願候。尤目錄相伝年月等之儀、学校御目附江間合候処、相違無御座候ニ付、則別紙相添、御内意仕候条、可然被成御参談可被下候。以上

慶応元年七月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

長蔵儀、達之通ニ而、武芸四芸目錄相伝相濟、相門倡方茂師範より申付ニ相成居候由、見合茂御座候間、地士被召出御郡並之御用受持被仰付、一列無役之口ニ可被附置哉。

(朱書)  
「右丑九月廿九日達」

四一 藤八 他

覚

郡浦手永ニ而拙方御買上薪下受

藤八

助七

利平

尉佐

徳右衛門

惣右衛門

彦右衛門

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、郡浦村之薪類悉皆御買上被仰付候ニ付、右下受之者共、朝夕隙暮しいたし、心配仕候処、繰之口錢ニ而、難渋ニ及候由ニ而、申立之通、在勤中小脇差御免被仰付候ハ、御用弁相成可申由承申候。以上

丑九月

河口源右衛門 印

御内意之覚

郡浦手永ニ而拙方御買上薪下受込

藤八

助七

利平

尉作

徳右衛門

惣右衛門

彦右衛門

丑九月

御内意之覚

河口源右衛門印

右者、郡浦手永之儀、一昨年来杣方御用薪、悉皆御買上被仰付候

ニ付而ハ、右下受込之者共、薪懸方等村々ニ亘リ、各別心配仕候

処、是乞纒之斤懸り被渡下相勤居、諸式高価之折柄難渋仕候得共、

御時節柄勤料等御出方増之儀、難奉願、依之右下受込在勤中、小

脇差御免被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。左候得者孰茂

差入出精可仕と奉存候ニ付、此段御内意仕候条、可然被成御參談

可被下候。以上

慶応元年八月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

〔宋書  
丑九月廿四日達〕

藤八已下七人、達之通ニ而、御郡御目附付御横目見聞之趣、別紙  
之通ニ付、薪御買上受込中小脇差可被成御免哉。

四一二 濱田吟右衛門

(二〇三二)

覚

郡浦手永網田村居住御郡簡

濱田吟右衛門

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、兼算相応ニいたし、親代より御

買上新御用受込相勤候ニ付、右御買上一巻之儀者、能手馴居候由ニ

而、申立之通被仰付、可然人物之由承申候。以上

御内意之覚

郡浦手永網田村居住御郡簡

濱田吟右衛門

当丑二十七日

右者、性質手全ニ氣働茂有之候ニ付、吉田彦太跡御買上新方見抄申

付度奉存候ニ付、在勤中御郡代直触ニ被仰付被下候様有御座度、

於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以

上

慶応元年八月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

〔宋書  
丑九月廿九日達〕

吟<sup>今左</sup>左衛門儀、達之通ニ而見合茂御座候間、御買上候炭薪見抄、在  
勤中御郡代直触可被仰付哉。

四一三 野口惣次郎

(二〇三三)

覚

松山手永古保里村居住惣領一疋ニ而病死仕候

野口丈平養子

野口惣次郎

右者、養父跡相統別紙之趣ニ付承繕申候処、人物宜由。以前者武芸茂

数々稽古仕候由ニ而、行状ニ付異候唱相聞不申、養父存生中寸志

錢調達仕置候次第、本紙之通ニ而、御赦免開等者所持仕居不申由承申候。以上

丑八月

渡辺平兵衛團

御内意之覚

松山手永古保里村居住一領卷正ニ而致病死候

野口丈平養子

野口惣次郎

当丑四十六歳

右惣次郎父野口丈平儀、文政度玉葉料として寸志錢貳貫五百目差出、御郡筒ニ被召抱、天保五年二ノ丸御修覆御手伝寸志錢壹貫五百目差出候ニ付、御郡代直触ニ進席被仰付、同九年窮民御取救寸志錢壹貫目差出、地士ニ進席被仰付、嘉永五年守富在成立寸志錢三貫目上納仕、同年十月一領卷正ニ進席被仰付置候処、当四月病死仕候。尤御赦免開建立等所持仕不申、同人存生寸志錢差出置候分、左之通ニ御座候。

一錢三貫目

但安政六年六月松山手永花園堤御普請入目之内、民力強寸志として、本行之通差出候処、追而繼目之功ニ被立下候段、御達ニ相成居申候。

一錢三貫目

但當二月右堤御普請料として、右同断之處、追而繼目之功ニ被立下候段、御達ニ相成居申候。

合六貫目

右惣次郎儀、劍術速水多喜次郎、長太刀組討居合星野四郎左衛門、槍術磯野貞之允、炮術中村次左衛門門弟ニ而、稽古仕居申候処、

同人儀人物宜敷、万延二年十一月松山手永東自在御山見抄申付候処、出精相勤、一赫壯健手全ニ有之、往々御用ニ相立候者ニ御座候。然処父丈平儀、当四月病死仕、同人存生寸志錢六貫目差出置候訳ニ被付、惣次郎儀、父跡一領卷正ニ被召出被下候様有御座度、於私羨奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

慶応元年閏五月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

(朱書)  
[左之發議之通、丑十月廿八日達]

發議

惣次郎儀、達之通ニ而寸志高繼目究之規矩相当申候間、父同様一領一疋可被召出哉。

四一四 愛甲謙益

(二〇三二)

御内意之覚

郡浦手永御郡医師並

愛甲謙益

野津手永御郡醫師並佐々木元粹粹

佐々木文澤

右兩人共医業心懸厚、自勘遊学茂仕、段々習熟仕居申候得共、今以修行心弥以手厚御座候付、当時私共より長崎遊学申付、差越置申候処、外々遊学生同様、長崎遊学不被仰付候而者、万端外遊学生と不对ニ有之、重疊都合悪敷御座候間、往々屹度上下之御為合

ニ茂相成可申候ニ付、何卒兩人共長崎遊学被仰付被下候様有御座  
度、於私共奉願候処、寺倉秋堤より之内意相添、御達仕候条、宜  
被成御參談可被下候。以上

拓植玄迪

当丑五十八歳

宇土・八代

御郡方

御郡代

御奉行衆中

僉議

謙益、文澤儀、達之通ニ付追々見合を茂御座候間、兩人共遊学と  
して長崎へ可被差越哉。

(栄世)  
〔丑十月晦日達〕

#### 四一五 拓植玄迪

(二〇一三)

覚

松山手永笹原村居住御目見医師

拓植玄迪

右者別紙之趣ニ付承繕申候処、家業心懸能、出精いたし、病家貧  
福之無差別、尻輕廻診いたし、貧民者謝儀届兼、施薬之躰ニ成行  
候得共、聊無頓着配剤いたし候ニ付、一統帰腹いたし居、療治方  
手広被行、所柄一稜之為合ニ相成候由。去一ケ年之病人数等、委  
細本紙之通承申候。以上

丑四月

河口原右衛門 圀

工藤覚兵衛 ㊦

御内意之覚

松山手永笹原村居住御目見医師

一年数二十三ケ年

右者、養父拓植桂淳と申、文化八年療治方手広出精仕候旨ニ而、  
御郡医師並ニ被召出、追々療治方出精ニ付、御褒詞御銀拝領等  
度々被仰付、天保九年家業心掛能、療治方出精仕候旨ニ而、独礼  
被仰付、同十三年迄三十三年相勤、右玄迪儀、天保十四年養父桂  
淳諸医業相続、御郡医師並ニ被召出、安政二年家業心掛能、療治  
方手広出精仕候旨ニ而、御目見医師ニ被仰付、当年迄二十三ケ年  
家業出精仕、御郡並之御奉公、無懈怠精勤仕申候。

一去ル天保四年松合村疫病流行、式千人程相煩候内、四百人程死亡  
いたし居、村居住医師茂兩人病死仕、療治方差支申候間、松山手  
永医師中代ル、相詰、療治方申付候内、桂淳儀者、別段諸方療  
治申付候ニ付而ハ、玄迪儀為名代二月より五月迄、必多度相詰、  
療治方出精仕申候。

一玄迪儀、再春館出席且郡浦手永医生中申談、去ル天保五年より  
月々附方会出席仕申候。

一天保十二年より住吉御新地御築立ニ付而、御用懸被仰付候処、御  
築立後追々破損等有之、卯年迄三ケ年之間、必多度御普請小屋江  
罷出、役々を初諸日雇手之者迄数百人療治方出精いたし候。

一北浦新地御普請ニ付而罷出、療治方致出精、数年之間別而骨を折  
候旨ニ而、嘉永元年銀五両被為拝領候。

一文久三年松山手永村々、去夏麻疹流行ニ付而、至貧之者薬礼等届  
兼候ニ付、心付として松山会所御用銭之内より金子三両差遣置申  
候。

一當時療治懸之村々、左之通

松山手永

笹原村 笠岩村 網津村 下網津村

郡浦手永

網引村 城塚村 伊津野村 鶴見塚村 惠里村 下惠里村 新

開村 下新開村

村数合十二ヶ村 病家数七百八十軒余 病人数貳千五百人余

但去子年療治いたし候分。

五十三軒

病人数九十二人

但去子年全施薬致療治候分。

一右病家懸外、錢塘手永之内貳丁・八丁・二十丁・走瀉村、郡浦手永長濱村方江茂類々療治方ニ罷越、將亦新開御藏入津之御米船・商船等、都而療治いたし候内ニハ、間々施薬等仕申候。右之通ニ而、玄迪儀、當時療治懸松山・郡浦・錢塘三手永内數十ヶ村ニ懸、手広貧福之無差別、深切ニ療治方出精いたし候処ニ而者、いつれ之村々茂至貧乏之者勝ニ而、年々余計之施薬ニ而、療治方手厚出精いたし、御普請向寄夫等之節々、無故障出役、御郡並之御用出精仕申候処、親跡相統以来当年迄二十三年療治方出精仕、一廉諸人之為合ニ相成、最早前賞より十一ヶ年ニ相成候ニ付被賞、御時服被為拝領被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

元治二年四月

御郡方

御奉行衆中

入江次郎太郎

僉議

玄迪儀、達之通ニ而、医業吟味役ニ問合申候処、治療習熟業篤志之段達有之、再春館御目附見聞茂同様之由達有之、科目丙科相当申候御郡御目附付御横目聞方も、家業心懸能、貧福之無差別、病家廻診等懇ニ行届、療治方手広被行、所柄一稜為合ニ相成候趣等別紙之通ニ而、先賞より十一年ニ相成、右科目ニ而者見合せ御座候間、桜御紋附袖御拾羽織一可被下置哉。

(朱書)

〔本道病案三条、一方破的、一方失儲

問方僉議之通扣略之

右丑十一月七日申渡

丑十一月七日申渡

四一六 次兵衛

覚

松永手永松原村庄屋

次兵衛

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、頭百姓以来数十年出精相勤候由。松原村之儀、瀉在ニ而、旧来之需落所ニ候処、種々成立之仕法を附、且新百姓等茂仕立方いたし候内ニ者、丈夫ニ有付居候者茂有之、諸事之世話筋深切ニ而村方一和仕御年貢諸上納等速ニ相納候由勤年数等本紙書面之通承申候、以上

丑四月

河口源右衛門

工藤覚兵衛

御内意之覚

松山手永松原村庄屋

次兵衛

当丑六十五歳

一 勤年数四十八年

二十六年 頭百姓

二十二年 庄屋役

右者、文政元年松原村頭百姓申付、弘化元年同村庄屋役申付、嘉永六年築籠村庄屋兼帯申付置候処、築籠村庄屋役之儀者依願差免、松原村頭百姓以来当年迄四十八年、無解怠精勤仕候内、左之通

一 頭百姓勤申候以来、御年貢諸上納速ニ皆済仕候旨ニ而、宇土方ヨリ鳥目十九度被下候。

一 安政四年十月頭百姓已來数十年致出精、高地片付方等厚心配いたし、村方世話筋能行届候旨ニ而、傘被成御免候。

右者松原村之儀、宇土御知行所湯村在第一之零落所ニ御座候処、次兵衛儀頭百姓申付候已來、高地片付兼候ニ付而ハ、新百姓仕立方或者水氣拔養水縣新井手立種々仕法筋、手を尽、心配仕候処ヨリ、水田・沼地之内茂多、乾地ニ変化仕、秋作出來枯宜敷相成、諸作等茂次第ニ相増、新百姓茂有付、旧來之弊害茂相改り、近年花園堤御築立ニ付而者、養水方能行渡、勸農ニ基、從來之零落所ニ御座候処、次兵衛儀差入、深切ニ世話仕、近年成立之萌相見、村方一和仕、御年貢・諸上納御本未共、年々無滞相済、頭百姓以來四十八年格別精勤仕候間、年勞勞を被賞、無苗御惣庄屋直触被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然可被成御参談可被下候。以上

元治二年四月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

次兵衛儀、達之通ニ而、庄屋一役之年数ニ而者、三年程年浅ニ有之、御惣庄屋直触被仰付之儀者、難相成相見江申候得共、其以前頭百姓二十六年相勤、村方成立筋等厚心配仕候由。右年数ニ而者見合セ御座候間、無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。

四一七 齊藤七左衛門

(一〇一三二)

覚

松山手永網津村居住御郡代直触ニ而同村庄屋御牧別当兼帯

齊藤七左衛門

右者別紙之趣ニ付、承繕申候処、手全成人物之由、会所小頭以来役方数十年心縣能出精相勤、農業深切ニ相倡、村方世話筋茂能行届候由。且御牧内類々打廻、産馬増之仕法等厚心配いたし候由。勤年数等本紙書面之通承申候。以上

丑五月

吉武英右衛門

御内意之覚

松山手永網津村居住御郡代直触ニ而同村庄屋御牧別当兼帯

齊藤七左衛門

当丑四十九歳

一 勤年数三十年

十年 会所小頭役

二十年 庄屋御牧別当兼帯

右者天保七年正月郡浦会所小頭申付、弘化三年小頭役者差免、網津村庄屋御牧別当申付、嘉永二年寸志之訊ニ被対、御家中御貸人御郡筒ニ被召抱、嘉永六年廻江手永守富在為成立寸志差上申候、御郡代直触ニ被仰付、小頭以来当年迄三十年出往相勤居申候。

一天保九年御巡見衆御通行ニ付、請持之稜々致出精、且征還筋御普請夫仕等致心配候段、御間御聞届被仰付候段、御達ニ相成申候。

一天保十年下益城宇土催合御新地御築立ニ付、請持稜々出精仕候旨ニ而、鳥目壹貫文被為拝領候。

一天保十二年北浦御新地御築立ニ付致出精、卯年大風破損御普請ニ付而茂、出精相勤候ニ付、鳥目貳貫文被為拝領候。

一嘉永七年餘、沼山津水理一件ニ付而ハ、築石等取出方致心配候旨ニ而、鳥目貳貫文被為拝領候。

一文久元年来ル巳年以来、御藏納格別御取締被仰付候ニ付而ハ厚致心配、未年より申年到候而者、惣通シいたし候ニ付被賞、鳥目壹貫文被為拝領候。右之外宇土方御普請向出精、且同所御年貢取立等厚心配いたし候旨ニ付、宇土方より追々鳥目被下置候。

一畝数式町五反程

但去ル安政三年坪根田下ケ名之内依願櫛場床ニ開明、逐年繁茂仕、一廉之事業ニ御座候。

一石橋八ヶ所

一磧七ヶ所

但去ル午年以来新古養水磧并土橋等縣来候を御山渡材木ニ夕替分奉願、右代錢を以石橋・石磧等依願仕替被仰付、御山渡之材木夫立等、往々相減、一廉上下之為合ニ相成申候。

右七左衛門家筋之儀、数代庄屋役并御牧別当連綿仕、七左衛門儀、

会所小頭以来精勤仕、稜々被賞、庄屋役申付候処ニ而ハ、右方者勿論住吉御新地養水方且道橋之手入筋厚心を用、土橋等数ヶ所石橋・石磧ニ仕替、御山渡材木夫立等相減、往々上下逸廉之為合ニ相成、勤農方之儀茂身を以先立、深切ニ相倡、小前々々氣服仕、御年貢御藏納御取締ニ付而者、米仕立より俵拵迄、昼夜打廻り、出精仕、且又御牧別当ニ付而者、何ぞ給米錢等茂拜領仕不申候得共、先祖より代々兼帯仕候ニ付、心掛厚精勤仕、不断御牧内打廻、聽馬者不及申、出生後格別心配仕不申候而者、怪我等有之生育いたし兼、多年別段御倡ニ付而ハ、産馬茂相増、生育仕候儀、畢竟七左衛門差入、昼夜打廻り、心配行届候処より之儀ニ而、於御牧者逸廉功業茂御座候間、旁以会所役以来当年迄三十ヶ年之勤勞、彼是御取来、此節作紋御上下一具被為拝領被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

元治二年四月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

七左衛門儀達之通ニ而、会所小頭以来三十年之内、庄屋御牧別当兼帯二十年ニ相成、兼々農業深切ニ相倡、村方世話筋行届、御牧内類々打廻、産馬増之仕法等厚心配仕、出精相勤候由。委細御郡御目附付御横目見聞之趣共、達之通ニ而、作紋麻上下一具可被下置哉。

四一八 中國英之助 他

(二〇三二)



覚

当丑七十歳

郡浦手永御山支配役諸役人段ニ而、櫛楮見拟兼帯中園英之助列三人、別紙之趣ニ付、承繕申候処、左之通御座候。

網田村居住諸役人段御山支配役ニ而櫛楮見拟兼帯

中園英之助

右者、堅固成人物之由。宇土郡海辺石場見拟以來、数々之役方五十年心縣能、出精相勤候内、当御役数年之間、諸木仕立方いたし候、員数貳拾壹万貳千五百本余之内ニ者、自勘仕立之樺茂有之、不断御山廻等仕方宜、繁茂いたし候由。

栗崎村居住地土稻原覚左衛門養父ニ而同村庄屋

稻原久左衛門

右者、篤実成人物之由。頭百姓以來役方五十年余、心縣能出精いたし、不断農業せわ立候付、一統励合精を出候付、近年之処者、村立宜相成、御年貢諸上納等速相納候由。

中村居住地土ニ而会所御免方受込

松本徳之丞

右者、手全成人物之由。会所見習以來役方数十年心縣能、出精相勤、御免方之儀者、随分功熟ニ有之、地方之扱能行届候由。右之通ニ而、孰茂勤年数等、本紙書面之通承申候。以上

丑五月

吉武英右衛門

御内意之覚

諸役人段ニ而郡浦手永御山支配役櫛楮見拟兼

中園英之助

右者、文化十三年六月宇土郡海辺石場見拟申付候。

一文政三年塘方助役申付、天保十年役方出精いたし候旨ニ而、一領壹疋本席被仰付、弘化元年迄二十五年塘方助役、二十九年石場見拟兼勤仕候。

一弘化二年井樋方助役申付、嘉永五年迄八年相勤申候。

一嘉永六年御山支配役被仰付、在勤中諸役人段被仰付、当年迄十三ヶ年相勤申候。

一同七年櫛楮見拟兼勤申付候。

一安政五年役方多年出精仕候旨ニ而、諸役人段本席被仰付候。然ニ当役在勤中植付候本数等左之通ニ御座候。

一杉拾七万貳千八百二十本

一樺九万千貳百七十五本

一松四万五千九百四十本

一雜木貳千五百本

一楠三十本

一竹五百本

合貳拾壹万貳千五百六拾五本

但嘉永六年より当春迄御山内等ニ植付申候分。

一畝数貳拾五町七反種

但空地秣場之内、新仕立御山ニ相成候分。

七町五反程、但杉拾仕立候分。前条之本数ニ加り居申候。

拾八町貳反程 但樺右同断

右勤年数都合五十ヶ年

式十九年

石場見拟

式十五年 塘方助役

八年 井樋助役

十三年 御山支配役

十二年 櫛楮見抄兼

右之通数役ニ亘り、心掛厚精勤仕、塘方井樋方勤中ニハ、所々新地御築立等御用懸被仰付、自他ニ跨リ御普請筋研究仕、屹と御用ニ相立居、当役之儀も、最早十三年各別出精相勤、御山内平常打廻り、諸木仕立方能行届置茂、杣方御用御買上新取出方且櫛楮見抄方之儀茂厚、心掛出精仕候ニ付、五十ヶ年之勤勞旁ニ被对、相当之御賞美被仰付被下候様。

同手永地士稻原覺左衛門養父ニ而栗崎村庄屋

稻原久左衛門

当丑八十四歳

右者、文化十二年より文政二年迄五ヶ年、栗崎村頭百姓相勤申候。

一文政三年より当年迄四十六ヶ年、同村庄屋役相勤申候。

一安政三年役方多年致精勤候ニ付、作御紋御上下一具被為拝領候。

右勤年数都合五十一ヶ年

五年 頭百姓

四十六年 庄屋役

右者兼々篤実成者ニ而、第一農事ニ志厚ク村中倡合候ニ付、以前者極々零落所ニ而、御救立茂被仰付候村ニ御座候処、近十年勤農ニ基、孰茂農力を得、近郷手本共相成候程之精農ニ而、当時者手永内上段之村立相成候次第、畢竟役前心掛能、身を以先立相倡候処より、右之通成立、一廉之御為合ニ相申成候間、五十余年々勤勞を被賞、作御紋御上下并金子三百疋被為拝領被下候様。

郡浦手永地士ニ而会所御免方

松本徳之丞

当丑五十八歳

右者、文政五年会所見習申付、同七年会所詰小頭ニ召直申候。

一嘉永六年御免方申付候。

一安政三年父五十年余之勤功且徳之丞数十年之精勤旁を被賞、父同様地士相統被仰付候。

右勤年数都合四十四ヶ年

二年 見習

二十九年 小頭

十三年 御免方

右者、兼々手全成生質ニ而、見習以來数十年相勤候内ニハ、稜々受込茂申付、会所向御用筋著申迄茂無御座、所々御築立新地且御入用石取出方等御用懸をも被仰付、出精相勤、当時受込御免方之儀、功熟ニ有之、地方糺方等厚ク心を委ね、研究筋行届、専ラ御用ニ相立居候者ニ御座候。多年之勤勞旁を被賞、作御紋御上下一具被為拝領候様。

右之通、孰茂役前心掛能、出精相勤居申候間、願之通夫々御賞美被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

元治二年四月

御郡方

御奉行衆中

入江次郎太郎

僉議

(朱書)

〔丑十一月七日申候〕

英之助儀、達之通三而、数々之役方五十年之内、塘方助役二十五年、当役十三年ニ相成、余計之諸木仕立方行届、類ニ御山内廻勤等出精仕候由。委細御郡御目附付御横目見聞之趣共、書面之通ニ付、見合茂御座候間、作紋麻上下一具可被下置哉。

久左衛門儀、右同断頭百姓以来五十一年之内、庄屋四十六年、前賞より十年ニ相成、零落之村方勸農筋相倡、所柄之為ニ相成候由、委細達之通ニ付、年数見合茂御座候間、作紋麻上下一具可被下置哉。

(朱書)  
[丑九月十六日達]

德之允儀、右同断。会所見習以来四十四年之内、心頭二十九年、御免方十三年ニ相成、御免方之儀、功熟三而、地方糺方等行届、專御用ニ相立候由。委細達之通ニ付、見合茂御座候間、作紋麻上下可被下置哉。

(朱書)  
[丑十一月廿六日達]  
[丑十一月廿六日德右衛門儀有達候  
[丑十一月廿七日中園英之助申渡濟]

四一九 藤本作兵衛

(二〇三二)

御内意之覚

松山手永宇土町居住歩御小姓列

藤本作兵衛

同手永松合村居住諸役人段

草野安兵衛

一同八貫  
右者今度蒸氣船御買入ニ付、於百貫石官宅等建方被仰付候付、右之通寸志差上度奉願候処、願之通被召上、夫々上納相濟申候間、

孰茂士席浪人格ニ被仰付被下候様、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

慶応元年十月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

作兵衛、安兵衛儀、達之通三而寸志高究之規矩相当申候間、士席浪人格可被仰付哉。

(朱書)  
[藤本事丑十一月朔日申渡  
[草野事丑十一月廿五日申渡]

四二〇 小山直助

(二〇三三)

覚

錢塘手永南走瀉村居住御郡代直触ニ而榲椀仕立方見扱

小山直助

右者別紙之趣ニ付承繕申候処、庄屋当分以来四十九年御奉公手全出精相勤当時榲椀仕立方見扱、一篇相勤候次第、本紙書面之通承申候。以上

丑十二月

吉武英右衛門

御内意之覚

錢塘手永南走瀉村居住榲椀仕立方見扱御郡代

直触

小山直助  
当丑七十一歳

右者文化十三年四月錢塘海辺御郡筒被召抱、同十四年四月南走湯  
村庄屋当分申付、文政十二年八月庄屋本役申付、同年十二月榎椋  
仕立方見被仰付、在勤中御郡代直触被仰付、嘉永二年十月役方  
数十年致出精候旨三而、御郡代直触本席被仰付、万延元年十一月  
役方数十年致出精候旨三而、作紋麻上下一具被下置、文久元年十  
二月庄屋者差免、榎椋見被一篇三而、出精相勤居申候処、庄屋当  
分申付候以来当年迄四十九ヶ年手全出精相勤、功績も有之候処、  
最早当丑七十一歳ニ罷成余命も無御座候。旁御別段之御便議を以、  
地士ニ進席被仰付被下候様。允年内者日墨無御座候ニ付、若当年  
中御埒准被仰付候ハ、前文之通余命無之候間、来春早々御賞美  
被仰付被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談  
可被下候。以上

慶応元年十二月

中村庄右衛門

御郡方

御奉行衆中

僉議

直助儀、達之通三而、惣年数四十九年之内、御郡代直触被仰付候而  
十七年、作紋上下被下置候而六年ニ相成、地士被仰付候儀ハ、五  
十年之御取扱三而、一ヶ年不足いたし候得共、極老三而者、見合茂  
御座候間、地士へ可被仰付哉。

(朱巻)  
[丑十一月廿六日達]

(慶応二年)

四二一 亀井喜三郎

(二〇三二)

覚

松山手永岩熊村居住・地士布古閑・岩熊両村  
庄屋ニ而病死仕候亀井幸右衛門相統之孫

亀井喜三郎

右者、祖父跡相統別紙之趣ニ付承繕申候処、乙名敷生立之由、数  
代庄屋役之家筋三而、祖父幸右衛門父九郎兵衛御奉公之次第。勤  
年数等、委細書面之通承申候。以上

寅二月

河口源右衛門印

御内意之覚

松山手永岩熊村居住地士布古閑・岩熊両村庄  
屋ニ而致病死候亀井幸右衛門相統之孫

亀井喜三郎

当丑九歳

右喜三郎祖父亀井幸右衛門儀、数代庄屋役之家筋三而、文化三年  
庄屋代役申付、同八年親跡岩熊・布古閑両村庄屋并御山口兼勤申  
付、文化五年依願布古閑村庄屋者差免、文化十年御山口者差免、  
岩熊村庄屋持懸三而、松山会所并榎方小頭兼勤申付、弘化三年古  
保里村庄屋所替申付、嘉永四年猶岩熊村三所替申付、同六年并榎  
方小頭者差免、曾畑村庄屋兼勤申付、安政四年同村兼勤者差免、  
布古閑村庄屋兼勤申付、右在勤中文政八年七百町御新地潮留并水  
理御普請之節出精仕候旨三而、鳥目七百文被下置、同十二年役方  
数年致出精、且立岡堤堀添之節、村夫召連罷出、杉嶋新川堀替三  
付而茂出精仕候旨三而、合羽菅笠傘御免被仰付、天保五年役方多年  
心掛能出精仕候旨三而、無苗御惣庄屋直触被仰付、同十二年下益

城・宇土於海辺新地御築立ニ付而、井樋御普請・塘手受込・潮留井手堀ニ付而、始末出精仕候旨ニ而、鳥目貳貫文被下置、弘化元年役方数年出精いたし、岩熊村零落ニ付而者、兼々心配多候処、世話筋行届、御年貢諸上納速ニ相納、井樋方ニ付而茂、彼是心配いたし候旨ニ而、苗字被成御免、弘化五年北浦新地御築立之節、塘手受持井井樋方主ニ成、御普請向厚心を用、出夫明俵等之取計を茂、心配いたし、且卯秋大風破損御普請ニ付而茂出精仕候旨ニ而、鳥目貳貫文被下置、弘化三年宇土御知行所養水御普請心配仕候旨ニ而、宇土方より堅三ツ引紋付木綿単一ツ被下置、嘉永六年廻江手永守富在成立寸志錢老貫五百目差出候訳ニ被対、御郡代直触進席被仰付、万延元年役方五十年之内、兼勤之役方共出精いたし候ニ付、地土進席被仰付、文久元年去ル己年以來、御藏私御取締ニ付而、厚心配いたし、末年ニ至り候而者、致惣過候ニ付被賞、鳥目壹貫文被下置、文久三年松山手永井樋方受込、在勤中御普請向精密相しらべ、余錢茂相備、尤之事ニ付、鳥目貳貫文被下置、文化三年庄屋代役以來、当年迄六十年之内、本役五十五年出精相勤居申候処、当九月病死仕候喜三郎実父龜井九郎兵衛儀、天保八年松山会所見習ニ呼出、同十一年小頭当分申付、弘化三年小頭本役申付、嘉永四年会所詰出銀方櫛方受込申付、同六年出銀方受込者差免、下代役助勤申付、同年十二月櫛方受込者差免、下代助役ニ而当用方請込申付、安政二年曾畑村・岩熊村庄屋代役をも申付、同四年当用方者差免、下代役申付、同六年手永見抄申付、在勤中御郡代直触被仰付、同年笠岩村庄屋後見零落成立請込兼勤申付、文久二年笠岩村庄屋後見者差免、高良村庄屋役申付、元治元年高良村庄屋ハ差免、曾畑村庄屋役兼勤申付、右在勤中天保十二年下益城・宇土於

海辺、新地御築立ニ付而出精仕候旨ニ而、鳥目五百文被下置、天保十二年北浦新地御築立之節、受持之稜々出精仕候旨ニ而、鳥目壹貫文被下置、嘉永七年鯨・沼山津水理一件ニ付、所々御普請受持之稜々出精仕候旨ニ而、鳥目七百文被下置、文久元年去ル己年以來御藏納御取締被仰付、厚心配いたし、惣通之村方茂有之候ニ付被賞、鳥目壹貫五百文被下置、去ル天保八年より去子年迄二十八年出精相勤候内病氣差起、去年六月病死仕候。

右之通ニ而喜三郎儀、未夕若年ニ而武芸稽古等茂仕不申候得共、壯健之生付ニ付、成人後ハ屹と御用ニ相立可申相見申候。数代庄屋役之家筋、祖父六十年、実父二十八年、都合八十八ヶ年勤勞且稜々功跡茂御座候ニ付、彼是ニ被対、喜三郎儀祖父跡地土ニ被仰付被下候様、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

慶応元年十二月 入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

喜三郎儀、達之通ニ而、祖父役方五十六年之勤ニ而相果候付、究之通御郡代直触可被仰付哉。

(朱書)  
慶応二年三月四日達  
實三月四日達

四二二 野田七右衛門

覚

松山手永尾尾村居住諸役人段ニ而宇土御山支

(二〇三二)

配役并櫛楮御牧見抄兼帯

野田七右衛門

右者、別紙之趣ニ付承緒申候処、役々五十年余心懸能出精相勤、御山支配役被仰付候以来者亡父之志を継、御取出等之弁利を計、諸木仕立方之員数茂八拾八万四千三百本余ニおよひ、初發仕立之頭木者、最早三尺廻余ニ相成居、追々御用ニ茂相立、後年ニ至候而者、一稜御為合ニ相成可申由。其外村々土橋之儀、御山内曲木伐替を以、石橋ニ仕替、往々上下一稜之御弁利筋ニ而、功績茂相頭候由。勤年数其余委細之儀者、本紙之通相聞申候。尤惣躰達者に者有之候得共、最早極老之事ニ付、急ニ被賞度由承申候。以上

寅三月

渡邊平兵衛

御内意之覚

宇土郡御山支配役、諸役人段

野田七右衛門

当寅八十歳

一勤年数五十七ヶ年

七ヶ年 無役

二十ヶ年 御牧見抄助役・御山見抄等御制度烏乱者格別見抄

塘方助役

三十ヶ年 御山支配役并御牧見抄櫛楮見抄兼勤

右七右衛門儀者、宇土郡旧古一領卷疋ニ而、御山支配役数十年相勤、御留守居御中小姓迄進席被仰付候野田嶋右衛門次男ニ而、文化七年一領卷疋ニ被召出、同十四年御牧見抄役申付、文政四年宇土郡御山見抄兼勤申付、同五年郡浦手永両長崎村・浦上村風儀不宣筋有之候ニ付、右村々烏乱者見抄申付、同六年御制度各別見抄

役兼勤申付置候処、文政八年父跡御牧見抄本役申付、天保二年塘

方助役加勤申付置候処、同八年塘方助役・御制度格別見抄役者差

免、御牧見抄兼勤ニ而、野田林太郎跡宇土郡御山支配役、在勤中

諸役人段被仰付、櫛楮見抄をも兼勤申付、安政六年諸役人段本席

被仰付、文化七年一領卷疋ニ被召出候。以来五十七ヶ年、其内諸

役付五十ヶ年之内、御山支配役三十ヶ年別段精勤仕申候。

一文政十二年白金御御用櫛楮仕立方請込并野開櫛楮實御買上御用懸被

仰付、当年迄三十八ヶ年厚心配仕申候。

一同年立岡堤御堀添之節、丁場見抄等出精仕候旨ニ而、銀貳両被為

拝領候。

一天保五年松合村并宇土町出火之節ニ、速ニ出役、数日骨折、下り

松御新地御築立、年々御手入ニ付而茂、数日罷出、出精仕候旨ニ而、

銀五両被為拝領候。

一同六年去ル卯秋以来、自他手永追々御普請ニ付而、出精仕候旨ニ而、

金子百疋被為拝領候。同十年松橋龜崎御新地御築立ニ付而、竹木

茨等請込出精仕候旨ニ而、御心付として鳥目五百目被為拝領、尚

同十二年銀五両被為拝領候。

一嘉永元年九月北浦住吉新地御築立并去ル卯秋大風破損ニ付而、

所々御山より竹木代出等出精相勤候旨ニ而、作御紋御上下一具、

金子百疋被為拝領候。

一文政二年去ル卯年松橋御新地御築立之節、宇土御山より材木取出

御用懸被仰付、出精仕候旨ニ而、作御紋御上下一具被為拝領候。

一同六年御郡並之勤以来五十年之内、当役多年心掛能、余計之諸木

仕立方等、出精仕候旨ニ而、諸役人段本席被仰付候。

一文久三年二ノ丸御作事御連枝様御住居向、御材木御取出ニ付而、

出精仕候旨ニ而、金子貳百疋被為拜領候。

右七右衛門儀、惣躰篤実堅固ニ有之、諸役方稜々数十年精勤仕、去ル天保八年御山支配役被仰付候以来、空野或者荒山等之内、松・杉・桧・楠・榎等地味ニ応仕立方仕候木数八十八万四千三百八十七本、年々御届達仕候通ニ而、兼而新古御山内、不断打廻、御山口共示方等行届候ニ付而ハ、次第ニ御山繁茂仕、将又綱引御山ニ而、亡父野田嶋右衛門仕立杉・桧貳拾万余之木数、能木生長仕、追々御取出被仰付、就中去ル戌年二ノ丸御作事御連枝様御住居向御取建ニ付而ハ、余計之杉・桧御取出被仰付、一廉御用ニ相立、七左衛門儀、亡父之事業を継、大場之御山平日無怠打廻り、手入差継等いたし、所々御用宅取繕建替、御新地御築立等諸御普請向多有之候ニ付而ハ、入用竹木年々余計之御山出ニ而、暫時之寸隙茂無御座候処、右之通所々御山之取締方仕立方等能行届、御牧見抄櫛・楮見抄ニ付而茂、手厚心配仕、将亦村々土橋数ヶ所年々竹木并仕夫等余計ニ費来候処、御山曲木御払代を以、右橋ニ懸替之仕法組立奉願候ニ付而ハ、其後右竹木出夫失費相減、上下往々之御為合ニ相成、右様之取計筋等数々有之、彼是勤向格別出精仕、稜々功蹟茂御座候ニ付、積年之勤勞且先御賞美より八ヶ年ニ相成、最早八十歳之老躰彼是御出格之筋を被為持、独礼進席被仰付被下候様、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御参談可被下候。以上

慶応二年三月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

七右衛門議、達之通ニ而、惣年数五十年之内、当役三十年ニ相成、諸役人段本席被仰付候而八年ニ相成、見合茂御座候間、独礼可被仰付哉。

(朱書)  
[寅四月十一日寫、同廿一日申渡]

四二三 渡並七郎兵衛

(一〇一三二)

覚

松山手永馬瀬村居住御郡代直触ニ而病死仕候  
渡並喜助相統之二男築籠村庄屋当分

渡並七郎兵衛

右者、親跡相統別紙之趣ニ付承繕申候処、人物宜役方心懸能、出精いたし、村方世話筋能行届、小前々々茂帰服いたし居候由。行状ニ付異候唱茂相聞不申、父子勤年数等委細本紙之通承申候。以上

寅五月

倉岡運作

御内意之覚

松山手永馬瀬村居住御郡代直触ニ而致病死候  
渡並喜助相統之二男

渡並七郎兵衛

当寅四十九歳

一勤年数十一ヶ年

七年 庄屋代役

四年 庄屋役

右七郎兵衛亡父渡並喜助儀、文政五年馬瀬村庄屋当分申付、同七

年本役申付、弘化元年役方多年出精いたし候馬渡村之儀零落ニ付  
而者、心配強候処、世話筋行届候旨ニ而、無苗御惣庄屋直触被仰付、  
安政三年役方多年致出精候旨ニ而、苗字被成御免、文久二年六月  
役方数十年心懸能致出精候旨ニ而、御郡代直触ニ被仰付、翌亥年  
迄四十二年相勤居候処、及老年役儀勤兼候ニ付、依願差免申候。  
尤追々被賞等、左之通。

一文化元年御才覚銭老貫二百目寸志差出候ニ付被賞、礼服・小脇  
差・傘・合羽・菅笠被成御免候。

一文政十二年立岡大堤堀添之節、村夫召連罷出、其外請込之稜出精  
いたし、且又杉嶋新川堀替ニ付而茂、致出精候旨ニ而、鳥目老貫文  
被為拝領候。

一天保五年松合村度々出火、跡家建方之節、厚心配いたし、救浦井  
下り松新地築方ニ付而茂、致出精候旨ニ而、鳥目老貫文被為拝領候。

一同十二年下益城・宇土於海辺、新地御築立ニ付而、潮留等之節、  
出夫仕方・土俵運送等、無間拔出精仕候旨ニ而、鳥目老貫文被為  
拝領候。

一嘉永元年北浦新地御築立之節、明俵類運送船致心配、潮留之節、  
夫仕等出精いたし候旨ニ而、鳥目老貫文被為拝領候。

右之通、稜々結構ニ被仰付置候処、喜助儀当正月ニ病死仕候。悴  
喜久平儀、病身ニ罷成候間、一男七郎兵衛江苗跡相統願出候間、  
元治元年閏五月願之通差免置申候。

右七郎兵衛儀、為人篤安ニ有之、筆算等茂相応ニ相心得居候ニ付、  
安政三年父代役差免置申候。文久三年馬瀬村庄屋役当分申付、同  
四年築籠村江所替申付、当年迄四ヶ年出精相勤、代役以来十一ヶ  
年相勤、村方一躰之世話筋行届、諸取立等茂圭角ニ請仕仕候ニ而八、

於小前々々茂、帰服仕居申候。然処父子勤年数五十三ヶ年ニおよ  
び、殊ニ七郎兵衛儀、向々屹卜御用ニ相立候者ニ御座候旨、勤勞  
旁ニ被对、苗字御免御惣庄屋直触ニ被召出被下候様有御座度、於  
私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

慶応二年四月

入江次郎太郎

(朱書)  
[會談之通、寅五月十四日達]

御郡方

僉議

七郎兵衛儀父渡邊喜助役方四十二年之勤ニ而相果、其身庄屋代役  
七年、本役四年ニ相成候付、苗字御免・御惣庄屋直触被仰付被下  
候様、達之通御座候処、父之勤五十年以下者難被仰付、其身茂僅  
之年数ニ付、御郡代直触之跡究之通無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。

四二四 野村勝之助

(一〇一三三)

覚

松山手永下網津村居住御郡代直触同会所手代  
上席ニ而御免方受込宇土町別当兼帯

野村勝之助

右者別紙之趣ニ付承繕申候処、諸事吞込宜、役前心懸能出精いた  
し候由ニ付、申立之通被仰付候者、会所内一躰取扱ニ相成可申由  
承申候。以上

寅八月

渡邊平兵衛 印

御内意之覚

松山手永下網津村居住御郡代直触松山会所手



代上席御免方請込宇土町別当兼帯

野村勝之助

当寅四十二歳

寅五月

御内意之覚

郡浦手永御惣庄屋直触医師

倉岡運作

右者一鉢人物宜敷、役筋出精いたし、諸事吞込宜敷、一廉御用ニ

相立候者ニ御座候間、在勤中地士ニ被仰付、松山会所見拟被仰付

被下候様、有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被

成御参談可被下候。以上

慶応二年六月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

勝之助儀、会所見拟申付有之度由、達之通ニ付、在勤中地士可被

仰付哉。

(朱書)  
[寅九月三日達]

### 四二五 渡 玄春

(一〇一三三)

覚

郡浦手永御惣庄屋直触医師椿原村居住

(朱書)  
本道 三法破的

渡 玄春

右者別紙之趣ニ付承繕申候処、家業数年、心懸能出精いたし、宇土

御家中を始、療治方相応ニ被行、病家貧福之無差別、廻診等尻軽

有之候ニ付、病家之氣請茂宜由、且居村之儀者至而零落之村方ニ而、

謝儀届兼候分茂有之候由之処、聊無厭配剤いたし、所柄為合ニ相

成候由、承申候。以上

渡 玄春

当寅四十歳

右者生質手全成者ニ而、安政二年親跡御惣庄屋直触ニ被仰付、当年

迄十二ヶ年家業心懸能出精仕、療治懸り都合十五ヶ村、寔數貳百

五拾軒余ニ亘り、手広ク療治仕候内ニハ薬札等夫々行届不申者共茂

有之、施薬同前之療治向多御座候得とも、貧福之無差別、懇ニ奔

走いたし、遠在医師不便利之所柄、右之通手厚療治方仕候ニ付、

村々一稜之為合ニ相成候ニ付被賞、御郡代直触ニ進席被仰付被下

候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御参

談可被下候。以上

慶応二年四月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

玄春儀、達之通ニ付、医業吟味役江問合申候処、治療習熟・学業

篤志之段達有之、再春館御目附見聞之趣茂同様之由達有之、科目

丙科ニ相当申候。御郡御目附付、御横目見聞之趣茂、病家廻診等

尻軽有之ニ付、病家之氣受宜、所柄之為ニ相成候由、夫々別紙之

通ニ付、見合も御座候間、御郡代直触可被仰付哉。

(朱書)  
[寅十月廿一日達]

### 四二六 北野茂次郎

(一〇一三三)

覺

松山手永馬瀬村居住一領壹疋ニ而宇土駅所横目役并新開御藏見扨且定詰番衛瀉村成立受込

北野茂次郎

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、役々数十年心懸能、出精いたし、瀉村成立受込ニ付而者、養水方之仕法を初、勸農筋行届、且新開御藏御役々引払後、番衛之儀茂嚴重ニ有之、宇土駅所人馬之雇錢受払等之儀茂、圭角ニ相糺、彼是精勤仕候由ニ而、勤年数本紙之通相聞申候。以上

寅五月

渡邊平兵衛印

御内意之覺

松山手永馬瀬村居住一領壹疋ニ而宇土駅所横目并新開御藏見扨役且定詰番衛瀉村成立受込

北野茂次郎

当貢六十歳

一勤年数三十四年

十三年 駅所小頭惣代会所根割根扨助役

九年 庄屋役

十二年 御家人役

右者、天保四年宇土駅所小頭役申付、同十二年城神山村庄屋兼帯申付、嘉永二年右而役ハ差免、宇土駅所惣代役申付、同六年右役差免、松山会所詰席根割役ニ而、根扨助役申付、安政二年九月父跡一領壹疋相統被仰付、根割根扨助役者差免申候、同三年瀉村八ヶ村成立請込并花園堤・養水井手見扨申付、同年新開御藏見扨兼

帶申付、同四年同所御藏納相濟、御役人引払後、御米船積切迄御藏定詰番衛申付、同六年花園養水井手筋見扨者差免、宇土駅所横目役申付、當時四役兼帯専ラ精勤仕居申候。

一天保六年去ル卯年非常之洪水已後、自他手、永追々御普請ニ付而罷出々精、夫仕等厚ク致心配候段、御間御間届ニ相成候。

一同十一年三月去々夏、御巡見様御通行御用出精相勤候段、御間御間届ニ相成候。

一同十二年下益城・宇土於海辺、御新地御築立之節、御役人通行余計之人馬無差支様、出精いたし候旨ニ而、鳥目五百文被下置候。

一弘化五年北浦新地御築立之節、明儀・繩等差出せ潮留之節々罷出、土俵運送等之儀茂、致出精候旨ニ而、鳥目壹貫文被下置候。

右之通稜々御賞美茂被仰付候所、當時四役精勤仕、瀉村成立筋ニ付而ハ、養水方之仕法を始メ、勸農筋専相信、御損引等仕来候患茂慚々相除リ、新開御米山床之儀者、御藏詰之役々引払、後見扨

手厚行届、安政四年御藏建方後、御米納相濟次第、御役人引払候而茂、茂次郎御藏定詰仕、御米船御積切迄嚴重ニ番衛いたし候ニ付、御役人定詰加扶持御出方等茂相減、屹と上下之御為合ニ相成申候。

将亦宇土駅所横目役勤向之儀、近年人馬立余計ニ相増候へ共、現立人馬無滞様心配仕、諸雇錢請払之稜々、圭角ニ相糺、不筋ニ成行不申儀ハ、畢竟茂次郎精勤之処よりと相見候処、駅所小頭以来

当役迄都合三十四年之勤勞ニ付被賞、作紋御上下一具被為拝領被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御

參談可被下候。以上

慶応二年五月 入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

茂次郎儀、達之通三而、馱所小頭以来役方三十四年之内父之年勞三而一領一正被仰付候以後十二年三相成、数々之役方心懸能、出精いたし候由。御郡御目附付御横目見聞之趣茂、別紙之通三付、作紋麻上下一具可被下置哉。

〔朱書〕  
〔黄十一月廿六日達〕

（慶応三年）

四二七 岩村久兵衛 他

（一〇一三十四）

覚

松山手、永岩村久兵衛列、別紙申立之趣三付、承繕申候処、左之通

笠岩村居住一領卷正

岩村久兵衛

右者、先年当席昇進被仰付候後、不相替今以出精いたし、炮術一芸目録相伝相増、槍術者相門倡方申付相成候三付、身を以、先立倡方小倉表出張を茂被仰付候由。

笠岩村居住地土近藤九平養子

近藤勇騎

右者、劍術居合槍術目録相伝相济居、小倉表出張を茂被仰付候由。

網津村居住御郡代直触野村勝之助粹

野村貞四郎

右者、劍術・居合・槍術目録相伝相济居、小倉御出張之御供を茂

被仰付候由。

右之通三而、三人共心懸能出精いたし、勇騎・貞四郎兩人者、行状三付相替候唱茂承不申候。以上

卯二月

河口源右衛門

御内意之覚

松山手永笠岩村居住一領卷正

岩村久兵衛

当卯四十歳

右者、武芸心懸能、劍術渡邊牛之助門弟三而、文久元年九月目録相伝仕、居合惠良左十郎門弟三而、安政六年四月目録相伝仕、鎗術松原傳右衛門々弟三而、文久三年四月目録相伝仕、柔術矢野彦左衛門門弟三而、同年同月中極意相伝仕、炮術永領仁兵衛門弟三而、安政四年三月初目録相伝仕候三付、文久三年八月被賞、一領卷正三進席被仰付、御手当并御郡並之御用被仰付置候処、其後不相替出精相伝等相増申候分左之通三御座候。

一 炮術永嶺雲七より文久三年九月目録相伝仕、鎗術松原左次右衛門々弟三而、慶応元年三月同門倡方申付置候。

一元治元年八月長防御征討として、御人数被召出候節、小倉表江出張被仰付、同年十二月帰国仕候。右之通三而、前賞より五ヶ年三相成、殊三其後目録相伝卷加之、鎗術八同門倡方并小倉出張をも被仰付、出精相勤候三付、旁以被賞、諸役人段進席被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。左候ハ、弥以御家中一統之競三相成、往々ニハ屹と御用ニ相立可申者茂出来可仕と奉存候間、此段不聞御内意仕候条、可然被成御参談可被下候。以上

慶応三年正月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

久兵衛儀、達之通三而、武芸数々相伝相濟候付、一領一疋被仰付置候処其後炮術目録相伝いたし、小倉江茂出張被仰付、前賞より五年三相成、槍術者同門倡方茂申付三相成、見合茂御座候間、諸役人段可被仰付哉。

(朱書)  
[卯四月十四日申渡]

御内意之覺

松山手永笠岩村居住地士近藤九平養子

近藤勇騎

当卯三十四歳

右者、為人淳良ニ有之、武芸心懸能、数々相伝相濟、同門中申談、不断稽古出精仕、則稽古附、左之通ニ御座候

一 劍術渡邊牛之助門弟ニ而稽古仕、慶応元年九月目録相伝仕、居合  
惠良左十郎門弟ニ而、同年六月右同断、鎗術松原左次右衛門々弟ニ  
而、慶応二年十一月右同断、炮術永嶺雲七門弟ニ而、文久三年九  
月初目録相伝柔術矢野司馬太門弟ニ而、元治元年十一月中極意相  
伝仕候。尤右目録相伝年月学校御目附江問合候処、相違無御座候  
ニ付、右問合書相添置候。

一元治元年十一月良之助様小倉御出張之節、御供被仰付、翌年正月  
御供ニ而帰国仕候。

右之通ニ而、目録三相伝相濟、殊ニ小倉表ニも被差越候ニ付、目録  
一ニ被立下候得者、四目録ニ相成候ニ付、旁以被賞、此節別席地士  
ニ被召出被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、

可然被成御參談可被下候。以上

慶応三年正月

御郡方

御奉行衆中

御内意之覺

松山手永網津村居住御郡代直触野村勝之助倅

野村貞四郎

当卯二十七歳

右者惣躰人物宜敷、氣働茂有之候ニ付、会所小頭申付、往々御用ニ  
相立候者ニ御座候処、武芸心懸能、不断出精仕、則稽古附左之通  
ニ御座候。

一 劍術渡邊牛之助門弟ニ而稽古仕、慶応元年九月目録相伝仕、居合  
惠良左十郎門弟ニ而、同年六月目録相伝仕、鎗術松原左次右衛  
門々弟ニ而、慶応二年十一月目録相伝仕、炮術永嶺雲七門弟ニ而、  
文久三年九月初目録相伝仕、柔術矢野司馬太門弟ニ而、同年四月  
居業相伝仕候。

一元治元年八月長防御征討として、河喜多助三郎江被差添、小倉出  
張被仰付、翌年正月帰国仕候。右之通ニ而、目録三ツ、殊ニ小倉  
詰をも被仰付、右者目録表ニ被立下候得者、四目録ニ相成候ニ付、  
別席御郡代直触被召出被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御  
内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

慶応三年正月

入江次郎太郎

(朱書)  
[卯四月十四日達]

御郡方

御奉行衆中

僉議

勇騎、貞四郎儀、達之通ニ而、三芸目錄相伝相濟、小倉江茂被召仕見合茂御座候間、勇騎儀地士被召出、貞四郎儀御郡代直触可被仰付哉。

四二八 野村新助、野村七兵衛

(二〇三三四)

覚

松山手永網津村居住独礼ニ而井樋方助役・宇土駅所惣見扱・北浦新地見扱并惣受込津方見扱兼帯

野村新助

右同人悴 野村七兵衛

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、新助儀老年ニ者壯健ニ有之候得共、数役届兼候由ニ而、井樋方助役・宇土駅所惣見扱役之儀者、御断願出之趣、無余儀様子相聞、悴七兵衛儀、手合成生質之由、会所役踏出ニ而、筆算達者仕、氣働茂有之候由。行状ニ付異候唱茂無之、申立之通被仰付、可然人物之由承申候。以上

卯五月

宗村儀三次

御内意之覚

松山手永網津村居住独礼井樋方助役・宇土駅所惣見扱・北浦新地見扱并惣受込津方見扱兼帯

野村新助

右者、当年八十四歳ニ罷成、一躰壯健ニ者御座候得共、老年之事ニ

付、数役届兼候由ニ而、井樋方助役并宇土駅所惣見扱役兼帯之儀ハ御断願出候ニ付、承礼候処、相違之儀無御座候ニ付、願之通御免被仰付被下候様。

同人悴

野村七兵衛

当卯四十一歳

右者、若年より会所役且庄屋役等相勤、筆算達者ニ而、一躰氣働有之、往々御用ニ相立可申者ニ御座候間、新助儀願之通御免被仰付候ハ、右諸井樋方助役并宇土駅所惣見扱役申付度奉在候ニ付、在勤中一領壹疋ニ被仰付被下候様有御座度、於私茂此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

慶応三年五月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

新助儀、老年ニ罷成、数役届兼候由、達之通ニ付、井樋方助役・宇土駅所見扱被差免候儀、存寄無之段、及達可申哉。七兵衛儀、前条新助跡井樋方助役・宇土駅所見扱被申付度由、書面之通ニ而、右在勤中一領壹疋可被仰付哉。

(朱書)  
卯六月廿五日達

四二九 岡崎壽一郎 他

(二〇三三四)

御内意之覚

松山手永宇土町居住御郡代直触

一 錢老貫五百目 岡崎壽一郎

同手永下網津村右同 平原平次郎

一 同老貫五百目 松山手永御領村居住御郡代直触 山田徳十郎

一 錢老貫五百目 同手永同村居住右同 吉村儀三郎

一 同老貫五百目 同手永笹原村居住右同 大田黒源八

一 同老貫五百目 同手永宇土町居住海岸防禦郡筒 萩原太平次

一 同三貫七百五拾目 但、何れ茂地土進席被仰付被下候様。 同手永曾畑村居住文政度御郡筒 河野順之助

一 同式貫式百五拾目 同手永笠岩村居住羈崎地震質御郡筒 益田丈右衛門

一 同式貫式百五拾目 同手永宇土町居住海岸防禦御郡筒 小田嘉兵衛

一 同式貫式百五拾目 同手永御領村居住苗字御免御惣庄屋直触 右田平四郎

但、何れも御郡代直触進席被仰付被下候様。 松山手永宇土町居住無苗御惣庄屋直触 又三郎

一 錢老貫五百目 但、苗字御免御惣庄屋直触被仰付被下候様。 右者今度統隊御倡ニ付而、玉薬料等諸入目償として寸志錢被召上

旨ニ付、口立之通差出度奉願候処、願之通被召上段、御達之趣ニ付、夫々会所元江上納相濟申候。依之何れ茂進席被仰付被下候様奉願候。以上 慶応三年八月 入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

壽一郎列十一人達之通ニ而、寸志高究規矩ニ相当申候間、夫々但書之通可被仰付哉。

(朱書) 卯九月五日達

四三〇 岡村弥一左衛門、井上八十八

(二〇一三四)

御内意之覚

松山手永宇土町居住御留守居御中小姓列岡村庄太郎養弟

岡村一左衛門

一 錢貳拾老貫目

同町居住前御小姓列

井上八十八

一 同九貫目

右者今度統隊御倡ニ付、諸入目償として寸志被召上旨、御達之趣ニ付相倡候処、右之通差上度奉願候処、願之通被召上、夫々上納相濟申候旨、何卒孰茂土席浪人格被仰付被下候様、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

慶応三年八月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

吉左衛門列、一綴四拾五人寸志高究規矩ニ相当申候間、夫々但書之通可被仰付哉。

(朱書)

〔吉左衛門、為右衛門、普兵衛、森之助、次三郎、庄九郎、次右衛門、弥一左衛門、卯九月十日襲、同十八日申渡、彦左衛門、伊平事同日申渡、勝助以下卯九月五日達〕

(朱書)

〔一綴之内一領一疋以下卯九月五日達、步御小姓以上、卯九月十日襲、同十八日申渡済〕

四三一 郷 百右衛門

(一〇一三四)

御内意之覚

松山手永伊無田村居住御郡代直触

一 銭壹貫五百目

郷 百右衛門

同手永松崎村居住右同

一 同壹貫五百目

村崎文左衛門

但、兩人共地土進席被仰付被下候様

一 銭壹貫五百目完

右同

高尾源太郎

右者今度銃隊御倡ニ付而、玉薬料等諸入目償として寸志銭被召上旨ニ付、右之通差上度奉願候処、願之通被召上段御達之趣ニ付、夫々会所元江上納相濟申候。依之何れも但書之通進席被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

右同

水口栄喜

慶応三年八月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

百右衛門、文左衛門儀、寸志高究規矩ニ相当申候間、孰茂但書之通可被仰付哉。

(朱書)

〔卯九月廿二日達〕

四三二 佐久間藤助 他

(一〇一三十五)

御内意之覚

郡浦手永御郡筒ニ而在勤中地土

一 銭三貫七百五拾目

佐久間藤助

但、地土本席被仰付被下候様

御郡代直触

一 同壹貫五百目完

永嶺惣兵衛

右同

稻原庄右衛門

御郡代直触

高岡安之允

一 同貳貫貳百五拾目完

右同

井上儀左衛門

僉議

佐藤小左衛門

右同

山口甚三郎

右同

尾崎為次

右同

長尾又次

右同

吉井儀三郎

右同

佐藤新左衛門

右同

田添平次郎

御郡簡

加悦利左衛門

右同

堤彦兵衛

右同

尾崎東

右同

西山源之允

右同

加悦三郎次

右同

松下彦右衛門

右同

右同

池田惣三郎

右同

宮原佐兵衛

右同

寺本彦太郎

右同

豐田十兵衛

右同

杉本茂助

御郡簡

松岡榮右衛門

右同

小山敬左衛門

右同

松川藤兵衛

右同

村田善左衛門

右同

河瀬惣次郎

右同

松村次三郎

右同

木村勝左衛門

右同

松本岩右衛門

一錢貳貫貳百五拾目完

一錢貳貫貳百五拾目完



右同

西村次右衛門

地土中川金助二男

中川重兵衛

無苗御惣庄屋直触

次兵衛

一同三貫七百五拾目

但、何れも御郡代直触被仰付被下候様。

右者今度銃隊御倡ニ付而、玉薬料等諸入目償として寸志錢被召上

旨ニ付、口立之通差上度奉願候処、願之通被召上段、御達之趣ニ

付、夫々会所江上納相濟申候。依之何れ茂但書之通進席被仰付被

下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

慶応三年九月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

藤助列達之通ニ而、寸志高究規矩ニ相当申候間、孰茂但書之通可被

仰付哉。

(朱書)  
〔卯十月六日達〕

四三三 河野栄太郎

(二〇一三五)

覚

郡浦手永手場村居住本席一領卷疋ニ而御買上

薪方見拟在勤中諸役人段ニ而病死仕候河野十

郎倅

河野栄太郎

右者親跡相統別紙之趣ニ付承繕申候処、人物宜由、武芸心懸能出

精いたし、炮術目録、居合中極意相伝相濟居、京都江茂相語、去

七月中村四郎左衛門方江被差添、小倉江罷越候処、戦争之節相働

為申由行状ニ付、相替候唱茂相聞不申、委細者本紙之通ニ而御赦免

開等者所持いたし居不申由承申候。以上

卯十一月

下田久助團

御内意之覚

郡浦手永本席一領卷疋ニ而御買上薪方見拟在

勤中諸役人段ニ而致病死候河野十郎倅

河野栄太郎

当卯二十六歳

右河野栄太郎亡父河野十郎儀、万延元年武芸心掛能、数々相伝茂

相濟候ニ付、地土ニ被召出、御郡並之御用請持被仰付、一列無役

之口ニ被付置候。

一文久三年郡浦手永村々、御買上薪見拟被仰付、廻勤飯米被下置候。

一元治二年二月武芸心掛能、数々相伝相濟候ニ付、一領卷疋被召出、

御手当并御郡並御用請持被仰付、一列無役之口ニ被付置候。

一慶応元年袖方御買上ヶ薪見拟役ニ付、在勤中諸役人段被仰付置候

処、当四月病死仕候。倅河野栄太郎儀、劍術新居七右衛門々弟ニ

而、慶応元年九月中極意目録相伝仕、炮術中村四郎右衛門々弟ニ而

慶応二年九月目録相伝仕、居合惠良左十郎・長刀入江太郎八・棒

捕手庄村曾太郎門弟ニ而稽古仕、元治元年八月小川次郎助へ被差

添出京被仰付、翌年五月罷下申候。尤右請中居合・劍術・棒捕

手・長刀心掛能、出精いたし候旨ニ而、慶応元年九月御銀五両被

為拝領、同二年二番手御手当受持被仰付、中村四郎左衛門大筒手請持被仰付、同年六月熊本被差立、七月二日小金宮尾村江着陣仕、翌三日大里表合戦并同月廿七日之戦場ニ茂罷出、相働候次第ハ、別紙中村四郎左衛門より差出候書翰之通ニ而、則相添御達仕候。同月晦日御人数御引揚ケ、八月九日御国元江帰着仕候。

右柴太郎儀、性質手全ニ而武芸心掛厚ク目錄相伝之芸術茂有之、且旅詰をも被仰付、殊ニ於小倉表ハ、戦場ニ茂差届、烈敷相働候ニ付、右者別段功業ニ立不被下候而ハ、御時節柄以来之抑揚ニ茂差障候間、出格御僉議を以、一領考正相統被仰付、御手当并御郡並之御用受持被仰付、一列無役之口ニ被付置被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御参談可被下候。以上

慶応三年九月 入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

柴太郎儀、達之通ニ而、一領考正之跡究之通、御郡代直触末席可被仰付哉。

但小倉戦争之節相働候者、一領考正相統被仰付候様、左之通ニ御座候得共、戦死之者者、未夕一統被賞無御座候。外々釣合を以御取扱不被仰付候而者、御賞美之軽重見込付兼候者、先跡目究之通、取しらべ申候。

(朱書) 卯十一月廿四日達

四三四 野田亀十郎、齊藤七左衛門

(二〇一三五)

覚

松山手永御山支配役御牧見拟兼帯

野田亀十郎

同手永網津村庄屋御郡代直触ニ而御牧別当兼帯

齊藤七左衛門

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、亀十郎儀、御牧見拟難相勤、御断願出之趣尤之儀ニ相聞、七左衛門儀者、御牧別当相勤居、惣躰御牧方之儀者、功熟ニ有之由ニ付、申立之通被仰付、可然由承申候。以上

卯十一月

下田久助

御内意之覚

松山手永御山支配御牧見拟兼帯

野田亀十郎

右者、松山手永御山支配役ニ而、同手永御家人中、武芸引廻櫓楮見拟・赤石場見拟・御牧見拟兼帯被仰付置候処、数役届兼候ニ付、御牧見拟之儀御断願出申候ニ付、内輪承繕候処、掛隔居候所ニ而、実ニ行届兼候ニ付、願之通被成御免被下候様。

松山手永網津村庄屋住御郡代直触ニ而同村庄屋并御牧別当兼帯

齊藤七左衛門

当卯五十一歳

右家筋之儀、数代網津村庄屋連綿いたし来候処、七左衛門儀、兼而役前心掛宜敷、御用ニ相立候者ニ御座候間、亀十郎儀、願之通御牧見拟被成御免候ハ、同人跡御牧見拟ニ被仰付、在勤中地士

二被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

慶応三年九月

入江次郎太郎

(朱書)  
〔卯十一月廿三日達〕

御郡方

御奉行衆中

僉議

龜十郎儀、達之通三而、願之通御牧見扱可被成御免哉。左候ハ、御郡代限り直々被差免候様、及達可申と奉存候。

七左衛門儀、達之通三付、前条龜十郎跡御牧山見扱御儀者、直々御郡代限り申付有之候様、及達可申。依之右在勤中地土被仰付哉。

四三五 河野九郎次 他

(二〇三三五)

御内意之覚

松山手永大見村居住一領者正三而同村庄屋後

見井竹木密出見扱

河野九郎次

当七十四歳

一勤年数六十二年

四年 会所見習

二十二年 小頭役・根扱役

二十二年 庄屋役

七年 右役三而水夫小頭兼勤

しめ二十九年

七年 庄屋後見井竹木密出見扱

右者文化三年松山会所見習ニ呼出、同七年小頭役申付、同十二年根扱役并宇土人馬所受込兼勤申付、天保三年根扱持懸ニ而大見村兼帯申付、同九年依願根扱役者差免、弘化元年水夫小頭兼帯在勤中御郡代直触被仰付、嘉永三年松合村庄屋申付、安政二年大口村江所替申付、同三年依願水夫小頭者被成御免、安政六年大見村江所替申付、万延元年一領者正三進席被仰付候ニ付、庄屋役者差免、同村庄屋後見申付、文久三年松山手永海辺村竹木密出見扱申付、会所見習以来当年迄六十二年無懈怠役々精勤仕候内、左之通。

一文化四年御類焼寸志差出申候処、傘被成御免候。

一同十二年大口村新地築立三付、数十日昼夜出精仕、右塘手鞘石垣及破損手戻之儀茂有之候処、出精相勤候旨ニ而、鳥目七百文被為

拝領候。

一同十二年西本願寺使僧被差下、宗旨御札方之節出精仕候旨ニ而、御酒骨折として、鳥目三百五拾文被為拝領候。

一同十四年去秋非常之凶作御取立、且去夏以来両手永打込御普請・

新堤・新井手堀方・新井樋居方出精仕、將又御困初蔵建方又者洪水虫入等ニ付而茂出精仕候旨に而鳥目五百文被為拝領候。

一文政五年宇土御屋形内泉水浚ニ付而、彼方より鳥目五百文被下候。

一同十年七百町新地御築立ニ付而出精仕候旨に而、礼服被成御免候。

一同十二年役方多年出精仕、立岡堤堀添之節、諸積方其外出夫ニ懸候儀者一切根ニ成、厚心配いたし、且杉島新川堀替ニ付而茂、大勢

之出夫申談行届致出精候旨ニ而、無苗御惣庄屋直触ニ被仰付候。

一天保五年大見村ニ而櫓方御新地再興之節、始末御普請小屋江詰切主ニ成、各別心配仕候旨ニ而、鳥目貳貫文・御間預七拾目櫓方よ

り被為拜領候。

一同六年去ル卯秋非常之洪水以後、自他手永余計之夫仕等、厚心配いたし候旨ニ而、鳥目五百文被為拜領候。

一同十一年去夏、御覺様御用相勤出精いたし候段、御間御聞届ニ相成候。

一同十二年下益城・宇土於海辺、新地御用余計之石・竹木取出、自勘ニ而相勤、且潮留之節夫仕并船を茂差出、別段出精仕候旨ニ而、鳥目三貫文被為拜領候。

一弘化元年会所見習以来役方数十年各別出精仕候旨ニ而、苗字御免御惣庄屋直触ニ被仰付候。

一同三年使節船渡来之節、各別骨を折候旨に而、鳥目壹貫被為拜領候。

一嘉永元年北浦新地御築立之節、御用懸ニ而出精仕候旨ニ而、鳥目貳貫五百文被為拜領候。

一同三年郡浦ニ而引除方・砂糖製法方御買上ニ付、村方示方行届候旨ニ而、鳥目五百文被為拜領候。

一同六年廻江手永守富在成立寸志錢差出候ニ付、同年十月被賞、地士進席被仰付候。

一万延元年会所見習以来五十年余之内、数々之役方出精いたし、村方成立筋等種々心を用、功業茂有之候ニ付、一領壹疋被仰付候。右之外宇土方ニ而稜々功蹟有之、御紋服同度程被下候。

一大見村庄屋役在勤中、作畝増御山仕立等仕候分左之通。

一田数耆町貳反余

但畝物開并櫃方諸開御免ニ相成開明候分

一同三町四反六畝貳拾耆步

但櫃方御新地分

一山畝貳拾八町七反余

但空野御山仕立候分、最早繁茂いたし、上下一稜御為合ニ相成候分

一杉・桧三万本余

但植杉御山之内ニ仕立候分、最早次第ニ繁茂仕居申候分

一同七万本余

但所々御山ニ植付候分

一杉苗・差杉等年々春内所々御山内ニ一ケ年式千本余植差仕来申候。右九郎次儀、会所根拟役在勤中ニ而七百町御新地御築立、且右御新地水理御普請向始末出役仕、去ル子年大風之節、海辺新地・新地并潮塘破損ニ付而茂、各別心配骨折仕、三隅丈八松山手永在勤中、村々新古井手堀浚堤築浚、或者新地出来等ニ付而出精仕、其外松合村数度之火災跡家建方、救ノ浦新地築立村直等、厚心配仕、宇土町出火ニ付茂材木取出、彼是諸出夫ニ懸候筋一棟主ニ成取計、庄屋役前ニ付而ハ、大見村之儀、高三百五拾石余惣人数六百余人余ニ而、高人畜不約合、作地不足仕、前々より零落所ニ而、手永内下段之村立ニ御座候処、九郎次庄屋役申付候処ニ而、櫃方御開再興を初、畝物開空地御山仕立、彼是種々村方成立之仕法仕、当時ニ而ハ中段之村立ニ相成、御年貢諸上納・諸公役等速ニ相濟、多人数之村方能折合、畢竟九郎次世話筋行届候処より之儀ニ御座候。惣林松合村之儀ハ、漁業・農方打混、大場零落之村方ニ而、外村々より別段心配多中、水夫小頭兼帯被仰付置候ニ付而ハ、御上下御用を始、御手当筋彼是諸事無御滞様心配行届、御用向相濟、安政二年大口村江所替申付候処、右村之儀、田方少ク、畑方勝之所柄ニ御

座候処、種々仕法立仕候ニ付、成立之際相見、御年貢諸上納毎年  
一・二番之内皆済仕、安政六年尚又大見村江所替申付候処ニ而ハ、  
右村之儀、庄屋役発且より数年成立筋等厚心配いたし、多人數之  
村方取締筋行届、近年別而勸農ニ基キ一鉢風儀茂宜敷相成、先年  
空野秣場之内、新山仕立候分、所々植立候諸木殊之外繁茂仕、上  
下一稜之御為合ニ相成候。右之通ニ而会所見習以來役々六十二年  
無懈怠出精相勤、数々功蹟茂有之、最早七十四歳之老鉢、先賞よ  
り八ヶ年ニ相成、最早□布事ニ付御別段ニ而、以此節六十二年之  
勤勞旁被对、屹と御賞美被仰付被下候様。

松山手永松合村居住地士ニ而烏乱者見拟

江本七九郎

当卯七十七歳

一勤年数六十年

右者文化五年松山手永御家人少ニよつて親同様地士ニ被召出、烏  
乱者見拟申付、文政元年津口々々拔米見拟申付、且年々拔米  
見拟南海辺口請持申付来、当年迄六十年無懈怠精勤仕候内、左之  
通。

一文政十二年立岡堤御堀添之節、出役出精仕候旨ニ而、御銀貳兩被  
為拝領候。

一同十年松合村救ノ浦新地御築立出役、且松合村数度之火灾ニ付而茂  
心配仕候段御間御聞届ニ相成申候。

一天保十二年北浦新地御築立之節、御用懸ニ而心配仕候ニ付、鳥目  
老貫文被為拝領候。

一安政四年十月役方五十年余出精仕候旨ニ而、作御紋麻上下一具被  
為拝領候。

右七九郎儀、烏乱者見拟請持、南海辺村々之儀、山越儉阻之所柄  
ニ御座候得共、乍老鉢平日無懈怠廻村仕、別而松合村之儀者、船  
着自他出入茂多所柄、兼々見拟方行届、当年迄六十年出精仕候間、  
老鉢旁年功被立下、屹と御賞美被仰付被下候様。

本席御郡代直触在勤中地士野村勝之助親松山  
手永下網津村庄屋

野村源次郎

当卯七十二歳

一勤年数四十四年

五年 頭百姓

三十九年 庄屋役

右者、文政七年網津村頭百姓申付、同十二年下網津村庄屋役申付、  
当年迄四十四ヶ年無懈怠、手全ニ精勤仕候内、左之通。

一文政十二年立岡堤御堀添御普請之節、出精仕候旨ニ而、鳥目三百  
文被下置候。

一天保五年松合村度々出火、跡家建方之節、厚心配いたし、救ノ浦  
并下り松新地御築立ニ付而茂、出精仕候旨ニ而、鳥目老貫文被下置  
候。

一同十年去夏御巡見様御通行御用相勤候段、御間御聞届ニ相成申候。

一同十二年下益城・宇土催合新地御築立ニ付而、潮留破損等之節、  
度々出夫仕方并土俵運送等心配仕候旨ニ而、鳥目老貫文被下置候。

一嘉永元年役方多年致出精候旨ニ而、礼服御免被成候。

一同年北浦御新地御築立ニ付而、初発より種々致心配、度々別段出  
夫をも申談、御普請中請込之稜々致出精、且卯秋大風破損御普請  
ニ付而茂、致心配候旨ニ而、鳥目老貫文被下置候。

一安政六年役方数十年出精いたし候旨ニ而、作御紋麻上下一具被下置候。

一文久元年去ル巳年以來、御藏納各別御取扱被仰付候ニ付而ハ、厚致心配、未年より申年ニ至候而ハ、惣通いたし候ニ付被賞、鳥目壹貫文被下置候。

一文政十二年源次郎儀、下網津村庄屋役之御者、三隅丈八同所御惣庄屋ニ而、兩網津之儀、其頃迄ハ、沖田者都而水田ニ而、跡作一切生立不申、至而民喰之敷及難澁候処より、丈八差入、水氣拔・養水兼用井手立御普請取懸、ケ所々々石工共、寸志積等相倡出来仕候処、源次郎儀、昼夜ニ懸出精仕、右事業筋相調候処ニ而、水田者乾地ニ変し、都而跡作出來候様ニ相成、第一者右源次郎庄屋役以來最早三十九ケ年、毎歳麦根付相倡、右之内三十年來者、鶏鳴より起、貝を吹立、枝村迄茂打廻り、近九ケ年ハ及老年候ニ付、枝村迄打廻候儀者届兼候得共、毎冬麦根付中者、時刻茂不違鶏鳴より起、貝を吹立、身を以先立相倡候ニ付而ハ、一村等敷無明地、麦根付茂速ニ相濟、所柄茂成立ニ基キ、御本末御年貢・諸上納等、年々初登ニ皆濟いたし候ニ付、既ニ宇土方より稜々功蹟を被賞、御紋服兩度、鳥目五度被下候。

一北浦御新地養水之儀、初登杉島大渡車場より、国丁并馬瀬樋発川寛渡水道筋新井手立古井手伝ニ而取入ニ相成來候処、水源三里余相論存分養水取入出來兼候ニ付、下網津村懸枝村七曲東南面之山相ニ而、下地出水茂多有之候ニ付、新堤築立右枝村十七竈梅崎下ゲ名之内ニ村直り奉願候ニ付、錢高三拾貫目御郡御米銀方を被為拜借候間、去ル嘉永四年村直茂速ニ相濟、即春右堤築立茂成就仕候処、見込通水溜宜ク、養水手近ク相成、御新地内端々迄も行届、

上納米茂相進ミ、右村直之者共、日当宜敷、作廻り弁利能相成候処ニ而ハ、成立之土台ニ相成、右一件源次郎根村之儀ニ付、始末主ニ成心配仕、一廉上下之御為合ニ相成申候。

右之外惣鉢農業至而委敷、一々教導仕候ニ付、下網津村之儀、外村々よりハ請作共登り宣、夏内ニ而、古田水引を初メ、北浦御新地ニ懸り養水分日夜心懸打廻り世話筋行届、数十年精勤之処より功驗茂相顯し、最早七十二歳之老鉢ニ而御座候得共、至而壯健ニ有之、不相替精勤仕、村方示方等念比ニ仕候処より能致參服、丁場公役井手堀浚等右村ニ限り、別段入念聊略之儀無之、畢竟源次郎身を以導キ候処より、右之通ニ而、稀成者ニ御座候而老鉢余命茂無之、最早先賞より九ケ年ニ相成候ニ付、旁以屹と御賞美被仰付被下候様。

右之通、孰茂極老之者ニ御座候間、願之通早々御賞美被仰付被下候様有御座度、於私も奉願候。此段御内意仕候條、可然被成御參談可被下候。以上

慶応三年二月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

九郎次儀、達之通ニ而、惣年數六十二年之内、小頭役根扱役二十年、庄屋役二十二年、水夫小頭兼帯七年、一領正正進席被仰付候後八年ニ相成、品々役方心懸能、村方成立筋等種々心配し、格別出精相勤候趣等、御郡目附付御横目間方も別紙之通ニ付、見合せ茂御座候間、作紋麻上下一具可被下置哉。

七九郎儀、地士被召出、烏乱者見扱申付ニ相成候而、六十年心懸

能、見狀方行届候由、書面之通ニ而、先賞御上下被下置候後十一  
年ニ相成、見合せも御座候間、猶作紋麻上下一具可被下置哉。

源次郎儀、頭百姓以來四十四年之内、庄屋役三十九年、心懸能、出  
精相勤、養水取入之仕法或者勸農倡方、彼是格別致心配、村方世  
話筋行届候趣等書面之通ニ付、作紋麻上下一具可被下置哉。

(朱書)  
一卯十一月廿六日達

四三六 朝田源藏 他

(一〇三三五)

覚

松山手永朝田源藏列四人別紙之趣ニ付承繕申候処、左之通御座候

築籠村居住御郡代直触朝田覚右衛門弟善道寺  
村庄屋

朝田源藏

右考会所見習以來役方多年、心懸能出精相勤、勸農相倡、御年貢・  
諸上納等速ニ相納、村方之世話筋能行届候由。

西松崎村居住御郡筒ニ而勸農倡方

山本庫兵衛

右考会所見習以來、役方前後ニ而多年、心懸能出精相勤、勸農倡方ニ  
付而考村々打廻手厚申談候由

小曾部村居住御郡筒ニ而同村庄屋

村上仙右衛門

右考会所見習以來、役方多年、心懸能出精相勤、勸農相倡、御年貢  
諸上納等速ニ相納、世話筋行届候由。

布古閑・岩熊両村庄屋

利左衛門

右者頭百姓以來、役方多年、心懸能出精相勤、村方之世話筋行届、  
御年貢・諸上納等速ニ相納候由。

卯五月

御内意之覚

松山手永築籠村居住御郡代直触朝田覚右衛門  
弟善道寺村庄屋

朝田源藏

当卯四十三歳

一勤年数二十八

十四年 会所見習より小頭迄

十四年 庄屋役

右源藏儀、天保十一年二月松山会所見習ニ呼出、弘化三年三月小  
頭当分申付、嘉永六年小頭本役申付、嘉永七年七月城神山村庄屋

役当分申付、安政二年二月江部村庄屋兼勤申付、翌年九月右両村  
ハ差免、築籠村ニ所替申付、文久四年三月馬場村庄屋ニ所替申付、

慶応元年九月善道寺村庄屋ニ所替申付、会所見習以來二十八年、  
無懈怠相勤候内、左之通

一天保十二年北浦新地御築立ニ付而、請持之稜々出精仕候旨ニ而、鳥  
目七百文被為拜領候。

一嘉永七年十一月鯨・沼山津水理一件ニ付而、所々御普請受持之  
稜々、致出精候旨ニ而、鳥目七百文被為拜領候。

右源藏儀、会所見習以來、役方心懸厚、去ル嘉永七年七月城神山  
村庄屋申付、其後江部村兼勤又築籠村・馬場村・善道寺村庄江所替

候由、

申付、いつれ之村々茂、極々零落所ニ而、兼而庄屋之心配多、其上水旱之兩害を受、至而難渋所ニ御座候処、源藏儀、村方世話筋行届、御年貢・諸上納等速ニ相納、村方風儀茂立直し、惰農之者も請農ニ基キ、人氣茂直敷相成、畢竟諭方等行届候処より之儀ニ付、最早会所見習以来二十八年、無懈怠精勤仕候間、相当之御賞美被仰付被下候様。

西杉嶋村居住御郡筒ニ而勸農倡方

山本庫兵衛

一勤年数二十四年

十九年 会所見習より会所（マ）所詰根抄助役

三年 庄屋役

二年 勸農倡方

右庫兵衛儀、天保八年松山会所見習ニ呼出、同十一年十二月会所詰小頭当分申付、弘化三年三月会所詰助役申付、嘉永六年病氣差発依願役儀差免、安政四年十一月会所詰席ニ而根抄助役再勤申付、安政六年八月立岡村庄屋申付、花園堤并右堤配水方受込申付置候処、尚又病氣差発候ニ付、文久元年右役儀差免、同三年四月親代寸志之訳ニ被对、無苗御惣庄屋直触ニ被召出、元治元年九月外様足輕代御郡筒ニ被召抱、慶応元年京都詰被仰付、同二年勸農倡方申付、是迄御賞美被仰付候稜々、左之通。

一天保十二年下益城・宇土於海辺、新地出来に付而、引除候跡引受潮留且破損等之節罷出、出精仕候旨ニ而、鳥目五百文被為拝領候。  
一同年北浦新地御築立ニ付而、請持之稜々出精いたし、且卯秋大風破損御普請ニ付而茂、致出精候旨ニ而、鳥目壹貫文被為拝領候。

一嘉永七年十一月鯨・沼山津水理一件ニ付、所々御普請々持之稜々、

出精いたし候旨ニ而、鳥目七百文被為拝領候。

一文久元年去ル巳年以來、御藏納各別御取締被仰付候ニ付而ハ、厚心配いたし、末年ニ至候而者、惣通いたし候ニ付、鳥目壹貫文被為拝領候。

右庫兵衛儀、壯健手全ニ有之、会所見習以來、役方厚心懸能一昨年京都詰茂被仰付、追々御賞美被仰付候通ニ而、勸農倡方ニ付而ハ、夜日之無差別、村々打廻り、手厚申談候処より、自然ニ精農ニ基ク様相成最早会所見習以來二十四年精勤仕候ニ付、相当之御賞美被仰付被下候様。

御郡筒ニ而小曾部村庄屋

村上仙右衛門

当卯四十三歳

一勤年数二十九年

十七年 会所見習より小頭迄

十二年 庄屋役

右仙右衛門儀、天保十年二月松山会所見習ニ呼出、弘化三年三月小頭当分申付、嘉永六年十一月小頭本役申付、安政三年十一月小頭ハ差免、城神山村庄屋申付、安政五年十二月伊無田村庄屋ニ所替申付、慶応二年八月小曾部村ニ所替申付、是迄御賞美被仰付候稜々、左之通。

一天保十二年下益城・宇土於海辺、新地出来に付而、引除候跡引請潮留且破損等之節茂罷出、出精いたし候旨ニ而、鳥目五百文被為拝領候。

一同年北浦新地御築立ニ付而、請持之稜々致出精候旨ニ而、鳥目七百文被為拝領候。



一嘉永七年十一月餘、沼山津水理一件ニ付而、所々御普請々持之稜々、出精いたし候旨ニ而、鳥目七百文被為拜領候。

一文久元年六月去ル巳年以來、御藏納各別御取締被仰付候ニ付而者、厚心配いたし、未年より申年ニ至候而者、致惣通候ニ付被賞、鳥目壹貫文被為拜領候。

一文久四年四月宇土兩御屋形御建方ニ付而、出夫并、三藏谷堤御普請出夫ニ付而、宇土方より鳥目壹貫文被下候。

右仙右衛門儀、会所見習以來、役方厚ク心懸、追々御賞美被仰付候通ニ而、養水方道橋手入等者勿論、勸農之筋之儀茂深切ニ相倡候ニ付、小前々々重畳氣服仕、御年貢・請上納等速ニ相納、別而近年御藏納米御取締ニ付而ハ、米仕立より俵拵ニ至迄昼夜ニ懸、軒別打廻り心配仕、世話筋行届、会所見習以來二十九年、無懈怠精勤仕候ニ付、相当之御賞美被仰付被下候様。

布古閑・岩熊両村庄屋

利左衛門

当卯六十六歳

一勤年数三十二年

五年 頭百姓

二十三年 御山口

四年 庄屋役

右利左衛門儀、天保七年より曾畑村頭百姓申付、同十二年布古閑・上古閑・曾畑・岩熊四ヶ村御山口申付、文久二年九月右四ヶ村者差免、佐野村御山口申付、元治元年八月御山口ハ差免、三日村庄屋当分申付、慶応元年十月布古閑村・岩熊村江所替申付候処、一鉢実鉢之生質ニ付、村方一和二申談、能行届、御年貢・諸上納

等速ニ相納、御山口在勤中ニ者、諸木仕立方数ヶ村ニ懸、御山繁茂之儀厚心配仕、頭百姓以來最早三十二年之内、御山口二十七年精勤仕候間、相当之御賞美被仰付被下候様。

右者孰茂性質手全、役前心配厚出精仕候ニ付、夫々御賞美被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

慶応三年三月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

源藏儀、達之通ニ而、小頭以來二十二年之内、庄屋役十四年心配能、出精いたし、村方世話筋等行届候趣等、御郡御目附付御横目聞方茂、別紙之通ニ而、具合せ茂御座候間、鳥目壹貫五百文程茂可被下置哉。

庫兵衛儀、前後之役付年数二十一年ニ相成、心配能出精相勤、京都へ茂被召仕候由、書面之通ニ付、鳥目壹貫文程茂可被下置哉。

仙右衛門儀、小頭以來二十二年之内、庄屋役十二年心配能、出精相勤、勸農倡方御年貢納取締筋等世話筋行届候由、達之通ニ付、鳥目壹貫五百文可被下置哉。

利左衛門儀、頭百姓以來三十二年之内、山口二十三年・庄屋役四年出精相勤、村方へ世話筋行届候由、書面之通ニ付、鳥目壹貫文可被下置哉。

(朱書) 卯十一月廿六日達

四三七 河野傳之允 他

(二〇一三一五)

御内意之覺

郡浦手永地土

一錢四貫五百目

右同

河野傳之允

一同壹貫五百目

右同

一同壹貫五百目

木下藤右衛門

一同四貫五百目

惣太郎儀御吟味至之由ニ付□り

右同

河野惣太郎

一同壹貫五百目

右同

堀内清右衛門

一同四貫五百目

但、壹領壹疋進席被仰付被下候様

河嶋惣作

一同壹貫五百目

但、何れも地土進席被仰付被下候様

御郡筒ニ而在勤中御郡代直触

高瀬清之允

御郡代直触

一錢壹貫五百目

右同

坂本岩喜

一錢貳貫貳百五拾目

御郡代直触末席

稲原勘左衛門

一同壹貫五百目

右同

江嶋茂左衛門

一同七百五拾目

但、何れも御郡代直触本席被仰付被下候様。

河野佐兵衛

一同壹貫五百目

右同

佃武右衛門

一同貳貫貳百五拾目

御郡筒

中川重左衛門

一同壹貫五百目

右同

高濱龜左衛門

一同貳貫貳百五拾目

右同

坂本太郎八

一同壹貫五百目

右同

矢沢嘉久平

一同貳貫貳百五拾目

御郡筒

河野藤作

一同壹貫五百目

右同

寺本才平

一同貳貫貳百五拾目

右同

中野傳十

一同壹貫五百目

右同

吉田庄三郎

一同貳貫貳百五拾目

河嶋清左衛門

右同

一同式貫式百五拾目

三浦傳右衛門

御惣庄屋直触

一同式貫式百五拾目

三嶋為右衛門

但、何れも御郡代直触進席被仰付被下候様。

右者今度銃隊御倡ニ付而玉藥料等諸入目償として寸志錢被召上旨ニ付、右之面々口立之通差上度奉願候処、願之通被召上旨ニ付、夫々会所元江上納相濟申候。依之何れも但書之通進席被仰付被下候様奉願候。此段宜被成御參談可被下候。以上

慶応三年八月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

傳之允列二十四人達之通ニ而、寸志高究規矩ニ相当申候間、但書之通可被仰付哉。

(宋書)

傳之允并惣作以下卯九月五日達  
惣太郎事向十一月廿四日達

四三八 積九一郎

(一〇三三五)

覚

郡浦手永長濱村懸御牧山裾居住本席御郡代直  
触御山見抄并御牧見抄在勤中地士ニ而病死仕  
候積新左衛門相統之三男

積九一郎

右者親跡相統別紙之趣ニ付承繕申候処、人物宜由武芸茂数々入門

いたし居、御牧見抄自勘見習いたし居候由ニ付、物馴居候由行状ニ付、相替候唱茂相聞不申、本紙申立之通被仰付、可然由、父勤年数等、委細者本紙之通承申候。以上

卯十一月

下田久助郎

御内意之覚

郡浦手永御郡代直触本席ニ而御山見抄并御牧見抄在勤中地士ニ被仰付置病死仕候積新左衛門相統之三男

積九一郎

当卯二十二歳

右九一郎亡父積新左衛門儀、天保元年郡浦手永御山見抄并御仕立方被仰付、在勤中地士ニ被召出、同二年宇土郡御牧見抄兼勤被仰付候。

一天保七年以来万延元年迄ニ追々津方抜米見抄・津方格別見抄・舟住居張番をも被仰付、郡浦手永新開表・網田・長濱請持被仰付候ニ付、万延二年四月迄出精相勤申候。

一天保十三年松山手永住吉新地御築立ニ付、諸品代出方、且大小石取出方・舟支配方被仰付始末御小屋江相詰出精仕候処、新地出来之上格別致出精候旨ニ而、御銀七両被為拜領候。

一嘉永二年御牧御仕法変被仰付、駄馬御買入ニ付、日向表江被差立、八疋買求山入仕せ安政五年右同断ニ而、南郷高森江被差出、同六疋買求山入仕せ候御厩御用ニ相立候駒茂出生仕候。

一同年役方多年致出精候旨ニ而、本席御郡代直触被仰付候。  
一文久元年役方数十年之内、兼帯御役をも数年出精いたし候旨ニ而、御銀五両被為拜領、同三年錢塘海辺新地御築立ニ付、大小石取出

等致心配候ニ付、金子百疋被為拜領候。

一慶応二年廻江川塘筋御普請ニ付、石取出厚ク致心配候ニ付、宇土方より金子百疋被下置候。

一文政十三年より当年迄三十八ヶ年出精相勤、当五月病死仕候三男

九一郎儀、慶応二年四月より宇土御牧見拟自勤見習ニ罷出、武芸

之儀、炮術永嶺雲七、劍術渡邊牛之助、柔術矢野司馬太、居合恵

良左十郎、槍術松原左次右衛門門弟ニ而、稽古出精仕候。右九十

郎儀性質手全、諸事□□宜敷、往々御用ニ相立可申者ニ御座候。

然処宇土郡御牧并郡浦手永御山方之儀、場広ニ有之、就中御牧方

之儀者、日々程打廻り見繕不申而者、犬害岸落等怪我馬追々有之、

迎茂懸隔候而者見拟方行届不申、然二九一郎儀御牧裾小池と申所江

居住仕居、是迄御牧見拟自勤見習茂仕居候ニ付、御牧方之義者、

手馴居馬仕立方茂好者ニ御座候間、亡父新左衛門多年之勤功旁ニ

被对、父同様御郡代直触被仰付、郡浦手永御山見拟并宇土郡御牧

見拟兼勤被仰付、在勤中地土ニ被仰付被下候様、有御座度、於私

茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

慶応三年九月

入江次郎太郎

(朱書)  
[僉議之通卯十二月十一日達]

御郡方

御奉行衆中

僉議

九一郎儀、達之通ニ御座候得共、亡父積新左衛門役方三十八年之

勤ニ付、親同様ニ者難被仰付、御郡代直触之跡究之通、無苗ニ而御

惣庄屋直触被仰付、親跡御山見拟、御牧見拟兼勤申付有之度由ニ

付、右在勤中御郡代直触可被仰付哉。

四三九 七郎兵衛

(二〇一三五)

御内意之覚

松山手永無苗御惣庄屋直触

七郎兵衛

右者兼々壮健有之、往々者御用可相立者ニ御座候間、御家中御貸

人御郡筒欠跡被仰付筈ニ候間無苗御惣庄屋直触者被成御免候様奉

願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

慶応三年十一月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

七郎兵衛儀、達之通ニ付無苗御惣庄屋直触可被成御免哉。

(朱書)  
[卯十二月七日達]

四四〇 白石保右衛門 他

(二〇一三五)

御内意之覚

錢塘手永御郡代直触

白石保右衛門

一錢老貫五百目

御貸人御郡代直触末席

一同式貫式百五十拾目完

小山清次

永井猪之作

但、右三人地土進席被仰付被下候様。

海辺御郡筒ニ而御船江湖見拟在勤中御郡代直触  
一錢貳貫貳百五拾目完  
保田直左衛門

右同御郡筒

村上傳之允

原田久兵衛

御貸人御郡筒

田代三右衛門

御惣庄屋直触

白石唯助

無苗御惣庄屋直触

多七

一同三貫七百五拾目  
但、右六人御郡代直触ニ進席被仰付被下候様。

南走潟村

茂三郎

清四郎

森右衛門

北奥古閑村

惣次郎

但、右四人御郡代直触被召出被下候様。

海氏村

喜久次

北走潟村

喜右衛門

西走潟村

林右衛門

同村

次右衛門

中奥古閑村

孫四郎

但、右五人苗字被成御免御惣庄屋直触被仰付被下候様。

江中嶋村

一同貳貫貳百五拾目

但、無苗御惣庄屋直触被仰付被下候様

横手手永御郡筒

一錢貳貫貳百五拾目

但、御郡代直触被仰付被下候様。

本庄手永長嶺村之内八反田

一同六貫目完

戸嶋村

次郎兵衛

但、右兩人御郡代直触被召出被下候様。

右者今度縦隊組立ニ付、入目錢として寸志差上申度願之通被召上、

夫々上納相濟申候間、いつれ茂但書之通進席被仰付被下候様有御

座度奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

鮑田・託摩御郡代

慶応三年十一月

御郡方

御奉行衆中

僉議

保右衛門列二十二人達之通ニ而、寸志高究之規矩ニ相当申候間、

夫々但書之通可被仰付哉。

(朱書)  
〔卯十一月五日達〕

四四一 藤兵衛 他

(一〇一三五)

御内意之覚

松山手永宇土町

一錢九貫目完

藤兵衛

忠兵衛

栄八

喜三次

平次郎

伊三次

長次郎

但、苗字被成御免町別当列被仰付被下候様。

宇土町

一錢四貫五百目

金次郎

但、苗字御免被仰付被下候様。

同町

一同七百五拾目完

喜太郎

儀平次

栄蔵

利平

源次郎

利兵衛

五郎助

吉之助

五三郎

壽三郎

源七

太右衛門

多平次

伊右衛門

茂平

十助

作次郎

清三郎

成平

三左衛門

文四郎

次七

徳次

儀平

惣十郎

但、丁頭列被仰付被下候様。

右者今度銃隊御倡三付而、玉葉料等諸入目償として寸志錢被召上旨三付、右之通差上度奉願候処、願之通被召上旨三付、上納相濟申候。依之何れも但書之通進席被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

(朱書)  
〔卯十一月十四日達〕

慶応三年九月

入江次郎太郎

但、諸役人段被仰付被下候様。

御郡方

地士

御奉行衆中

一錢四貫五百目

松海富作

僉議

但、一領一疋被仰付被下候様。

藤兵衛列三拾三人達之通ニ而寸志高究規矩ニ相当申候間、孰も但書之通可被仰付哉。

一同貳貫貳百五拾目

御郡代直触末席ニ而在勤中地士  
岩崎八郎右衛門

御内意之書

但、地士本席被仰付被下候様。

松山手永宇土町儀平次と申者、今度御組立被仰付候銃隊寸志七百

一同壹貫五百目完

御郡代直触

桑原五郎右衛門

五拾目差出、丁頭列被仰付被下候様御内意申上置候処、尚追寸志

右同

岡村重喜

差上度段願出申候間、右丁頭列被仰付被下候様御内意申上置候儀、

右同

齊藤長兵衛

御解放被仰付被下候様奉願候。此段御内意覚書を以申上候。以上

右同

高橋尉左衛門

慶応三年十一月

小山七太郎

右同

鎌賀藤助

入江次郎太郎殿

御郡方

秋森喜兵衛

御奉行衆中

一同三貫七百五拾目完

御郡方

苗字御免御惣庄屋直触ニ而在勤中御郡代直触

御郡方

右同

稻田庄次郎

御内意之覚

但、地士被仰付被下候様。

高濱又之允

四四二 辛川喜一郎 他

(二〇一三五)

但、御郡代直触本席被仰付被下候様。

御郡方

御内意之覚

一同貳貫貳百五拾目完

御郡方

御内意之覚

御郡方ニ而右同

但、御郡代直触本席被仰付被下候様。

郡浦手永一領一疋

一錢貳貫貳百五拾目完

御郡方

一錢三貫目

辛川喜一郎

御郡方ニ而右同

高濱又之允

地士

御郡方

秋森喜兵衛

一同七貫五百目完

中山庄兵衛

御郡方

右同

一錢貳貫貳百五拾目完

御郡方

鎌賀直平

一錢貳貫貳百五拾目完

秋森喜兵衛

右同 右同 御郡筒 右同 右同 右同 右同 右同 右同 右同 右同 右同 右同

釜賀甚平

松下又兵衛

飯田藤左衛門

尾崎次平

辛川直左衛門

本田伊左衛門

河野傳左衛門

後藤勝兵衛

西山彦四郎

岡田定八

栗田淳右衛門

大久保吉之助

右同

右同

右同

右同

右同

右同

右同

右同

右同

御郡筒

右同

鎌賀源太郎

大久保壽三次

白石重太郎

渡邊吟平

猿渡平次郎

小田源兵衛

山川四郎左衛門

山田平左衛門

仲西半左衛門

有働彦兵衛

釜賀貞平

本田喜三兵衛

但、何れも御郡代直触被仰付被下候様。  
右者今度銃隊御倡ニ付而、諸人目償として寸志錢被召上旨ニ付、右



之通差上度奉願候処、願之通被召上旨ニ付、夫々会所元江上納相  
濟申候。依之何れも但書之通進席被仰付被下候様奉願候。此段御  
内意仕候条、宜被成御參談被下候。以上

慶応三年十一月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

喜一郎列三拾七人寸志高究規矩ニ相当申候間、孰茂但書之通進席

可被仰付哉。

〔朱書〕

〔富作以下卯十一月廿一日達〕

喜一郎、庄兵衛、直平事同十二月九日申渡

辛川喜一郎より鎌賀直平迄卯十二月九日申渡

松海富作以下

卯十一月廿一日達濟

(明治元年)

四四三 小郷四郎助

(一〇三二六)

覚

松山手永御郡代直触善導寺村庄屋ニ而病死仕  
候小郷藤兵衛養子、御郡代直触別席ニ被召出  
東松崎村庄屋ニ而会所詰之場相勤居候

小郷四郎助

右者、養父跡相統、別紙之趣ニ付承繕申候処、壮健成人物之由、  
武芸心懸能、数々相伝等相濟候ニ付、去元治元年七月別席御郡代  
直触ニ被召出候由ニ而、所々御警衛向等ニ茂被召仕候由承申候。以

上

卯十二月

工藤覚兵衛

御内意之覚

松山手永御郡代直触善導寺村庄屋ニ而致病死  
候小郷藤兵衛養子、御郡代直触別席ニ被召出、  
東松崎村庄屋ニ而会所詰之場相勤居候

小郷四郎助

当卯三十九歳

右者、養父小郷藤兵衛儀、文政七年松山会所見習ニ呼出、同十三  
年小頭役申付、天保六年会所詰助役、同八年会所詰本役、弘化三  
年下代役、嘉永二年松崎村庄屋後見兼帯申付、其後追々所替又者  
転役等申付、出精相勤候内ニ者、御賞美をも数度被仰付候。弘化  
二年父小郷彦太五十年余之勤ニ被对、苗字御免御惣庄屋直触被仰  
付、同四年父代寸志之訳被对、御郡代直触被仰付、会所見習以来  
四十年余出精仕居候処、病死仕候。

一四郎助儀、性質手全ニ、炮術中村四郎左衛門々弟ニ而極意相伝仕、  
劍術和田金右衛門々弟ニ而目録相伝仕、居合恵良左十郎門弟ニ而目  
録相伝仕、捕手庄村曾太郎門弟ニ而目録相伝仕候処、文久四年七  
月武芸心懸能、数々相伝茂相濟候ニ付、御郡代直触ニ被召出、地  
士之勤稜兼相勤、御郡並之御用請持被仰付、一列無役之口被付置  
候。其後追々旅詰をも被仰付、往々御用ニ相立候者ニ御座候間、  
養父跡相統被仰付、今迄之通一列無役之口ニ被付置被下候様有御  
座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下  
候。以上

慶応三年十一月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

四郎助儀、武芸数々相伝相濟候訳ニ因而、別席御郡代直触被仰付置候処、父跡相統被仰付度由、達之通ニ付、追々之見合せを以、右席持懸ニ而、父跡相統被仰付、今迄之通一列無役之口ニ可被附置哉。

(朱書)  
〔辰正月十八日達〕

四四四 河野佐兵衛

(二〇一三二六)

覚

郡浦会所出銀方ニ而御郡代直触

河野佐兵衛

右者別紙之趣ニ付承繕申候処、役前心懸能出精相勤居候由ニ付、申立之通被仰付、可然人物之由承申候。以上

卯十二月

工藤覚兵衛㊦

御内意之覚

御郡手永御郡代直触ニ而同会所出銀方

河野佐兵衛

当卯四十四歳

右者惣鉢手全成者ニ而、相応氣働茂有之、当時專御用ニ相立居候間、会所役持懸ニ而、佐久間藤助転役跡手永見拟被仰付、在勤中地士ニ被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、

可然被成御參談可被下候。以上

慶応三年十一月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

(朱書)  
〔辰正月廿五日達濟〕

僉議

佐兵衛儀、佐久間藤助跡手永見拟被申付度由、達之通ニ付、追々之見合せを以右在勤中地士可被仰付哉。

四四五 稻原伊左衛門

(二〇一三二六)

覚

郡浦手永栗崎村庄屋

稻原伊左衛門

右者、別紙之趣ニ付承繕申候処、栗崎村頭百姓以来、同村庄屋役数十年心懸厚、出精いたし、右村方之儀者、極々之零落所ニ為有之由ニ而、御救立等被仰付来居候由之処、庄屋請持以来、村方一和ニ申談、勸農專ニ相倡成立筋、厚心を用候ニ付、近年者手永上段之村立ニ相成、御年貢・諸上納等茂圭角ニ取計、諸事手堅有之候ニ付、孰茂能帰服いたし居候由ニ而、勤年数且稜々功業之儀等、書面之通相聞申候。以上

卯十二月

工藤覚兵衛㊦

御内意之覚

郡浦手永地士稻原覚左衛門養父ニ而栗崎村庄

屋

稻原伊左衛門

当卯八十六歳

右者、性質手全成者ニ付、文化十二年栗崎村頭百姓申付、文政二年迄五ヶ年相勤申候。

一文政三年栗崎村庄屋役申付、当年迄四十八ヶ年相勤申候。右之通

二而、勤年数都合五十三ヶ年ニ相成候。

一文政七年新堤且水干養水取兼用之新井手堀方申付候ニ付、田方養

水行届、水氣之田方地味立直シ、跡作取実仕、旱田之畝方茂無之、

一稜之為合ニ相成申候。

一天保十三年同村之内打越村江新堤掘方申付候ニ付、右同断。

一弘化二年同村之内迎之峰堤底掘申付候に付、水溜相増、右同断。

一嘉永二年右打越村江水干水拔兼用之新井手堀方申付候ニ付、養水

行届、湿地茂乾地ニ相成、地味立直シ、跡作畝も相成、一廉為合ニ

相成申候。

一先年八代七百町新地并亀崎新地御築立之節、出精仕候ニ付、兩度

共ニ鳥目老貫文完被為拜領候。

一去ル卯年非常之洪水後、自他御普請筋多ク御座候處、追々罷出々

精仕候段、御間御間届ニ相成申候。

一弘化三年勤功ニよつて、鳥目老貫文完被為拜領候。

一安政三年役方数十年出精相勤候ニ付、作紋御上下一具被為拜領候。

一元治二年役方五十年余出精仕候ニ付、右同御上下一具被為拜領候。

右者性質篤実手全之者ニ而、第一農事ニ心を用、養水方并水氣拔井

手立新堤掘方等種々仕法を付、勸農相倡候ニ付、一毛作之畝方跡

作地と相成、以前者極々之零落所ニ而御取救をも被仰付候村方ニ御

座候處、近年農力相増、近郷手本とも相成候程之精農ニ基、当時

ニおひてハ、手水中上段之村立と相成、御年貢・請上納筋等速ニ皆済いたし候様相成候儀、畢竟役前心懸能、精勤仕候處より、右之通成立、一稜之御為合ニ相成候間、五十年余之勤勞稜々功業茂有之、最早余命茂無之者ニ付、老年切旁被対、地士進席被仰付被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

慶応三年九月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

伊左衛門儀、達之通ニ而、頭百姓以来惣年数当年ニ至り、五十四年之内、庄屋役四十九年ニ相成、勸農方且養水方等種々心を用、格別致出精候付而者、遂年農力相増、村方逸稜為合ニ相成候趣等、別紙御郡御目附付御横目見聞書之通ニ御座候。然處、同人儀者、地士稻原覚左衛門養父ニ而、無席之者ニ付、別席被召出候儀者、不容易儀ニ御座候得共、年勞等ニよつて者、御上下茂兩度被下置、此節五十年余之勤勞・功業茂有之候者、其俣ニ者雖被聞、相見申候間、八十七歳之極老旁、別段を以、地士被仰付候而者如何程ニ可有御座哉。

(朱書)  
一展正月廿六日達済

四四六 林田貞吉 他

(一〇三二六)

御内意之覚

錢塘手水苗字御免御惣庄屋直触

一錢貳貫貳百五拾目

但御郡代直触進席被仰付被下候様。

下奥古閑村

林田貞吉

同村

角右衛門

一同六貫目完

同村

永八

勝兵衛

但無苗御惣庄屋直触被仰付被下候様。

右者今度銃隊御倡ニ付而寸志錢差上度、願之通被召上旨ニ付、夫々

会所元江差出申候間、孰茂但書之通進席被仰付被下候様奉願候。

此段直敷被成御參談可被下候。以上

慶応三年十二月

中村庄右衛門

一錢三貫七百五拾目完

西走潟村

順之助

常八

僉議

但苗字御免御惣庄屋直触被仰付被下候様。

東走潟村

清三郎

貞吉以下十三人達之通ニ而、寸志高究之規矩ニ相当申候間、夫々

但書之通可被仰付哉。

江中嶋村

万作

四四七 高濱惟貞

(一〇一三六)

三ヶ村

格右衛門

覚

同村

藤右衛門

廻江手永志々水村居住御目見医師ニ而病死仕

西錢塘村

甚七

〔朱書〕  
〔本科〕 三法破的

高濱惟貞

新村

國平

北中無田村

右者親跡相統別紙之趣ニ付承繕申候処、本道馬医兼用いたし、本  
道之儀者師家ニ塾詰茂いたし居、代診ニ茂罷出居候由、引取候後者、  
父請持之病家代診等昼夜貧福之無差別、懇ニ打廻出精いたし候由  
ニ付、病家之頂も宜、具代ニ不相替療治方相応ニ被行候由ニ而請持

村々本紙書面之通承申候。以上

卯十二月

工藤覺兵衛<sup>㊦</sup>

御内意之覚

廻江手永志々水村居住御目見医師ニ而致病死

候高濱具

高濱惟貞

当卯三十六歳

右者祖父高濱壽七儀致馬医業居候処、心懸能療治方致出精、村方為合ニ相成申候旨ニ而、文化十二年二月無苗御惣庄屋直触被仰付、文政八年十二月家業五十年余格別心懸能療治方手広出精いたし候旨ニ而、御郡代直触被仰付置候処、文政十年八月致病死候。

一父高濱具儀、文化十三年八月變業被成御免、文政五年二月、家業学問格別心懸能手全致出精候旨ニ而、無苗御惣庄屋直触被仰付、同九年二月依願御惣庄屋直触被成御免、祖父高濱壽七名跡相統被仰付、天保元年六月馬医術習熟、本科之療治方を兼手広致出精候旨ニ而、御郡代直触被仰付、天保十四年二月家業心懸能療治方致出精候旨ニ而、御郡医師並被仰付、安政二年十月右同断ニ而、御目見医師被仰付、慶応元年十二月右同断ニ而、桜御紋附袖御羽織被下置候処、当九月致病死候。

右之通本科馬医兼業之家筋ニ御座候処、惟貞儀、人物茂宜敷、本道者町野玄肅門弟ニ而先年者致滞熟も居、再春館致出席、病治方心懸能、当時療治懸之村々左之通。

廻江手永

志々水

古閑

新村

平原

北田尻

南田尻

中野

松山手永

松原

曾畑

上古閑

杉嶋手永

国町

菰江

錢塘手永

小岩瀬

しめ拾三ヶ村

一馬医業之儀、森角右衛門門弟ニ而、当時療治懸之村々左之通。

廻江手永

志々水

古閑

西田尻

北田尻

南田尻

平原

嶋田

榎津

本札

廻江

清藤

杉嶋手永

杉嶋

国町

菰江

莎崎

碓江

錢塘手永

小岩瀬

八町

南走潟

北走潟

西走潟

東走潟

松山手永

曾畑

上古閑

笠岩

横手手永

中椎田

北椎田

しめ式拾七ヶ村

右之通療治方心懸厚、数十ヶ村ニ懸、場広致出精、貧民江者致施薬茂、村々屹下為合ニ相成申候旨、惟貞儀、親跡御郡医師並相統

被仰付被下候様於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

慶応三年十一月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

惟貞儀、達之通三付、家業之様子医業吟味役江問合申候処、治療習熟・学業篤志之段相達、再春館御目附見聞之趣茂同様三有之候由相達、科目丙科三相当申候。御郡御目附付御横目聞方茂家業心懸能、本道馬医を兼、貧福之無差別、廻診等追々有之、病家頂茂宜有之、趣等別紙之通三而御目見医師之跡、右科目三而著見合せ御座候間、御郡医師並可被召出哉。

(朱書)  
[辰二月廿日達]

四四八 松村徳之助 他

(一〇一三二六)

御内意之覚

松山手永松合村居住御郡代直触

一 銭志貫五百目

松村徳之助

同村居住御郡筒

一同三貫七百五拾目

大宅善次

但、何れも地士被仰付被下候様。

三日村居住右同

一同式貫貳百五拾目完

園田太平次

佐野村居住御郡筒

林原次助

三日村右同

白石弥三次

同村右同

井芹源七

綱津村右同

齊藤貞兵衛

伊無田村右同

上村覚助

笠岩村右同

前田三郎助

松合村右同

木村八之允

松山村右同

緒方直右衛門

小曾部村右同

吉利定之助

笹原村右同

丸山傳之助

笹原村御郡筒

大田武兵衛

同村右同

伊佐一助

下松山村右同

上村助作

下綱津村右同

伊藤十左衛門

御領村右同

中野惣左衛門

同村右同

松岡半十

但、何れも御郡代直触被仰付被下候様。

右者今度銃隊御倡ニ付而、寸志被召上旨ニ付、右之通差上度奉願候  
処、願之通被召上旨ニ付、夫々上納相濟申候。依之但書之通進席  
被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下  
候。以上

慶応四年正月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

徳之助以下十九人達之通ニ而、寸志高究之規矩ニ相当申候間、  
夫々但書之通可被仰付哉。

(朱書)  
〔辰二月十五日達〕

四四九 谷村龜太郎

(一〇一三六)

覚

松山手永宇土町居住御郡代直触ニ而病死仕候

谷村佐平次倅

谷村龜太郎

右者親跡相続、別紙之趣ニ付承繕申候処、人物宜武芸心懸能、  
数々稽古出精いたし、行状ニ付異候唱茂相聞不申候。以上

辰三月

御内意之覚

松山手永宇土町居住御郡代直触ニ而致病死候

谷村佐平次倅

谷村龜太郎

当卯二十四歳

右龜太郎祖父谷村平兵衛儀、寸志之訊ニ被对、文化六年二月御郡  
代直触ニ被召出、御郡並之御奉公三十年相勤病死仕候。父佐平次  
儀、天保十一年二月父代寸志之訊ニ被对、父同様御郡代直触被仰  
付、当年迄二十八年御郡並之御奉公、無懈怠出精相勤居申候処、  
当八月病死仕候。倅龜太郎儀、劍術和田金左衛門、居合惠良佐十  
郎、捕手庄林曾太郎、炮術中村四郎左衛門々弟ニ而稽古仕候。惣  
躰同人儀、性質手全ニ、往々御用ニ相立可申者ニ御座候間、親跡  
相应被召仕被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、  
可然被成御參談可被下候。以上

慶応三年十二月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

龜太郎儀、達之通ニ而、御郡代直触跡目究之通、無苗ニ而御惣庄屋  
直触可被仰付哉。

(朱書)  
〔辰三月廿五日達〕

四五〇 惠吉 他

(一〇三二六)

小郷四郎助

右同手永網津村居住御郡代直触

本田健助

御内意之覚

一錢七百五拾目完

松山手永宇土町

惠吉

市次

清助

清九郎

三月

御内意之覚

松山手永下松山村居住御郡代直触

小郷四郎助

当辰四十歳

右者銃隊御倡ニ付而寸志錢被召上旨ニ付、右之通差上度奉願候処、願之通被召上旨ニ付、会所元江上納相濟申候。依之何れも丁頭列被仰付被下候様奉願候、此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

慶応四年四月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

惠吉列四人達之通ニ而寸志高究之規矩ニ相当申候間、孰茂丁頭列可

被仰付哉。

(朱書)  
〔辰三月四日達〕

四五二 小郷四郎助、本田健助

(一〇三二六)

覚

松山手永下松山村居住御郡代直触

右兩人別紙之趣ニ付承繕申候処、何れ茂武芸心懸能、出精いたし、四郎助儀者、数々相伝相濟候ニ付、文久元年手永御家人中子弟稽古引廻申付ニ相成、元治元年別席ニ被召出、小倉表出張其外天草御警衛ニ茂被召仕、炮術・居合・劍術・捕手四芸共引廻方、身を以先立、厚心配いたし、健助儀者、炮術・居合・劍術ニ芸者目録相伝相濟居、小倉表出張ニ茂被差越候由、承申候。以上

工藤覚兵衛

右者、元治元年七月武芸数々相伝相濟候ニ付、御郡代直触ニ被召出、其後旅詰を茂被仰付、且松山手永在御家人武芸稽古引廻申付置候稜々、左之通ニ御座候。

一文久元年より松山手永在御家人中子弟、武芸稽古引廻申付、劍術・居合・捕手・炮術四芸共、当辰年迄八ヶ年出精相傳申候。

一元治元年八月長防為御征伐、河喜多助三郎江被差添、小倉出張被仰付、彼之地着之上田中八郎兵衛殿江被引渡、御用相勤、翌元治二年正月帰国仕候。

一慶応三年五月天草御警衛為交代、上野惣右衛門ニ被差添、物書之場相勤、在御家人引廻仕候而、出張被仰付、同六月帰国仕候。  
一右之通ニ而、不相替武芸稽古、身を以先立相傳出精仕、彼是一稜



御用ニ相立申候。依武芸被召出候後、五ヶ年ニ相成、当正月在席持懸ニ而、親跡相統被仰付候ニ付、此節一階進席ニ而、地士ニ被仰付被下度、於私奉願候。此段御内意仕候条、可然様被成御讚談可被下候。以上

慶応四年二月

志方逸次

御郡方

御奉行衆中

御内意之覚

松山手・永網津村居住御郡代直触

本田健助

当辰三拾四歳

右健助儀、人柄宜敷、松山手永会所詰申付置、往々御用ニ相立可申者ニ御座候。且武芸心懸能、数々相濟申候分、左之通ニ御座候。

一 劍術渡邊牛之助門弟ニ而、慶応元年九月目録相伝仕候。

一 居合惠良左十郎門弟ニ而、右同年六月目録相伝仕候。

一 炮術永嶺雲七門弟ニ而、慶応三年六月目録相伝仕候。

一元治元年八月長防為御征伐河喜多助三郎江被差添、小倉出張被仰付、彼之地着之上田中八郎兵衛殿江被引渡、御用相勤、翌元治二

年帰国仕候。

一 右之通相伝相濟、小倉江茂相詰候ニ付被賞、地士ニ進席被仰付被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、可然様被成御參談可被下候。以上

慶応四年二月

志方逸次

御郡方

御奉行衆中

御内意之覚

松山手・永網津村居住御郡代直触

本田健助

当辰三拾四歳

僉議

四郎助儀、達之通ニ御座候処、被召出候後、目録ニ相増、不相替出精之者者、五ヶ年目一階進席可被仰付と、慶応元年六月相究居申候。然処同人儀者、被召出後目録数相増不申候付、小倉・天草江被召仕候。旅詰二度を目録ニ被立下、此節進席者難被仰付候間、見合可被置哉。

但旅詰茂数芸目録之内ニ取加候得者、一詰を目録一ニ被立下候間、兩度茂旅江被召仕候者者、強チ被召出後、目録二ツ相増不申而茂、一芸相伝茂相増候ハ、進席被仰付方ニ被究置候而者、如何程ニ可有御座哉。

健助儀、達之通ニ而、武芸心懸能、三芸目録相伝相濟、小倉江茂被召仕候付、地士可被仰付哉。

〔朱書〕

〔此後者覚帳ニ書入相濟候也〕

〔朱書〕

〔辰四月八日達〕

此稜ハ慶応元年覚帳ニ御書入之事

四五二 吉田彦太

(二〇一三六)

覚

独礼ニ而郡浦手永御山見抄并仕立方兼勤

吉田彦太

右者別紙之趣ニ付承繕申候処、役所心懸能武芸数々出精いたし、炮術・居合・劍術・柔術四芸者目録相伝相濟居、相州江茂相詰、大坂御登米上乘見抄ニ茂被召仕候由承申候。以上

辰三月

工藤覚兵衛<sup>㊦</sup>

御内意之覚

独礼ニ而郡浦手永御山見抄并仕立方兼勤

吉田彦太

当卯三十九歳

右者炮術渡邊作之允門弟ニ而、安政六年二月目錄相伝仕候。

一居合矢野司馬太門弟ニ而、慶応元年十月目錄相伝仕候。

一柔術右同人門弟ニ而、当三月目錄相伝仕候。

一剣術山東新十郎門弟ニ而、当九月三ツ先相伝仕候。

右之稜々学校御目附江問合候処相違無之、右問合書相添置申候。

一安政三年七月相尋御備詰被仰付、翌年十月下着仕候。

一文久元年九月大坂御登米船上乘見抄被仰付、同年十二月下着仕候。

右者性質手全ニ兼而壯健ニ有之、武芸心掛能、前文之通四目錄相伝

相濟、四芸共引廻をも申付置、且銃隊稽古専出精仕、旅詰茂両度

被仰付、詰中慎方宜敷精勤仕、屹と御用ニ相立居候ニ付被賞、步

御使番列被仰付、御手当御用受持被仰付、一列無役之口ニ被付置

被下候様有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成

御参談可被下候。以上

慶応三年十二月

御郡方

御奉行衆中

僉議

彦太儀、達之通ニ而、武芸心懸能致出精、炮術・居合・柔術者目錄、剣術者三ツ先相伝相濟、相州江茂被召仕、四芸共ニ引廻を茂い

たし居候由、御郡御目附付、御横目聞方茂別紙之通ニ付、見合茂

御座候間、歩御使番列可被仰付哉。

(朱書)  
「辰四月八日癸同十八日申渡」

四五三 竹馬庄三郎 他

(二〇三二六)

御内意之覚

松山手永御郡筒

一錢貳貫貳百五拾目完

竹馬庄三郎  
森田橋兵衛

津志田善助

但御郡代直触進席被仰付被下候様。

宇土町

一錢四貫五百目

儀平次

但苗字御免被仰付被下候様。

右者今度銃隊御倡ニ付而、諸入目償として寸志差上度奉願候処、

願之通被召上旨、御達之趣ニ付夫々上納相濟申候。依之孰茂但書

之通被仰付被下候様、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、宜被成

御参談可被下候。以上

慶応四年二月

御郡方

御奉行衆中

僉議

庄三郎以下四人達之通ニ而寸志高究之規矩ニ相当申候間、但書之通可被仰付哉。

(朱書)  
〔辰四月八日達〕

四五四 齊藤弥五兵衛

(二〇三二六)

御内意之覚

松山手永手附横目

齊藤弥五兵衛

当辰五十七歳

右者惣躰手全成人物ニ而氣働も有之、且筆算達者ニ而、年令彼是衆人之長ニ立候而茂、人心相腹可申人体と見込申候間、此節天草詰為御代官被差越、詰中士席之振合ニ被仰付被下候様有御座度、於私共奉願候。尤同役中咄合申候処、孰も存寄等無御座候間、此段御内意仕候条、可然様被成御讚談可被下候。以上

四月

佐野亥一郎

志方逸次

御郡方

御奉行衆中

僉議

録田 弥五兵衛儀、達之通ニ付、書面之通可仰付哉。

道家 (朱書)  
御目附 〔辰四月四日達〕

御郡御目附付御横目趣意

弥五兵衛儀、手全成人物之由、筆算達者ニいたし、会所素立ニ而、手代役茂数年相勤、諸御用筋功熟ニ有之、氣儘強調事長所ニ而、見巨茂宜、当御役数年心懸能出精相勤、一躰事馴居候由ニ付、申立之通被仰付、可然人物之由唱承申候。以上

辰四月

吉武英右衛門

四五五 平原太郎助

(二〇三二六)

御内意之覚

松山手永手附横目在勤中老領志疋

平原太郎助

右者齊藤弥五兵衛跡唐物拔荷改方御横目・井樋方見拟兼帯被仰付、在勤中諸役人段被仰付候様有御座度、於私共奉願候、此段御内意仕候条、可然様被成御参談可被下候。以上

閏四月

佐野亥一郎

志方逸次

御郡方

御奉行衆中

僉議

録田 太郎助儀、達之通ニ付、齊藤弥五兵衛跡唐物拔荷改方御横目被仰付、在勤中諸役人段可被仰付哉。尤井樋方助役兼帯

御目附 之儀者直々被申付候様及達可申と奉存候。

(朱書)

辰四月十五日達

太郎助儀、当役心懸能出精いたし、見聞筋等茂能相貫候由ニ而、申立之通被仰付、可然人物之由、尤當時者天草表江被差越置候由承申候。

辰閏四月

御郡御目附付御横目共

覚

錢塘手永走瀉村居住御郡代直触

田代格之允

同手永同村居住海辺御郡筒

宇都宮実之助

右同村居住右同

米村求助

右者別紙之趣ニ付承繕申候処、武芸心懸能出精いたし、孰茂居合・組討・長刀・炮術四芸目録相伝相濟居、且英式銃隊之儀、格之允者持芸、実之助者隊列、求助者小隊迄相進居行跡ニ付、相替候唱茂相聞不申、進席被仰付可然人物之由承申候。以上

辰四月

吉武英右衛門<sup>㊦</sup>

御内意之覚

錢塘手永御郡代直触

田代格之允

右者安政四年七月海辺御郡筒ニ被召抱、慶応三年九月寸志之訊ニ被对、御郡代直触被仰付置候。然処、居合・組討・長刀星野四郎左衛門々弟ニ而稽古仕、居合者元治元年九月目録相伝仕、長刀者慶応三年三月目録相伝仕、組討者同年十二月目録相伝仕、炮術財津勝之助門弟ニ而、慶応元年九月炮火術目録相伝仕、当時専ら銃隊稽古出精仕、持芸迄歩上仕居候。

海辺御郡筒

宇都宮実之助

右者嘉永六年六月海辺御郡筒ニ被召抱、慶応二年四月御郡筒小頭申付、居合・組討・長刀星野四郎左衛門々弟ニ而、居合者元治元年九月目録相伝、長刀者慶応三年三月目録相伝、組討者同年十二月目録相伝、炮術財津勝之助門弟ニ而、元治元年五月炮火術目録相伝仕、当時専ら銃隊稽古出精仕、隊列迄相進居候。

海辺御郡筒

米村求助

右者文久二年五月御郡筒代役申付、慶応三年十二月父跡海辺御郡筒ニ被召抱置候。然処居合・組討・長刀星野四郎左衛門々弟ニ而、居合者元治元年九月目録相伝、組討者慶応三年三月目録相伝、長刀者同年十二月目録相伝仕、炮術財津勝之助門弟ニ而、慶応三年五月炮火術目録相伝仕、当時専ら銃隊稽古出精仕、小隊迄相進居申。右者孰茂性質手全、武芸目録相伝之儀ハ学校御目附江問合候処、相違無御座、右問合書相添置候間、格之助儀者地土、実之助・求助儀者御郡代直触進席被仰付、孰茂御手当并御郡並之御用請持被仰付、一列無役之口ニ被付置被下様、有御座度、於私茂奉願候。此段御内意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

慶応四年三月

入江次郎太郎

御郡方

御奉行衆中

僉議

格之允列三人武芸出精いたし、四芸目録相伝相濟候由、達之通ニ付見合茂御座候間、格之允儀地土被仰付、御郡並之御用受持被仰付、実之助・求助儀御郡代直触被仰付、地土之勤稜相勤候様被仰付、孰茂一列無役之口ニ可被付置哉。

(朱書)  
〔辰間四月十五日達〕

四五七 岩尾十兵衛 他

(二〇一三二六)

御内意之覚

郡浦手永御郡筒ニ而波多野<sup>(マヤ)</sup>居住

一錢貳貫貳百五拾目完

岩尾十兵衛

右同

藤木四郎八

右同

岡村善左衛門

網田村居住御郡筒

田中藤左衛門

栗崎村居住右同

佃 武一郎

恵里村居住御郡筒

釜賀喜代太

右者今度銃隊御倡ニ付而、玉薬料等諸入目償として寸志錢被召上旨ニ付、右之通差上度、願之通被召上段、御達之趣ニ付、夫々上納相濟申候、依之何れ茂御郡代直触ニ進席被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

宇土

慶応四年四月

御郡方

御奉行衆中

御郡代

僉議

十兵衛列六人達之通ニ而、寸志高究之規矩ニ相当申候間、御郡代直触可被仰付哉。

(朱書)  
〔辰間四月十八日達〕

四五八 赤木藤助、虎左衛門

(二〇一三二六)

御内意之覚

松山手永御郡筒

一錢貳貫貳百五拾目

赤木藤助

右同無苗御惣庄屋直触在勤中御郡代直触清田虎左衛門事

一同三貫七百五拾目

虎左衛門

右者銃隊御倡ニ付而寸志錢被召上旨ニ付、口立之錢辻差上度、願之通被召上旨御達之趣ニ付、夫々上納相濟申候。依之孰れ茂御郡代直触進席被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜數被成御參談可被下候。以上

宇土

慶応四年閏四月

御郡代

御郡方

御奉行衆中

僉議

藤助・虎左衛門儀、達之通ニ而、寸志高究之規矩相当申候間、御郡代直触可被仰付哉。

(朱書)  
〔辰間四月廿八日達〕

四五九 九平次、六右衛門

(二〇一三一六)

御内意之覚

松山手永宇土町

一錢七百五拾目

九平次

六右衛門

右者銃隊御倡ニ付而寸志錢被召上旨ニ付、口立之錢辻差上度、願之通被召上旨御達之趣ニ付、夫々上納相濟申候。依之孰れ茂丁頭列被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

慶応四年閏四月

宇土

御郡代

御郡方

御奉行衆中

僉議

九平次、六右衛門儀、達之通ニ而、寸志高究之規矩相当申候間、

丁頭列可被仰付哉。

(朱書)

[辰四四月廿九日達]

四六〇 稻原覚左衛門

(二〇一三一六)

御内意之覚

地士三而郡浦会所手代

稻原覚左衛門

右者手全成者ニ而会所役數十年相勤居、諸御用筋手馴、御普請方

等之儀、別而功熟ニ有之、最早老年ニ者御座候得共、別段壯健ニ御

座候間、積逸左衛門跡郡浦手永塘方助役申付度、在勤中一領一疋

被仰付被下候様有御座度、於私共奉願候。此段御内意仕候条、可

然様被成御參談可被下候。以上

六月

宇土

御郡方

御奉行衆中

僉議

覚左衛門儀、達之通ニ而、積逸左衛門跡塘方助役申付有之

度由ニ付、在勤中一領一疋可被仰付哉。

(朱書) [辰七月廿七日達]

郡鑑付御横目河口源左衛門見聞書之趣替儀無之記録略

四六一 有働新右衛門 他

(二〇一三一六)

御内意之覚

郡浦手、永御郡代直触

一錢壹貫五百目

有働新右衛門

但、此節地士進席被仰付被下候様。

御郡筒

一同式貫式百五拾目

鎌賀改平

御郡筒

一錢貳貫式百五拾目完

江藤漁一郎

右同

大久保謙左衛門

佐平

同貳拾八

右同

高木清左衛門

弥七事

弥平次

同貳拾五

但、孰茂此節御郡代直触被仰付被下候様。

右者今度銃隊御倡ニ付、寸志被召上旨、御達之趣ニ付、口立之通

差上度奉願候処、願之通被召上、夫々上納相濟申候間、孰茂但書

之通進席被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御

參談可被下候。以上

惣兵衛事

宗左衛門

同拾七

慶応四年八月

志方逸次

しめ四人

右者銃隊御組立玉薬料為御手当寸志差上度願出候ニ付、被召上被

(朱書)  
〔辰八月十八日達〕

御郡方

御奉行衆中

下候様奉願候処、願之通被召上候段、御達之趣ニ付、右之錢辻松

山会所江上納相濟申候。依之いづれも丁頭列被仰付被下候様奉願

候。此段御内意覚書を以申上候。以上

慶応四年九月

小山七郎太閤

僉議

新右衛門列五人、寸志高究之規矩相当申候間、夫々但書之通可被  
仰付哉。

右之通相違無御座候間、願之通御賞美被仰付被下候様奉願候。以  
上

四六二 惣次郎 他

(二〇一三七)

志方逸次殿

御郡方

御奉行衆中

御内意之覚

松山手永宇土町

一錢七百五拾目完

喜平次事

惣次郎

歳三拾四

卯平次事

惣次郎列四人達之通ニ而、寸志高究規矩ニ相当申候間、夫々達之  
通可被仰付哉。

(朱書)  
〔辰十月三日達〕

覚

松山手永宇土町居住御目見医師ニ而病死仕候

神尾三伯倅

〔朱書〕  
〔本科〕 二破の一可

神尾三圭

右者、親跡相統別紙之趣ニ付承繕申候処、医業之儀、病死為有之田中司馬方門弟ニ而稽古いたし、当時者道家大春方江罷趣居、代診等心懸厚出精いたし、医学并療治方共、年齢相応ニ有之由、親跡被召出候ハ、猶更差入可申由、家筋等之儀委細者本紙之通承申候。以上

辰八日

下田丘助團

御内意之覚

松山手永宇土町居住御目見医師ニ而病死仕候

神尾三伯倅

神尾三圭

歳式拾壹

右三圭家筋之儀、先祖休トと申者、宇土町町医ニ而、駅所御用旅人等相煩候節々、療治仕来候ニ付、居屋敷四間口町役御免相成来候処、宇土町之儀、宿駅を受、薩州・球磨・御家中其外旅人往来繁所柄、御郡医師無ニ而難相濟、休ト倅神尾三伯と申者、寛保四年御郡医師並ニ被召出、宝曆十三年為御国恩銀百貳拾枚寸志差上申候処、三人扶持被為拜領、明和二年胤次様被遊御参府候節、銀三枚寸志差上申候。同年御國中御郡医師被立候節、右三伯儀直ニ宇土郡御郡医師被仰付、同三年銀三拾枚寸志差上申候。同九年江

戸御下屋敷御類焼之節、銀五枚寸志差上、安永四年若殿様被遊御入国候節、為冥加文錢拾貫文寸志差上、天明元年鳥目三貫文寸志差上申候。二代目良安儀、同年十月医業心懸能、療治方出精仕、且父神尾三伯より追々寸志之訳被対、三人扶持被下置、御郡医師被仰付、寛政四年津浪之節、怪我病人等多有之候処、療治方出精いたし、御普請場江も追々罷出候ニ付被賞、金子百疋被為拜領、文化三年江戸御屋形御類焼ニ付被下置候御扶持方五ヶ年之間、寸志ニ差上度奉願、同六年病死仕候ニ付、寅十二月より巳五月迄之御扶持方米合拾四石四斗七升五合差繼上納仕、巳六月より未九月迄分之米辻拾貳石五斗貳升五合代錢上納奉願、都合米辻貳拾七石上納相濟、尚錢五百目追寸志指上候処、三代目神尾三伯文化七年十二月家業心懸能、療治方出精、且寸志之訳旁被対、三人扶持被下置、御郡医師相統被仰付、文政十二丑年家業心懸能、療治方手広、貧福之無差別、厚ク出精いたし、且又立岡堤掘添之節罷出、療治方出精仕候旨ニ而、作御紋袷御羽織一被為拜領、天保九戊七月家業心懸能、療治方手広出精、宇土町疫病流行ニ付而ハ、施薬をもいたし、差はまり出精仕候旨ニ而、金子貳百疋被為拜領候。四代目神尾三圭儀、天保十二年十二月家業心懸能、療治方手広出精いたし、且祖父代以来寸志之訳旁被対、貳人扶持被下置、御郡医師相統被仰付候処、弘化三年二月病死仕候。五代目父神尾三伯儀、弘化四年十二月家業心懸能、療治方出精仕候旨ニ而、御郡医師相統被仰付、万延元年十二月家業心懸能、療治方手広出精仕候旨ニ而、御目見医師被仰付、去ル慶応元年七月病死仕候。

一神尾三圭儀、父病死いたし候節、幼年ニ而医業習熟不仕候ニ付、習熟迄之所、父三伯組合松田三悦育被仰付候様、慶応元年十一月



奉願候処、願之通同年十二月御免之御付紙下被仰付候。

一人経学之儀、宇土御家中、守田瀬戸助入門仕、医業之儀、文久四年より田中司馬允へ入門いたし、当年迄五ヶ年入塾仕、再春館講説之節々出席仕候。慶応三年正月・当正月兩度、於同所御酒拝領被仰付候。

右之通三而、三圭儀、為人篤実温良三而療戈有之、未夕若年三御座候得共、当年迄五ヶ年師家三入塾いたし、医業心懸能、再春館講説等、無懈怠出席いたし、最早相応々療治方も出来仕、且数代御郡医師被召仕候家柄旁被対、親跡御郡医師被召出被下候様奉願候。此段御内意覚書を以申上候。以上

慶応四年六月

小山七郎太田

志方逸次殿

佐野亥一郎殿

右願出書面之通相違茂無御座、全躰篤実三御座候而、平常医業心懸宜敷、数代御郡医師三被召仕候家柄三被対、此節直三御郡医師三被召出被下候様有御座度、於私共奉願候。右之通三茂被仰付被下候得者、於所柄茂、逸稜弁便三茂相成可申奉存候。此段御内意仕候条、可然様被成御讚談可被下候。以上

慶応四年八月

志方逸次

御郡方

御奉行衆中

僉議

三圭儀達之通三付、家業之様子医業吟味役江問合申候処、治療習熟、学業篤志之段達有之、再春館御目附見聞之趣茂同様三而、科目丙科三相当申候。御郡御目附付御横目見聞之趣者、医学療治方

共相応三有之候由。別紙達之通御座候。御郡医師之跡、右科目三而者、見合茂御座候間、父同様御郡医師可被召出哉。

但三圭父三伯儀、御目見醫師被仰付置候得共、根之御郡医師之跡に付、本文之通御座候。

(朱書)  
〔辰十一月廿六日申渡〕

四六四 益田紋次郎、八木嘉平

(二〇一三七)

御内意之覚

松山手永宇土町苗字御免町別当列

一錢貳拾壹貫目

益田紋次郎

歳拾六

但、士席浪人格被仰付被下候様奉願候

右同

一同七貫五百目

八木嘉平

同五十七

但、町独礼被仰付被下候様奉願候。

右者銃隊御組立玉薬料為御備寸志差上度願出申候三付、被召上被下候様奉願候。願之通被召上候段御達之趣三付、右之錢辻松山会所江上納相濟申候。依之両人共々組書を以申上候通、進席被仰付被下候様奉願候。此段御内意覚書を以申上候。以上

明治元年十月

小山七郎太田

右之通相違無御座候間、願之通御賞美被仰付被下候様、於私茂奉願候。以上

飯田熊之助殿④

御郡方

御奉行衆中

僉議

紋次郎、嘉平儀、達之通ニ而寸志高究規矩ニ相当申候間、夫々達之通可被仰付哉。

右僉議之通ニ候処、紋次郎儀者苗字迄御免之平町人ニ付、寸志高不足ニ及候ニ付、しらべ不用ニ相成。嘉平迄申渡相備候事。

〔朱書〕  
〔嘉平事辰十二月廿二日伺、同廿八日申渡〕

四六五 伊三次、幸兵衛

(二〇一三七)

御内意之覚

松山手永宇土町

一 錢拾六貫五百目

伊三次

歳五十

但、苗字御免町独礼被仰付被下候様奉願候。

同町

一同七百五十拾目完

幸兵衛

歳三十

民次

同式十七

忠七

同式十一

壽吉

同式十三

しめ四人

但、丁頭列被仰付被下候様奉願候

右者統隊御組立玉薬料為御備、寸志差上度願出申候ニ付、被召上被下候様奉願候処、願之通被召上候段、御達之趣ニ付、右之鏡辻松山会所江上納相済申候。依之いづれも組書を以申上候通被仰付被下候様奉願候。此段御内意覚書を以申上候。以上

明治元年十月

小山七郎太閤

右之通相違無御座候間、願之通御賞美被仰付被下候様、於私茂奉願候。以上

飯田熊之助殿

御郡方

御奉行衆中

僉議

儀三次列五人、達之通ニ而、寸志高究規矩ニ相当申候間、夫々但書之通可被仰付哉。

〔朱書〕

〔伊三次事辰十二月廿二日伺、同廿八日申渡 幸兵衛以下同十一月十八日達〕

〔伊三次事辰十二月廿二日親、同廿八日申渡 辰十一月十八日幸兵衛以下四人達済〕

(明治三年)

四六六 岩間清次、岩間金太郎

(二〇一三九)

口上之覚

私儀当年六十三歳ニ罷成申候。病氣ニ罷成、御奉公難相勤御座候。

嫡子岩間金太郎儀、当年二十五歳ニ罷成申候。明治二年十二月御目見仕候。此者如何体ニ茂被召仕被下候様奉願候。以上

明治三年十二月 岩間清次（書判）

白石傳太殿

郡務掛

覚

私嫡子岩間金太郎儀、当年二十五歳ニ罷成申候。

一 明治二年十二月御目見仕候。

一 文学習書下益城郡六殿宮社司榊田權之兵衛ニ読書仕候。

一 剣術塚本壽八郎門弟ニ万延元年四月罷成、文久元年四月より入

謝仕候。右塚本壽八郎病死ニ相成候間、跡速水多喜次郎門弟ニ罷

成、同三年十二月位詰相伝ニ相成、同四年目附相伝ニ相成申候。

一 炮術水嶺雲七門弟ニ文久元年十一月罷成、同二年三月より入謝仕

候。元治元年十二月初目錄相伝ニ相成、慶応四年四月目錄相伝ニ

相成申候。

一 居合吉川源兵衛門弟ニ元治元年十二月罷成、右病死ニ相成跡、熊

谷吉九郎門弟ニ罷成、文久三年六月より入謝仕候。

一 馬術中津又蔵門弟ニ而稽古仕候。

一 元治元年私京都詰被仰付候節召連、寺町御門御番旦大乱之節、

所々張出等無懈怠罷出申候。

一 慶応二年六月小倉出張被仰付候節被差添、同所戦争且所々張出等

無懈怠罷出申候。

一 明治二年十一月小倉戦争之節、相働候段、被遊御満足旨、被仰出

候。

一 英式之儀者、明治元年より演武場ニ罷出、稽古仕、五月小隊ニ罷

成、取続稽古仕候。

一 明治二年二月澤村尉左衛門組ニ而、知事様御上京御供被仰付、私

老年ニ付、悴名代ニ被差越、同年三月東京江御出京御供被仰付、

御先ニ被差立大坂より出帆、同月東京着仕候處、知事様御東行無

御座、正四位様同年四月東京御着、直ニ御供被仰付、相働居候處、

同六月右御供被免、同七月東京被差立、同年八月御国着仕候。

一 明治二年十一月重士九番隊ニ被仰付候處、同三年閏十月兵制御改

革ニ付、予備兵第十八番隊ニ被召加、当前々御奉公相働居申候。

右之通ニ御座候。以上

十二月

岩間清次

本紙見聞仕候處、金太郎儀武芸并銃隊稽古之次第、且小倉出張并

御方々様御供ニ而、旅詰被仰付、稜々書面之通、相違茂無之、金

太郎儀、惣躰人柄宜敷、往々御用ニ相立候仁体、御座候。此段付

紙を以、御達仕候事。

十二月十三日

松山

出張所囀

岩間清次病氣ニ付隠居、嫡子金太郎江家督之儀、別紙之通願出、

掛之出張所見聞、付紙之通ニ付、願之通可被申付哉。

郡務掛

十二月廿六日辞令相濟候段、達有之候事。

四六七 岡村弥八郎

(二〇一三九)

御内意之覚

松山郷宇土町居住留主居中小姓列ニ而病死仕

候岡村庄太郎養子

先祖帳

岡村弥八郎

当午三拾四歳

右弥八郎家筋之儀、先祖岡村伊三次と為申者、貧民追々取救候訳ニ被付、明和七年被為賞従前郡宰衆直触ニ被仰付、其後年々取救筋手厚、且寸志を茂差上候而度々詰講ニ被仰付、寛政九年六月町在難渋之もの共へ米穀・鳥目等数年之間差出候段、奇持之儀ニ付右伊三次并同人倅茂三次父子共ニ土席浪人格被仰付、伊三次へハ毎年米拾五俵完被下置、尚御品を茂被為拝領、其後茂三次儀取救又ハ寸志之訳ニ而御扶持方被下置、御留主居中小姓列ニ被仰付、別席ニ而本家相続仕、伊三次儀ハ土席浪人格ニ而、寛政十二年三月病死仕申候。伊三次二男弥八郎儀、寛政十二年七月亡父存生之内、町在難渋之もの共へ数年来余計之取救いたし置候ニ付、父同様土席浪人格相続被仰付、享和三亥年御手伝御用并文化十三江戸御屋形御類焼寸志差出申候処、追而繼目之節被立下候段、文化八未年被仰付置、同人儀、文化十一年三月病死仕申候。同人倅弥三兵衛儀、同十二年亥六月父代寸志之訳ニ被為對、土席浪人格相続被仰付置候処、天保十年三月病死仕申候。同人存生中文政三辰年日光御手伝へ寸志、同八酉年立岡大堤御堀添之節寸志差上、同九年戌年所柄難渋之もの共へ米穀安売、同十亥年古町出火之節為取救鳥目差出、同十二丑年関東川之御普請御手伝寸志差上、天保三辰年米穀救売、同四巳年・同七申年右同断差出申候処、同人養子伊八郎儀、天保十一子四月父代寸志之訳ニ被對、歩御使番列ニ被召出、尚作御紋麻上下一具被為拝領、同人儀、嘉永六丑年廻江手永守留

在成立寸志錢差出申候処、同年十二月土席浪人格ニ被仰付、安政二卯七月病死仕申候。同人存生中天保九戌年宇土町油屋長助天草懸り合所柄弁錢被仰付候内出錢、且同十亥年二ノ御丸御手伝間懸寸志之内所柄難渋之小前々々取救として差出、且御巡見通行、町方造用錢償、北浦新地潮留之節、夫方為元氣付酒差出、嘉永二西・同三戌・同四亥年所柄難渋之小前々々へ救売等之稜々差出申候処安政三辰三月庄太郎儀、諸役人段被召出、同人儀元治元子年炮器御製造ニ付寸志差出申候処、同年八月歩御使番列被仰付候処、慶応元丑年百貫石官宅并御藏建方之節寸志錢差上申候処、同年十二月御留主居中小姓列ニ被仰付、当七月病死仕申候。同人存生寸志差出候稜々左之通。

一酒式斗五升

但、新開御藏建方其外彼方追々御普請出夫之節、安政四巳八月・明治元年辰八月・文久三酉年・慶応二年都合四度元氣付として寸志差出候分。

一錢五百目

但、安政五年午七月而御連披様御巡在之節、造用錢之内差出候分

一同式百目

但、安政六年未七月宇土町会所建方入用之内、寸志差出候分

一同百目

但、万延元申年町方難渋之小前々々米穀救売之内、差出候分

一同壹貫五百五拾八匁

但、慶応元丑六月より八月迄、同十二月より翌正月迄右同断

一同七百五拾目

但、明治元辰七月焰硝御備寸志差出候分

一同三貫式百目

但、同二年巳七月より九月迄難渋のもの取救、米穀差出候中預  
銭

一壹貫九百目

但、同年十二月右米穀代として銭差出候分

一同壹貫九百目

但、明治三年三月右同断

一同壹貫九百目

但、当五月右同断

しめ拾貳貫目余

外々酒貳斗五升

右之通、庄太郎存生中町方難渋のもの共へ追々取救方直々差出二  
相成候分

右岡村弥八郎家筋之儀、代々慈心深く、家内睦敷、召仕之男女二  
至迄、厚ク心を付、所柄貧民取救方年増手厚、身分等茂代々詰講  
ニ被召仕、最早五代相統被仰付、庄太郎存生中稜々寸志差出候分  
取しらへ申候処、右之通ニ而市中申□筋など深切ニ有之、養子弥  
八郎儀、一鉢篤実ニ而慈心深く、人柄宜敷、向々御用ニも相立可  
申人柄ニ御座候間、何卒此節如何鉢ニも被召仕被下候様奉願候。  
左候ハ、此砌之事ニ付、貧民取救等別而尽力可仕奉存候間、於私ニ  
も宜敷奉願候。此段覚書を以申上候事。

宇土町

□長

明治三年十二月

門田真次郎印

松山

出張所

(朱書)  
一折返之通會讀相決候得共、寸志難目之一条ハ規矩もの儀ニ付、幸不幸有之候間、追賈之釣合可有之と違敷  
者見合置可申方可然かと断合相決候付、其假差置候事。  
史生

西 弥衛門也  
松山 貞也  
栗崎 源藏也

本紙岡村弥八郎儀、寸志之切も之候とも、父留守中小姓列ニ而病  
死跡ニ付三代目迄ハ士族も相□被申付候間、弥八郎儀者父遺跡相  
統申付、四代目卒ニ落□□右寸志ハ士族之繼目ニ可被立下哉。

郡務掛

[辨令認十二月十二日  
白石傳太を差廻  
同廿四日相渡候段  
御受相達候事]

(明治四年)

四六八 富田小一、富田登代喜

(一〇三一九)

□上覚

私儀、細川從五位殿元家来、従前本組段ニ而、当正月後、家禄貳  
拾五俵被下置旨、難有仕合ニ奉存候。然ル処近来多病ニ罷成、隠  
居仕度奉願候。跡目之儀、嫡子富田登代喜当年式拾九歳ニ罷成、  
従前從五位殿内ニ而、本組段ニ被召出、父子勤ニ而御座候処、御改  
革ニ付、合併被仰付候付、此者江家督相統被仰付、如何鉢ニも被  
召仕被下候様奉願候事。

松山郷本町懸在宅

士族 富田小一 印

明治四年未正月

松山出張所 函

郡務掛

本紙之通相違無御座、登代喜儀、兼而心得方宜敷、所柄世話筋等  
茂いたし、為合ニ相成、往々御用ニ相立可申者ニ御座候間、願之通  
被仰付被下度奉存候事。

松山

出張所 函

未二月

富田小一儀、多病ニ罷成候ニ付、願之通隠居登代喜江、家督無相  
違可被申付哉。

郡務掛

四六九 安富平内、安富傳次

(二〇一三一九)

口上覚

今般御改革ニ付、当止月後、家禄四拾俵被下置分、難有仕合奉存  
候。然処近来多病罷成申候間、隠居仕度奉願候。忝同姓傳次儀、  
四十六歳ニ罷成、当節細川從五位殿内家勘定所詰在勤仕居申候。  
此者私跡目相統被仰付如何躰ニ茂被召仕被下候様奉願候事。

明治四年正月

安富平内 函

松山

出張所 函

郡務掛

本紙之通相違無御座、傳次儀兼而心得方宜敷、所柄世話筋等もい  
たし、為合ニ相成、往々御用ニ相立可申者ニ御座候間、願之通被

仰付被下度奉存候事。

未二月

松山 出張所 函

安富平内儀、多病ニ罷成候ニ付、願之通隠居、傳次江家督無相違  
可被申付哉。

郡務掛

小 少参事 函

監察掛

津 函

郡務掛

四七〇 船瀬栗太、船瀬宗喜

(二〇一三一九)

口上之覚

八等官ニ而相果候船瀬栗太 忝

船瀬宗喜

右者父船瀬栗太儀、去十二月病死仕候。宗喜儀、当年二十三歳ニ  
罷成申候。此者父栗太跡家督相統被仰付被下候様、於私共奉願候。  
以上

明治四年正月

吉瀬辰太

野間八十郎

松山

出張所

郡務掛

致病死候船瀬栗太跡目相統願、本紙之通ニ付、嫡子船瀬宗喜江父  
遺跡、無相違被申付、家禄三拾五俵可被遺候哉。

未二月晦日

郡務掛

申渡済

四七一 吉川源七、吉川清太郎

(二〇三一九)

四十三歳

口上之覚

私儀五十一歳罷成申候。病氣罷成、御奉公難相勤躰御座候。依之嫡子吉川清太郎当年三十歳罷成申候。此者如何躰ニ茂被召仕被下候様奉願候。以上

明治三年十一月

吉川源七(書判)

松山

出張所

郡務掛

素性書

私先祖吉川兵左衛門儀、有吉内膳貞之殿代歩小姓ニ被召抱候処、妙應院様より被召上候。其子吉川次郎太夫儀、寛文十年八月右兵左衛門願ニよつて、尚又有吉家江被召抱、其後取立知行百石被遣候。其後代々相続いたし、私迄七代ニ相成申候。右之通御座候事。

明治三年十一月

吉川源七

四七二 小山丈三郎

(二〇三一九)

御内意之覚

錢塘郷南走潟村住従前本席地土ニ而病死仕候  
小山源次郎悴

小山丈三郎

右小山丈三郎父小山源次郎儀、文化十三子四月飽田託磨郡筒被召抱、同十四丑四月南走潟村庄屋被仰付、文政七申二月郡筒小頭被仰付、同十二丑十二月榎梶見拟兼在勤中郡宰直触被仰付、万延元申十二月勤功ニ而、作御紋麻上下一具被下置、数十年相勤候ニ付而者、鳥目等数度被下置、万延二酉年庄屋御断申上候。庄屋役以来四拾四ケ年、榎梶見拟兼勤已来三拾七ケ年、出精相勤候ニ付、慶応元丑十二月地土被召直置、榎梶見拟役之儀者、去九月被為廃止、四拾壹ケ年ニ相成申候。然処当正月病死仕候段者、御届申上置候通ニ御座候。悴丈三郎儀、劍術速水多喜次郎方門弟、砲術財津勝之助方門弟、居合・組討・薙刀ニ芸者星野如雲門弟ニ而稽古仕候。嘉永三亥五月父源次郎南走潟村庄屋役代勤被免、万延二酉十二月、同村庄屋当分、慶応二年正月本役被仰付置候処、明治三年八月因御改革、庄屋役被為廃止候通ニ御座候。代役已来二十一ケ年、庄屋当分役已来十一ケ年ニ相成、父代四十四ケ年其身二十一ケ年、父子年数合六十一ケ年手全勤上、人柄宜敷、旁士族被召出被下候様、於私奉願候。此段御内意申上候事。

明治四年二月

錢塘郷里正

小山虎八郎

千葉城

郡務出張所

# 登録番号対照表

番号	人名	永青文庫番号	県立図書館番号
万延元年 (1860)			
326	北野市郎助	10-2-1	1840
327	菊池三左衛門	10-2-1	1840
328	森内甚兵衛	10-2-1	1841
329	又三郎	10-2-1	1843
330	小山直助	10-2-1	1845
331	河野九郎次	10-2-1	1845
332	亀井幸右衛門	10-2-1	1845
333	栄助	10-2-1	1845
334	高濱玄迪	10-2-1	1845
335	中山他来次	10-2-1	1848
336	神尾三伯	10-2-1	1849
337	高橋受敬	10-2-1	1849
338	高尾源太郎	10-2-1	1850
339	久保桂助 他	10-2-1	1850
340	久保桂助	10-2-1	1850
341	郡浦彦左衛門	10-2-1	1850
文久元年 (1861)			
342	中山庄兵衛 他	10-2-2	1851
343	浦上勝益	10-2-2	1851
344	中尾仙八	10-2-2	1855
345	野村新助	10-2-2	1855
346	平原太郎助	10-2-3	1881
347	那須儀平	10-2-3	1881
348	新次	10-2-3	1881
349	積 新左衛門	10-2-3	1881
350	津沢次兵衛	10-2-3	1881

番号	人名	永青文庫番号	県立図書館番号
文久元年 (1861)			
351	太左衛門、茂三次	10-2-3	1881
文久2年 (1862)			
352	嘉右衛門	10-2-4	1864
353	虎口太郎兵衛	10-2-4	1864
354	岩村繁喜	10-2-4	1868
355	緒方 長	10-2-4	1869
356	釜賀廣次	10-2-4	1869
357	庄村政右衛門	10-2-4	1869
358	孫作	10-2-4	1870
359	渡並喜助 他	10-2-4	1870
360	芥川政左 (右カ) 衛門	10-2-4	1871
361	水口栄喜	10-2-4	1871
362	芥川彦太	10-2-4	1872
363	竹下次郎作	10-2-4	1872
364	江上養節、玄俊	10-2-4	1875
文久3年 (1863)			
365	錢塘手永海辺 <sup>二</sup> 築立被仰付候 新地御用懸之面々	10-2-5	1884
366	小田貞之允 他	10-2-5	1884
367	吉田多喜次	10-2-5	1884
368	佐田次郎	10-2-5	1886
369	山本庫兵衛	10-2-5	1886
370	佐久間藤助	10-2-5	1886
371	橘 龍吉	10-2-5	1887
372	近藤末太郎	10-2-5	1888
373	平居助次郎	10-2-5	1889
374	岩村久兵衛	10-2-5	1889



番号	人 名	永青文庫番号	県立 図書館 番 号
文久3年(1863)			
375	陣内末次	10-2-5	1889
376	竹馬文三郎	10-2-5	1890
377	嘉兵衛	10-2-5	1892
378	太田黒岩太	10-2-5	1893
379	山隈市平	10-2-5	1895
380	佐藤常三郎 他	10-2-5	1897
381	稲原覚左衛門	10-2-5	1897
382	小田貞之允 他	10-2-5	1899
元治元年(1864)			
383	喜右衛門 他	10-2-6	1901
384	奈須武右衛門	10-2-6	1902
385	松岡道成、庄野仁壽	10-2-6	1903
386	清九郎	10-2-6	1906
387	大田黒彦左衛門 他	10-2-6	1906
388	小郷四郎助	10-2-6	1906
389	辛川喜一郎	10-2-6	1906
390	岡村庄太郎	10-2-6	1908
391	松川庄三郎 他	10-2-6	1908
392	久保桂助	10-2-7	1911
393	沢田嘉左衛門、吉田彦太	10-2-7	1913
394	虎左衛門	10-2-7	1913
395	芥川政右衛門	10-2-7	1913
396	井上八十八	10-2-7	1914
397	斉藤弥五兵衛	10-2-7	1916
398	小郷彦右衛門	10-2-7	1916
399	澤田忠右衛門	10-2-7	1916

番号	人 名	永青文庫番号	県立 図書館 番 号
元治元年(1864)			
400	辰右衛門	10-2-7	1916
慶応元年(1865)			
401	大田黒丈左衛門、斉藤長兵衛	10-2-8	1920
402	野村新助	10-2-8	1923
403	嘉平	10-2-8	1924
404	小田嘉兵衛	10-2-8	1924
405	嘉平	10-2-8	1925
406	除野恒次郎、小山七郎太	10-2-8	1926
407	金田悌藏	10-2-8	1927
408	吉田彦太 他	10-2-8	1930
409	大田黒彦左衛門	10-3-1	1932
410	釜賀長藏	10-3-1	1933
411	藤八 他	10-3-1	1933
412	濱田吟右衛門	10-3-1	1933
413	野口惣次郎	10-3-1	1934
414	愛甲謙益	10-3-1	1935
415	拓植玄迪	10-3-1	1936
416	次兵衛	10-3-1	1939
417	斉藤七左衛門	10-3-1	1939
418	中園英之助 他	10-3-1	1939
419	藤本作兵衛	10-3-1	1943
420	小山直助	10-3-1	1943
慶応2年(1866)			
421	亀井喜三郎	10-3-2	1947
422	野田七右衛門	10-3-2	1948
423	渡並七郎兵衛	10-3-2	1949

番号	人 名	高	県立 図書館 番号
慶応2年(1866)			
424	野村勝之助	10-3-3	1954
425	渡 玄春	10-3-3	1954
426	北野茂次郎	10-3-3	1958
慶応3年(1867)			
427	岩村久兵衛 他	10-3-4	1964
428	野村新助、野村七兵衛	10-3-4	1966
429	岡崎壽一郎 他	10-3-4	1971
430	岡村弥一左衛門、井上八十八	10-3-4	1972
431	郷 百右衛門	10-3-4	1973
432	佐久間藤助	10-3-5	1979
433	河野栄太郎	10-3-5	1980
434	野田亀十郎、斉藤七左衛門	10-3-5	1980
435	河野九郎次 他	10-3-5	1981
436	朝田源蔵 他	10-3-5	1982
437	河野傳之允 他	10-3-5	1983
438	積 九一郎	10-3-5	1985
439	七郎兵衛	10-3-5	1985
440	白石保右衛門 他	10-3-5	1985
441	藤兵衛 他	10-3-5	1986
442	辛川喜一郎 他	10-3-5	1986
明治元年(1868)			
443	小郷四郎助	10-3-6	1987
444	河野佐兵衛	10-3-6	1987
445	稲原伊左衛門	10-3-6	1987
446	林田貞吉 他	10-3-6	1987
447	高濱惟貞	10-3-6	1988

番号	人 名	永青文庫番号	県立 図書館 番号
明治元年(1868)			
448	松村徳之助 他	10-3-6	1988
449	谷村亀太郎	10-3-6	1989
450	恵吉 他	10-3-6	1989
451	小郷四郎助、本田健助	10-3-6	1990
452	吉田彦太	10-3-6	1990
453	竹馬庄三郎 他	10-3-6	1991
454	斉藤弥五兵衛	10-3-6	1992
455	平原太郎助	10-3-6	1992
456	田代格之允 他	10-3-6	1992
457	岩尾十兵衛 他	10-3-6	1992
458	赤木藤助、虎左衛門	10-3-6	1992
459	九平次、六右衛門	10-3-6	1992
460	稲原覚左衛門	10-3-6	1995
461	有働新右衛門 他	10-3-6	1998
462	惣次郎 他	10-3-7	2005
463	神尾三圭	10-3-7	2007
464	益田紋次郎、八木嘉平	10-3-7	2009
465	伊三次、幸兵衛	10-3-7	2009
明治3年(1870)			
466	岩間清次、岩間金太郎	10-3-9	2010
467	岡村弥八郎	10-3-9	2010
明治4年(1871)			
468	富田小一、富田登代喜	10-3-9	2012
469	安富平内、安富傳次	10-3-9	2012
470	船瀬栗太、船瀬宗喜	10-3-9	2014
471	吉川源七、吉川清太郎	10-3-9	2016
472	小山丈三郎	10-3-9	2017

新宇土市史基礎資料 第六集

町在 (五) 一万延元(明治四年)

発行

宇土市教育委員会  
熊本県宇土市新小路町九五番地

発行日

平成十一年三月二五日

印刷

コロン印刷

